

Fiery Command WorkStation

© 2026 Fiery, LLC. 本書に記載されている情報は、本製品の『法律上の注意』の対象となります。

2026 年 11 月 9 日

目次

Fiery Command WorkStation 13
Command WorkStation ワークスペース 13
入門アシスタント 14
Fiery スマート検索 15
ジョブセンター 15
処理中ジョブと印刷中ジョブの状況 16
キュー内のジョブを管理するコマンド 16
デバイスセンター 18

Fiery サーバーの追加と接続 20
Fiery サーバーに接続するためのアクセスレベル 20
Fiery サーバーへの接続 20
Fiery サーバーを追加して接続する 20
使用可能な Fiery サーバーを検索する 21
Fiery サーバーからログオフする 22
別の Fiery サーバーを表示する 22
サーバーリスト 22

Command WorkStation のアンインストール 24

Command WorkStation のカスタマイズ 25
Command WorkStation の環境設定 25
サーバー一覧のカスタマイズ 26
ジョブセンターの列を管理する 27
列の表示を変更する 27
カラムの幅を調整する 27
ジョブアクションメニューのカスタマイズ 28
ペインの展開/折りたたみ 28
ツールバーをカスタマイズする 28
ジョブセンターのツールバーのアイコン 29

Fiery サーバーを設定する 30
Configure へのアクセス 30
Command WorkStation から Configure にアクセスするには 30
WebTools から Configure にアクセスするには 30
Configure で証明書を管理する 31

証明書または秘密鍵を追加する . . . 31
Web サーバーに証明書を割り当てる . . . 31
割り当てた証明書を削除する . . . 32
Configure のヘルプやその他の情報を参照する . . . 32
Configure を終了する . . . 32
サーバー設定の内容を表示、保存、または印刷する . . . 32
サーバー設定の内容を表示する . . . 33
サーバー設定をファイルとして保存する . . . 33
サーバー設定ページを印刷する . . . 33
ユーザーとグループ . . . 33
新規ユーザーを作成する . . . 34
ユーザーを既存グループに追加する . . . 34
グループからユーザーを削除する . . . 35
ユーザー属性を変更する . . . 35
グループ権限を変更する . . . 35
ユーザーを削除する . . . 36
Fiery IQ クラウド . . . 36
Fiery アカウント . . . 36
Fiery サーバーを Fiery IQ クラウドに接続する . . . 38
Cloud Connector のインストールまたは更新 . . . 38
Fiery IQ ダッシュボードを開く . . . 38
Fiery IQ クラウドを使用したバックアップと共有 . . . 39
バックアップと復元について . . . 42
Fiery サーバー設定のバックアップおよび復元 . . . 42

ジョブの表示 . . . 45
Command WorkStation の Fiery Preview . . . 45
ジョブ概要ペインでのジョブの表示 . . . 45
履歴ウィンドウでジョブアクションを表示する . . . 46
スプール済みの未処理ジョブをプレビューする . . . 46
Fiery Preview のツールバーアイコン . . . 47
ラスターイメージをプレビューする . . . 47
ラスタープレビューのツールバーアイコン . . . 48
プレビューでページをマージする . . . 49
VDP ラスタープレビュー . . . 49

印刷 . . . 51
印刷ジョブをインポートする . . . 51

ジョブを印刷キューにインポートする 51
外部のアーカイブや Fiery サーバーのハードディスクからジョブをインポートする 52
印刷オプションの設定 52
ジョブのプロパティを表示する 53
ジョブのプロパティウィンドウのジョブアクション 54
印刷オプションカテゴリー 55
すべてのジョブのプロパティにデフォルトを設定する 55
面付けテンプレート 56
プリセットのプリント設定 58
サーバープリセット 62
Fiery JobExpert 66
Fiery JobExpert ルール 66
JobExpert 列を追加する 67
JobExpert を使用してジョブをインポートする 67
JobExpert を仮想プリンターに追加する 68
JobExpert を Fiery Hot Folders に追加する 68
ジョブセンターで JobExpert を適用する 69
JobExpert 設定を除去する 69
Fiery JobExpert レポートを表示 69
Job Editor 70
Job Editor を開く 71
Job Editor でのジョブの編集 73
Job Editor テンプレート 76
Job Editor でのステップと反復 76
Command WorkStation と Job Editor でのネスティング 81
Job Editor でサブストレートを選択する 85
Job Editor から印刷する 85
Template Manager 86
Template Manager を開く 86
Template Manager でプレースホルダージョブを編集する 89
Template Manager テンプレート 91
Template Manager でのステップと反復 91
Template Manager でのステップと反復テンプレート 92
Template Manager でのネスティング 95
Template Manager でサブストレートを選択する 98
Template Manager から印刷設定を変更する 98
ジョブからラスターデータを除去する 98
ラスター曲線エディター 99

最後に印刷されたページの特定 99

ジョブを管理する 100
ジョブを検索する 100
ジョブ名でジョブを検索する 100
簡易なジョブ検索 100
すべての Fiery サーバーを検索する 101
高度なジョブ検索 101
ジョブサムネイルの表示 102
ジョブにジョブタグを割り当てる 102
ジョブタグの管理 103
完了ビューの使用 103
現在のビューをエクスポート 104
別のキューにジョブを移動する 104
ジョブの一時停止と再開 104
ジョブを別の Fiery サーバーに送信する 105
ジョブをアーカイブする 105
アーカイブマネージャーでの初回セットアップ 106
アーカイブマネージャーを使用してジョブをアーカイブする 106
アーカイブ済みジョブの概要 107
移行中にアクセスできないフォルダー 107
アーカイブ先を管理する 107
アーカイブを共有する 108
アーカイブ済みジョブの検索 108
アーカイブ済みジョブを使用する 109
アーカイブマネージャーの使用不可にする 109
アーカイブマネージャーを使用せずにジョブをアーカイブする 109
サーバーの初期化 110
ドラッグアンドドロップによるファイル管理 110
インク使用量の推定 111
コストやジョブに関連する列を設定する 111
コストを見積もる 111
推定印刷時間を表示する 112

Fiery JDF ジョブ 113
Fiery JDF と JMF について 113
Fiery JDF の設定 113
JDF 送信アプリケーションを使用可能に設定する 114

Fiery JDF ワークフロー 114
JDF ジョブを送信する 114
Command WorkStation で JDF カラム見出しを表示する 115
Fiery JDF ジョブと仮想プリンター 115
ジョブの JDF 設定を指定する 115
ジョブ情報タブ 116
ランリストタブ 116
ジョブの終了タブ 117
サブストレートカタログに JDF ジョブの用紙を追加する 117
JDF ジョブの用紙の競合を解決する 117

カラーを管理する 119
カラー印刷オプション 119
デフォルトのカラー印刷オプションを表示または編集する 119
プロファイル 134
プロファイルプロパティを表示する 135
プロファイルの色の範囲を比較する 135
プロファイルをインポートまたはエクスポートする 136
プロファイルを作成または削除する 137
プロファイル設定を編集する 138
プロファイル内容を編集する 138
テストページを印刷する 140
Calibrator 3 141
分光測色計を使用してパッチを測定する 142
分光測色計のキャリブレーション 142
キャリブレーションページの測定 143
濃度ベースのキャリブレーションワークフロー 143
タスクの選択 144
サーバーのキャリブレーションの作成 144
キャリブレーション設定のカラー出力プロファイルを作成する 147
測定結果の表示 148
測定データをエクスポートする 149
測定データのリセット 150
Calibrator 設定 150
出力プロファイルのキャリブレーション設定 152
再キャリブレート 153
キャリブレーションマネージャー 155
L*a*b*ベースのキャリブレーションワークフロー 157

Fiery サーバーを選択する 157
サーバーのキャリブレーションの作成 160
再キャリブレート 170
キャリブレーションマネージャー 172
トナー Delta E ベースのキャリブレーションワークフロー 173
Fiery サーバーを選択する 174
サーバーのキャリブレーションの作成 176
キャリブレーション設定のカラー出力プロファイルを作成する 179
キャリブレーション設定 180
G7 グレーバランスの測定値を取得する 181
出力プロファイルの設定 183
再キャリブレート 184
キャリブレーションマネージャー 187
インクジェット Delta E ベースのキャリブレーションワークフロー 188
タスクの選択 188
サーバーのキャリブレーションの作成 191
キャリブレーション設定のカラー出力プロファイルを作成する 193
キャリブレーション設定 194
インクコントロールの設定 196
リニアリゼーションの合計インク制限を設定する 197
G7 グレーバランスの測定値を取得する 197
出力プロファイルの設定 200
再キャリブレート 200
キャリブレーションマネージャー 203
モノクロ印刷用キャリブレーションのワークフロー 204
測定器を使用してサーバーのキャリブレーションをアップデートする 204
サーバーのキャリブレーションのアップデート 206
キャリブレーションの概要の確認 207
Spot Pro のスポットカラー 207
Spot Pro を起動する 207
Spot Pro ワークスペース 208
Spot Pro グループタイプ 209
Spot Pro カラータイプ 209
Spot Pro のカスタマイズ 210
Spot Pro の環境設定 210
Spot Pro 列を管理する 212
スポットカラーまたはカラーグループの優先順序を変更する 212
スポットカラーライブラリの有効化または無効化 213

Spot Pro ツールバーアイコン . . . 213
スポットカラーを検索する . . . 214
スポットカラーを検索する . . . 214
新しいスポットカラーを作成する . . . 214
スポットカラーを編集する . . . 216
スポットカラーのバリエーション . . . 217
スポットカラーまたはカラーグループを削除する . . . 218
スポットカラーまたはスポットカラーグループの複製またはエクスポート . . . 219
ジョブのスポットカラーを編集する . . . 219
Spot Pro スポットカラーのエイリアス . . . 220
エイリアススポットカラー . . . 221
特殊なカラーとエイリアススポットカラー . . . 223
特殊カラーとスポットカラーのミックス . . . 223
特殊カラーとスポットカラーをミックスする . . . 223
特殊カラーを使用したスポットカラーの目視検査 . . . 224
特殊カラーミックスおよび出力プロファイル . . . 224
スポットカラーのチェック . . . 225
スポットカラーを最適化する . . . 226
自動スポットカラー最適化 . . . 227
変更されたスポットカラーの追跡 . . . 228
色域警告 . . . 228
階調曲線編集によるスポットカラー . . . 229
カラーグラデーションエディターを使用する . . . 229
出力プロファイル色域に対するスポットカラーモデルを検査する . . . 230
出力プロファイル色域に対する Spot Pro 内のスポットカラーを検査する . . . 230
出力プロファイル色域に対するジョブ内のスポットカラーを検査する . . . 230
カラースウォッチページとスウォッチブック . . . 230
カラースウォッチページまたはスウォッチブックを印刷する . . . 231
1 つまたは複数のスポットカラーのスウォッチブックを印刷する . . . 231
グループ内のすべてのスポットカラーのスウォッチブックを印刷する . . . 232
代替カラー . . . 233
代替カラーの作成や編集を行う . . . 233
Fiery ColorGuard . . . 234

サーバーリソースを管理する . . . 236
Fiery システムソフトウェアのアップデートとパッチ . . . 236
Command WorkStation からの Fiery サーバーシステムソフトウェアのアップデート . . . 236
サーバーのパフォーマンスとセキュリティを調べる . . . 237

サーバーを最適な稼働状態で維持する . . . 237
仮想プリンター . . . 238
デフォルトの設定 . . . 239
仮想プリンターを作成、編集または複製する . . . 239
仮想プリンターを管理する . . . 241
バリアブルデータ印刷リソース . . . 241
バリアブルデータ印刷リソースをバックアップする . . . 242
バリアブルデータ印刷リソースを復帰させる . . . 242
グローバルリソースを表示および削除する . . . 242
フォント . . . 243
Fiery サーバーのフォントを管理する . . . 243
フォントのバックアップと復元を実行する . . . 244
ユーザーとグループ . . . 244
グループを表示する . . . 244
ジョブログを使用する . . . 245
ジョブログを表示する . . . 245
ジョブログ列のカスタマイズ . . . 245
ジョブログエントリの詳細情報を表示する . . . 246
ジョブログを印刷する . . . 246
ジョブログのコンテンツをエクスポートする . . . 246
ジョブログのコンテンツをエクスポートまたは消去する . . . 247

サブストレートカタログ . . . 248
サブストレートカタログにアクセスする . . . 248
サブストレートカタログウィンドウ . . . 249
サブストレートカタログの列の表示を変更する . . . 250
サブストレートカタログ設定を選択する . . . 250
サブストレートカタログの新規エントリの属性 . . . 251
サブストレートカタログエントリを作成する . . . 251
サブストレートカタログエントリのサイズ属性を定義する . . . 252
カラープロファイル設定を指定する . . . 252
サブストレートカタログエントリをお気に入りとしてマークまたは削除する . . . 253
サブストレートカタログエントリをお気に入りとしてマークする . . . 254
サブストレートカタログエントリをお気に入りから削除する . . . 254
サブストレートカタログのお気に入りについての詳細 . . . 254
サブストレートカタログエントリを使用しているジョブの検索 . . . 254
サブストレートカタログエントリを変更する . . . 255
サブストレートカタログエントリを複製する . . . 255

サブストレートカタログエントリを編集する 256
サブストレートカタログエントリを削除する 256
サブストレートカタログエントリをジョブに割り当てる 257
一時的なカスタムサブストレートサイズを割り当てる 257
一時的なカスタムサブストレートサイズをサブストレートカタログエントリに割り当てる 258
サブストレートエントリ 258
共通用紙属性 259
サブストレートカタログを管理する 267
サブストレートカタログをエクスポートする 267
サブストレートカタログを置き換える 268
2 つのサブストレートカタログをマージする 268
サブストレートカタログを出荷時のデフォルトにリセットする 269
サイズカタログ 269
Command WorkStation からサイズカタログへアクセスする 269
サイズカタログを管理する 269

Graphic Arts ツール 273
Fiery グラフィックアート機能 273
Fiery Graphic Arts Pro Package 273
コントロールバー 273
デフォルトでコントロールバーを印刷 274
コントロールバーを表示および編集する 274
カスタムまたは複製のコントロールバーを作成する 275
カスタムコントロールバーをエクスポート、インポート、または削除する 275
トラッピング 276
すべてのジョブにデフォルトの自動トラッピングを設定する 276
トラッピング幅を指定する 276
トラッピングカラーリダクションを指定する 277
トラッピングセル形状を指定する 277
オブジェクトのトラッピング方法を指定する 278
プログレッシブ 278
用紙シミュレーションの白色点編集 278
用紙シミュレーションの白色点値を編集する 278
プリフライト 279
プリフライトチェックの設定と実行 281
Fiery Preflight Pro 281
Fiery ImageViewer 282
ImageViewer の必要条件 282

ImageViewer を起動する 283
Fiery ImageViewer ツールバーを使用して共通アクションにすばやくアクセスする 283
イメージプレビューウィンドウでルーラーを表示する 285
イメージプレビューウィンドウで距離を測定する 286
イメージプレビューを調整する 286
画像のサイズを変更する 287
画像内のカラー値を表示する 287
オブジェクトインスペクター 287
カラー置換 288
部分補正 289
Fiery ImageViewer オブジェクトエディター 290
おもて面および裏面オーバーレイ 293
画像位置 294
インク制限のアニメーション 295
色分解の表示と印刷 295
ImageViewer の編集 296
曲線を使用して応答を編集する 296
色相環を使用して色を編集する 297
カラー編集を 1 ページまたは全ページに適用する 298
ローカルファイルを使用してカラー編集を適用する 298
サーバープリセットを使用してカラー編集を適用する 299
Curve2/Curve3/Curve4 ファイルからカラー曲線を適用する 301
Fiery ImageViewer でページを管理する 301
編集したジョブを印刷する 303
ソフト校正を PDF にエクスポートする 303
校正を印刷する 304
モニタープロファイルと出力プロファイルを比較する 304
Fiery ImageViewer の環境設定 304

Fiery Command WorkStation

Command WorkStation は、Fiery サーバー向け印刷ジョブ管理インターフェイスです。

Command WorkStation では、複数の Fiery サーバーに接続したうえで、ジョブを一元管理できます。直観的なインターフェイスにより、オペレーターやシステム管理者は、処理するジョブの数やタイプに関係なく、複雑なタスクを簡単に処理できます。

ジョブセンターとデバイスセンターは Command WorkStation の統合機能であり、これらにはジョブの検索とプレビュー、ワークフローの割り当て、印刷の管理を行うためのツールが含まれています。

Command WorkStation ツールを使用して、以下のタスクを実行できます。

- ジョブのインポートとプレビュー
- Fiery サーバーに関する情報の表示
- プリントオプションの指定
- カスタムワークフローの表示と変更
- プリプレスジョブワークフローの管理
- 面付けソフトウェアやメイクレディアプリケーションなどの Fiery アプリケーションを使用したジョブの準備とアセンブリ

Fiery サーバーには数々のオプション機能が用意されており、それらはすべてこのヘルプシステムで文書化されています。ただし、Command WorkStation には、接続している Fiery サーバーでサポートされているオプション機能（HyperRIP モードなど）のみが表示されます。

Fiery サーバーにインストールされている Fiery システムのバージョンは、**デバイスセンター** > **一般情報**で確認できます（Command WorkStation ワークスペース （13 ページ）を参照）。

Command WorkStation 機能の詳細は、取扱説明書の『ユーティリティ』を参照してください。

Command WorkStation ワークスペース

メインウィンドウでは、接続されているすべての Fiery サーバーまたは選択したサーバーで発生しているアクティビティの概要が表示され、各種機能にアクセスできます。

Fiery サーバーを Command WorkStation に追加する方法については、Fiery サーバーの追加と接続（20 ページ）を参照してください。

メモ：表示内容は Fiery サーバーごとに異なります。概要を以下で説明します。詳細については、ジョブセンターの**ヘルプ**メニューからアクセスした Fiery サーバーの Command WorkStation ヘルプを参照してください。

Command WorkStation メインウィンドウには次の領域が含まれます。

- メインメニュー：各種コマンドにアクセスできます。
- サイドバー：ボタンによるナビゲーションを Fiery ロゴの直下の次の画面に表示します。
  - **ホーム**：接続している Fiery サーバーの状況の概要と、1 週間以内に実行した印刷プロダクションに関する統計情報のスナップショットが表示されます。
  - **ジョブセンター**：接続されている Fiery サーバーに送信されたジョブを表示および管理します。
    - **サーバー**：ジョブキューやジョブ状況が一覧表示されます。一部の Fiery サーバーでは、使用可能な用紙や消耗品も表示されます。各 Fiery サーバーの表示を折りたたむと、表示できるサーバーの数が増えます。
    - **ジョブ状況**：現在処理中のジョブと印刷中のジョブの状況が表示されます。このジョブを管理するには、**サーバー**リストで**処理中**キューまたは**印刷中**キューをクリックします。
    - **プレビュー**：処理済みジョブの内容がサムネイルで表示されます。Fiery システムソフトウェア FS300/300 Pro 以降を搭載した Fiery サーバーでは、スプール済みジョブや処理済みジョブのサムネイルが表示されます。
    - **概要**：ジョブ名またはタイトル、ページ数またはシート数、部数など、選択したジョブの情報が表示されます。スプール時間または処理時間、使用されている用紙、プリフライトまたはジョブの検証結果など、その他の情報が、選択した Fiery サーバー別に表示されます。鉛筆アイコンをクリックすると、一部のジョブプロパティのフィールドを編集できます。
    - **履歴**：ジョブの作成、処理、印刷、キャンセルなどのジョブの履歴のアクションに関する情報が表示されます。また、処理エラーや印刷エラーの日時、または処理がキャンセルされた日時も表示されます。印刷済みアクションおよびキャンセルされたアクションでは、部数やページ数などのジョブ特性が表示されます。
    - ジョブ一覧：ジョブのリストと、実行できるジョブアクションをまとめたツールバーが表示されます。ジョブを右クリックすると、ジョブアクションの完全なリストが表示されます。
  - **アプリおよびリソース**：インストールされているすべての Fiery アプリケーションにワンクリックでアクセスできるほか、Fiery サーバーで使用できる他のアプリケーションやリソースも表示されます。選択した Fiery サーバーでサポートされている無料のソフトウェアトライアルやダウンロードにもアクセスできます。

    メモ：使用可能な**アプリおよびリソース**の一覧を表示するには、インターネット接続が必要です。
  - **入門アシスタント**（アシスタントアイコン）：Command WorkStation の能力を検出し、印刷ワークフローを向上させるのに役立つ情報を提供します。
  - **Fiery IQ**（クラウドアイコン）：Command WorkStation 設定をクラウドにバックアップしたり、他のユーザーと設定を共有したり、印刷パフォーマンスを監視したりできる Fiery IQ アカウントにアクセスできます。
  - **Fiery Account**（ラウンドユーザーアイコン）：新しいアカウントを作成するか、既存のアカウントにログインします。アイコンのグリーンのドットは、ログインしていることを示します。
  - **Fiery スマート検索**：Fiery のナレッジベースを検索して、Command WorkStation や Fiery 機能について詳しく知ることができます。

入門アシスタント

Fiery Command WorkStation 入門アシスタントでは、印刷ジョブを効率的に管理、プレビュー、制御してワークフローを最適化する方法を学習できます。

ジョブを効率的に管理、準備、印刷する機能で印刷ワークフローを向上させる Fiery Command WorkStation の能力をご覧ください。

チュートリアルを検索または閲覧して、Fiery Command WorkStation について学習できます。

入門アシスタントには、Fiery Command WorkStation サイドバーとヘルプメニューからアクセスできます。

Fiery スマート検索

Fiery スマート検索で、情報やトレーニングリソースを検索して、Command WorkStation や Fiery 機能の詳細を調べることができます。

Fiery スマート検索では、Fiery のナレッジベースで以下のリソースを検索できます。

- ヘルプ文書
- Fiery Communities
- ハウツーガイド
- Fiery 製品ガイド

1 ジョブセンターで、Fiery サイドバーの左下にある Fiery スマート検索アイコン（拡大鏡）をクリックします。

Fiery スマート検索は、別のウィンドウがジョブセンター上で開かれていない限り、いつでもサイドバーの左下で使用できます。

2 **Fiery 情報の検索**領域で検索用語を入力し、**Enter** を押します。

マウスまたはスクロールバーでリストをスクロールできます。

検索ウィンドウには一度に 10 件の結果が表示されます。

3 検索結果をクリックします。

情報はデフォルトの Web ブラウザーで開きます。

ジョブセンター

Command WorkStation のジョブセンターでは、接続済み Fiery サーバーに送信されたジョブを表示および一元管理できます。ジョブセンターには印刷中キュー、処理中キュー、印刷準備キュー、待機ビュー、印刷済みビュー、アーカイブ済みビュー、完了ビューがあります。

ジョブセンターでは、次の操作を実行できます。

- 検索対象の各 Fiery サーバー内でのジョブの検索、ジョブのプロパティの表示、ジョブのプレビューツールバーからさまざまな機能へのアクセス
- ジョブ一覧で任意のジョブを選択し、ジョブ名の最初の数文字を入力して選択します。

- ワークフローの割り当てとジョブの管理
- ジョブ一覧のカスタムビューによる効率的なジョブ管理
- **すべてのジョブ**のすべてのジョブを表示し、すべてのキューにあるすべてのジョブを表示
- ジョブの場所に関係なく、Fiery サーバーのすべての印刷済みジョブを完了ビューに一覧表示
- すべての Fiery サーバーの状況を表示します。
- プレスに関する情報の表示
- ジョブのプレビュー
- ジョブのサムネイルアイコンを表示します。
- ジョブ概要ペインでのプロパティの編集
- **履歴**ウィンドウでのジョブの履歴からのアクションの表示
- デスクトップから Command WorkStation へのジョブのドラッグアンドドロップ
- 使用している Fiery サーバーの 『ヘルプ』 にアクセスします。

処理中ジョブと印刷中ジョブの状況

ジョブセンターの上部にある**処理中**ウィンドウと**印刷中**ウィンドウ（青い長方形）には、それぞれ処理中のジョブと印刷中のジョブの進行状況が表示されます。

処理中ペインにジョブをドラッグアンドドロップすることができます。

Fiery サーバーが HyperRIP モードをサポートしている場合は、さらに詳しい状況を知ることができます。ジョブがページ平行モード（単一ジョブモード）で処理されている場合は、**ジョブセンター**の**処理中**ペインに表示される進行状況バーが分割され、使用中のプロセッサーごとの進行状況が示されます。ジョブがジョブ平行モード（複数ジョブモード）で処理されている場合は、**処理中**ペインのジョブ状況カラムがさらに分割され、処理中のジョブごとの進行状況が示されます。

キュー内のジョブを管理するコマンド

ジョブセンターの待機、印刷済みまたはアーカイブ済みキューに表示されるジョブ向けのコマンドを利用できます。キュー内のジョブを右クリックしてコマンドの一覧を表示したり、アクションメニューからコマンドを選択したりできます。

オプション機能は、接続している Fiery サーバーでサポートされているものだけが表示されます。

JobExpert の適用	個々の PDF ジョブに推奨ジョブプロパティ設定を適用します。詳細は、Fiery JobExpert（66 ページ）を参照してください。
ワークフローを適用	選択したジョブに適用できるサーバープリセットおよび仮想プリンターの一覧を表示します。
アーカイブ	選択したジョブをアーカイブします。
JobExpert の消去	選択したジョブの JobExpert によって設定されたジョブのプロパティの推奨設定を削除します。詳細については、Fiery JobExpert（66 ページ）を参照してください。

コピー先	別の Fiery サーバーのキューにジョブをコピーします。コピー先の Fiery サーバーが Command WorkStation に接続されている必要があります。接続されていないサーバーはリストに表示されません。
削除	選択したジョブを削除します。
複製	選択したジョブのコピーを作成します。
ImageViewer	1 つのジョブの最初のページ（複数のジョブが選択されている場合は最初の選択ジョブのページ）を表示する Fiery ImageViewer を開きます（サポートされている場合）。詳細については、Fiery ImageViewer（282 ページ）を参照してください。
Impose Plus（オプション）	Fiery Impose Plus を開き、カスタムの印刷、綴じ、トリミング用のジョブに面付けレイアウトを適用します。Fiery Impose Plus も、面付けをバリアブルデータジョブに適用し、面付け済みジョブを PDF ファイルとして保存します。
移動先	Fiery サーバーに Fiery システムソフトウェア FS350/350 Pro 以降がインストールされている場合は、ジョブを別の Fiery サーバーに移動できます。移動先の Fiery サーバーのシステムソフトウェアはサポートされているバージョンであればどれでも問題ありませんが、サーバーが Command WorkStation に接続されている必要があります。接続されていないサーバーはリストに表示されません。
一時停止	表示中のページ/フォームのコピーまたはセットの仕上げ後、選択した印刷中のジョブを一時停止し、ジョブを待機キューに移動します。印刷中キュー内のジョブにのみ適用できます。詳細については、ジョブの一時停止と再開（104 ページ）を参照してください。
Preflight	出力エラーが最もよく発生する項目をチェックしてファイルが正常に印刷されるようにするために、選択されている 1 つのジョブ（複数のジョブが選択されている場合は最初の選択ジョブ）が表示された状態で**プリフライト設定**ウィンドウを開きます。詳細は、プリフライト（280 ページ）を参照してください。
Preflight Pro	選択した PDF または PDF/VT jobs ジョブに適用できるプリセットの一覧が表示されます。このオプションは、Fiery システムソフトウェア FS500 Pro 以降が搭載された Windows ベースの Fiery サーバーでの PDF または PDF/VT ジョブにのみ使用できます。 Fiery Preflight Pro には Fiery Graphic Arts Pro Package が必須です。詳細については、Fiery Preflight Pro（281 ページ）を参照してください。
プレビュー	**プレビュー**ウィンドウを開きます。ここではページの画像を表示できます。
すべて印刷	選択した一時停止したジョブを、印刷済みの部数またはセット数に関係なく、最初から印刷します。一時停止したジョブにのみ適用できます。
処理後待機	選択したジョブを待機、印刷済み、アーカイブ済みリストから処理中キューに送信します。
プロパティ	**ジョブのプロパティ**ウィンドウを開きます。ここでは選択したジョブに関する情報（印刷設定など）が表示されます。複数のジョブが選択さ

	れている場合、選択されたジョブが共有していないプロパティは空欄になります。
ラスターデータ除去	待機またはアーカイブ済みリストから選択したジョブのラスターデータを削除します。
名前の変更	選択したジョブ名を変更します。
再開	選択した一時停止したジョブの印刷を、ジョブが一時停止されたコピーまたはセットから再開します。一時停止したジョブにのみ適用できます。
印刷キューへ送信	選択されたジョブを印刷のためにプレスに送信します。 **メモ：印刷キューへ送信**は、一部の Fiery サーバーではサポートされていない可能性があります。
準備完了へ送信	ジョブを印刷のためにプレスに送信します。 **メモ：準備完了へ送信**は、一部の Fiery サーバーではサポートされていない可能性があります。
JobExpert レポートの表示	JobExpert レポートを開きます。レポートは、Fiery JobExpert が適用されたジョブにのみ使用できます。詳細は、Fiery JobExpert（66 ページ）を参照してください。
プリフライトレポートを表示	プリフライトレポートを開きます。プリフライトされたジョブのレポートのみを表示できます。詳細は、プリフライト（280 ページ）を参照してください。 Fiery Preflight Pro レポートは、Fiery システムソフトウェア FS500 Pro 以降が搭載された Windows ベースの Fiery サーバーのプリフライトされた PDF または PDF/VT ジョブでのみ使用できます。

デバイスセンター

Command WorkStation では、1 つのワークスペース内にシステム情報を表示します。デバイスセンターを使用すると、接続されている Fiery サーバーを設定したり、各種プリント管理ツールにアクセスしたりできます。

デバイスセンターにアクセスするには、詳細アイコン（3 つのドット）をクリックして**デバイスセンター**を選択するか、**サーバー**リスト内の Fiery サーバー名をダブルクリックします。

デバイスセンターでは、以下の作業を行うことができます。

- 接続されている Fiery サーバーに関する情報の表示
- カラーのデフォルトなど、ジョブプロパティのデフォルトの設定
- サブストレートカタログ、バリアブルデータ印刷（VDP）、カラープロファイル、スポットカラーテーブル、フォント設定の表示と変更
- 使用可能な仮想プリンターおよびサーバープリセットの表示と作成
- 処理済みおよび印刷済みジョブの詳細ログの表示

デバイスセンターには以下の設定があります。

- **一般**：IP アドレス、容量（ハードディスクドライブの空き領域）、インストール済みのオプションとパッケージのリストなど、接続されている Fiery サーバーに関する情報を表示します。**一般**セクションには、**一般情報**、**サーバー設定**、**ツール**などの機能が含まれています。
- **カラー設定**：**カラー管理**が含まれます。接続されている Fiery サーバーによって機能がサポートされている場合は、**コントロールバー**、**トラッピング**、**ハーフトーンシミュレーション**も含まれます。
- **リソース**：サブストレートカタログ、バリアブルデータ印刷（VDP）、カラープロファイル、スポットカラーテーブルおよびフォント設定の表示と変更ができます。**リソース**セクションには、**サイズカタログ**、**バリアブルデータ印刷リソース**、**プロファイル**および**フォント**が含まれます。接続している Fiery サーバーで機能がサポートされている場合は、**サブストレートカタログ**、**Spot Pro** および**特殊カラー**も含まれます。
- **ワークフロー**：使用可能な仮想プリンターおよびサーバープリセットの一覧を表示できます。**ワークフロー**セクションには、**ジョブプリセット**、**仮想プリンター**および**高品位イメージ画像**が含まれます。
- **ログ**：処理済みおよび印刷済みジョブの詳細ログを表示します。**ログ**タブには**ジョブログ**タブがあります。

Fiery サーバーの追加と接続

Fiery サーバーに接続するためのアクセスレベル

システム管理者、オペレーターまたはシステム管理者がアクセス権を付与した任意のユーザーとしてログオンできます。システム管理者は各ユーザーに対し、パスワードを設定できます。

- **システム管理者**: Command WorkStation および Fiery サーバーのすべてのコントロールパネルにアクセスできます。システム管理者のパスワードが必要です。
- **オペレーター**：ジョブセンターの全機能にアクセスできます。オペレーターは、デバイスセンターで Configure、バックアップ/復元、パスワードの変更、ジョブログの削除にはアクセスできません。オペレーターはサブストレートカタログ、仮想プリンター、カラー管理機能の表示はできますが、編集はできません。システム管理者のみが編集できます。
- ユーザー名：システム管理者は、ユーザーを作成してグループに割り当て、そのグループに権限（ゲスト権限やサーバープリセットの作成権限など）を割り当てます。

アクセスレベル設定の詳細は、取扱説明書の『Configure のヘルプ』および『設定管理』を参照してください。

Fiery サーバーへの接続

Command WorkStation を使用するには、Fiery サーバーに接続する必要があります。

Command WorkStation の**サーバー**リストは、使用可能なすべての Fiery サーバーへのアクセスを管理します。Fiery サーバーの追加、接続、削除、切断を選択できます。

Fiery サーバー追加ウィンドウにサーバー名または IP アドレスを入力して、Fiery サーバーを検索できます。サーバーを接続して認証された後に、IP アドレスは**サーバー**リストの Fiery サーバー名に切り替わります。Command WorkStation は、一度に複数の Fiery サーバーに接続できます。

Fiery サーバーへの接続が切断された場合、 Command WorkStation は自動再接続を試みます。Autoreconnect に関する詳細については、Command WorkStation の環境設定（25 ページ）を参照してください。

Fiery サーバーへの接続を失った時点で Command WorkStation のいずれかのプラグインウィンドウが開いている場合、プラグインウィンドウでユーザーにメッセージが表示され、統合 PDF としてジョブを保存するオプションが提供されます。

Fiery サーバーを追加して接続する

Fiery サーバーを追加し、接続および再接続できます。

Fiery サーバーを追加するには、サーバー名または IP アドレスが必要です。

サーバー名または IP アドレスがわからない場合は、検索機能を使用してネットワーク上で使用可能な Fiery サーバーを見つけることができます。使用可能な Fiery サーバーを検索する（21 ページ）を参照してください。

1 **サーバー**リストまたは**ホーム**スクリーンでプラス記号（+）をクリックします。Fiery サーバーの IP アドレスまたはサーバー名を入力し、**追加**をクリックします。

2 **ユーザー**リストからユーザーを選択し、適切なパスワードを入力します。

ユーザーはデフォルトのユーザー名（**システム管理者**および**オペレーター**）に加えて、自分のユーザー名でもログインできます。ただし、その場合はネットワーク管理者が事前にユーザーをいずれかのグループのメンバーに設定しておく必要があります。

3 **ログイン**をクリックします。

4 **サーバー**リストの Fiery サーバーに接続したことがある場合は、その Fiery サーバーを選択し、**接続**をクリックします。

使用可能な Fiery サーバーを検索する

Fiery サーバーのサーバー名または IP アドレスがわからない場合は、ローカルエリアネットワークで Fiery サーバーを検索できます。ローカルコンピューターが含まれているサブネット内か、特定のサブネットまたは IP アドレスの範囲内を検索できます。

1 **サーバー**リストでプラス記号（+）をクリックします。

2 **Fiery サーバー追加**ウィンドウにローカルサブネットの自動検索結果が表示されない場合や、サーバー名または IP アドレスが不明な場合は、**高度な検索**をクリックします。

3 次のいずれかの操作を行います。

- 特定の IP アドレス範囲内で Fiery サーバーを検索するには、**検索**メニューから **IP 範囲**を選択します。
  - 検索を開始する IP アドレスを**開始**に入力します。オクテットの最初から検索するには、「0」と入力します。例：10.100.10.0
  - 検索を終了する IP アドレスを**終了**に入力します。オクテットの最後まで検索するには、「255」と入力します。例：10.100.10.255
- 特定のサブネット範囲内で Fiery サーバを検索するには、**検索**メニューから**サブネット**を選択します。
  - 検索対象に含めるサブネット範囲を示す**サブネットアドレス**を入力します。どの数値でもかまわないオクテットには、「0」を入力します。たとえば、「10.100.10.0」を入力すると、「10.100.10.1」から「10.100.10.255」の範囲が検索されます。
  - 検索対象から除外するサブネット範囲を示す**サブネットマスク**を入力します。何も除外しないオクテットには、「0」を入力します。たとえば、「255.255.255.0」を入力すると、先頭の 3 つのオクテットのサブネットアドレス以外はすべて除外され、4 番目のオクテットでは任意の値が許可されます（例：「10.100.10.30」など）。

4 **実行**をクリックします。

検索結果には、検索条件に一致する使用可能な Fiery サーバーが表示されます。**キーワードでフィルタリング**フィールドにキーワードを入力することで、検索結果リストを絞り込むことができます。

5 結果リストから Fiery サーバーを選択し、**OK**、**追加**の順にクリックし、**サーバー**リストに追加します。

Fiery サーバーからログオフする

Fiery サーバーからログオフすると、Fiery サーバーと Command WorkStation の接続が切断されます。

1 **サーバー**リストから Fiery サーバーを選択します。

2 Fiery サーバーの名前の横にある詳細アイコンをクリックしてログアウトします。

別の Fiery サーバーを表示する

Command WorkStation では、接続している Fiery サーバーから別のサーバーに表示を切り替えることができます。

- 接続している Fiery サーバーから別の Fiery サーバーに表示を切り替えるには、**サーバー**リストの任意の Fiery サーバーをクリックします。

サーバーリスト

サーバーリストには、接続中または過去に接続された（現在は接続解除されている）Fiery サーバーに関する情報が表示されます。

サーバーリスト内に Fiery サーバーの IP アドレスを表示するには、ポインターをサーバー名の上に移動します。

サーバーリスト内のキューにファイルをドラッグできます。**サーバー**リストでは、接続しているプリンターの情報が Fiery サーバー名のすぐ下に表示されます。Fiery サーバーの名前の左側にあるプラス記号（+）をクリックすると、個々の Fiery サーバーを展開できます。Command WorkStation を終了しても、**サーバー**リストは消去されません。

消耗品

消耗品とは、プレスが印刷の際に使用するサブストレートやインクなどの有限のリソースを指します。

消耗品に関する情報は、以下で参照できます。

メモ：この機能は、接続したプレスでサポートされている場合に利用できます。

- サーバーリストは、Fiery サーバーのキューの名前の下に表示されます。
- **デバイスセンター** > **一般** > **一般情報** > **消耗品**

サーバー情報

Fiery サーバー情報を詳細な形式で表示するには、**デバイスセンター** > **一般** > **一般情報**を選択します。

エラー/警告

siy

状況メッセージ

状況メッセージには、Fiery サーバーに関するものとプリンターに関するものがあります。メッセージは以下のとおりです。

使用可能	Fiery サーバーまたはプレスが使用可能です。
使用中	Fiery サーバーがジョブを処理しています。
印刷中	Fiery サーバーはジョブを印刷しています。
キャンセル中	Fiery サーバーがジョブをキャンセルしています。
スリープ	プレスがスリープモードになっています。
低電源	プレスが低電源モードになっています。
キャリブレーション	プレスはキャリブレーションを実行しています。
メンテナンスが必要	プレスの定期メンテナンスが必要です。
ウォームアップ中	スリープモードまたは低電源モードから立ち上がり、現在ウォーミングアップ中です。

エラーメッセージ

エラーメッセージは、Fiery サーバーとプリンターの両方に影響があり、ジョブが印刷できなくなる問題（紙詰まりなど）に関する非常に重要なメッセージです。複数のエラーが同時に発生した場合、最も重大なエラーが先に表示されます。最初のエラーが解決されると、次のエラーが表示されます。

表示されるエラーメッセージの例は以下のとおりです。

- プレスの電源とケーブル接続を点検してください
- プレスのシリアル通信が切断されました
- 印刷は一時停止しています
- ネットワーク接続を確認してください。
- ゲートウェイ/ルーター構成を確認してください
- 接続が不安定です。ネットワーク環境を確認する

Command WorkStation のアンインストール

Command WorkStation および関連アプリケーションをアンインストールする必要がある場合には、Fiery Software Manager を使用します。
アプリケーションのアンインストールは、コンピュータ上でそのアプリケーションが不要になった場合や問題のトラブルシューティング時に新たにインストールしたい時などに役立ちます。Command WorkStation はパッケージの一部であるので 、パッケージをアンインストールすると、Fiery Software Manager を含む関連アプリケーションもアンインストールされます。

1 Fiery Software Manager を起動します。

Fiery Software Manager は、インストールされているアプリケーションの **Fiery** グループまたはコンピューターのデスクトップ右下隅にあるシステムトレイにあります。

2 **Fiery Command WorkStation Package** の上にカーソルを移動し、**除去**アイコン（ゴミ箱）をクリックします。

3 画面の指示に従います。

4 または、Windows の**コントロールパネル** > **プログラムと機能**、および macOS の Fiery Software Uninstaller からアプリケーションをアンインストールすることもできます。

Command WorkStation のカスタマイズ

Command WorkStation の環境設定

Command WorkStation 全体に適用される環境設定を指定できます。たとえば、アプリケーションの設定を元のデフォルトにリセットすることもできます。

1 **環境設定**ウィンドウを開くには：

- Windows コンピューターの場合は、**編集** > **環境設定**をクリックします。
- Mac コンピューターの場合は、**Command WorkStation** > > > **環境設定**をクリックします。

2 **一般**で、次の一般環境設定を指定します。

- **表示**：Mac コンピューターで、ダークモードとライトモードのどちらを使用するかを選択するか、**システム**を選択してローカルのオペレーティングシステムシステム設定を使用します。次回の Command WorkStation の起動時に変更が実装されます。
- **自動再接続**：**自動的に再接続**を選択すると、保存したパスワードを使用して、切断したサーバーに自動的に再接続します。
- **アップデート** {nbh} **今すぐ確認**をクリックして Fiery Software Manager を開き、Command WorkStation ソフトウェアおよび Fiery ワークフローアプリケーションの最新バージョンをオンラインで入手できるかどうかを確認します。
- **設定リセット**：**リセット**をクリックして、アプリケーションの設定を元のデフォルトに戻します。

  メモ：追加した Fiery サーバーは、パスワードと共に**サーバー**リストに保持されます。
- **データの消去**：**データの消去**をクリックすると、Command WorkStation に保存されているすべてのユーザーとサーバーのパスワードがすべて消去されます。
- **アーカイブマネージャー**：アーカイブマネージャーを有効にするか無効にするかを選択します。
- **ジョブタグ**：**サーバー**リストにタグを表示するかどうかを選択します。詳細については、ジョブにジョブタグを割り当てる（102 ページ）を参照してください。
- **Fiery ヘルスモニター**：**ジョブセンターの状況を表示**を選択して、ジョブセンターのツールバーの右上隅にある Fiery サーバーのヘルス状況を表示します。
- **改善プログラム**：ソフトウェアの品質、信頼性、パフォーマンスの向上 Fiery に協力するため、氏名、住所、その他の個人情報を含まない匿名の使用データを送信することに同意する場合は、該当するチェックボックスをクリックします。

3 **地域**で、次の地域設定を指定します。

- **言語**：Command WorkStation で使用する言語を選択します。デフォルトで、Command WorkStation は現在の地域のオペレーティングシステム言語を使用します（その言語がサポートされている場合）。言語がサポートされていない場合、Command WorkStation は英語を使用します。

  メモ：Command WorkStation の言語を変更すると、同じクライアントにインストールされている場合は Fiery Hot Folders の言語も変更されます。逆の場合も同様です。

- **測定単位**：ページサイズやカスタムサイズなどの属性を表示するための測定単位を指定します。この設定は定義済みのページサイズ値には影響を及ぼしません。

4 **エクスポート**では、設定を別の Command WorkStation クライアントと共有できます。

- **インポート**：**インポート**をクリックして、他のコンピューターから Command WorkStation 設定をインポートします。
- **エクスポート**：**エクスポート**をクリックして、Command WorkStation 設定を zip ファイルにエクスポートし、他の Command WorkStation クライアントの設定に使用できます。

5 **ワークスペース**では、Command WorkStation ワークスペース設定を Fiery IQ クラウドにバックアップして、ワークスペース設定を他のユーザーと共有できます。

- **クラウドへのバックアップ/復元**：**開始**をクリックして、Fiery アカウントにサインインまたは Fiery アカウントを作成します。ログイン後、ワークスペース設定をバックアップまたは復元できます。詳細は、ワークスペース設定のバックアップ（39 ページ）とワークスペース設定の復元（39 ページ）を参照してください。
- **ワークスペース設定の共有**：**共有**をクリックし、ワークスペース設定を共有するか、ワークスペース設定を使用するようにユーザーを招待します。詳細は、ワークスペース設定の共有（41 ページ）を参照してください。
- **インポート**：**インポート**をクリックして、他のコンピューターから Command WorkStation 設定をインポートします。
- **エクスポート**：**エクスポート**をクリックして Command WorkStation 設定を zip ファイルにエクスポートし、他の Command WorkStation クライアントの設定に使用できます。

6 **OK** をクリックして設定を保存し、**環境設定**ウィンドウを閉じます。

サーバー一覧のカスタマイズ

サーバーウィンドウに表示されている Fiery サーバーの順序を並べ替えることができます。

1 サーバーリストの上部で、**サーバーリストのカスタマイズ** アイコン（）をクリックします。
このアイコンは、＋ボタン（サーバーの追加）の左側にあるサーバー一覧の一番上にあります。

2 Fiery サーバーの名前を選択し、**上へ移動**または**下へ移動**をクリックして、Fiery サーバーを目的の位置に移動します。

3 **OK** をクリックします。

4 **キュー**タブで、すべての Fiery サーバーに対して表示する要素を選択します。

- キュー（印刷済み、処理中、完了など）
- インク
- フィーダー
- ジョブのタグ
- アーカイブマネージャー

メモ：Fiery サーバーの接続タイプごとに、必ず 1 つ以上のキューを選択してください。すべてのジョブキューを非表示にすると、すべての Fiery サーバーを検索してジョブの場所を特定したり、カスタムビューを作成する機能が使用できません。

ジョブセンターの列を管理する

キューの列見出しをカスタマイズできます。特定の印刷環境に関連する情報が表示されるように、これらの列の順序を変更するか、または列を追加/削除します。

列の表示を変更する

ジョブセンターの列セットを指定したり、列の追加/削除を行ったりできます。

1 列見出しバーを右クリックします。

2 次のいずれかの操作を行います。

- **標準セット**、**バリアブルデータ印刷セット**、または **JDF セット**を選択し、既定の列レイアウトを使用します。
- **新規追加**の上にマウスのポインターを合わせ、列を選択して、使用可能なカテゴリーから特定の列ヘッダーを追加します。

  メモ：追加した列が、選択した列の左側に表示されます。列名をドラッグアンドドロップすると、列を移動できます。
- **削除**を選択すると、現在選択されている列が削除されます。

カラムの幅を調整する

ジョブセンターのカラムの幅を変更できます。

- そのためには、カラムの境界を左または右にドラッグします。

ジョブアクションメニューのカスタマイズ

ジョブアクションメニューに表示されるアクションと、アクションの順序とグループ化を選択できます。

1 ジョブセンターでジョブを右クリックし、**メニューのカスタマイズ**を選択します。

2 カスタマイズウィンドウで、2 つのセクションを確認します。

選択済みには、ジョブアクションの右クリックメニューに直接表示されるアクションが含まれます。

利用可能には、メインメニューでは非表示となり、**その他**の下に表示されるアクションが含まれます。

3 **追加**または**削除**をクリックして、2 つのセクション間でアクションを移動します。

4 **上へ**ボタンまたは**下へ**ボタンを使用して、アクションの順序を変更します。

5 区切り線を追加または削除するには、**区切り線の追加**または**区切り線の削除**をクリックします。

6 **保存**をクリックします。

ペインの展開/折りたたみ

ジョブ概要および**サーバー**のウィンドウを展開したり折りたたんだりできます。**サーバー**ウィンドウで個々のサーバーを折りたたむこともできます。

- 次のいずれかを行います。
  - **プレビュー**ウィンドウのタイトルバーにある矢印アイコンをクリックして、プレビューを展開したり、折りたたんだりします。
  - **サーバー**リストでサーバーの隣にあるプラス記号またはマイナス記号をクリックします。
  - **サーバー**ウィンドウ全体を左に折りたたむには、左下のバーの矢印アイコンをクリックします。
  - **ジョブ概要**ウィンドウ全体を右に折りたたむには、右下のバーの矢印アイコンをクリックします。

ツールバーをカスタマイズする

ジョブセンターでツールバーをカスタマイズできます。デフォルトのツールバーアイコンを復元することも可能です。

一部のツールバーアイコンは、Fiery サーバーでサポートされている場合のみ使用できます。

1 ツールバー上で右クリックし、表示されるメニューから**カスタマイズ**を選択します。

標準セットがツールバーアイコンのデフォルトセットです。

2 **ツールバーのカスタマイズ**ウィンドウでツールを選択した後に、**追加**または**削除**をクリックし、ツールバーアイコンを追加または削除します。

標準セットには次のツールバーアイコンを追加できます。

- **処理後待機**：選択されたジョブを処理して**待機**リストに保持します。
- **アーカイブ**：選択されたジョブをアーカイブします。

標準セットのアイコンの一覧については、ジョブセンターのツールバーのアイコン（29 ページ）を参照してください。

3 ツールを選択し**上**または**下**ボタンをクリックして、ツールバーアイコンの表示順序を指定します。

4 **標準セット**をクリックすると、デフォルトのツールバーアイコンに戻ります。

ジョブセンターのツールバーのアイコン

ジョブセンターのツールバーには、一連の標準的なアイコンが表示されます。

インポート	**ファイルのインポート**ウィンドウが開きます。
プレスへ送信	選択されたジョブを印刷のためにプレスに送信します。 **メモ：プレスへ送信**は、一部の Fiery サーバーではサポートされていない可能性があります。
印刷キューへ送信	選択されたジョブを印刷のためにプレスに送信します。 **メモ：印刷キューへ送信**は、一部の Fiery サーバーではサポートされていない可能性があります。
準備完了へ送信	選択されたジョブを印刷のためにプレスに送信します。 **メモ：準備完了へ送信**は、一部の Fiery サーバーではサポートされていない可能性があります。
プロパティ	選択したジョブの**ジョブのプロパティ**ウィンドウが開きます。
プレビュー	選択したジョブを表示する **Fiery プレビュー**ウィンドウが開きます。
削除	選択したジョブを削除します。
Spot Pro	**Spot Pro** ウィンドウが開きます。
ログ	**ジョブログ**ウィンドウが開きます。
サブストレートカタログ	**サブストレートカタログ**ウィンドウが開きます。

メモ：一部のツールは、Fiery サーバーでサポートされている場合のみ使用できます。

Fiery サーバーを設定する

Configure へのアクセス

Fiery サーバーを初めて起動した後や、システムソフトウェアをインストールした後は Fiery サーバーを設定する必要があります。設定を行わなかった場合はデフォルト設定が使用されます。使用している印刷環境に合った設定を選択してください。ネットワーク環境や印刷環境が変わった場合は、設定の調整が必要となることがあります。

デフォルトの Web ブラウザーでプロキシサーバーを使用する場合、Command WorkStation から Configure を起動できないことがあります。デフォルトのブラウザー設定で、Fiery サーバーの IP アドレスを例外として登録します。デフォルトのブラウザーの接続設定を検証し、適宜調整します。

Configure を使用してクライアントコンピュータから Fiery サーバーを設定できます。Configure には次の場所からアクセスできます。

- Command WorkStation
- WebTools（サポートされているインターネットブラウザーを使用）

Command WorkStation から Configure にアクセスするには

1. Command WorkStation から対象の Fiery サーバーに接続し、システム管理者としてログインします。
2. Configure を開始するには、次のいずれかを完了します。
   - **サーバー**メニューで、**Configure** をクリックします。
   - **デバイスセンター**で、**一般情報**を選択し、次に右下の **Configure** をクリックします。
3. Configure から表示中のページ/フォームの Fiery サーバー設定オプションを変更します。

WebTools から Configure にアクセスするには

1. インターネットブラウザーを開き、Fiery サーバーの IP アドレスを入力します。
2. WebTools で、**Configure** タブをクリックします。

   メモ：Configure を起動すると、ブラウザーにセキュリティ証明書のエラーが表示されることがあります。エラーが発生しても安全に進めることができます。
3. システム管理者権限でログオンします。

Configure で証明書を管理する

Fiery サーバーでは、ユーザーコンピューターと Fiery サーバーのコンポーネント間を安全に接続する必要があります。HTTPS over TLS は、2 つのエンドポイント間の通信を暗号化します。WebTools から Fiery サーバーに接続するには、HTTPS が必要です。これらの通信は、TLS 1.2 および TLS 1.3 で暗号化されます。

Fiery サーバーでは、システム管理者が TLS 通信中に使用する証明書を管理できます（Base64 でエンコードされた x.509 証明書形式）。Fiery サーバーは 4096、3072、2048 ビットのキー長で RSA 証明書をサポートします。

次の方法で証明書を管理できます。

- 自己署名デジタル証明書の作成。
- Fiery サーバーの証明書および対応する秘密鍵の追加
- 信頼できる証明書権限からの証明書の追加、参照、表示および削除。

メモ： 自己署名証明書はセキュアではないため、信頼できる認証局（CA）の証明書を使用する必要があります。

信頼できる証明機関によって署名された証明書を取得したら、Configure セクションで証明書を Fiery サーバーにアップロードできます。

証明書または秘密鍵を追加する

証明書または秘密鍵を追加する際には、その場所を指定します。

1. 証明書についての情報を表示するには、証明書名の上にマウスを移動し、眼のアイコンをクリックします。
   証明書を削除するには、ゴミ箱のアイコンをクリックします。
2. Configure で、**セキュリティ** > **信用証明書**を選択します。
3. **追加**をクリックします。
4. **参照**をクリックし、ファイルを選択してから**追加**をクリックします。

Web サーバーに証明書を割り当てる

Web サーバーで使用する証明書の割り当てまたは再割り当てを行うことができます。

1. Configure で、**セキュリティ** > **サーバー証明書**を選択します。
2. **自己署名入り証明書作成**をクリックします。
3. 証明書情報を指定し、保存します。
4. Web サーバーで使用する証明書を変更するには、証明書を選択して**証明書変更**をクリックし、証明書または秘密鍵の場所を指定します。

割り当てた証明書を削除する

割り当てた証明書を削除できます。

1 Configure で、**セキュリティ** > **信用証明書**を選択します。

2 削除する証明書の上にカーソルを置きます。
削除アイコン（ゴミ箱）が表示されたことを確認します。

3 **削除**アイコンをクリックします。

Configure のヘルプやその他の情報を参照する

Configure で、画面右側のヘルプアイコンをクリックします。

このヘルプ（『Configure のヘルプ』）に記載されていない Configure のセットアップオプションについての詳細は、取扱説明書の『設定管理』を参照してください。

メモ：Configure オプションの一部はお使いの Fiery サーバーによってはサポートされていない場合があります。

Configure を終了する

一部の設定は Fiery サーバーをリブートしないと反映されません。設定変更の反映に再起動、リブート、またはその他の動作が必要な場合、ページ上部にメッセージが表示されます。

Configure では、認証が必要な設定を変更するたびに、パスワードの入力を求められます。以前に保存された資格情報は再利用されません。

1 必要な変更を行います。
リブートが必要な設定を複数行う場合、すべての設定変更を完了してからリブートします。
リブートを必要としない変更については、リブートではなく再起動を選択できます。リブートすると、Fiery サーバーが使用可能になるまで時間がかかります。

2 変更が反映されるように、Fiery サーバーをリブートまたは再起動します。

サーバー設定の内容を表示、保存、または印刷する

Command WorkStation のサーバー設定タブに現在の Fiery サーバー設定が一覧表示されます。

サーバー設定の内容を表示する

サーバー設定タブから、Fiery サーバー設定のカテゴリを表示したり、設定オプションを変更したりできます。

1 Command WorkStation から対象となる Fiery サーバーに接続し、**デバイスセンター** > **一般** > **サーバー設定**をクリックします。

2 次のいずれかの操作を行います。

- ページの左にあるショートカットをクリックして、表示したいカテゴリの設定内容を表示します。
- ウィンドウの右下隅にある **Configure** をクリックして、現在の Fiery サーバー設定オプションを変更します。

サーバー設定をファイルとして保存する

接続先の Fiery サーバーごとに、サーバー設定をファイルとして保存できます。これは特に、複数の Fiery サーバーを管理している場合に、各 Fiery サーバーの設定の変更を把握するのに便利です。

1 Command WorkStation から希望の Fiery サーバーに接続します。

2 **デバイスセンター** > **一般** > **サーバー設定**をクリックします。

3 **別名保存**をクリックします。

4 ファイル名と保存場所を指定します。

5 ファイルのタイプとして **PDF** または**テキスト**を選択します。

6 **保存**をクリックします。

サーバー設定ページを印刷する

設定を行った後、サーバー設定を印刷して設定を確認し、Fiery server の近くに掲示してすぐに参照できるようにします。ユーザーは、現在のデフォルト設定など、このページの情報が必要です。

1 設定ファイルを保存します。

2 保存したファイルをオフィスプリンターに印刷します。

ユーザーとグループ

Fiery サーバーにアクセスするユーザーを作成し、グループに割り当てることによってユーザーの権限を定義できます。いくつかのグループがデフォルトで用意されています。同じグループ内の全ユーザーが同じ権限を持ちます。

ユーザーとグループに関する詳細情報は、**ユーザーアカウント**で確認できます。

作成したユーザーをグループに割り当てるだけでなく、組織全体のアドレスリストからユーザーを追加することもできます。これを行うには、最初に Fiery サーバーで LDAP サービスを使用可能に設定する必要があります。

新規ユーザーを作成する

グローバルアドレスリストや連絡先リストにユーザーが存在しない場合、手動でユーザーを作成できます。連絡先リストに表示される任意の名前をユーザーとしてグループに割り当てることができます。

システム管理者およびオペレーターグループには、それぞれシステム管理者およびオペレーターという名前のデフォルトユーザーが含まれています。

1 Configure で、**ユーザーアカウント**を選択します。

2 **Fiery 連絡先リスト**ボタンをクリックします。

3 **Fiery 連絡先リスト**ダイアログボックスで、**ユーザー追加**ボタンをクリックします。

4 **ユーザー作成**ダイアログボックスで、必要な情報を指定します。**作成**をクリックします。

5 **閉じる**をクリックします。

ユーザーを既存グループに追加する

既存のユーザーを既存のグループに追加したり、ユーザーを作成して既存のグループに追加したりできます。ユーザーは複数のグループに追加できます。

ユーザーのアカウントを作成しても、そのユーザーをグループに追加するまでは、権限を与えたことにはなりません。

1 Configure で、**ユーザーアカウント**を選択します。

2 ユーザーを追加するグループを選択します。

3 **ユーザー指定**をクリックします。

4 次のいずれかの方法でユーザーをグループに割り当てます。

- 新規ユーザーを作成してグループに割り当てるには、ドロップダウンリストから**新規ユーザー作成/指定**を選択して、**ユーザー作成**ダイアログボックスに情報を入力し、**作成**をクリックします。
- 既存のユーザーアカウントをグループに割り当てるには、**連絡先リストから追加**を選択します。**ユーザー指定**ダイアログで、**Fiery 連絡先リストのユーザー**にアカウント名を入力し、Enter キーを押すか、リストに表示されたアカウントを選択し、**ユーザー追加**をクリックします。
- SSO ユーザーアカウントをグループに割り当てるには、**Azure AD から追加**を選択します。**ユーザーの割り当て**ダイアログボックスで、**SSO ユーザーリスト**を選択してログインします。アクティブな Azure セッションがすでに存在する場合、WebTools は Azure からユーザーのリストを取得します。存在しない場合は、Azure ログイン情報の入力を求められます。リストから SSO ユーザーを検索してアカウントがリストにあれば選択し、**ユーザーの追加**をクリックします。
- グローバルアドレスリストからユーザーを指定する場合は、**グローバルアドレスリストから追加**を選択します。LDAP が設定済みで使用可能になっている場合、このリストには、所属する組織の企業データベースから取得された名前が含まれます。**LDAP 設定**ボタンが表示されたら、ボタンをクリックして、Command WorkStation に対応するように LDAP 設定を行います。

5 ユーザーアカウントをグループに追加し終えたら、**閉じる**をクリックします。

グループからユーザーを削除する

グループからユーザーを削除できます。ユーザーを削除した後でも、Fiery サーバーに送信済みのジョブは処理されます。ジョブログにはそのユーザーの名前が関連するジョブ情報と共に残ります。

グループからユーザーを削除しても、Fiery 連絡先リストからは削除されません。

メモ：「システム管理者」または「オペレーター」という名前のデフォルトユーザーは削除できません。

1 Configure で、**ユーザーアカウント**を選択します。

2 ユーザーが所属しているグループを選択します。

3 グループから削除するユーザーの名前の上にカーソルを置きます。
編集および削除のアイコンが表示されます。

4 削除アイコンをクリックします。
ユーザーは、グループから削除されますが、Fiery 連絡先リストからは削除されません。

ユーザー属性を変更する

ユーザーのパスワードやメールアドレスなどの属性を変更できます。ユーザーがすでにログインしている場合は、そのユーザーがログアウトして次に再びログインするときに変更が適用されます。

システム管理者およびオペレーターのデフォルトパスワードを変更するには、次の手順に従うか、新しいパスワードの設定を行います。

1 Configure で、**ユーザーアカウント**を選択します。

2 **Fiery 連絡先リスト**ボタンをクリックします。

3 ユーザー名の上にカーソルを移動します。
編集アイコンが表示されます。

4 編集アイコンをクリックします。**ユーザー編集**ダイアログボックスで、ユーザー属性を編集し、**保存**をクリックします。

グループ権限を変更する

1 Configure で、**ユーザーアカウント**を選択します。

2 グループ名の上にカーソルを移動します。
編集アイコンが表示されます。

3 編集アイコンをクリックします。**グループを編集**ダイアログボックスで、権限を選択またはクリアし、**保存**をクリックします。

メモ：以下の権限は、一部の Fiery サーバーではサポートされていない可能性があります。

- **キャリブレーション**：このグループのメンバーは Fiery サーバーのキャリブレーションを実行できます。デフォルトグループでは、システム管理者グループとオペレーターグループのみこの権限を持ちます。
- **サーバープリセット作成** - この権限を持つグループのメンバーは、ユーザーがジョブに対して選択できるプリントオプションのセットを保存できます。
- **ワークフロー管理** - この権限を持つグループのメンバーは、サーバープリセットや仮想プリンターを作成、編集、削除できます。
- **ジョブ編集** - この権限を持つメンバーは、待機キューまたは印刷済みキューのジョブを編集できます。

ユーザーを削除する

Fiery サーバーからユーザーを完全に削除できます。ユーザーを削除した後でも、Fiery サーバーに送信済みのジョブは処理されます。ジョブログにはそのユーザーの名前が関連するジョブ情報と共に残ります。

メモ：システム管理者またはオペレーターという名前のデフォルトユーザーは削除できません。また、システム管理者およびオペレーターというグループも削除できません。

1 Configure で、**ユーザーアカウント**を選択します。

2 Fiery サーバーからユーザーを完全に削除するには、次の操作を行います。

a) **Fiery 連絡先リスト**ボタンをクリックします。

b) **Fiery 連絡先リスト**ダイアログボックスで、削除するユーザーの名前の上にカーソルを置きます。
編集および削除のアイコンが表示されます。

メモ：削除アイコンは、ユーザーの削除を許可されている場合にのみ表示されます。

c) 削除アイコンをクリックします。
Fiery サーバーからユーザーが完全に削除されます。

d) **閉じる**をクリックします。

Fiery IQ クラウド

Fiery IQ に接続した後、Fiery IQ クラウドサービス マネージャーを使用して、必要に応じて Fiery サーバーをアップデートし、ワークスペース設定をバックアップし、アクティベーションコードをライセンスできます。

Fiery アカウント

Fiery アカウントを使用すると、Command WorkStation 設定をバックアップしたり、無料の Fiery IQ 機能やリソースにアクセスしたり、Command WorkStation の最新バージョンをダウンロードしたりできます。

Fiery アカウントを会社に関連付けると、追加の Fiery 機能とリソースをクラウドで使用できるようになります。Command WorkStation 設定を共有すると、ユーザー間で同じワークスペースを作成できます。

メモ：会社アカウントに参加するには、システム管理者の許可が必要です。

Fiery アカウントのサインアップ

新しい Fiery アカウントを作成するには、有効な E メールアドレスが必要です。

Fiery アカウントを使用して Fiery IQ にサインインし、クラウドサービスにアクセスしたり、新しい Fiery アカウントを作成したりできます。

Fiery IQ クラウドアプリケーションにアクセスするには、既存の Fiery アカウントを会社に関連付ける必要があります。既存の Fiery アカウントでサインインした場合は、手順 7 に進み、会社情報をアップデートします。

1 ブラウザから、https://iq.fiery.com に移動します。

2 **サインアップ**をクリックします。

3 テキストフィールドに情報を入力します。

メモ：アスタリスクが付いたテキストフィールドは必須です。

4 **続行**をクリックします。

Fiery IQ は、登録コードを記載した E メールをサインアップユーザーの E メールアドレスに送信します。

5 E メールアドレスを確認するには、この登録コードを入力し、**続行**をクリックします。

メモ：登録メールが届かない場合は、スパムや迷惑メールフォルダーを確認してください。

6 **続行**をクリックします。

7 会社情報を入力し、**続行**をクリックします。

メモ：アスタリスクが付いたテキストフィールドは必須です。

8 次のいずれかを行います。

- 既存の会社アカウントに参加する場合は、**追加を要求**をクリックします。

  Fiery IQ は、会社のシステム管理者に要求を送信します。この要求が会社のシステム管理者によって承認された場合、Fiery IQ にアクセスできます。

- 独自の会社アカウントを作成する場合は、**会社のアカウントを作成する**をクリックします。

9 必要に応じて、**続行**をクリックします。

10 必要に応じて、Fiery アカウントのログイン情報を使用して Fiery IQ にサインインします。

11 画面の指示に従ってプリンターを Fiery IQ に接続します 。

Fiery Software Manager で Fiery アカウントを作成する

Fiery Software Manager を使用して Fiery アカウントを作成し、Command WorkStation やその他の Fiery アプリケーションをダウンロードできます。

新しい Fiery アカウントを作成するには、有効な E メールアドレスが必要です。

1 Fiery Software Manager で、Fiery Command WorkStation パッケージの横にある**アップグレード**をクリックします。

2 **アカウントを作成**をクリックします。

3 画面の指示に従って Fiery アカウントを作成し、メールを確認します。

Fiery サーバーを Fiery IQ クラウドに接続する

Fiery サーバーがインターネットに接続されている必要があります。

Fiery アカウントにサインインしていない場合は、ここでサインインします。

1 Command WorkStation サイドバーのクラウドアイコンをクリックします。

2 会社の詳細を入力し、画面の指示に従います。

3 Fiery IQ に接続したい Fiery サーバーを選択します。

Fiery サーバーでアップデートが使用可能な場合は、切り替えボタンをクリックして開始します。

Fiery サーバーは Fiery IQ クラウドに接続されており、Fiery IQ ダッシュボードでクラウドベースのタスクを実行したり、Fiery サーバーを管理したりできます。

Cloud Connector のインストールまたは更新

FCC は、Fiery サーバーが Fiery IQ Cloud と通信できるようにする Cloud Connector ソフトウェアです。Fiery サーバーに Cloud Connector をインストールまたは更新できます。

1 Command WorkStation から FCC をインストールまたはアップデートするには、対象の Fiery サーバーに接続し、システム管理者としてログインします。

2 **サーバー**メニューから**デバイスセンター** > **Fiery アップデート** > **アップデート**をクリックします。

3 **FCC** を選択し、**インストール**または**アップデート**をクリックします。

4 **続行**をクリックします。

Fiery IQ ダッシュボードを開く

Command WorkStation から Fiery IQ ダッシュボードに移動できます。

1 Fiery サーバーを Fiery IQ クラウドに接続する

2 **サーバー**ウィンドウで Fiery サーバーを選択します。

3 次のいずれかの操作を行います。

- Command WorkStation サイドバーのクラウドアイコンをクリックします。
- **サーバー** > **Fiery IQ** を選択

4 **Fiery IQ Dashboard を表示**をクリックします。
Fiery IQ Dashboard が Web ページで開きます。

Fiery IQ クラウドを使用したバックアップと共有

次の項目を Fiery IQ クラウドにバックアップできます。

- Command WorkStation ワークスペース設定をクラウドにバックアップして、そのワークスペース設定を他のユーザーと共有する
- Fiery Hot Folders
- クライアントとサーバーのライセンスアクティベーションコード（LAC）

ワークスペース設定には、次のものが含まれます。

- Fiery サーバーリストとカスタマイズ
- ジョブセンターの列、ツールバー、および保存済みのビュー
- ジョブのプロパティクイックアクセス設定およびローカルプリセット

Command WorkStation **環境設定**ウィンドウから設定をバックアップしても、Fiery サーバーの設定はバックアップされません。

次のライセンスをバックアップできます。

- クライアントベースおよびサーバーベースの Fiery アプリケーションライセンス（Fiery Color Profiler Suite を除く）

ワークスペース設定のバックアップ

Command WorkStation ワークスペース設定を Fiery IQ クラウドにバックアップできます。

- 次のいずれかを行います。
  - **Fiery IQ クラウドサービスマネージャー**ウィンドウの**ワークスペース設定のバックアップ**で、切り替えボタンをクリックし、**すぐにバックアップ**をクリックします。
  - **編集** > **環境設定**をクリックし、**ワークスペース**で、**すぐにバックアップ**をクリックします。

  ワークスペース設定は Fiery IQ クラウドにバックアップされます。

ワークスペース設定の復元

Command WorkStation ワークスペース設定を、Fiery IQ クラウドからコンピューターに復元できます。

1 次のいずれかの操作を行います。

- **Fiery IQ クラウドサービスマネージャー**ウィンドウの**ワークスペース設定のバックアップ**で、切り替えボタンをクリックし、**クラウドバックアップから復元**をクリックします。
- **編集** > **環境設定**をクリックし、**ワークスペース**で、**クラウドバックアップから復元**をクリックします。

2 ワークスペースを選択するには、次のいずれかを行います。

- **プライベート**を選択して、プライベート設定を復元する。
- **共有**を選択して、共有されているワークスペースのリストから選択します。

  詳細は、ワークスペース設定の共有（41 ページ）を参照してください。

デフォルトでは、すべてのワークスペース設定が選択されています。また、復元する特定のワークスペース設定を選択することもできます。

3 **復元**をクリックして、選択した Command WorkStation ワークスペース設定をコンピューターに復元します。

Command WorkStation が再起動し、変更されたワークスペース設定を適用します。復元時にワークスペース設定が現在の設定とマージされます。

4 **キャンセル**をクリックして、変更を保存せずにウィンドウを閉じます。

ライセンスアクティベーションコードのバックアップ

ライセンスアクティベーションコードを Fiery IQ クラウドにバックアップできます。

1 クラウドアイコンをクリックして、 **Fiery IQ クラウドサービスマネージャー**ウィンドウを開きます。

2 **バックアップライセンスアクティベーションコード**で、切り替え ボタンをクリックしてバックアップを開始します。
ライセンスアクティベーションコードが Fiery IQ クラウドにバックアップされます。

3 **コードを表示**をクリックして、ライセンスアクティベーションコードを表示します。

Fiery Hot Folders をバックアップする

ホットフォルダーを Fiery IQ クラウドにバックアップできます。

1 **Fiery IQ クラウドサービスマネージャー**ウィンドウの**バックアップ Fiery Hot Folders** で、**今すぐバックアップ**をクリックします。

2 **完了**をクリックします。

ホットフォルダーが Fiery IQ クラウドにバックアップされます。

Fiery Hot Folders を復元する

Fiery IQ クラウドからコンピューターにホットフォルダーを復元できます。

1 **Fiery IQ クラウドサービスマネージャー**ウィンドウの**バックアップ Fiery Hot Folders** で、**クラウドバックアップから復元**をクリックします。

2 **参照**をクリックして、ホットフォルダーを復元する場所を選択します。

3 **復元中に元のフォルダー構造を使用**チェック ボックスをオンにして、元のフォルダー名を保持します。

4 復元パスに警告が表示された場合は、次のいずれかを行います。

- **削除**をクリックし、**はい**をクリックしてホットフォルダーを削除します。
- **名前の変更**をクリックして、フォルダー名を変更します。
- **参照**をクリックし、画面の指示に従って新しい場所を選択します。

5 **復元**をクリックして、選択したホットフォルダーをコンピューターに復元します。

6 **完了**をクリックします。

ホットフォルダーがコンピューターに復元されます。

ワークスペース設定の共有

設定を Fiery IQ クラウドにバックアップした場合のみ、ワークスペース設定を他のユーザーと共有できます。

1 **環境設定**ウィンドウの**ワークスペース**で、**共有**をクリックします。

2 **ワークスペース設定の共有**ウィンドウで、適切な情報を入力します。

3 **共有**をクリックします。

4 共有が成功した場合は、ユーザーを招待して Fiery アカウントを作成し、共有したワークスペース設定を使用できます。

Fiery アカウントを持つユーザーは、Fiery IQ クラウドから共有ワークスペース設定を復元できます。

5 **ユーザーを招待**ウィンドウで、次の操作を行います。

a) ユーザーの E メールアドレスを入力します。

b) ユーザーが**管理者**になるか、または**オペレーター**になるかを選択します。

ロール	権限
オペレーター	• ワークスペース設定を他のチームメンバーと共有できる • 他のユーザーを招待して共有ワークスペース設定を使用できない • Fiery IQ の管理コンソールにアクセスできない
管理者	• ワークスペース設定を他のチームメンバーと共有できる • 他のユーザーを招待して共有ワークスペース設定を使用できる • Fiery IQ の管理コンソールにアクセスできる

c) **追加**をクリックします。

招待の通知は、指定した E メールアドレスに送信されます。

ユーザー招待ウィンドウの**チームメンバー**セクションには、次の内容が表示されます。

- 招待のステータスとユーザーのロール
- システム管理者のロールを持つ同じプリンターに接続されている既存の Fiery IQ ユーザーの詳細

6 **完了**をクリックします。

バックアップと復元について

Fiery リソースと設定、または Fiery サーバーの全体的なシステムイメージのいずれかのバックアップを取ることができます。

バックアップとシステムイメージの詳細については、取扱説明書の『設定管理』を参照してください。

Fiery サーバー設定のバックアップおよび復元

Command WorkStation からの Fiery サーバー設定のバックアップおよび復元 Fiery サーバーが Fiery システムソフトウェア FS350/350 Pro 以前を搭載している場合、Configure に/から設定をバックアップ/復元することもできます。

メモ：一部の Fiery サーバーでは、Fiery 設定の復元および Fiery のデフォルト設定を復元オプションが使用できない場合があります。

Configure（FS350/350 Pro 以前）から Fiery サーバーの設定をバックアップする

Configure から、バックアップしたい Fiery サーバーの設定を選択できます。

1 Configure で、**Fiery サーバー** > **バックアップ**を選択します。

2 画面の指示に従って設定をバックアップします。

Command WorkStation（FS350/350 Pro 以前）から Fiery サーバーの設定をバックアップする

Command WorkStation から、バックアップしたい Fiery サーバーの設定を選択できます。

1 Fiery サーバーに接続し、次のいずれかの操作を行います。

- **デバイスセンター** > **一般** > **ツール** > **バックアップ/復元**をクリックします。
- **サーバー** > **バックアップ/復元**を選択します。

2 **バックアップ**をクリックします。

3 バックアップする項目を選択します。

4 表示されるダイアログボックスで、ファイルの保存先を選択し、バックアップファイルの名前を指定します。

5 （オプション）**ファイル名に日付を追加**を選択することもできます。

6 **次へ**をクリックし、**終了**をクリックします。

Command WorkStation（FS400/400 Pro 以降）から Fiery サーバーの設定をバックアップする

Command WorkStation から、バックアップしたい Fiery サーバーの設定を選択できます。

バックアップファイルは Fiery サーバーではなく、ネットワークサーバーに保存してください。Fiery サーバーに保存すると、システムソフトウェアを再インストールした場合、バックアップファイルが削除されます。

設定は、機種とバージョンが同じであれば、別の Fiery サーバーに復元できます。ただし、サーバー名、IP アドレス、ネットワーク設定などの設定は復元されません。既存の設定がそのまま維持されます。同じネットワーク上にある両方の Fiery サーバーに問題が発生するのを防ぎます。

1 管理者として Fiery サーバーに接続し、以下のいずれかの操作を行います。

- **デバイスセンター** > **一般** > **ツール** > **Fiery リソースおよび設定**をクリックします。
- **サーバー** > **バックアップ/復元**を選択します。

2 表示される新しい Web ブラウザーウィンドウで、**Fiery リソースと設定**をクリックします。

3 **今すぐバックアップ**をクリックします。

4 バックアップしたい項目を選択して、**続行**をクリックします。

5 表示されるウィンドウで、バックアップファイルの名前を指定します。

6 （オプション）**ファイル名に日付を追加**を選択することもできます。

7 **続行**をクリックします。

8 必要なファイルをダウンロードし、ファイルの場所を指定します。
.fbf ファイルと.DAT ファイルを選択する必要があります。

Configure（FS350/350 Pro 以前）から Fiery サーバーの設定を復元する

以前に Fiery サーバーの設定をバックアップしている場合、Configure からバックアップを復元できます。

1 Configure から、**Fiery サーバー** > **復元**を選択します。

2 画面の指示に従い、設定を復元します。

Command WorkStation（FS350/350 Pro 以前）から Fiery サーバー設定を復元する

以前に Fiery サーバーの設定をバックアップしている場合、Command WorkStation からバックアップを復元できます。

1 Fiery サーバーに接続し、次のいずれかの操作を行います。

- **デバイスセンター** > **一般** > **ツール** > **バックアップ/復元**をクリックします。
- **サーバー** > **バックアップ/復元**を選択します。

2 **復元**をクリックします。

3 ウィンドウで、復元したい設定の場所を参照し、**開く**をクリックするか、最近のバックアップを選択します。

4 **次へ**をクリックし、復元する項目を選択します。

5 **次へ**をクリックし、**終了**をクリックします。

6 復元処理が完了した後で、Fiery サーバーのリブートを求めるメッセージが表示された場合は、リブートを行います。

Command WorkStation（FS400/400 Pro 以降）から Fiery サーバー設定を復元する

以前に Fiery サーバーの設定をバックアップしている場合、Command WorkStation からバックアップを復元できます。
設定は、モデルとバージョンが同じであれば、別の Fiery サーバーに復元できます。ただし、サーバー名、IP アドレス、ネットワーク設定などの設定は復元されません。既存の設定がそのまま維持されます。同じネットワーク上にある両方の Fiery サーバーに問題が発生するのを防ぎます。

1 管理者として Fiery サーバーに接続し、以下のいずれかの操作を行います。

- **デバイスセンター** > **一般** > **ツール** > **Fiery リソースおよび設定**をクリックします。
- **サーバー** > **バックアップ/復元**を選択します。

2 表示される新しい Web ブラウザーウィンドウで、**Fiery リソースと設定**をクリックします。

3 **復元**をクリックします。

4 表示されるウィンドウで、**ファイルを選択**をクリックして復元したい設定の場所を参照し、**開く**をクリックします。
.fbf ファイルと.DAT ファイルを選択する必要があります。

5 **続行**をクリックします。

6 復元したい項目を選択し、**続行**をクリックします。

7 復元処理が完了した後で、Fiery サーバーのリブートを求めるメッセージが表示された場合は、リブートを行います。

ジョブの表示

Command WorkStation には、ジョブの内容を表示するための複数のオプションが用意されています。

スプール済みで未処理のジョブの内容は、次のいずれかの場所に表示されます。

- Fiery Preview：Command WorkStation の Fiery Preview（45 ページ）を参照してください。

処理済みのジョブの内容は、次のいずれかの場所に表示されます。

- **ジョブ概要**ペイン：ジョブ概要ペインでのジョブの表示（45 ページ）を参照してください。
- Fiery ImageViewer：Fiery サーバーでサポートされている場合に使用できます。Fiery ImageViewer（282 ページ）を参照してください。

Command WorkStation の Fiery Preview

Fiery Preview には、スプール済みジョブと処理済みジョブの両方のプレビューが表示されます。Fiery Preview で処理済みのジョブを開くと、ジョブはラスタープレビューモードで開きます。

処理済みのジョブに対して**プレビュー**を選択すると、ジョブはラスタープレビューモードで開きます。ラスターデータ付きのアーカイブ済みジョブは、Fiery サーバーにアーカイブされている必要があります。

ジョブ概要ペインでのジョブの表示

ジョブセンターの**プレビュー**ウィンドウには、処理済みジョブの特定の情報が表示されます。**プレビュー**ウィンドウには、ジョブ内のすべての面のサムネイルも表示されます。処理済みのジョブは、**Fiery ImageViewer** ウィンドウに表示されます。

メモ：スプール済みで未処理のジョブは、**Fiery プレビュー**ウィンドウに表示されます。

Command WorkStation を起動し、**待機**リストで処理済みジョブを選択して**プレビュー**ウィンドウに表示します。ジョブに関する情報が表示されます。一部の情報のカテゴリは、鉛筆のアイコンで示されているとおり編集可能です。

ジョブ概要ウィンドウは、**Command WorkStation** ウィンドウの右側にあります。ジョブが処理済みである場合、書類の内部を移動するためのツールが提供されます。

以下の情報のカテゴリーは、Fiery サーバーの機能と選択されたジョブの状況に応じて表示されます。

ジョブ概要ウィンドウのカテゴリー	説明
サムネイル	ジョブのイメージプレビュー。
タイトル	ジョブの名前。
シート	処理された後のジョブのシート数。

ジョブ概要ウィンドウのカテゴリー	説明
部数	印刷する部数。
メディア	メディア情報（ページサイズ、メディアの種類、メディア重量など）
Preflight	**プリフライト**に関する情報。アイコンで状況が示されます。 ジョブのエラーと警告を表示するには、**レポート表示**をクリックします。
JobExpert	ジョブに適用された Fiery JobExpert のルール。 ジョブがスプールされると、**レポートを表示**をクリックして、ジョブに適用された推奨ジョブ設定を表示できます。また、**クリア**をクリックすると、Fiery JobExpert で設定した推奨ジョブ設定を削除できます。
最後のアクション	スプール、処理、印刷など、ジョブに対して行った最新のアクションと日付およびタイムスタンプ
ワークフロー	ジョブに使用するワークフロー。 **メモ：**使用可能な仮想プリンターまたはプリセットから選択できます。
スポットカラー	ジョブで使用されたスポットカラーの数。
タグ	表示中のページ/フォームのジョブに適用されているタグ。

履歴ウィンドウでジョブアクションを表示する

ジョブセンターの**履歴**ウィンドウで、ジョブの履歴からアクションを表示できます。

概要ウィンドウと**履歴**ウィンドウの間で切り替えするには、**ジョブセンター**の右側にあるタブをクリックします。

履歴ウィンドウには、最新のアクションから最大 100 の過去のジョブアクションのリストが表示されます。

メモ：Fiery サーバーでジョブログを消去すると、すべてのジョブ履歴情報が削除されます。

ジョブが作成、処理、印刷、一時停止、またはキャンセルされた日時を確認できます。**履歴**ウィンドウには、ジョブの処理エラーや印刷エラーの日時も表示されます。

印刷済み、一時停止、および印刷がキャンセルされたアクションの場合、**履歴**ウィンドウには次の属性が表示されます。

- 部数
- ページ数またはシート数
- サブストレートサイズ、タイプ、重量、割り当て済みのサブストレートカタログエントリ

スプール済みの未処理ジョブをプレビューする

Fiery Preview ウィンドウでスプール済みジョブを表示できます。

1 **ジョブセンター**で、**待機**リスト内のスプール済みジョブを選択します。

メモ：ジョブが処理済みの場合は、ラスタープレビューモードで表示され、機能は制限されます。

2 Fiery Preview ウィンドウを表示するには以下のいずれかを選択します。

- 右クリックし、**プレビュー**を選択します。
- **アクション**メニューで、**プレビュー**を選択します。
- Command WorkStation ツールバーの**プレビュー**アイコンをクリックします。
- **プレビュー**ウィンドウに表示されている画像をダブルクリックします。

Fiery Preview のツールバーアイコン

PDF または Fiery Impose Plus ジョブを開くと、標準の Fiery Preview ツールバーでは次のアイコンが使用できます。

- **選択**：シートまたはページを選択します。
- **ウィンドウ内でプレビューをドラッグ**：プレビューをクリックしてドラッグできます。
- **ページ情報を表示**：シートの幅と高さを表示します
- **拡大**：プレビューサイズを拡大します
- **縮小**：プレビューサイズを縮小します。
- **シート内容をトグル**：サムネイルビューとワイヤーフレーム表示を切り替えます。ワイヤーフレーム表示はレコードのページ番号を表示します。

ラスターイメージをプレビューする

ジョブが処理済みであれば、**ジョブセンター**の**プレビュー**ウィンドウか、ラスターイメージが表示されている**プレビュー**ウィンドウにジョブのサムネイルを表示できます。

プレビューウィンドウで Fiery ImageViewer を開くことができます。

1 **ジョブセンター**で、**待機リスト**内の処理済みジョブを選択します。

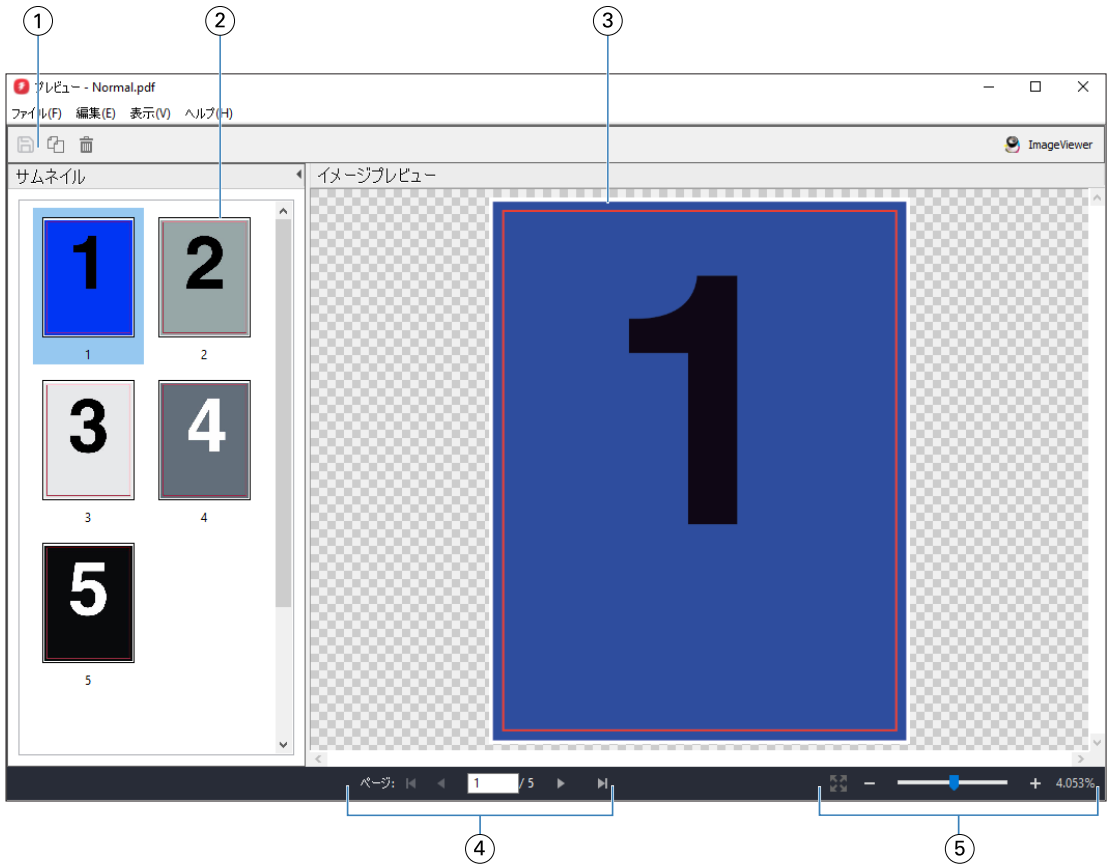
2 Fiery Preview ウィンドウを表示するには以下のいずれかを選択します。

- **アクション**メニューから**プレビュー**をクリックします。
- ツールバーの**プレビュー**ボタンをクリックします。
- **待機**リストで選択したジョブを右クリック（Windows の場合）または cmd ＋クリック（macOS の場合）して、**プレビュー**を選択します。
- **プレビュー**ウィンドウで画像をダブルクリックします。

メモ：異なる処理済みジョブで複数の**プレビュー**ウィンドウを開くことができます。ただし、一度に複数の処理済みジョブを選択した場合、**プレビュー**オプションは使用できません。

3 非印画領域を表示するには、**非印画領域** > **表示**をクリックします。
非印画領域の色は、**編集** > **環境設定**で変更できます。

次の図では、ジョブのラスタープレビューが表示されています。



1 ジョブの保存およびジョブから選択したページの複製と削除に使用するツールバーアイコン
2 サムネイル
3 ラスターファイル
4 ジョブのページ移動およびシート数の表示に使用するナビゲーションコントロール
5 ページに合わせる、拡大縮小のズームコントロールアイコン

ラスタープレビューのツールバーアイコン

次のアイコンは、処理済みジョブを表示するときに標準の Fiery Preview ツールバーで使用できます。

- **保存**：ジョブに加えた変更を保存するか、新規ファイルを保存します。
- **複製**：選択したページを複製します。
- **削除**：選択したページを削除します。
- **ImageViewer**：Fiery ImageViewer ウィンドウでジョブを開きます。

プレビューでページをマージする

異なるジョブで複数の**プレビュー**ウィンドウを開くことができますが、どのジョブも同じ Fiery サーバーから送信される必要があります。各ジョブは該当ウィンドウで編集できます。また、ページを別のウィンドウへドラッグすることもできます。

ページを別のウィンドウへドラッグすると、ドラッグ元のソースウィンドウは表示のみで編集はできなくなります。ドラッグ先のウィンドウで編集することはできますが、ソースウィンドウで再び編集できるようにするには、ドラッグ先のウィンドウでマージされたページが含まれる新しいジョブを保存する必要があります。

メモ：異なるジョブの**プレビュー**ウィンドウが複数開かれている場合、最後に編集したジョブを保存しない限り、他のジョブを編集することはできません。

VDP ラスタープレビュー

処理済みのバリアブルデータ印刷（VDP）を**プレビュー**ウィンドウでプレビューできます。プレビューにはジョブに適用されている面付け設定も含まれています。ジョブの内容が、レコードまたは仕上げセットにより整理されて実際のサイズで表示されます。

VDP ラスタープレビューで、次の操作を実行できます。

- レコードまたは仕上げセット、およびページまたはサーフェスによるジョブのナビゲート。ジョブが面付けされているかいないかによって、表示されるナビゲーションパラメータが大きく変わります。
- サムネイルのサイズを変更します。
- レコードまたはサムネイルを展開または閉じます。
- Fiery サーバーでサポートされている場合、Fiery ImageViewer でジョブを開きます。

メモ：保存、**複製**、**削除**の機能は、**プレビュー**ウィンドウに表示された VDP ジョブでは使用できません。

面付け前の VDP ジョブのプレビュー

面付け前の処理済み VDP ジョブが**プレビュー**ウィンドウに表示されているときは、レコードとページによるナビゲートができます。Fiery サーバーでサポートされている場合、Fiery ImageViewer でジョブを開くこともできます。

メモ：保存、**複製**、**削除**の機能は、**プレビュー**ウィンドウに表示された VDP ジョブでは使用できません。

面付け後の VDP ジョブのプレビュー

面付け後の処理済み VDP ジョブが**プレビュー**ウィンドウに表示されているときは、仕上げセットとサーフェスによるナビゲートができます。

処理済みの VDP ジョブを面付けする場合は、ジョブを面付けして.dbp 形式で保存し、処理してから**プレビュー**ウィンドウで開くという手順が必要です。Fiery サーバーでサポートされている場合、Fiery ImageViewer でジョブを開くこともできます。

メモ：保存、**複製**、**削除**の機能は、**プレビュー**ウィンドウに表示された VDP ジョブでは使用できません。

ギャングアップ VDP ジョブの表示

VDP ジョブが**カットスタック**レイアウトを使用して**ギャングアップ**として面付けされていて、**スタックサイズ**が**すべて**に設定されている場合、そのジョブは 1 つの仕上げセットで構成されます。このワークフローではサーフェスのみでナビゲートできます。**スタックサイズ**が 1 より大きい値に設定されている場合は、他の面付けされた VDP ジョブと同様、仕上げセットとサーフェスによるナビゲーションが行えます。

印刷

印刷ジョブをインポートする

ファイルは、Fiery サーバーのキューに直接インポートすることによって印刷できます。あるいは、外部（Fiery サーバーのハードディスク以外の場所）にアーカイブされたジョブをインポートすることができます。

ジョブを印刷キューにインポートする

Fiery サーバーに直接ファイルをインポートしてファイルを印刷します。一度に複数のジョブをインポートしても各ファイルの形式は維持されます。

一度に複数のジョブをインポートできます。キューへのファイルのインポートは、アプリケーションを通じた印刷と似ていますが、ファイルのインポートではファイル形式は維持され、ジョブが PostScript に変換されません。ドラッグアンドドロップで次の場所へファイルをインポートできます。

- サーバーリスト内の接続されている Fiery サーバー
- 処理中キュー
- 待機キュー

ただし、ファイルのインポートを最適に管理するには、**ジョブセンター**ツールバーの**インポート**アイコンか、**ファイル**メニューの**ジョブのインポート**を使用します。参照ダイアログがすぐに表示されます。ファイルを選択すると、選択したファイルが**ファイルのインポート**ダイアログに表示されます。このダイアログボックスでは、インポート時にワークフロー（サーバープリセットまたは仮想プリンター）をファイルへ簡単に適用することができます。ドラッグアンドドロップ機能でファイルをインポートする場合、通常この機能は使用できません（例外は**サーバー**リストのみ）。

1 コンピューターから**印刷中**キュー、**処理中**キューまたは**待機**リストにファイルやフォルダーをドラッグアンドドロップします。

サポートされているファイルの種類は、PS、PDF、PSD、PSB、EPS、TIFF、PDF/VT、PPML、ZIP、VPS、Fiery FreeForm Plus です。

メモ：PSD、PSB、PPML、ZIP および VPS のファイルタイプは、一部の Fiery サーバーではサポートされていない可能性があります。

上記の場所へファイルやフォルダーをドラッグアンドドロップしても、**ファイルのインポート**ウィンドウは表示されません。フォルダーにあるすべての内容がインポートされます。

2 **サーバー**リスト内の接続済み Fiery サーバーにファイルをドラッグ&ドロップします。
ファイルをインポートウィンドウが表示されます。手順 5（52 ページ）を参照してください。

3 コンピューターからファイルを直接インポートするには、次のいずれかの操作を行います。

- メニューから**ファイル** > **ジョブのインポート**をクリックします。
- **ジョブセンター**の**インポート**ツールバーアイコンをクリックします。

4 使用しているコンピューターの参照ダイアログで、アップロードするファイルを選択します。
ファイルをインポートウィンドウが表示されます。

5 次のいずれかの操作を行います。

- **デフォルト設定を適用**を選択して、ファイルに定義されている属性でファイルをインポートします。設定が定義されていない場合は、Fiery サーバーのデフォルト設定が使用されます。
- **サーバープリセットを使用**を選択し、工場出荷時のデフォルトのプリセットまたは Fiery サーバーで現在公開されているサーバープリセットのリストから選択します。
- **仮想プリンターを使用**を選択し、Fiery サーバーで現在公開されている仮想プリンターのリストから選択します。

サーバープリセットを使用および**仮想プリンターを使用**オプションは、Fiery サーバーにサーバープリセットまたは仮想プリンターが設定されている場合にのみ表示されます。

6 ジョブアクションを選択します。例：

- **待機**（デフォルト）
- **処理後待機**（デフォルト）
- **プレスへ送信/印刷キューへ送信/準備完了へ送信**

Fiery サーバーの機能によっては他の選択肢が表示される場合があります。

メモ：最後に選択されたアクションが表示されます。

外部のアーカイブや Fiery サーバーのハードディスクからジョブをインポートする

外部の場所（Fiery サーバーのハードディスクを含む）にアーカイブされたジョブをインポートします。

- 次のいずれかの操作を行います。
  - ジョブを手動でインポートするには、**ファイル** > **アーカイブ済みジョブのインポート**をクリックします。ディレクトリを参照して、アーカイブ済みのジョブが含まれるフォルダーを選択します。ジョブを選択し、**OK** をクリックします。

    選択したフォルダーがリストにない場合、**管理**をクリックしてディレクトリを参照し、フォルダーを追加して **OK** をクリックします。

    インポートされたジョブが待機キューに表示されます。
  - コンピューターデスクトップ上からファイルを選択し、Command WorkStation の指定のキューにドラッグアンドドロップします。

印刷オプションの設定

ジョブのプリントオプションは、**ジョブのプロパティ**ウィンドウからアクセスできます。

印刷ジョブが Fiery サーバーに到達すると、オペレーターは Command WorkStation の**ジョブのプロパティ**を使用して、これらのプリントオプションを表示または変更できます。たとえば、オペレーターは、次の操作を実行できます。

- ジョブの印刷設定を表示する（オペレーターへの指示を含む）
- 設定を書き換える
- 現在適用されているジョブのプロパティのリストをローカルプリンターで印刷する

ジョブのプロパティを表示する

待機キュー、印刷済みキュー、またはアーカイブ済みキューで選択したジョブの印刷オプションを表示または上書きできます。

オペレーターが Command WorkStation でジョブの設定や印刷オプションを変更していない場合、**ジョブのプロパティ**ウィンドウには、インポートされたジョブのすべてのジョブ設定が反映されます。

Command WorkStation にインポートされたジョブは、ジョブに含まれる設定（PostScript ジョブと一部の JDF ジョブ）、または Fiery サーバー Fiery サーバーのデフォルトのジョブ設定（PDF ファイルまたはジョブ情報なしでインポートされたジョブ）のどちらかを表示します。

現在実行されているジョブの場合、ジョブのプロパティを読み取り専用で表示できます。これには、処理中、処理待機中、印刷中、印刷待機中のジョブが含まれます。これにより、ジョブをキャンセルしなくても、アクティブなジョブのプロパティを確認できます。

ジョブのプロパティを表示または上書きする

ジョブの印刷オプションを表示または変更できます。

メモ：ジョブ概要ウィンドウでジョブのプロパティを直接編集して、上書きすることもできます。

1 待機キューまたは印刷済みキューのジョブをダブルクリック、またはジョブを選択して次のいずれかを行います。

- 右クリックして**プロパティ**を選択します。
- **プロパティ**アイコンをクリックします。
- **アクション** > **プロパティ**をクリックします。

単一の Fiery サーバーで複数のジョブを選択するには、Shift キーまたは Ctrl キーを押しながらクリックするか（Windows の場合）、command キーを押しながらクリックして（mac OS の場合）、**プロパティ**をクリックします。複数のジョブが開いたら、**ジョブのプロパティ**ウィンドウで値を指定するとその値はすべてのジョブにデフォルトで適用されます。**概要**タブでは、複数のジョブの印刷オプションを左右に並べて比較できます。

2 ジョブのプロパティのグループに設定された印刷オプションを表示するには、各アイコンをクリックします。

オプションによっては、設定を変更した後に、ジョブの再処理が必要となる場合もあります。

3 プリントオプションを上書きする場合は、変更を行ってから、**OK** をクリックして上書き設定を保存するか、**処理後待機**、**準備完了へ送信**、**プレスへ送信**、**印刷キューへ送信**のいずれかを選択して、ジョブと設定を保存およびプレスに送信して印刷します。

メモ：一覧にある印刷アクションまたはキューは、すべての Fiery サーバーでサポートされているわけではありません。

設定によっては、ジョブに適用した後でジョブの再処理が必要となる場合があるため、処理済みおよび待機状態にあるジョブに対しては即時適用できません。

ジョブの既存のプリントプロパティの概要を表示する

ジョブのプロパティウィンドウでは、ジョブの現在のプロパティの概要を印刷できます。

1 **ジョブのプロパティ**ウィンドウで、**概要**アイコンをクリックします。

2 ジョブの既存のプロパティのリストを印刷するには、**概要印刷**をクリックします。

メモ：特定のプリントオプションと設定、およびそれらの設定方法については、Fiery サーバーの取扱説明書を参照してください。

ジョブのプロパティウィンドウのジョブアクション

印刷や処理後待機など、一般的なジョブアクションを**ジョブのプロパティ**ウィンドウ内で使用することができます。デフォルトのジョブアクションは、印刷です。

待機	このジョブアクションを使用すると、オペレーターがさらにアクションを起こさない限り、ジョブは Fiery サーバーにスプールされます。待機ジョブは、処理前状態または処理済み状態で存在します。
処理後待機	このジョブアクションを使用すると、Fiery サーバーはジョブをキューに入れて処理を行い、ジョブを待機キューに戻します。このジョブアクションを使用すると、印刷前にジョブをプレビューすることができます。
印刷キューへ送信	ジョブを印刷のためにプレスに送信します。 **メモ：印刷キューへ送信**は、一部の Fiery サーバーではサポートされていない可能性があります。
準備完了へ送信	ジョブを印刷のためにプレスに送信します。 **メモ：準備完了へ送信**は、一部の Fiery サーバーではサポートされていない可能性があります。

印刷オプションカテゴリー

ジョブのプロパティの印刷オプションは、簡単にアクセスできるようにカテゴリー別にグループ分けされています。

クイックアクセス	他のジョブのプロパティグループから複製した印刷オプションです。カスタマイズが可能であるため、表示からほとんどのプリントオプションを追加または削除できます。**クイックアクセス**タブを使用すると、ジョブのプロパティタブすべてに目を通すことなく印刷オプションをすばやく見つけることができます。
ジョブ情報	ページ範囲に必要なユーザー情報、プルーフ、ダイ印刷など、ジョブに関するすべての情報があります。
メディア	印刷するサブストレートの属性とソースが含まれています。
レイアウト	位置設定および仕上げオプション補正のための画像シフト、画像の原点、ミラーまたは回転のプリントオプションを定義します。
カラー	カラー設定および追加の機能（オプションのカラー機能が有効になっている場合）。
画像	接続されている Fiery サーバーとプレスでサポートされるすべての画像品質の設定です。
仕上げ	プレスでの仕上げ機能にのみ関連するプリントオプション。
VDP	すべてのバリアブルデータ印刷（VDP）設定
概要	ジョブの既存の印刷プロパティの概要。

すべてのジョブのプロパティにデフォルトを設定する

デフォルト設定機能では、デフォルトのジョブのプロパティ設定を変更することにより、Fiery サーバーをカスタマイズできます。デフォルト設定を使用して Fiery サーバーを設定すると、Fiery Hot Folders、仮想プリンター、サーバープリセットを作成するときにいつでも、初期設定が定義されます。

ファイルのインポートダイアログボックスで**デフォルト設定を適用**が選択された状態で Fiery サーバーにインポートされたジョブ、またはジョブセンターにドラッグされたジョブは、現在のデフォルト設定をデフォルト設定機能で設定されたものとして継承します。ジョブが Fiery サーバーのキューに配置されると、ジョブのプロパティを上書きできます。

すべてのジョブのプロパティのデフォルト設定を表示または編集できます。カラー設定などのジョブのデフォルト設定を変更するには、**デフォルト設定**を選択します。デフォルト設定機能には、次のエリアからもアクセスできます。

- **デバイスセンター** > **仮想プリンター**
- **デバイスセンター** > **サーバープリセット**

- **デバイスセンター** > **カラー管理**
- **サーバー** > **デフォルト設定**

デフォルト設定により、Fiery サーバーの任意のデフォルト設定を選択できる**デフォルト設定**ウィンドウが表示されます。これらの設定は印刷キューおよび待機キューに適用され、サーバープリセットまたは仮想プリンターのデフォルトとして作用します。

1 Fiery サーバー名の隣にある詳細アイコン（縦に並んだ 3 つのドット）をクリックしてから、**デフォルト設定**を選択するか、**サーバー** > **デフォルト設定**を選択します。

2 **デフォルト設定**ウィンドウで、オプションを個別に設定し、オプションをロックするか、ロック解除されたままにするかを指定します。

すべてロックまたは**すべてアンロック**を選択することもできます。

Fiery サーバーはデフォルトで常に**ジョブ定義設定を使用**に設定されているため、**出力プロファイル**はロックできません。

メモ：ジョブのプロパティを変更前の設定にリセットするには、**リセット**をクリックします。

3 **OK** をクリックします。

メモ：カラーのデフォルト設定を含め、デフォルト設定リストにあるデフォルト設定をバックアップするには、Fiery システム復元で**仮想プリンター**を選択する必要があります。詳細については、Command WorkStation（FS350/350 Pro 以前）から Fiery サーバーの設定をバックアップする（42 ページ）を参照してください。

面付けテンプレート

Fiery Impose PlusFiery Impose Plus でカスタムテンプレートを作成できます。

Fiery Impose Plus でカスタムテンプレートを作成するには、製品インテントの設定を変更します。製品インテントを選択して変更を加え、テンプレートの名前を入力します。新しい設定はその場で適用されます。テンプレートを保存するには、Fiery Impose Plus ライセンスが必要です。

環境設定ウィンドウで、カスタムテンプレートの保存先にするフォルダーまたはディレクトリのパスを設定できます。この設定は、**面付け**タブの**面付けテンプレートパス**にあります。

カスタムテンプレートは、Fiery IQ クラウドに保存して同期し、Fiery アカウントにサインインするときに任意のクライアントコンピューターで使用することもできます。

面付けテンプレートは、Fiery Hot Folders、ジョブのプロパティ、仮想プリンター、プリセットからも編集できます（Fiery Impose Plus ライセンスがある場合）。

メモ：ユーザー定義および**トリムボックスに合わせる**仕上がりサイズワークフローでは、PDF ソースファイルが必要です。PDF/VT 以外の PostScript ファイルおよびバリアブルデータ形式はサポートされていません。

面付けテンプレートに関する詳細については、『Fiery Impose Plus のヘルプ』を参照してください。

ジョブのプロパティから Fiery Impose Plus にアクセスするには

ジョブのプロパティの Fiery Impose Plus ウィンドウでジョブを開くと、ジョブは**シート表示**ウィンドウ内にワイヤーフレーム表示で表示されます。

1 次のいずれかの操作を行います。

- **待機**リストにあるスプール済みジョブまたは待機ジョブをクリックします。
- ホットフォルダーの場合、**Fiery Hot Folders コンソール**でホットフォルダーをクリックします。

2 **アクション** > **プロパティ**をクリックします。

3 **レイアウト** タブをクリックします。

4 **Impose テンプレート編集**をクリックします。
テンプレートを編集してカスタムテンプレートを作成する場合は、Fiery サーバーが Fiery Impose Plus をサポートしていること、および適切なライセンスが必要です。

「ジョブのプロパティ」の Fiery Impose Plus テンプレート

Fiery Impose Plus には、事前に定義された面付けテンプレートが用意されています。**ジョブのプロパティ**ウィンドウの**レイアウト**タブからアクセスします。Fiery Impose Plus 期間ライセンスがある場合は、テンプレートを編集してカスタムテンプレートとして保存し、カスタムテンプレートを Fiery IQ クラウドに保存できます。

テンプレートを選択すると、関連するジョブのプロパティがすべて設定されます。それによって、印刷設定が互いに競合しないようになり、正常な出力が保証されます。面付けテンプレートは Fiery Hot Folders から利用できます。また、サーバープリセットや仮想プリンターに追加することができます。デフォルトの面付けテンプレートは、**クロップボックスに合わせる**仕上げ設定を使用します。カスタム面付けテンプレートは、**ユーザー定義**および**トリムボックスに合わせる**仕上がりサイズワークフローをサポートしており、Acrobat PDF トリムボックスサイズを自動的に使用します。**トリムボックスに合わせる**は、ギャングアップジョブでのみ使用できます。詳細は、『Fiery Impose Plus のヘルプ』を参照してください。

メモ：ユーザー定義および**トリムボックスに合わせる**カスタムテンプレートでは、PDF ソースファイルが必要です。PostScript ファイルはサポートされていません。

Fiery Impose Plus テンプレート適用後にプリントオプションを変更する

Fiery Impose Plus テンプレートを適用した後も、**ジョブのプロパティ**ウィンドウでプリントオプションの変更を続行することができます。

プリセットを操作する場合は、プリントオプションを変更する前に、プリセットをジョブに追加することをお勧めします。

1 **ジョブのプロパティ**ウィンドウで**レイアウト**をクリックします。

2 Fiery Impose Plus テンプレートを選択します。

3 **ジョブのプロパティ**ウィンドウ内のプリントオプションを変更します。

4 **OK** をクリックして変更を保存します。

プリセットのプリント設定

プリセットとは、ジョブのプロパティ内で今後アクセス可能な印刷設定のコレクションです。

サーバープリセットはジョブのプロパティからアクセスでき、Fiery Hot Folders や仮想プリンターなどのワークフローに適用できます。

ジョブプリセットは、ジョブのプロパティの**プリセット**リストに表示されます。このリストからジョブのプリセットの 1 つを選択するか、**ジョブのプロパティ**ウィンドウで選択した現在のオプションに基づいて新しいプリセットを作成できます。現在ジョブがプリセットを使用していない場合、プリセットフィールドは空白になります。**プリセット**フィールドにテキストは表示されません。すべてのプロパティは初期のデフォルト設定を表示します。ジョブプリセットを選択すると、保存済みプリセットを反映するよう、すべての設定が更新されます。いずれかの印刷設定を変更すると、**プリセット**リストは空白に戻ります。

ジョブのプリセットには、次の 3 種類があります。

- ローカルプリセット：ユーザーのローカルコンピューターに保存されています。

  ローカルプリセットは、Fiery サーバーにアクセスすると常に**プリセットリスト**に表示されます。ローカルプリセットは削除しない限り、ローカルハードディスクに残ります。

- サーバープリセット：Fiery サーバーに保存され、Fiery サーバーの他のユーザーと共有されます。

  サーバープリセットをジョブに適用すると、プリセットの設定がジョブの一部となり、変更が加えられるまでジョブと一緒に保持されます。

  サーバープリセットによって印刷設定がロックされている場合、ジョブ用にサーバープリセットを選択した後で、ジョブのプロパティで印刷設定を上書きすることができます。上書きされると、**プリセット**フィールドは空白になります。

- デフォルトサーバープリセット：Fiery サーバーにインストール済みの工場出荷時のプリセットで、Fiery サーバーの他のユーザーと共有されます。

プリセットの適用

以下のいずれかの方法で、ジョブプリセットを適用できます。

- **ファイル** > **ジョブのインポート**またはジョブセンターの**インポート**ツールバーアイコンを使用して、ジョブを Command WorkStation にインポートします。**サーバープリセットを使用**を選択してから、**ファイルのインポート**ウィンドウのリストからプリセットを選択できます。
- **ジョブセンター**の**待機**リスト、**印刷済み**リスト、または**アーカイブ済み**リストからジョブを選択し、ツールバーの**プロパティ**アイコンをクリックします。**プリセット**リストから**ローカルプリセット**または**サーバープリセット**を選択します。
- **ジョブセンター**の**待機**キュー、**印刷済み**キューまたは**アーカイブ済み**キューでジョブを右クリックし、**ワークフローを適用**を選択した後、リストからプリセットを選択します。
- **ジョブセンター**の**待機**リスト、**印刷済み**リスト、または**アーカイブ済み**リストでジョブを選択するか、右クリックします。**ジョブ概要**ペインの**ワークフロー**リストからサーバープリセットを選択します。

プリセットの編集

ジョブ概要ペインでは、プリセットをインラインで編集することもできます。

ローカルプリセットまたはサーバープリセットの作成

システム管理者は、デバイスセンター（**ワークフロー** > **ジョブプリセット**）で、サーバープリセットの作成、編集、名前の変更、非公開、公開、および削除を行うことができます。ローカルプリセットは**ジョブのプロパティ**ウィンドウでのみ保存ができます。

ローカルプリセットまたはサーバープリセットを作成するには、**ジョブのプロパティ**ウィンドウで設定を選択し、**プリセット**リストに保存します。

システム管理者は、プリセットをローカルプリセットまたはサーバープリセットとして保存できます。オペレーターは、ローカルプリセットのみ保存できます。

ローカルプリセットを作成する

システム管理者およびオペレーターは、**ジョブのプロパティ**ウィンドウ内の設定をローカルプリセットとして保存できます。

1. **待機**キューまたは**印刷済み**キューのジョブをダブルクリック、またはジョブを選択して次のいずれかを行います。
   - 右クリックして**プロパティ**を選択します。
   - ジョブセンターの**プロパティ**ツールバーアイコンをクリックします。
   - **アクション** > **プロパティ**をクリックします。
2. 必要に応じて各タブの印刷設定を調整します。
3. **プリセット**で、**プリセット保存**を選択します。
4. プリセットのわかりやすい名前を入力し、**ローカルプリセット**を選択します。
5. **保存**をクリックします。

ローカルプリセットは、**ジョブのプロパティ**ウィンドウからいつでも利用できます。ローカルプリセットは削除しない限り、ローカルハードディスクに残ります。

サーバープリセットを作成する

システム管理者は、**ジョブのプロパティ**ウィンドウ内の設定をサーバープリセットとして保存できます。このプリセットは Fiery サーバー上に保存され、サーバーのユーザーと共有されます。

1. **サーバー** > **デバイスセンター**をクリックし、**ワークフロー** > **ジョブプリセット**をクリックします。
2. **新規**をクリックします。
3. わかりやすいプリセットの名前を入力します。

   プリセット名にスペースは使用できません。
4. （オプション）プリセットの説明を入力します。

5 次のいずれかを選択して、サーバープリセットタイプを選択します。

- **完全**：このプリセットには、ジョブのプロパティ内のすべての設定が含まれます。このプリセットタイプを適用する場合は、現在のジョブ設定をすべて上書きします。
- **カスタム**：このプリセットには、選択したジョブのプロパティ設定のみが含まれます。このプリセットタイプを適用する場合は、定義した設定のみを変更します。その他のジョブ設定はすべて維持されます。

カスタムを選択した場合は、このプリセットから仮想プリンターを作成できません。

6 **定義**をクリックしてジョブのプロパティを指定し、**OK**をクリックします。

7 **OK**をクリックして、**ジョブプリセット設定**ウィンドウを閉じます。

サーバープリセットは、ジョブのプロパティから、またはデバイスセンターの**ワークフロー**で**ジョブプリセット**からいつでも利用できます。プリセットは、システム管理者が削除しない限り Fiery サーバー上に残ります。

サーバープリセットの作成後、**設定**ウィンドウ（右側）はデフォルトから変更された設定およびロックされている設定を表示します。サーバープリセットは、Fiery サーバーに接続している他のユーザーと共有できるよう、自動的に公開されます。

カスタムプリセットは、デバイスセンターでのみ作成できます。ジョブセンターからは作成できません。

印刷ジョブのプリセットを変更する

すべてのジョブに対して異なるプリセットを選択して適用することができます。プリセットの編集や名前変更、ローカルプリセットの削除を行ったり、デフォルトプリセットに戻したりすることもできます。

プリセットの操作は、**ジョブのプロパティ**ウィンドウで行います。プリセットを表示するには、**待機**または**印刷済み**リストでジョブをダブルクリックするか、ジョブセンターでジョブを選択して**プロパティ**ツールバーアイコンをクリックします。

別のプリセットを選択する

印刷オプションの現在のセットを別のジョブのプリセットに変更できます。

- **待機**リストからジョブを選択し、次のいずれかを行います。
  - 右クリックして**プロパティ**を選択します。**ジョブのプロパティ**ウィンドウの**プリセット**で、異なるプリセットを選択します。

  別のプリセットを選択するまで、またはジョブのプロパティにさらなる変更を加えるまで、現在選択されたプリセットが印刷時に使用されます。

プリセットの編集

プリセットには、**ジョブのプロパティ**ウィンドウで設定するほとんどの印刷オプションが含まれます。

プリセットを選択した後、**ジョブのプロパティ**ウィンドウで設定を上書きできます。プリセット適用を行う場合は、プリントオプションを変更する前に、プリセットをジョブに追加してください。

- 次のいずれかの方法でプリセットを編集します。
  - プリセットをジョブに適用し、設定を必要に応じて編集し、**プリセットとして保存**をクリックします。前と同じプリセット名を入力し、ローカルプリセットまたはサーバープリセットを選択します。
  - デバイスセンターで、**ワークフロー** > **ジョブプリセット**で、リストからプリセットを選択し、**編集**をクリックします。**ジョブのプロパティ**ウィンドウで必要な変更を行い、ウィンドウを閉じて変更を保存します。

  デバイスセンターでプリセットを編集する場合、プリセットの種類（**完了**または**カスタム**）を変更することはできません

ローカルプリセットを削除する

ジョブのプロパティウィンドウにある**ローカルプリセット管理**機能を使用して、ローカルプリセットを削除できます。

1. **ジョブのプロパティ**ウィンドウの**プリセット**で、**ローカルプリセット管理**を選択します。
2. プリセットを選択し、**削除**をクリックします。

プリセットの名前を変更する

ジョブのプロパティウィンドウで、**ローカルプリセット管理**機能を使用してローカルプリセットの名前を変更できます。

1. **ジョブのプロパティ**ウィンドウの**プリセット**で、**ローカルプリセット管理**を選択します。
2. プリセットを選択し、**名前の変更**をクリックします。
3. わかりやすいプリセット名を入力して**保存**をクリックします。

デフォルトプリセットを復元

ジョブにデフォルトプリセットを適用して、印刷オプションを Fiery サーバーのデフォルト設定に戻すことができます。システム管理者がデフォルト設定または出荷時のデフォルト（以前はプリンターの初期設定と呼ばれたもの）を使用して設定した現在のデフォルトを適用できます。

- デフォルト設定を適用するには、次のいずれかを行います。
  - 現在のサーバーデフォルト設定を適用するには、**ジョブのプロパティ**ウィンドウの**プリセット**で**デフォルト**を選択します。
  - 出荷時のデフォルト設定を適用するには、**ジョブのプロパティ**ウィンドウの**プリセット**で**出荷時のデフォルト**を選択します。

デフォルトのジョブのプロパティ設定についての詳細は、すべてのジョブのプロパティにデフォルトを設定する（55 ページ）を参照してください。

サーバープリセット

サーバープリセットは、すべてのユーザーが使用できる一貫した印刷オプションのセットを提供します。ユーザーはローカルプリセットを自身のコンピュータに保存できますが、サーバープリセットの保存、編集、公開、削除ができるのはシステム管理者のみです。

サーバープリセットには次の場所からアクセスできます。

- Command WorkStation（デバイスセンターで、**ワークフロー** > **ジョブプリセット**を選択します）
- Command WorkStation ジョブのプロパティ（ジョブセンターの**プロパティ**ツールバーアイコンをクリック）
- Fiery Hot Folders（『Fiery Hot Folders ヘルプ』を参照）
- 仮想プリンター（仮想プリンター（238 ページ）を参照）

システム管理者は、サーバープリセットに基づいて Fiery Hot Folders および仮想プリンターを作成できます。サーバープリセットを編集すると、ホットフォルダーおよび仮想プリンターの設定も変更されます。

アーカイブ済みジョブとサーバープリセット

アーカイブ済みジョブは、ジョブ情報とプリセット名を保持します。アーカイブ済みジョブを作成したときと同じ Fiery サーバーに復元した場合、サーバープリセットはジョブセンターの処理中や印刷中キューの**プリセット**列のヘッダに表示されます。

編集されたプリセットの追跡

サーバープリセットが、待機ジョブ、印刷済みジョブ、またはアーカイブ済みジョブに適用された後で変更された場合、プリセット名にアスタリスク（*）が付きます。つまり、そのプリセットは、ジョブが送信された後でシステム管理者によって編集されています。最新の設定を使用するには、プリセットをジョブに再適用します。

ジョブセンターのリストのいずれか（印刷中、処理中、待機、印刷済みまたはアーカイブ済み）に**プリセット**列のヘッダが追加された場合、アスタリスクとジョブ名は**プリセット**列に表示されます。

サーバープリセットの編集、削除、非公開

デバイスセンターで**ワークフロー**の**ジョブプリセット**を選択し、サーバープリセットの編集、削除、または非公開ができます。

これらの操作を行うには、システム管理者として Fiery サーバーにログオンする必要があります。

現在使用中のサーバープリセットを編集または削除する場合、その変更は以降のジョブにのみ適用されます。変更したプリセット設定は、そのサーバープリセットを使用するすべての Fiery Hot Folders または仮想プリンターに直ちに適用されます。

既存のサーバープリセットは、コンピューター上のファイルを上書きするのと同じ方法で上書きできます。サーバープリセットは、ジョブのプロパティから上書きできます。

すでに Fiery サーバーの待機リストまたは印刷済みリストの中にあるジョブには、このプリセットへの編集内容が自動的には反映されません。Fiery サーバーのキュー内のジョブを、新たに編集したプリセットで更新する場合は、ジョブのプロパティを使用してジョブにプリセットを再適用する必要があります。

サーバープリセットの編集

システム管理者はサーバープリセットを編集することができます。サーバープリセットは、デバイスセンター（**ワークフロー**の**ジョブプリセット**を選択）から、またはジョブのプロパティから編集できます。

1 デバイスセンターからプリセットを編集するには、**ワークフロー**の**ジョブプリセット**のツールバーで**編集**をクリックします。

a)（オプション）変更内容の説明を入力します。

b) 定義をクリックして印刷設定を変更します。

c) OK をクリックします。

2 ジョブのプロパティからプリセットを編集するには、**待機**または**印刷済み**リストでジョブを右クリックし、**プロパティ**を選択します。

a) ジョブに対して、**プリセット**リストからサーバープリセットを選択します。

b) ジョブのプロパティウィンドウで、プリセットに適用したい変更を行います。

c) プリセットリストで、**プリセットの保存**、続いて**サーバープリセット**を選択し、プリセットの名前を正確に入力します。

d) 保存をクリックし、次に **OK** をクリックして既存のプリセットを上書きします。

サーバープリセットの削除

システム管理者はサーバープリセットを削除できます。

1 リストから 1 つ以上のプリセット（非公開または公開）を選択します。

複数のプリセットを選択するには、Shift キーを押しながらクリック、Ctrl キーを押しながらクリック（Windows の場合）、または cmd キーを押しながらクリック（macOS の場合）します。すべてのプリセットを選択するには、Ctrl ＋ A（Windows）または cmd ＋ A（macOS）を押します。

2 ツールバーの**削除**をクリックします。

3 **はい**をクリックします。

削除されたプリセットと関連付けられていたホットフォルダーおよび仮想プリンターとの接続は切断されます。ただし、削除されたプリセットの設定は保持されます。

サーバープリセットを非公開

非公開のプリセットは、**ジョブのプロパティ**ウィンドウでは使用できません。サーバープリセットを非公開にした後、そのエントリを再度公開することができます。

1 公開済みアイコンを持つ 1 つ以上のプリセットをリストから選択します。

複数のプリセットを選択するには、Shift キーを押しながらクリック、Ctrl キーを押しながらクリック（Windows の場合）、または cmd キーを押しながらクリック（macOS の場合）します。すべてのプリセットを選択するには、Ctrl ＋ A（Windows）または cmd ＋ A（macOS）を押します。

2 ツールバーで**非公開**をクリックします。

サーバープリセットに非公開アイコンが表示されます。

3 **はい**をクリックします。

非公開にされたサーバープリセットに関連付けられていた Fiery Hot Folders と仮想プリンターは切断されます。ただし、Hot Folders および仮想プリンターは非公開にされたプリセットのプリセット設定を保持します。

ロック済みサーバープリセットについて

サーバープリセットの印刷設定は、デバイスセンターで**ワークフロー** > **ジョブプリセット**を選択するとロックまたはロック解除できます。

これらの操作を行うには、システム管理者として Fiery サーバーにログオンする必要があります。

サーバープリセットの設定をロックすることにより以下の操作が可能になります。

- プリセットを使用して Command WorkStation にインポートされるすべてのファイルに設定が適用されます。
- Fiery Hot Folders ジョブも同じロック済み設定を継承します（Fiery Hot Folders がサーバープリセットを使用すると仮定した場合）。
- 仮想プリンターでは設定がロック済みとして表示されます。

Fiery サーバーはデフォルトで常に**ジョブ定義設定を使用**に設定されているため、**出力プロファイル**はロックできません。

ロックはジョブの送信時にのみ適用されます。ジョブが Fiery サーバーにある場合は、Command WorkStation の**ジョブのプロパティ**ウィンドウでロック済み設定を編集できます。

サーバープリセットのロックまたはロック解除

印刷設定のロックまたはロック解除を行うには、Fiery サーバーにシステム管理者としてログオンする必要があります。デバイスセンターで、**ワークフロー** > **ジョブプリセット**を選択します。

1 編集するプリセットを選択し、ツールバーから**編集**をクリックします。

2 （オプション）変更内容の説明を入力します。

3 **定義**をクリックして印刷設定を変更します。

4 次のいずれかの操作を行います。

- **すべてロック**をクリックして、すべての印刷設定をロックします。
- 特定の印刷設定をロックするには、ロックアイコンをクリックします。
- **すべてアンロック**をクリックしてすべての印刷設定をアンロックします。
- 特定の印刷設定に対して、ロックアイコンをクリックして、アンロックアイコンに変えます。

5 **OK** をクリックします。

サーバープリセットのエクスポートとインポート

ある Fiery サーバーから選択したユーザー作成またはデフォルトのサーバープリセットをファイルにエクスポートし、同一モデルおよびバージョンの別の Fiery サーバーにインポートできます。これを行うには、デバイスセンターで**ワークフロー** > **ジョブプリセット**を選択してください。

また、保管のために**バックアップ/復元**ツールを使用してサーバープリセットをエクスポートすることもできます。デバイスセンターで、**一般** > **ツール**を選択します。プリセットのバックアップファイルは、異なるモデルの Fiery サーバーには復元できません。

プリセットファイルをインポートした場合、その新しいプリセットを既存のプリセットとマージしたり、既存のプリセットを置き換えたりすることができます。

サーバープリセットをエクスポート/インポートするには Fiery サーバーにシステム管理者としてログオンする必要があります。

メモ：Command WorkStation のバージョンによって、エクスポートおよびインポート可能なサーバープリセットのファイルの種類が異なります。

Command WorkStation のバージョン番号	エクスポートするファイルの種類	インポートするファイルの種類
7.3 以降	.zip	.zip .fjp
7.2 以前	.fjp	.fjp

サーバープリセットをエクスポートする

システム管理者は、選択したサーバープリセットをエクスポートして別の Fiery サーバーで使用できます。

1 エクスポートするプリセットをリストから 1 つ以上選択します。

複数のプリセットを選択するには、Shift キーを押しながらクリック、Ctrl キーを押しながらクリック（Windows の場合）、または cmd キーを押しながらクリック（macOS の場合）します。すべてのプリセットを選択するには、Ctrl ＋ A（Windows）または cmd ＋ A（macOS）を押します。

2 ツールバーから**エクスポート**をクリックします。

3 ファイルを保存する場所を指定します。

4 **保存**をクリックします。

サーバープリセットをインポートする

システム管理者は、Fiery サーバーからサーバープリセットをエクスポートした後、同一モデルおよびバージョンの異なる Fiery サーバーにインポートして使用することができます。

1 ツールバーで**インポート**をクリックします。

2 **既存とマージ**または**既存を置換**を選択します。

サーバープリセットをマージする場合、インポートしたファイルのプリセットは Fiery サーバーの既存のプリセットに追加されます。重複した同じ名前が存在する場合、インポートしたプリセットの名前の末尾には数字の接尾辞が付きます（たとえば、FirstTest-1）。

サーバープリセットの既存のプリセットを置き換える場合、現在のすべてのサーバープリセットは削除され、新しくインポートしたプリセットファイルに含まれるサーバープリセットに置き換えられます。

3 エクスポートしたファイルの保存先を指定します。

4 **開く**をクリックします。

デフォルトの設定

デフォルト設定機能では、ジョブのデフォルトのプロパティを変更することにより、Fiery サーバーをカスタマイズできます。

Fiery JobExpert

Fiery JobExpert を使用すると、ジョブのプロパティの候補を Fiery Command WorkStation のジョブに自動的に適用することができます。JobExpert はジョブごとにジョブのプロパティを最適化し、ジョブに加えられた変更の詳細を表示します。

JobExpert を適用すると、ジョブのプロパティを手動で変更することもできます。

Fiery JobExpert ルール

JobExpert では、事前に定義されたルールリストから選択することができます。

次のオプションから選択します。

全カテゴリー	JobExpert では、ジョブのコンテンツに基づいて最適なジョブのプロパティ設定が選択されます。
カラー管理	JobExpert では、ジョブのコンテンツに基づいて最適なカラー設定が選択されます。
画像品質	JobExpert では、ジョブのコンテンツに基づいて最適な画像品質設定が選択されます。 JobExpert がジョブを分析した後、**ジョブのプロパティ**ウィンドウで**イメージ**タブを開いて、適用された設定を確認できます。
VDP	JobExpert は、バリアブルデータを含む PDF ジョブの**ジョブのプロパティ**で最適な設定を選択します。ジョブで PDF/X オブジェクトが検出された場合、JobExpert では PDF Print Engine も有効になります。

JobExpert 列を追加する

Command WorkStation のジョブセンターで JobExpert の列を追加できます。

1 ジョブ一覧で任意の列見出しを右クリックします。

2 **新規追加** > **ジョブ情報**をクリックします。

3 **JobExpert ルール**を選択します。

JobExpert 列には、ジョブに現在適用されている JobExpert ルールがすべて表示されます。

JobExpert を使用してジョブをインポートする

ジョブをインポートして、Command WorkStation の JobExpert に適用できます。

1 **待機**リストにファイルをインポートするには、次のいずれかを行います。

- メニューから**ファイル** > **ジョブのインポート**をクリックします。
- ジョブセンターの**インポート**ツールバーアイコンをクリックします。

2 追加するファイルの場所に移動します。

3 **開く**をクリックします。

複数のジョブをインポートするには、**ファイルのインポート**ウィンドウで**+**（追加）アイコンをクリックします。

4 **デフォルト設定を適用**を選択します。

メモ：ジョブのインポート時にサーバープリセットまたは仮想プリンターを適用すると、サーバープリセットまたは仮想プリンターの設定が先に適用されます。JobExpert も選択されている場合、カラーやイメージ設定など、一部の設定が JobExpert によって上書きされることがあります。

5 **JobExpert** を**適用**を選択します。

6 次のいずれかのルールを選択します。

- **全カテゴリー**
- **カラー管理**
- **画像品質**
- **バリアブルデータ印刷**

7 ジョブアクションを選択します。

JobExpert は、ジョブに推奨設定を自動的に適用します。

JobExpert を仮想プリンターに追加する

JobExpert を Command WorkStation の新しい仮想プリンターに適用することができます。

システム管理者のみが、新しい仮想プリンターを作成することができます。

1 **サーバー** > **デバイスセンター**をクリックします。

2 **デバイスセンター**の**ワークフロー**セクションで**仮想プリンター**をクリックします。

3 **新規**をクリックします。

4 **新しい仮想プリンター**ウィンドウで **JobExpert** を選択します。

5 次のいずれかのルールを選択します。

- **全カテゴリー**
- **カラー管理**
- **画像品質**
- **バリアブルデータ印刷**

6 **OK** をクリックします。

PDF ジョブを仮想プリンター経由で Command WorkStation にインポートすると、選択した**ジョブアクション**にジョブが送信され、JobExpert が推奨設定を適用します。

JobExpert を Fiery Hot Folders に追加する

Fiery Hot Folders で新しいホットフォルダーを JobExpert に適用できます。

Fiery JobExpert をサポートする Fiery サーバーに接続する必要があります。

メモ：Fiery Hot Folders の詳細については、『Fiery Hot Folders のヘルプ』を参照してください。

1 **Fiery ホットフォルダーコンソール**ウィンドウを開きます。

2 **新規**をクリックします。

3 次のいずれかのルールを選択します。

- **全カテゴリー**
- **カラー管理**
- **画像品質**
- **バリアブルデータ印刷**

4 **OK** をクリックします。

ジョブを Fiery Hot Folders 経由でインポートする場合、JobExpert は推奨設定を適用します。

ジョブセンターで JobExpert を適用する

ジョブセンターの既存ジョブに JobExpert を適用できます。

1 **待機**リスト内のジョブを右クリックします。

2 **適用 JobExpert** を選択し、次のいずれかのルールを選択します。

- **全カテゴリー**
- **カラー管理**
- **画像品質**
- **バリアブルデータ印刷**

進行状況バーに、**ジョブ状況**列の JobExpert の進行状況が表示されます。**JobExpert** 列がジョブセンターに追加されると、**分析中**というメッセージが表示されます。

メモ：JobExpert で複数のジョブを同時に処理できます。

以下のいずれかの方法で、 JobExpert 処理をキャンセルすることができます。

- 進行状況バーの **X** をクリックします。
- ジョブを右クリックし、**JobExpert** の**キャンセル**を選択します。

JobExpert 設定を除去する

Command WorkStation の Fiery JobExpert でジョブに適用された設定を除去できます。

待機リストで、次のいずれかを行います。

- ジョブが処理されない場合は、ジョブを右クリックし、**クリア JobExpert** を選択します。
- ジョブが処理された場合は、ジョブを右クリックし、**ラスターデータ除去**を選択します。次に、ジョブを右クリックし、**クリア JobExpert** を選択します。

ジョブ概要ウィンドウの **JobExpert** に移動し、**クリア**をクリックして JobExpert 設定を除去することもできます。

メモ：適用された JobExpert 設定を除去すると、JobExpert によって修正されたジョブのプロパティはサーバーのデフォルト設定に戻ります。ジョブを複製して JobExpert を適用し、元のジョブのプロパティ設定に戻すこともできます。

Fiery JobExpert レポートを表示

Command WorkStation の JobExpert がジョブに加えた変更の概要を表示できます。

1 **ジョブセンター**で、**待機リスト**内の JobExpert ジョブを選択します。

2 JobExpert レポートを表示するには、以下のいずれかを選択します。

- ジョブを右クリックし、**JobExpert レポート**の**表示**を選択します。
- Command WorkStation の**ジョブ概要**ウィンドウに移動し、**レポートの表示**をクリックします。

JobExpert 変更のプレビュー

JobExpert によりジョブに加えられた変更をプレビューすることができます。

1 Fiery JobExpert ウィンドウで、表示するジョブプロパティに移動します。

2 **プレビューを表示**をクリックします。

調整済みページプレビューウィンドウでは、次のコントロールを使用できます。

- **前**と**次**：ジョブのプロパティ間を移動します。
- **調整済みページ**：同じジョブのプロパティの調整済みページの間を移動します。
- **背景**：カラーピッカーツールを開き、背景マスクカラーを調整します。

調整済みページプレビューウィンドウでは、次のアイコンが使用できます。

- X：現在のジョブプロパティプレビューウィンドウを閉じます。
- ズームツール（虫眼メガネ）：拡大・縮小します。手動で値を入力することもできます。

Job Editor

Job Editor は、印刷前に個々のジョブのプレビューと編集を行う事前処理ワークフローで使用されます。

メモ：Job Editor をサポートしていない Fiery サーバーもあります。

Job Editor は次のタスクの実行に使用されます。

- ネスティングジョブの編集
- ステップと反復（パターン反復） の作成
- ジョブの拡大縮小
- ジョブの反転と回転
- サブストレートでのジョブの配置
- ジョブ固有のサブストレートの選択
- 印刷設定の定義
- 事前定義されたジョブ設定からのテンプレートの作成

スプール済みジョブは、Fiery Command WorkStation 待機リストに一覧表示されます。Job Editor では、最大 5 つのジョブを同時に開くことができます。各ジョブは Job Editor の別のタブに表示されます。

Job Editor を開く

Job Editor で、待機リスト内のスプール済みジョブまたは処理済みジョブをプレビューして、編集することができます。

- ジョブセンターで、次のいずれかを行います。
  - ジョブを右クリックして、**編集**をクリックします。
  - ジョブを選択して、**アクション** > **編集**を選択します。
  - ジョブを選択して、ツールバーの**編集**アイコンをクリックします。
  - 選択したジョブのサムネイル画像をダブルクリックします。

  ジョブが **Job Editor** ウィンドウで開きます。

Job Editor ウィンドウ

Job Editor で印刷前にジョブをプレビューして編集することができます。

メニューバーには、次のメニューが表示されます。

- **ファイル**：ジョブを保存、処理、キャンセルするオプション。このメニューから Job Editor を閉じることもできます。
- **編集**：実行したアクションを元に戻すまたはやり直しをするオプション。デフォルトの測定単位を一時的に上書きするには、**測定単位**を選択します。

  メモ：デフォルトの測定単位はジョブセンターで指定できます。**編集** > **設定**」をクリックし、**地域**タブで**測定単位**を選択します。
- **表示**：イメージの表示を拡大縮小するオプション。これらの表示オプションに対応するアイコンはウィンドウの右下隅にあります。サブストレートでジョブ調整するのに役立つ**固定先**や**表示オプション**などの設定も使用できます。
- **テンプレート**：テンプレートを保存、管理、適用するオプション。テンプレートは、ジョブの定義済み設定から作成されます。テンプレートは、適用された設定に従って、**通常**、**ステップと反復**または**ネスティング**として分類されます。
- **ヘルプ**：『Job Editor のヘルプ』を開きます。

Job Editor ウィンドウの右側には、次のタブがあります。

- **ジョブ情報**：**ジョブ情報**ペインには、ジョブ名、ID 番号、サイズ、カラーモード、印刷解像度、修正後サブストレートサイズ、選択したテンプレートが表示されます。**ジョブ注釈メモ**エリアでは、ジョブ固有の情報を確認できます。
- **レイアウト**：**ステップと反復**ペインでは、ジョブの複数のコピー（複製）を作成し、フリップ、オフセット、回転、ドロップ設定を適用して、繊維産業で要求されるシームレスな反復パターンを作ることができます。

- **サブストレート**：**サブストレート設定**ペインで、ジョブのプロパティで行われた設定を上書きするジョブ固有のサブストレートを選択できます。
- **プリンター**：**印刷設定**ペインで、必要な印刷部数、印刷長さ、または印刷範囲を指定できます。

  メモ：印刷範囲の設定は、複数ページのジョブでのみ使用できます。

ツールバーには、次のコントロールが含まれています。

- 保存：現在の設定でジョブを保存します。
- 変換ツール：拡大縮小、配置、回転、反転、マージン設定を有効にします。
- クロップツール：画像の焦点を選択し、画像周囲の不要なスペースを除去できる設定をアクティベートします。
- パンツール：ウィンドウの周りにジョブを移動します。
- ズームツール：ズームイン/ズームアウトします。
- 元に戻す：最後に実行したアクションを元に戻します。
- やり直し：最後に元に戻したアクションを再実行します。

ステータスバーには、次のコントロールが含まれています。

- 接続先：接続されている Fiery サーバーの IP アドレスが表示されます。
- ジョブ情報：ジョブに指定された詳細と設定を簡単に確認できます。
- ページナビゲーション：ジョブのページ間を移動します。
- 拡大縮小オプション：表示を必要なサイズに拡大縮小します。

  オプションには、**ウィンドウに合わせる**、**実際のサイズ**、**幅に合わせる**、**選択に合わせる**などのズームコントロールとアイコンが含まれます。

Job Editor の表示オプション

表示オプションを使用して、サブストレートでジョブの位置揃えを行うことができます。表示オプションは、印刷済みジョブには表示されません。

次の表示オプションを使用できます。

- ルーラー：プレビューの上端と左端に沿ってルーラーを表示します。**編集**メニューで測定単位を変更することができます。
- ガイド：正確な座標にプレースホルダージョブを配置するのに役立つ、印刷不可能な線を表示します。
- グリッド:印刷されない水平および垂直の線を表示します。グリッドの間隔は固定です。拡大/縮小を行うと、それに合わせて間隔も自動的に調整されます。固定を有効にすると、近くのジョブがグリッドに固定されます。
- ジョブマージン:定義されたジョブマージンを表示します。ツールバーのジョブマージンを調整できます。
- プリンターマージン：プリンターで定義されている印刷範囲外のマージンを表示します。ジョブが印刷範囲外のマージン内に配置されていることを確認し、印刷済みジョブでの不要なクロップを回避することができます。
- ページフレーム：各ジョブの周りに黒い境界線を表示します。これにより、ジョブの周りの余白が表示され、ネスティングレイアウト内の他のジョブと重なっているかどうかを確認できます。

- マウストラッカー：現在のカーソル位置を X/Y 座標で表示します。
- ジョブのロック：手動で配置したジョブを所定の位置にロックします。このオプションは、ネスティングジョブで使用できます。

Job Editor での表示オプションを表示する

次の手順で、プレビューウィンドウの表示オプションの表示または非表示を選択できます。

- 表示 **表示オプション** > **をクリックし、**項目をクリックします。

Job Editor でルーラー座標を設定する

デフォルトでは、ルーラーの 0, 0 座標はシートの左上隅に配置されています。例えば、ジョブの隅などに 0, 0 座標を移動することができます。

- ルーラー領域の左上隅から必要な位置までポインターをドラッグします。

ルーラーが交差する領域をダブルクリックすると、0, 0 座標をリセットできます。

Job Editor のガイドに従った操作

ガイドは、サブストレート上の正確な座標にジョブを配置するのに役立つ、印刷されない線です。

- 次のいずれかの操作を行います。
  - ガイドの作成：水平または垂直ルーラーからポインターをドラッグします。
  - ガイドの移動：ガイドを新しい位置にドラッグします。
  - ガイドの削除：水平のガイド線は上側のルーラーに、垂直のガイド線は左側のルーラーにドラッグします。

Job Editor での固定を有効にする

表示オプションとして、吸着プロパティを割り当てることができます。これにより、近接するジョブを固定できます。グリッドまたはガイドに固定を適用できます。

- **表示** > **スナップ先**をクリックして、項目をクリックします。

Job Editor でのジョブの編集

Job Editor で、ジョブの拡大縮小、クロップ、回転、反転、および調整をサブストレートで行うことができます。プレビューウィンドウのビジュアル支援機能を利用することでジョブを正確に配置できます。

メモ：Job Editor で作成した設定は、ジョブのプロパティで作成された同じ名前のデフォルト設定を上書きします。

Job Editor でのジョブの拡大縮小

割合の変更、新しい寸法の入力、またはドラッグによりジョブを拡大縮小することができます。用紙の幅にジョブを拡大縮小することもできます。

用紙に収まりきらないジョブは赤枠で示されます。サイズの大きいジョブを印刷するには縮小する必要があります。

デフォルトでは、ジョブはオリジナルの縦横比を保持します。

1 ツールバーから**ジョブの変換**ツールを選択します。

2 次のいずれかを行います。

- 自由に拡大縮小：ジョブの隅にポインタを置きます。ポインタが両方向矢印に変わります。ジョブを必要なサイズまでドラッグします。
- 寸法を入力して拡大縮小：ツールバーの**拡大縮小**に幅と高さを入力します。
- 割合で拡大縮小：ツールバーの**拡大縮小**で、%ボタンをクリックして幅または高さのボックスにパーセントを入力します。
- デフォルト拡大縮小率で拡大縮小：ジョブを右クリックし、**拡大縮小**をクリックしてから項目をクリックします。選択可能な拡大縮小率は、10%、25%、50%、100%、125%、150%、200%です。
- 用紙幅に拡大縮小：ジョブを右クリックしてから、**幅に合わせる**をクリックします。ジョブは、サブストレートの印刷可能な幅に比例して拡大縮小されます。

Job Editor のシート上でジョブを位置揃えする

ジョブをシート端に位置合わせしたり、x/y 座標の入力やドラッグによりマージンを追加することでジョブの位置を変更することができます。

デフォルトでは、ジョブはシートの左上隅に配置されており、プリンターのマージンが考慮されています。

1 ツールバーから**ジョブの変換**ツールを選択します。

2 次のいずれかを行います。

- ツールバーの**位置**から、ページの左上隅の x/y 座標を入力します。

  デフォルトでは、Job Editor がプリンターの印刷範囲外の左および上マージンの X/Y 座標を表示します。x または y の値に 0 と入力することで、Job Editor にプリンターのマージンを無視させることができます。
- ツールバーの**整列**から、水平方向および垂直方向の位置揃えの種類をクリックします。
- ツールバーの**ジョブマージン**で、上、下、左、右マージン幅を入力します（ステップと反復のみ）。

  すべてのマージンをリンクボタンをクリックし、上マージンのみを定義することで、すべての 4 つの辺に同じマージンを適用できます。

Job Editor でのジョブの回転

ジョブを 90 度、180 度または 270 度回転させることができます。

1 ツールバーから**ジョブの変換**ツールを選択します。

2 次のいずれかを行います。

- ツールバーで、**時計回りに回転**または**反時計回りに回転**をクリックします。ジョブが選択した方向に 90 度回転します。
- ポインタが矢印付きの円に変わるまでポインタをページの隅の近く（隅ではなく、あくまでも周辺）にポインタを置いてください。次に、回転する方向にドラッグします。ジョブは、0 度、90 度、180 度、270 度のうち一番近い角度に吸着します。

Job Editor でのジョブの反転

水平または垂直軸に沿ってジョブを反転させることができます。

1 ツールバーから**ジョブの変換**ツールを選択します。

2 ツールバーで**水平に反転**または**垂直に反転**をクリックします。

Job Editor でのジョブのクロップ

画像周辺の余計な背景要素を除去することにより、画像の焦点を強調することができます。

1 ツールバーから**ジョブのクロップ**を選択します。

2 プレビューウィンドウでは、クロップするセクションを選択するためにポインタをドラッグします。

Esc キーを押して選択したクロップ領域をキャンセルできます。

3 （オプション）次のいずれかの方法で、選択したセクションを微調整します。

- クロップボックスの位置変更 : Alt キーを押したまま、クロップボックスの中心からポインタをドラッグします。
- クロップボックスのサイズ変更：クロップボックスの端をドラッグします。
- ジョブの端とクロップボックスの間のマージン幅の調整：ツールバーで、新しいマージン幅を入力します。

4 Enter キーを押します。

ツールバーの**クロップリセット**をクリックして、クロップ済みのジョブを元の状態に戻すことができます。

Job Editor テンプレート

Job Editor の定義済み設定をテンプレートとして保存できます。テンプレートを新規および既存のジョブに適用し、自動化ワークフローをサポートすることができます。

保存されたテンプレートは、ジョブのプロパティに一覧表示され、Command WorkStation にインポートされたジョブに適用できます。保存したテンプレートにアクセスするには、**アクション** > **プロパティ**を選択し、**レイアウト** > **Job Editor テンプレート**を選択します。

Job Editor の**テンプレート**メニューでは、次のオプションを使用できます。

- **テンプレートとして保存**：事前に定義された設定をテンプレートとして保存できます。
- **テンプレート管理**：作成したテンプレートを名前と種類別に整理して表示できます。ビューをタイプ（**ノーマル**、**ステップと反復**、**ネスティング**）でフィルタリングできます。選択したテンプレートを削除できます。
- **テンプレートの適用**：保存されたすべてのテンプレートのリストからテンプレートを選択し、Job Editor で開いたジョブにテンプレートを適用することができます。

メモ：別のアプリケーションである Template Manager では、特定のジョブに関連付けられていないテンプレートを作成できます。

Template Manager を開くには、次の手順で**レイアウト**タブの**テンプレートを作成**をクリックします。

- プリセットの作成
- 仮想プリンターの作成
- ホットフォルダーの作成
- デフォルト設定の指定

詳細は、Template Manager（86 ページ）を参照してください。

Job Editor でのステップと反復

ステップと反復は、サブストレート上に配置された 1 つのオリジナルファイルと複数のコピー（複製）で構成されており、テキスタイル印刷用のシームレスパターンを繰り返し作成します。

複数ページのジョブではなく、単一ページのジョブからステップと反復を作成することができます。

Job Editor でのステップと反復を作成する

ジョブのコピー（複製）を複数作成し、反転、オフセットまたはドロップ、回転の設定を使用してシームレスなパターンの反復を作成できます。

ステップと反復を作成する前に、すべてのジョブ設定を行います。ステップと反復を作成した後に、元のジョブは修正できません。元のジョブを修正する場合、すべてのコピーを最初に削除する必要があります。

1 Job Editor の**レイアウト**タブで、**ステップと反復**ペインを展開します。パネルのヘッダーバーで、設定をアクティベートするチェックボックスをオンにします。

設定をアクティベートできない場合は、ジョブの幅がサブストレートの幅より小さいことを確認します。選択したサブストレートの幅と同じかそれよりも広い幅のジョブからステップと反復を作成することはできません。この場合、ジョブを縮小するか、ジョブの幅よりも幅が広いサブストレートを選択します。

2 **オフセット/ドロップ**で、水平方向または垂直方向にどれくらいシフトするかを定義します。次のいずれかを行います。

- ドロップサイズ：画像の幅または高さの分数としてドロップ量を選択します。例えば、1/1 はシフトなし、1/2 は 50%シフト、1/4 は 25%シフトを表します。
- パーセント（%）：固定ドロップサイズを使用しない場合、イメージの幅または高さの分数として必要なドロップ量を入力します。
- カスタム：Job Editor に対して選択した測定単位で垂直または水平方向で必要なドロップ量を入力します。

3 **反復サイズ**で、水平方向および垂直方向で必要な部数を選択します。

- 水平方向では、次のことを行えます。
  - サブストレート幅の入力
  - 反復回数の入力
  - カスタム幅の定義
- 垂直方向では、次のことを行えます。
  - 反復回数の入力
  - カスタム高さの定義

4 **保存**をクリックします。

テンプレート > **テンプレートとして保存**を選択して設定をテンプレートとして保存することもできます。このテンプレートを使用して Command WorkStation および Fiery Hot Folders のプリセットや仮想プリンターを作成できます。

Job Editor でステップと反復を変更する

ステップと反復を変更するには、最初にすべてのコピー（複製）を削除する必要があります。

1 Job Editor の**レイアウト**タブで、**ステップと反復**ペインを展開します。ペインヘッダーバーで、チェックボックスをオフにして、設定を無効にします。

2 元のイメージに必要な変更を行います。

3 ペインヘッダーバーで、チェックボックスを再選択して、設定を有効にします。

Job Editor でのステップと反復テンプレート

Job Editor でのテンプレートとして事前に定義された一連のステップと反復設定を保存できます。ジョブテンプレートは、Command WorkStation のプリセットに関連付けることができます。

Job Editor テンプレートは、ジョブのプロパティの Command WorkStation に表示されます。レイアウトを表示するには、**レイアウト** > **Job Editor テンプレート**をクリックします。

ステップと反復テンプレートは、以下に適用できます。

- Command WorkStation でインポートされたジョブ
- 新規サーバープリセット
- 新規仮想プリンター
- ホットフォルダー
- デフォルトジョブ設定

メモ：また、Template Manager で特定のジョブに関連付けられていないテンプレートを作成することもできます。詳細は、Template Manager（86 ページ）を参照してください。

インポートしたジョブに Job Editor テンプレートを適用する

インポートしたジョブに対して、ステップと反復テンプレートを使用するサーバープリセットを割り当てることができます。

ステップと反復テンプレートを使用したサーバープリセットは、接続された Fiery サーバーで利用可能です。

1 ジョブをインポートするには、次のいずれかを実行します。

- **ジョブセンター**ツールバーの**インポート**アイコンをクリックします。
- を選択します メニューから**ファイル** > **ジョブのインポート**。

2 お使いのコンピューターでアップロードするファイルの場所を参照し、選択します。

3 **ファイルのインポート**ウィンドウで、**サーバープリセットを使用**を選択し、ステップと反復サーバープリセットを選択します。

ステップと反復仮想プリンターが設定されている場合は、**仮想プリンターを使用** を選択し、ステップと反復仮想プリンターを選択することもできます。

4 プリセットまたは仮想プリンターを使用せずにジョブをインポートした場合は、次のいずれかを実行します。

- インポートしたジョブを選択し、**ジョブのプロパティ**ウィンドウを開き、ステップと反復プリセットを適用します。
- インポートしたジョブを選択し、**ジョブのプロパティ**ウィンドウを開き、**レイアウト** > **Job Editor テンプレート**に移動し、メニューからステップと反復テンプレートを選択します。

- インポートしたジョブを右クリックして**ワークフローを適用**を選択し、ステップと反復プリセットを選択します。
- インポートしたジョブを右クリックして**ワークフローを適用**を選択し、次に仮想プリンターのステップと反復を選択します。

ステップと反復プリセットの作成

ステップと反復テンプレートからサーバープリセットを作成し、プリセットを仮想プリンターとして公開できます。

既存のステップと反復テンプレートからプリセットを作成するか、Template Manager に新規テンプレートを作成することで、プリセットを作成できます。

1. **サーバー** > **デバイスセンター**をクリックし、**ワークフロー**で**ジョブプリセット**をクリックします。
2. **新規**をクリックします。
3. わかりやすいプリセットの名前を入力します。

   プリセット名にスペースは使用できません。
4. （オプション）プリセットの説明を入力します。
5. **定義**をクリックしてジョブのプロパティを指定します。
6. **ジョブのプロパティ**ウィンドウで**レイアウト**タブを開きます。
7. Job EditorJob Editor **テンプレート**メニューからテンプレートを選択します。

   テンプレートの作成をクリックして Template Manager を開きます。Template Manager にテンプレートを作成して保存した後、**レイアウト**タブの Job Editor **テンプレート**メニューからそのテンプレートを選択できます。
8. OK をクリックして**ジョブのプロパティ**ウィンドウを閉じ、OK をクリックしてプリセットを保存します。

   メモ：プリセットから仮想プリンターを作成するには、プリセットを選択し、**仮想プリンターとして公開**をクリックします。

ステップと反復仮想プリンターの作成

システム管理者は、ステップと反復テンプレートを使用して仮想プリンターを作成できます。

仮想プリンターについての詳細は、仮想プリンター（238 ページ）を参照してください。この手順では、ステップと反復仮想プリンターの作成に必要な情報について説明します。

1. 仮想プリンターを作成するには、デバイスセンターを開きます。**ワークフロー**で**仮想プリンター**を選択し、**仮想プリンター**ウィンドウで**新規**をクリックします。

2 以下を指定します。

- **プリンター名**：仮想プリンターの名前（英数字で指定）。

  メモ：仮想プリンターの作成または複製後はその名前を変更できません。ただし、印刷設定は変更できます。

- **説明**：仮想プリンターをユーザーに説明するためのコメントを追加または変更します（例：**会社案内用**）。
- **ジョブアクション** - Fiery サーバーアクションのいずれか 1 つ（**待機**や**処理後待機**など）を選択します。
- **ジョブのプロパティ**：**定義**を選択して**ジョブのプロパティ**ウィンドウを開きます。**レイアウト**タブで、**Job Editor テンプレート**メニューからステップと反復テンプレートを選択します。その他の印刷設定を指定します。

メモ：ロックアイコンをクリックすると、該当するジョブ設定をロックできます。

ステップと反復ホットフォルダーを作成する

新しいホットフォルダーを作成すると、接続している Fiery サーバーによって定義されている印刷設定の一部として、ステップと反復テンプレートを選択できます。

Fiery Hot Folders の使用方法については、『Fiery Hot Folders のヘルプ』を参照してください。この手順では、ステップと反復ホットフォルダーを作成するために必要な情報について説明します。

1 Fiery Hot Folders を開きます。

2 **Fiery Hot Folders コンソール**ウィンドウで、**新規**をクリックして**ホットフォルダー設定**ウィンドウを表示します。

3 **フォルダー名**フィールドにホットフォルダーの名前を入力します。

4 オプションで、**説明**フィールドにホットフォルダーの説明と詳細情報を入力します。

5 **参照**をクリックし、フォルダーの場所を指定します。

6 **選択**をクリックして Fiery サーバーを指定し、接続します。

7 **ジョブアクション**メニューから Fiery サーバーキューまたはアクションを選択します。

8 **ジョブのプロパティ**メニューで**定義**を選択します。

9 **レイアウト**タブで、**Job Editor Job Editor テンプレート**メニューからステップと反復テンプレートを選択します。

10 『Fiery Hot Folders のヘルプ』の説明に従って、引き続き他の設定を指定します。

Job Editor テンプレートをデフォルト設定に設定する

Job Editor テンプレートは、デフォルトのジョブ設定として設定できます。

Fiery サーバーのデフォルトのジョブ設定に Job Editor テンプレートを含めるには、次の手順を行います。

1 ジョブセンターで、詳細アイコン（3 つのドット）をクリックし、**デフォルト設定**を選択します。

2 **レイアウト**タブで、**Job Editor テンプレート**メニューからテンプレートを選択します。

テンプレートを作成を選択して、テンプレートマネージャーでテンプレートを作成することもできます。詳細は、Template Manager（86 ページ）を参照してください。

Command WorkStation と Job Editor でのネスティング

ネスティングは複数のジョブをまとめて 1 つのジョブとして出力します。Command WorkStation は、用紙の無駄を減らすために、ネストされたページをスペースを節約して配置します。

ジョブセンターで複数のジョブをインポートして選択し、ネスティングを作成します。ジョブの設定はジョブのプロパティで指定され、子ジョブ (ネスティングに含まれるジョブ)、または親ジョブ (ネスティング) で個別に設定されます。使用できるジョブオプションがありません。ネスティング（レイアウト）オプションは Job Editor で設定されていません。これらの設定は Job Editor にテンプレートとして保存でき、保存後は Job Editor で開かれている他のジョブに適用できます。

プリセットまたは仮想プリンターを作成する場合は、ネスティングテンプレートを選択することもできます。

Command WorkStation でネスティングを作成する

ジョブセンターにインポートされた選択したジョブからネスティングを作成することも、ネスティングを行う複数のジョブをインポートすることもできます。

1 ジョブセンターで複数のジョブを選択し、次のいずれかを選択します。

- ツールバーで**新規ネスティング**をクリックします。
- 選択したジョブを右クリックし、**新規ネスティング**を選択します。

メモ：ネスティングには通常のタイプのジョブのみを追加できます。

ネスティングは「ネスティング」の名前で表示されます。子ジョブを表示するには、プラス記号をクリックします。

2 普通紙ジョブをジョブセンターのネスティングに追加するには、普通紙ジョブをネスティングジョブにドラッグアンドドロップします。

3 子ジョブを削除するには、右クリックして、**ネスティングからジョブを削除**を選択します。

Job Editor でネスティングを編集できます。

Job Editor でのネストされたジョブの編集

Job Editor では、ネストされたジョブを編集できます。ネスティングされたジョブを編集する前に、サブストレート設定が選択されていることを確認します。

Job Editor では、用紙へのジョブの配置を調整したり、方向と配置を変更したりすることができます。ネスティングされたジョブの拡大縮小、回転、反転、クロップもできます。各ジョブをロックし、ジョブ固有のマージンを定義することができます。

1 ジョブセンターで、次のいずれかを行います。

- ネスティングされたジョブを右クリックし、**編集**を選択します。
- ツールバーで**編集**をクリックします。

2 Job Editor で、**レイアウト**アイコンをクリックして**ネスティング**ペインを表示します。

3 必要に応じて、ジョブを編集します。選択肢が自動的に適用されます。

次のいずれかの設定を指定できます。

- **レイアウト**タブからアクセスする**ネスティング**ペイン
- **レイアウト**タブからアクセスする**子ジョブ情報**パネル
- Job Editor メニュー
- Job Editor 変換ツールバー

Job Editor でのネスティングレイアウトオプション

デフォルトでは、ジョブはスペースを最大限節約するように配置されます。デフォルト設定を上書きして、ジョブを回転させないようにしたり、印刷後の裁断が容易になるようにジョブを調整したりできます。

次の表は、親ジョブの配置に関する、**レイアウト**タブの**ネスティング** ペインのオプションの説明です。

オプション	メニューの選択肢	説明
最適化	**最小限の用紙量**	用紙を最大限に使用する
	水平にカット	用紙を水平にカットできるようにジョブを配置する
	垂直にカット	用紙を垂直にカットできるようにジョブを配置する
	水平と垂直にカット	用紙を水平方向と垂直方向の両方でカットできるようにジョブを配置する
方向	**自動**	用紙を最大限に活用するために、あらゆる方向にジョブを配置する
	縦	縦方向にジョブを配置する
	横	横方向にジョブを配置する
	元の設定を維持	ソースジョブの方向を維持する
均一スケーリング	オンまたはオフ（チェックボックス） オン：幅と高さのフィールドを有効にする	すべてのページを同じサイズに拡大縮小するために幅と高さを入力します
スペース	幅と高さのフィールド	ジョブ間の水平および垂直距離を定義する

子ジョブ情報ペインとツールバーには、子ジョブと子ジョブの複製が使用できるオプションがあります。変換ツールバーから設定を選択することもできます。

Job Editor でネストされたジョブの複製

子ジョブのコピー（複製）を複数作成できます。

複製ごとに個別のジョブ設定を適用できます。ただし、ネスティングから元のジョブを削除すると、複製も削除されます。

1 ジョブを右クリックし、**複製**をクリックします。

このアクションは、すべての子ジョブを複製します。

2 個別の子ジョブの複製を削除するには、プレビューでそのジョブを選択してから右クリックし、**複製**を選択するか、**子ジョブ情報**ツールバーで**複製を追加**アイコンをクリックします。

作成したい複製数を選択するか、数字を入力します。

3 複製を削除するには、プレビューまたは **子ジョブ情報**ペインで複製を選択し、右クリックしてから**複製を削除**を選択するか、ツールバーで**複製を削除**アイコンをクリックします。

4 **子ジョブ情報**ツールバーでは、次の設定を選択できます。

- **配置の切り替え**： 選択した複製を削除します。
- **ロックの切り替え**：選択した複製を移動できないようにロックします。変換ツールバーの **ロック**アイコンを選択することもできます。
- **ジョブを削除**：選択した子ジョブとその複製を削除します。

ネスティングを Job Editor でテンプレートとして保存する

ネスティングされたジョブの事前に定義された設定をテンプレートとして保存し、プリセットまたは仮想プリンターを Command WorkStation で作成できます。

Command WorkStation で新しいネスティングジョブを作成し、Job Editor で開きます。

設定を選択すると、ジョブを保存したり、テンプレートとして設定を保存したりすることができます。ネスティングをテンプレートとして保存する場合、ネスティングジョブを自動化するオプションを指定できます。Command WorkStation はシートまたはラインの特定の割合を埋めるのに十分な数のジョブがロードされたときにネストを作成するか、シートまたはラインの最小の割合を埋めることができない場合でも、指定された期間が経過した後にネスティングを作成して処理します。

1 **テンプレート** > **テンプレートとして保存**を選択します。

テンプレートとして保存するためのネスティング設定が表示されます。

2 テンプレートの名前を入力します。

3 以下から選択します。

- **なし**：ネスティングの自動化をサポートする基準は有効ではありません。これはデフォルトのオプションです。
- **次の値以上でネスティングを作成**：Command WorkStation のネスティングジョブの自動化をサポートするための以下の 2 つの選択肢を提供します。
  - **ラインが塗りつぶされている割合**：ネスティングを完了するのに必要な最小パーセント幅を定義します。ジョブは、その割合に幅を埋めるために配置されます。
  - **印刷長の長さ（単位）が塗り潰された時**：ネスティングを完了するために塗り潰す必要のある用紙上の最小の長さを定義します。ジョブは、指定した長さになるまで、幅と高さの両方に配置されます。
- **常に数 分**後にネスティングする：最後のジョブがロードされてからの経過時間を定義します。時間が経過すると、ネスティングにジョブが追加されます。

Command WorkStation で、ネスティングテンプレートに関連付けられたプリセットまたは仮想プリンターを作成します。

Job Editor で作成したネスティングテンプレートを適用する

Job Editor で作成されたネスティングテンプレートは、プリセットまたは仮想プリンターの作成に使用したり、Command WorkStation にインポートされたジョブに適用することができます。

ネスティングプリセットと仮想プリンターを作成する手順は、ステップと反復プリセットの作成（79 ページ）とステップと反復仮想プリンターの作成（79 ページ）のステップと反復テンプレートで説明されているものに類似しています。

プリセットまたは仮想プリンターの作成

ジョブのプロパティウィンドウで**レイアウト** > **Job Editor テンプレート**からネスティングテンプレートを選択し、プリセットまたは仮想プリンターを作成する手順に従います。テンプレートは、**通常**、**ステップと反復**、**ネスティング**の種類で分類されます。

ネスティングテンプレートワークフローの適用

待機リスト内の 1 つ以上の通常のジョブを選択し、右クリックして**ワークフローの適用**を選択し、ネスティングプリセットまたは仮想プリンターを選択します。選択したすべてのジョブを子ジョブとして追加することにより、新しいネスティングが作成されます。

ネスティングプリセットまたは仮想プリンターのジョブのプロパティへの適用

待機リスト内の 1 つ以上の通常のジョブを選択し、ジョブのプロパティを開き、ネスティングプリセットまたは仮想プリンターを選択します。選択したすべてのジョブを子ジョブとして追加することにより、新しいネスティングが作成されます。

Job Editor でサブストレートを選択する

サブストレートカタログからサブストレートを選択するか、Job Editor で新しいカスタムサブストレートサイズを定義することができます。この設定は、ジョブのプロパティで選択されているデフォルトのサブストレートを上書きします。

- Job Editor の**サブストレートカタログ**の下にある**サブストレート**タブで、次のいずれかを行います。
  - サブストレートカタログからデフォルト素材を選択します。
  - **未定義**を選択します。次に、**サブストレートサイズ**で追加（+）をクリックし、名前と必要なサブストレート幅を入力します。

  後処理（加熱、洗浄）後のサブストレートのサイズが、参考として表示されます。ジョブのプロパティの縮小または伸張により、必要なサイズ補正の量を設定できます。

Job Editor から印刷する

編集したジョブ、ステップと反復またはネスティングジョブを Job Editor から直接印刷できます。

印刷する前に、変更が保存されていることを確認します。

1. Job Editor の**プリンター**タブで、**印刷設定**ペインを展開します。
2. 次のいずれかを行います。
   - **部数**を選択し、必要な部数を入力します。

     メモ：ステップと反復ジョブについては、1 つのコピーが**ステップと反復**ペインで設定された反復サイズと等しくなります。
   - **印刷の長さ**を選択し、印刷するサブストレートの長さを入力します。
   - 複数ページのジョブについては、**範囲**を選択し、印刷するページ番号の範囲を入力します。各ページ番号をコンマで区切って昇順に入力するか、ハイフンで区切ってページ範囲を入力します。

     メモ：範囲オプションは、複数ページのジョブにのみ使用できます。
3. 次のいずれかを行います。
   - **ファイル** > **処理後待機**を選択します。
   - **ファイル** > **割り込み処理後待機**を選択します。
   - **ファイル** > **準備完了へ送信**を選択します。

   ジョブは対応するキューのジョブセンターに表示されます。
4. 次のいずれかを行います。
   - 処理済みジョブと待機ジョブ：ジョブを選択し、**アクション** > **準備完了へ送信**を選択します。プレスソフトウェアで、印刷するジョブを取得します。
   - 準備完了ジョブ：プレスソフトウェアで、印刷するジョブを取得します。

複数のジョブを印刷する準備ができている場合、割り込みジョブはプレスソフトウェアの印刷キューのおもてに直接移動します。

Template Manager

Template Manager は、ジョブに適用する前にテンプレートをプレビューして編集するために、前処理ワークフローで使用されます。

メモ：Template Manager をサポートしていない Fiery サーバーもあります。

Template Manager は次のタスクの実行に使用されます。

- ステップと反復（パターン反復） の作成
- テンプレートの拡大縮小
- テンプレートの反転と回転
- サブストレートでのテンプレートの配置
- テンプレート固有のサブストレートの選択
- 印刷設定の定義

Template Manager を開く

Template Manager では、個々のジョブに適用する前に、テンプレートを作成および管理できます。

- Template Manager を開くために、次のいずれかの操作を行います。
  - ジョブセンターで、詳細アイコン（縦の 3 つのドット）をクリックし、**デフォルト設定**を選択します。**レイアウト**タブで、**テンプレートの作成**をクリックします。
  - デバイスセンターで、**ジョブプリセット**を選択します。**新規**をクリックするか、既存のプリセットを選択して、**編集**をクリックします。**ジョブプリセット設定**ウィンドウで**定義**をクリックします。**レイアウト**タブで、**テンプレートの作成**をクリックします。
  - デバイスセンターで、**仮想プリンター**を選択します。**新規**をクリックするか、既存の仮想プリンターを選択して、**編集**をクリックします。**ジョブのプロパティ**ウィンドウで**定義**を選択します。**レイアウト**タブで、**テンプレートの作成**をクリックします。
  - Fiery Hot Folders で**新規**をクリックするか、既存のホットフォルダーを選択して、**編集**をクリックします。**ジョブのプロパティ**ウィンドウで**定義**を選択します。**レイアウト**タブで、**テンプレートの作成**をクリックします。

  プレースホルダージョブが **Template Manager** ウィンドウで開きます。

Template Manager ウィンドウ

Template Manager で印刷前にテンプレートをプレビューして編集することができます。

メニューバーには、次のメニューが表示されます。

- **ファイル**：**Template Manager** ウィンドウを閉じるオプションを提供します。
- **編集**：実行したアクションを元に戻すまたはやり直しをするオプションです。デフォルトの測定単位を一時的に上書きするには、**測定単位**を選択します。

  メモ：デフォルトの測定単位を指定できます。ジョブセンターで**編集** > **環境設定**をクリックし、**地域**タブで**測定単位**を選択します。
- **表示**：イメージの表示を拡大縮小するオプションです。これらの表示オプションに対応するアイコンはウィンドウの右下隅にあります。サブストレートでプレースホルダージョブを調整するのに役立つ**固定先**や**表示オプション**などの設定も使用できます。
- **テンプレート**：テンプレートを保存、管理、適用するオプションです。テンプレートは、ジョブの定義済み設定から作成されます。テンプレートは、適用された設定に従って、**通常**、**ステップと反復**または**ネスティング**として分類されます。
- **ヘルプ**：『Template Manager のヘルプ』を開きます。

Template Manager ウィンドウの右側には、次のタブがあります。

- **レイアウト**：**ステップと反復**ペインでは、プレースホルダージョブの複数のコピー（クローン）を作成し、フリップ、オフセット、回転、ドロップ設定を適用して、繊維産業で要求されるシームレスな反復パターンを作ることができます。
- **サブストレート**：**サブストレート設定**ペインで、ジョブのプロパティで行われた設定を上書きするテンプレート固有のサブストレートを選択できます。
- **プリンター**：**印刷設定**ペインで、必要な印刷部数または印刷長さを指定できます。

ツールバーには、次のコントロールが含まれています。

- 変換ツール：拡大縮小、配置、回転、反転、マージン設定を有効にします。
- パンツール：ウィンドウの周りにプレースホルダージョブを移動します。
- ズームツール：ズームイン/ズームアウトします。
- 元に戻す：最後に実行したアクションをキャンセルまたは元に戻します。
- やり直し：最後に元に戻したアクションを再実行します。

ステータスバーには、次のコントロールが含まれています。

- 接続先：接続されている Fiery サーバーの IP アドレスが表示されます。
- テンプレート情報：テンプレートに指定された詳細と設定を簡単に確認できます。
- ページナビゲーション：テンプレートのページ間の移動を制御します。
- 拡大縮小オプション：表示を必要なサイズに拡大縮小します。

  オプションには、**ウィンドウに合わせる**、**実際のサイズ**、**幅に合わせる**、**選択に合わせる**などのズームコントロールとアイコンが含まれます。

Template Manager の表示オプション

表示オプションを使用して、サブストレートでテンプレートの位置揃えを行うことができます。表示オプションは、印刷済みジョブには表示されません。

次の表示オプションを使用できます。

- ルーラー：プレビューの上端と左端に沿ってルーラーを表示します。**編集**メニューで測定単位を変更することができます。
- ガイド：正確な座標にプレースホルダージョブを配置するのに役立つ、印刷不可能な線を表示します。
- グリッド：印刷されない水平および垂直の線を表示します。グリッドの間隔は固定です。拡大/縮小を行うと、それに合わせて間隔も自動的に調整されます。固定を有効にすると、近くのジョブがグリッドに固定されます。
- ジョブマージン：定義されたジョブマージンを表示します。ツールバーのジョブマージンを調整できます。
- プリンターマージン：プリンターで定義されている印刷範囲外のマージンを表示します。ジョブが印刷範囲外のマージン内に配置されていることを確認し、印刷済みジョブでの不要なクロップを回避することができます。
- ページフレーム：各ジョブの周りに黒い境界線を表示します。これにより、ジョブの周りの余白が表示され、ネスティングレイアウト内の他のジョブと重なっているかどうかを確認できます。
- マウストラッカー：現在のカーソル位置を X/Y 座標で表示します。

Template Manager での表示オプションを表示する

次の手順で、プレビューウィンドウの表示オプションの表示または非表示を選択できます。

- 表示 **表示オプション** > **をクリックし、**項目をクリックします。

Template Manager でルーラー座標を設定する

デフォルトでは、ルーラーの 0, 0 座標はシートの左上隅に配置されています。例えば、テンプレートのプレースホルダージョブの隅などに 0, 0 座標を移動することができます。

- ルーラー領域の左上隅から必要な位置までポインターをドラッグします。

ルーラーが交差する領域をダブルクリックすると、0, 0 座標をリセットできます。

Template Manager のガイドに従った操作

ガイドは、テンプレートのサブストレート上の正確な座標にプレースホルダージョブを配置するのに役立つ、印刷不可能な線です。

- 次のいずれかの操作を行います。
  - ガイドの作成 – 水平または垂直ルーラーからポインターをドラッグします。
  - ガイドの移動 – ガイドを新しい位置にドラッグします。
  - ガイドの削除 – 水平のガイド線は上側のルーラーに、垂直のガイド線は左側のルーラーにドラッグします。

Template Manager での固定を有効にする

表示オプションとして、吸着プロパティを割り当てることができます。これにより、近接するプレースホルダージョブを固定できます。グリッドまたはガイドに固定を適用できます。

- **表示** > **スナップ先**をクリックして、項目をクリックします。

Template Manager でプレースホルダージョブを編集する

Template Manager で、ジョブの拡大縮小、回転、反転および調整をサブストレートで行うことができます。プレビューウィンドウの表示オプションを利用することでプレースホルダージョブを正確に配置できます。

メモ：ジョブにテンプレートが適用されている場合、Template Manager で作成した設定は、ジョブのプロパティで作成された同じ名前のデフォルト設定を上書きします。

Template Manager でのプレースホルダージョブを拡大縮小する

割合の変更、新しい寸法の入力またはドラッグにより、プレースホルダージョブを拡大縮小することができます。用紙の幅または高さにプレースホルダージョブを拡大縮小することもできます。

デフォルトでは、拡大縮小されたテンプレートはオリジナルの縦横比を保持します。

1 ツールバーから**ジョブの変換**ツールを選択します。

2 次のいずれかを行います。

- 自由に拡大縮小：プレースホルダージョブの隅にポインタを置きます。ポインタが両方向矢印に変わります。プレースホルダージョブを必要なサイズまでドラッグします。
- 寸法を入力して拡大縮小：ツールバーの**拡大縮小**に幅と高さを入力します。
- 割合で拡大縮小：ツールバーの**拡大縮小**で、%ボタンをクリックして幅または高さのボックスにパーセントを入力します。
- デフォルト拡大縮小率で拡大縮小：ジョブを右クリックし、**拡大縮小**をクリックしてから項目をクリックします。選択可能な拡大縮小率は、10%、25%、50%、100%、125%、150%、200%です。
- 用紙幅に拡大縮小：プレースホルダージョブを右クリックしてから、**幅に合わせる**をクリックします。テンプレートは、サブストレートの印刷可能な幅に比例して拡大縮小されます。

Template Manager のシート上でジョブを位置揃えする

プレースホルダージョブをシート端に位置合わせしたり、X/Y 座標の入力やドラッグ、マージンを追加することでジョブの位置を変更することができます。

デフォルトでは、プレースホルダージョブはシートの左上隅に配置されており、プリンターのマージンが考慮されています。

1 ツールバーから**ジョブの変換**ツールを選択します。

2 次のいずれかを行います。

- ツールバーの**位置**からページの左上隅の X/Y 座標を入力します。

  デフォルトでは、Template Manager がプリンターの印刷範囲外の左および上マージンの X/Y 座標を表示します。x または y の値に 0 と入力することで、Template Manager にプリンターのマージンを無視させることができます。

- ツールバーの**整列**から、水平方向および垂直方向の位置揃えの種類をクリックします。
- ツールバーの**ジョブマージン**で、上、下、左、右マージン幅を入力します（ステップと反復のみ）。

  すべてのマージンをリンクボタンをクリックし、上マージンのみを定義することで、すべての 4 つの辺に同じマージンを適用できます。

Template Manager でプレースホルダージョブを反転させる

プレースホルダージョブを 90 度、180 度または 270 度回転させることができます。

1 ツールバーから**ジョブの変換**ツールを選択します。

2 次のいずれかを行います。

- ツールバーで、**時計回りに回転**または**反時計回りに回転**をクリックします。プレースホルダージョブは選択した方向に 90 度回転します。
- ポインタが矢印付きの円に変わるまでポインタをページの隅の近く（隅ではなく、あくまでも周辺）にポインタを置いてください。次に、回転する方向にドラッグします。プレースホルダージョブは、0 度、90 度、180 度、270 度のうち一番近い角度に吸着します。

Template Manager でプレースホルダージョブを反転させる

水平または垂直軸に沿ってプレースホルダージョブを反転させることができます。

1 ツールバーから**ジョブの変換**ツールを選択します。

2 ツールバーで**水平に反転**または**垂直に反転**をクリックします。

Template Manager テンプレート

Template Manager の定義済み設定をテンプレートとして保存できます。テンプレートを、新規および既存のジョブに適用し、自動化ワークフローをサポートすることができます。

保存されたテンプレートは、ジョブのプロパティに一覧表示され、Command WorkStation にインポートされたジョブに適用できます。保存したテンプレートにアクセスするには、**アクション** > **プロパティ**を選択し、**レイアウト** > **Job Editor テンプレート**を選択します。

Template Manager の**テンプレート**メニューでは、次のオプションを使用できます。

- **テンプレートとして保存**：事前に定義された設定をテンプレートとして保存できます。
- **テンプレート管理**：作成したテンプレートを名前と種類別に整理して表示できます。ビューをタイプ（**ノーマル**、**ステップと反復**）でフィルタリングできます。選択したテンプレートを削除できます。
- **テンプレートの適用**：保存されたすべてのテンプレートのリストからテンプレートを選択し、Template Manager で開いたプレースホルダージョブにテンプレートを適用することができます。

Template Manager でのステップと反復

ステップと反復は、サブストレート上に配置された 1 つのオリジナルファイルと複数のコピー（複製）で構成されており、テキスタイル印刷用のシームレスパターンを繰り返し作成します。

Template Manager でのステップと反復を作成する

テンプレート内のプレースホルダージョブのコピー（複製）を複数作成し、反転、オフセットまたはドロップ、回転の設定を使用してシームレスなパターンを作成できます。

1 Template Manager の**レイアウト**タブで、**ステップと反復**ペインを展開します。パネルのヘッダーバーで、設定をアクティベートするチェックボックスをオンにします。

設定をアクティベートできない場合は、テンプレートの幅がサブストレートの幅より小さいことを確認します。選択したサブストレートの幅と同じかそれよりも広い幅のテンプレートからステップと反復を作成することはできません。この場合、テンプレートを縮小するか、テンプレートの幅よりも幅が広いサブストレートを選択します。

2 **オフセット/ドロップ**で、水平方向または垂直方向にどれくらいシフトするかを定義します。次のいずれかを行います。

- **パーセント（%）**：固定ドロップサイズを使用しない場合、イメージの幅または高さの分数として必要なドロップ量を入力します。
- **ドロップサイズ**：画像の幅または高さの分数としてドロップ量を選択します。例えば、1/1 はシフトなし、1/2 は 50%シフト、1/4 は 25%シフトを表します。
- **カスタム**：Template Manager に対して選択した測定単位で垂直または水平方向で必要なドロップ量を入力します。

3 **反復サイズ**で、水平方向および垂直方向で必要な部数を選択します。

- 水平方向では、次のことを行えます。
  - サブストレート幅の入力
  - 反復回数の入力
  - カスタム高さの定義
- 垂直方向では、次のことを行えます。
  - 反復回数の入力
  - カスタム幅の定義

4 **保存**をクリックします。

テンプレート > **テンプレートとして保存**を選択して設定をテンプレートとして保存することもできます。このテンプレートを使用して Command WorkStation のプリセットや仮想プリンターを作成できます。

Template Manager でステップと反復を変更する

ステップと反復を変更するには、最初にすべてのコピー（複製）を削除する必要があります。

1 Template Manager の**レイアウト**タブで、**ステップと反復**ペインを展開します。ペインヘッダーバーで、チェックボックスをオフにして、設定を無効にします。

2 元のイメージに必要な変更を行います。

3 ペインヘッダーバーで、チェックボックスを再選択して、設定を有効にします。

Template Manager でのステップと反復テンプレート

Template Manager でのテンプレートとして事前に定義された一連のステップと反復設定を保存できます。テンプレートは、Command WorkStation のプリセットに関連付けることができます。

Template Manager テンプレートは、ジョブのプロパティの Command WorkStation に表示されます。レイアウトを表示するには、**レイアウト** > **Job Editor テンプレート**をクリックします。

ステップと反復テンプレートは、以下に適用できます。

- Command WorkStation でインポートされたジョブ
- 新規サーバープリセット
- 新規仮想プリンター
- ホットフォルダー
- デフォルトジョブ設定

メモ：また、Job Editor で特定のジョブに関連付けられていないテンプレートを作成することもできます。詳細は、Job Editor（70 ページ）を参照してください。

インポートしたジョブに Template Manager テンプレートを適用する

インポートしたジョブに対して、ステップと反復テンプレートを使用するサーバープリセットを割り当てることができます。

ステップと反復テンプレートを使用したサーバープリセットは、接続された Fiery サーバーで利用可能です。

1 ジョブをインポートするには、次のいずれかを実行します。

- **ジョブセンター**ツールバーの**インポート**アイコンをクリックします。
- メニューから を選択します**ファイル** > **ジョブのインポート**。

2 お使いのコンピューターでアップロードするファイルの場所を参照し、選択します。

3 **ファイルのインポート**ウィンドウで、 **サーバープリセットを使用**を選択し、ステップと反復サーバープリセットを選択します。

ステップと反復仮想プリンターが設定されている場合は、**仮想プリンターを使用** を選択し、ステップと反復仮想プリンターを選択することもできます。

4 プリセットまたは仮想プリンターを使用せずにジョブをインポートした場合は、次のいずれかを実行します。

- インポートしたジョブを選択し、 **ジョブのプロパティ**ウィンドウを開き、ステップと反復プリセットを適用します。
- インポートしたジョブを選択し、**ジョブのプロパティ**ウィンドウを開き、**レイアウト** > **Job Editor テンプレート**に移動し、メニューからステップと反復テンプレートを選択します。
- インポートしたジョブを右クリックして**ワークフローを適用**を選択し、ステップと反復プリセットを選択します。
- インポートしたジョブを右クリックして**ワークフローを適用**を選択し、仮想プリンターのステップと反復を選択します。

ステップと反復プリセットの作成

ステップと反復テンプレートからサーバープリセットを作成し、プリセットを仮想プリンターとして公開できます。
既存のステップと反復テンプレートからプリセットを作成するか、Template Manager に新規テンプレートを作成することで、プリセットを作成できます。

1 **サーバー** > **デバイスセンター**をクリックし、**ワークフロー**で**ジョブプリセット**をクリックします。

2 **新規**をクリックします。

3 わかりやすいプリセットの名前を入力します。
プリセット名にスペースは使用できません。

4 （オプション）プリセットの説明を入力します。

5 **定義**をクリックしてジョブのプロパティを指定します。

6 **ジョブのプロパティ**ウィンドウで**レイアウト**タブを開きます。

7 **Job Editor テンプレート**メニューからテンプレートを選択します。

テンプレートの作成をクリックして Template Manager を開きます。Template Manager にテンプレートを作成して保存した後、**レイアウト**タブの **Job Editor テンプレート**メニューからそのテンプレートを選択できます。

8 **OK** をクリックして**ジョブのプロパティ**ウィンドウを閉じ、**OK** をクリックしてプリセットを保存します。

メモ：プリセットから仮想プリンターを作成するには、プリセットを選択し、**仮想プリンターとして公開**をクリックします。

ステップと反復仮想プリンターの作成

システム管理者は、ステップと反復テンプレートを使用して仮想プリンターを作成できます。

仮想プリンターについての詳細は、仮想プリンター（238 ページ）を参照してください。この手順では、ステップと反復仮想プリンターの作成に必要な情報について説明します。

1 仮想プリンターを作成するには、デバイスセンターを開きます。**ワークフロー**で**仮想プリンター**を選択し、**仮想プリンター**ウィンドウのツールバーで**新規**をクリックします。

2 以下を指定します。

- **プリンター名**：仮想プリンターの名前（英数字で指定）。

  メモ：仮想プリンターの作成または複製後はその名前を変更できません。ただし、印刷設定は変更できます。

- **説明**：仮想プリンターをユーザーに説明するためのコメントを追加または変更します（例：**会社案内用**）。
- **ジョブアクション**：Fiery サーバーアクションのいずれか 1 つ（**待機**や**処理後待機**など）を選択します。
- **ジョブのプロパティ**：**定義**を選択して**ジョブのプロパティ**ウィンドウを開きます。**レイアウト**タブで、**Job Editor テンプレート**メニューからステップと反復テンプレートを選択します。その他の印刷設定を指定します。

メモ：ロックアイコンをクリックすると、該当するジョブ設定をロックできます。

ステップと反復ホットフォルダーを作成する

新しいホットフォルダーを作成すると、接続している Fiery サーバーによって定義されている印刷設定の一部として、ステップと反復テンプレートを選択できます。

Fiery Hot Folders の使用方法については、『Fiery Hot Folders のヘルプ』を参照してください。この手順では、ステップと反復ホットフォルダーを作成するために必要な情報について説明します。

1 Fiery Hot Folders を開きます。

2 **Fiery Hot Folders コンソール**ウィンドウで、**新規**をクリックして**ホットフォルダー設定**ウィンドウを表示します。

3 **フォルダー名**フィールドにホットフォルダーの名前を入力します。

4 （オプション）**説明**フィールドにホットフォルダーの説明と詳細情報を入力します。

5 **参照**をクリックし、フォルダーの場所を指定します。

6 **選択**をクリックして Fiery サーバーを指定し、接続します。

7 **ジョブアクション**メニューから Fiery サーバーキューまたはアクションを選択します。

8 **ジョブのプロパティ**メニューで**定義**を選択します。

9 **レイアウト**タブで、**Job Editor テンプレート**メニューからステップと反復テンプレートを選択します。

10『Fiery Hot Folders のヘルプ』の説明に従って、引き続き他の設定を指定します。

Template Manager テンプレートをデフォルト設定に設定する

Fiery サーバーのデフォルトのジョブ設定に Template Manager テンプレートを含めることができます。

1 ジョブセンターで、詳細アイコン（3 つのドット）をクリックし、**デフォルト設定**を選択します。

2 **レイアウト**タブで、**Job Editor テンプレート**メニューからテンプレートを選択します。

Template Manager でのネスティング

ネスティングは複数のジョブをまとめて 1 つのジョブとして出力します。Command WorkStation は、用紙の無駄を減らすために、ネストされたページをスペースを節約して配置します。

ジョブセンターで複数のジョブをインポートして選択し、ネスティングを作成します。ジョブの設定はジョブのプロパティで指定され、子ジョブ (ネスティングに含まれるジョブ)、または親ジョブ (ネスティング) で個別に設定されます。使用できるジョブオプションがありません。プレースホルダージョブを使用して、Template Manager で設定されているネスティング（レイアウト）オプションを設定します。Template Manager にこれらの設定をテンプレートとして保存すると、個々のジョブに適用することができます。

Template Manager でネスティングを作成する

Template Manager のプレースホルダージョブを使用してネスティングテンプレートを作成できます。

1 Template Manager において、**レイアウト**タブの**ネスティング**ペインを開きます。

2 パネルのヘッダーバーで、設定をアクティベートするチェックボックスをオンにします。

Template Manager で、ネスティングのレイアウトオプションを選択できます。

Template Manager でのネスティングレイアウトオプション

デフォルトでは、プレースホルダージョブはスペースを最大限節約するように配置されます。

次の表は、親プレースホルダージョブの配置に関する**ネスティング** ペインのオプションの説明です。

オプション	メニューの選択肢	説明
最適化	**最小限の用紙量**	用紙を最大限に使用する

オプション	メニューの選択肢	説明
	水平にカット	用紙を水平にカットできるようにプレースホルダージョブを配置する
	垂直にカット	用紙を垂直にカットできるようにプレースホルダージョブを配置する
	水平と垂直にカット	用紙を水平方向と垂直方向の両方でカットできるようにプレースホルダージョブを配置する
方向	**自動**	用紙を最大限に活用するために、あらゆる方向にプレースホルダージョブを配置する
	縦	縦方向にプレースホルダージョブを配置する
	横	横方向にプレースホルダージョブを配置する
	元の設定を維持	プレースホルダージョブの方向を維持する
均一スケーリング	オンまたはオフ（チェックボックス） オン：**幅**と**高さ**のフィールドを有効にする	すべてのページを同じサイズに拡大縮小するために幅と高さを入力します
スペース	**幅**と**高さ**のフィールド	プレースホルダージョブ間の水平および垂直距離を定義する

ネスティングを Template Manager でテンプレートとして保存する

ネスティングされたジョブの事前に定義された設定をテンプレートとして保存し、プリセットまたは仮想プリンターを Command WorkStation で作成できます。

レイアウトタブをクリックして、Template Manager で**ネスティング**ペインを展開します。

設定を選択すると、設定をテンプレートとして保存することができます。ネスティングをテンプレートとして保存する場合、ネスティングジョブを自動化するオプションを指定できます。Command WorkStation はシートまたはラインの特定の割合を埋めるのに十分な数のジョブがロードされたときにネストを作成するか、シートまたはラインの最小の割合を埋めることができない場合でも、指定された期間が経過した後にネスティングを作成して処理します。

1 **テンプレート** > **テンプレートとして保存**を選択します。

テンプレートとして保存するためのネスティング設定が表示されます。

2 テンプレートの名前を入力します。

3 以下から選択します。

- **なし**：ネスティングの自動化をサポートする基準は有効ではありません。これはデフォルトのオプションです。
- **次の値以上でネスティングを作成**：Command WorkStation のネスティングジョブの自動化をサポートするための以下の 2 つの選択肢を提供します。
  - **ラインが塗りつぶされている割合**：ネスティングを完了するのに必要な最小パーセント幅を定義します。ジョブは、その割合に幅を埋めるために配置されます。
  - **印刷長の長さ（単位）が塗り潰された時**：ネスティングを完了するために塗り潰す必要のある用紙上の最小の長さを定義します。ジョブは、指定した長さになるまで、幅と高さの両方に配置されます。
- **常に数 分**後にネスティングする：最後のジョブがロードされてからの経過時間を定義します。時間が経過すると、ネスティングにジョブが追加されます。

Command WorkStation で、ネスティングテンプレートに関連付けられたプリセットまたは仮想プリンターを作成します。

Template Manager で作成したネスティングテンプレートを適用する

Template Manager で作成されたネスティングテンプレートは、プリセットまたは仮想プリンターの作成に使用したり、Command WorkStation にインポートされたジョブに適用することができます。

ネスティングプリセットと仮想プリンターを作成する手順は、ステップと反復プリセットの作成（79 ページ）とステップと反復仮想プリンターの作成（79 ページ）のステップと反復テンプレートで説明されているものに類似しています。

プリセットまたは仮想プリンターの作成

ジョブのプロパティウィンドウでネスティングテンプレートを選択し、プリセットまたは仮想プリンターを作成する手順に従います。**レイアウト**タブで **Job Editor テンプレート**を選択します。テンプレートは、**通常**、**ステップと反復**、**ネスティング**の種類で分類されます。

ネスティングテンプレートワークフローの適用

待機リスト内の 1 つ以上の通常のジョブを選択し、右クリックして**ワークフローの適用**を選択し、ネスティングプリセットまたは仮想プリンターを選択します。選択したすべてのジョブを子ジョブとして追加することにより、新しいネスティングが作成されます。

ネスティングプリセットまたは仮想プリンターのジョブのプロパティへの適用

待機リスト内の 1 つ以上の通常のジョブを選択し、ジョブのプロパティを開き、ネスティングプリセットまたは仮想プリンターを選択します。選択したすべてのジョブを子ジョブとして追加することにより、新しいネスティングが作成されます。

Template Manager でサブストレートを選択する

サブストレートカタログからサブストレートを選択するか、Template Manager で新しいカスタムサブストレートサイズを定義することができます。この設定は、ジョブのプロパティで選択されているデフォルトのサブストレートを上書きします。

- Template Manager の**サブストレートカタログ**の下にある**サブストレート**タブで、次のいずれかを行います。
  - サブストレートカタログからデフォルト素材を選択します。
  - **未定義**を選択します。次に、**サブストレートサイズ**で追加（+）をクリックし、名前と必要なサブストレート幅を入力します。

  後処理（加熱、洗浄）後のサブストレートのサイズが、参考として表示されます。ジョブのプロパティの縮小または伸張により、必要なサイズ補正の量を設定できます。

Template Manager から印刷設定を変更する

Template Manager でテンプレートの印刷設定を変更できます。

1. Template Manager の**プリンター**タブで、**印刷設定**ペインを展開します。
2. 次のいずれかを行います。
   - **部数**を選択し、必要な部数を入力します。

     メモ：ステップと反復テンプレートについては、1 つのコピーが**ステップと反復**ペインで設定された反復サイズと等しくなります。
   - **範囲**を選択し、印刷するページ番号の範囲を入力します。

ジョブからラスターデータを除去する

一部のアクションでは、再処理が必要なジョブプロパティの変更など、ジョブからラスターデータが自動的に削除されます。

ラスターデータが生成され、処理済みジョブまたは処理済み/待機ジョブにリンクされます。

処理済みのジョブを選択し**処理後待機**を選択した場合は、ジョブがスプール済みジョブとして開かれるように、ラスターデータが自動的に除去されます。

 このアイコンはラスターデータが生成された処理済みジョブです。

 このアイコンはラスターデータなしのスプール済みジョブです。

ラスターデータを手動で削除する必要がある場合は、次の手順に従います。

1. **待機**リストから処理済みジョブまたは待機ジョブを選択します。

2 次のいずれかの操作を行います。

- 右クリックして**ラスターデータ除去**を選択します。
- **アクション** > **ラスターデータ除去**をクリックします。

ラスター曲線エディター

ラスター曲線エディター機能を使用すると、ジョブ内のカラー曲線を、Fiery ImageViewer を開かなくても編集できます。

ラスター曲線エディターを使用すると、ジョブ内のすべてのカラーの組み合わせと各色分解の応答曲線をカスタマイズすることができます。ラスター曲線エディターはジョブのプロパティ機能であり、Fiery ImageViewer がない場合に使用できます。

A10 プラットフォーム上の Fiery サーバーは、ラスター曲線エディターをサポートしていません。

ジョブのプロパティウィンドウで、**カラー**タブを開き、**カラー設定**で**ラスター曲線エディター**をクリックします。

曲線の編集をクリックすると、**曲線表の編集**ウィンドウから曲線をインポートできます。インポートする曲線の種類については、Curve2/Curve3/Curve4 ファイルからカラー曲線を適用する（301 ページ）を参照してください。

ラスター曲線エディターウィンドウでは、新規のプリセットを作成したり、既存のプリセットを編集または削除できます。

プリセットを作成するには、カラー編集をプリセットとして保存する（299 ページ）を参照してください。

メモ：プレビューオプションは、**ラスター曲線エディター**ウィンドウでは使用できません。

最後に印刷されたページの特定

ジョブがキャンセルまたは正常に印刷されなかった場合は、最後に印刷されたシートを特定できるので、ジョブの印刷を簡単に再開できます。

1 CWS で列見出しを右クリックします。

2 **新規追加...** > **その他** > **印刷済みページ数**を選択します。
この情報はジョブログにも表示されます。

ジョブを管理する

ジョブを検索する

接続されている Fiery サーバーで、ユーザー名、日付、ジョブの完全なタイトル、ジョブタイトルの先頭数文字などの検索パラメーターを使用して、ジョブを検索できます。

ジョブ一覧でいずれかのジョブを選択した状態で、目的のジョブの最初の数文字を入力すると、入力した文字に一致する最初のジョブが選択されます。

検索機能を使用すると、現在選択している Fiery サーバー上でジョブをすばやく見つけることができます。この機能はジョブセンターツールバーにあり、表示中のジョブに適用されます。待機、印刷済み、アーカイブ済み、処理中またはすべてのジョブのキューにあるジョブを検索できます。

ジョブ検索には、簡易ジョブ検索または高度なジョブ検索を使用できます。

ジョブ名でジョブを検索する

ジョブ名に含まれる文字を入力してジョブを検索できます。

1 任意のビューで、ジョブ一覧のジョブを選択します。

2 ジョブ名の最初の数文字を入力します。
入力した文字と一致する名前を持つ最初のジョブが選択されます。

簡易なジョブ検索

検索フィールドを使用すると、任意のビューでジョブを検索することができます。ビューを切り替えると、前回の検索条件はクリアされます。

1 ジョブセンターのツールバーアイコンの上にある**検索**フィールドに検索条件を入力します。

2 Enter キーを押すか、虫メガネのアイコン（検索アイコン）をクリックして、指定した検索条件に該当するジョブを検索します。

入力したテキストでは大文字と小文字が区別されません。

指定した値の検索は、現在のビューにあるすべてのカラムを対象に実行されます。スクロールしないと見えない位置にあるカラムも含まれます。たとえば、**レター**と入力すると、タイトルに「レター」という文字が含まれるジョブを検索できます。また、**出力用紙サイズ**列の用紙名に「レター」という文字が含まれるジョブも検索できます。

3 検索を実行した後で、**消去**をクリックして現在の検索条件を消去したり、別の表示に切り替えたりできます。これにより、別の条件で検索することができます。

すべての Fiery サーバーを検索する

Command WorkStation に接続されているすべての Fiery サーバーを通してジョブを検索できます。

すべての Fiery サーバーを検索するには、Command WorkStation が複数の Fiery サーバーに接続されている必要があります。

Command WorkStation ジョブセンターの簡易検索場所から選択したすべての Fiery サーバーを検索します。

すべての Fiery サーバーの検索機能を使用すると、特定のユーザーがすべてのサーバーに送信したすべてのジョブを表示することもできます。

1 ジョブセンターのツールバーの下にある**検索**フィールドに検索条件を入力します。

2 **検索**フィールドの下の**すべての Fiery サーバーを検索**リンクをクリックします。

簡易検索機能を使用してジョブを選択すると、ジョブ名、ジョブ状況、日付と時刻、ユーザー名、ジョブサイズ、サーバー名などの条件で検索できます。

3 **すべての Fiery サーバーを検索**ウィンドウで、**検索**フィールドに詳細な検索情報を入力して、検索結果をさらに絞り込むこともできます。

4 検索結果からジョブをダブルクリックするか、ジョブを選択して**ジョブを検索**をクリックします。

すべての Fiery サーバーを検索ウィンドウが閉じ、選択したジョブが関連する Fiery サーバーで自動的に強調表示されます。

また、リスト内のジョブを選択し、**Fiery サーバー上の検索結果を表示**をクリックすると、Fiery サーバー上に検索結果が表示されます。簡易検索条件に一致するすべてのジョブが、**すべてのジョブ**ビューに表示されます。

検索を実行した後で、**消去**をクリックして現在の検索条件を消去できます。これにより、接続されたすべての Fiery サーバーを別の条件で検索することができます。

高度なジョブ検索

高度な検索機能を使用すると、現在のビューで複数の基準（列）による検索を同時に行うことができます。

1 左側のサーバーの一覧でビューを選択します。

選択した Fiery サーバーのすべてのキューのすべてのジョブを表示するには、**すべてのジョブ**ビューを選択します。

2 列見出しの上にあるフィルターの横の矢印をクリックします（ジョブ状況など）。

3 検索条件を選択し、**適用**をクリックします。

1 つの列で複数の選択を行うことができます。

範囲は一部の列で選択できます。

選択した Fiery サーバーのすべてのキューのすべてのジョブのビューに戻るには 、**すべてのジョブ**ビューを選択します。

4 日付情報を表示する列では、次のいずれかを選択できます。

- **今日**：現在の日付のジョブを検索します。
- **特定の日付**：特定の日付のジョブを検索します。

  特定の日付の前または後に印刷するジョブを検索する**前**または**後**を選択します。
- **開始日**、**終了日**：連続する日付範囲内のジョブを検索します。

5 複数の列で検索するには、**その他**のフィルターの横にある矢印をクリックし、追加する列を選択します。

フィルターを削除するには、**その他**フィルターの横にある矢印をクリックし、選択をクリアして、**保存**をクリックします。

6 検索を実行した後で、**消去**をクリックして現在の検索条件を消去したり、別の表示に切り替えたりできます。これにより、別の条件で検索することができます。

高度な検索を保存する

1 左側のサーバーの一覧で**すべてのジョブ**ビューを選択します。

2 ジョブを検索します。

3 検索結果の上にある**保存**をクリックします。

4 検索する名前を入力し、**OK** をクリックします。

詳細検索は、キューリストの下の左側に表示されます。

ジョブサムネイルの表示

サムネイルビューには、各処理済みジョブの最初のページのプレビューが表示されるので、ジョブの視覚的な識別に役立ちます。

- ジョブセンターツールバーの右上隅にあるアイコン をクリックします。
- ジョブを並べ替えるには、背景の空白領域（つまりジョブ以外）を右クリックし、並べ替えの条件や順序（昇順または降順）を選択します。
- 複数ジョブの選択やコピーと貼り付けを行うには、一般的なキーボードショートカットを使用できます。
- 追加のジョブ情報を表示するには、ジョブのサムネイルアイコンの上にマウスを移動します。

ジョブにジョブタグを割り当てる

ジョブに 1 つまたは複数のタグを追加することができます。これは、ジョブのソートや整理に役立ちます。タグを作成し、タグの名前とカラーを選択した後、ジョブに割り当てることができます。タグは特定の Fiery サーバーのジョブと共に保存されます。ジョブにタグを割り当てた後、タグのカラーアイコンがタグ列に表示されます。

Command WorkStation に列を追加する方法の詳細については、列の表示を変更する （27 ページ）を参照してください。

ジョブごとに最大 5 つのタグを適用できます。Fiery サーバーあたりの上限は 50 タグです。

1 ジョブにタグを割り当てるには、ジョブを選択し、次のいずれかを実行します。

- **アクション** > **タグ**をクリックします。
- ジョブを右クリックし、**タグ**を選択

一度に複数のジョブを選択することもできます。

2 既存のタグを選択するか、**新しく追加**をクリックします。

3 すでにタグが割り当てられているジョブに別のタグまたは追加のタグを割り当てるには、最初にタグを割り当てたときと同じ方法を使用できます。または、**概要**ペインで、**タグ**セクションの横にある鉛筆アイコンをクリックします。既に作成されているタグは、**ジョブのプロパティ** > **ジョブ情報**で割り当てることもできます。**ジョブのプロパティ**で選択したタグは、サーバープリセット、仮想プリンターまたはホットフォルダの一部として保存できます。

4 同じタグのあるすべてのジョブを表示するには、**サーバー**ウィンドウのキューリストにあるタグ名をクリックします。

作成された最初の 10 個のタグがそれぞれの Fiery サーバーの下にタグ名、タグカラー、タグを使用するジョブ数で一覧表示されます。

タグが 10 個を超えて作成されている場合は、**サーバー**ペインのタグリストの下にある**詳細表示**をクリックすると、選択した Fiery サーバーのすべてのタグが表示されます。**閉じる**をクリックすると、リストが折りたたまれ、最初の 10 個のタグのみが表示されます。

タグの順序を変更するには、**タグの管理**を選択します。

ジョブタグの管理

1 **サーバー**ペインの**タグ**ヘッダーの横にある右矢印をクリックします。

2 **タグの管理**を選択します。

リスト内のタグを上下に移動したり、お気に入りのタグやよく使用するタグを一番上にしたりすることができます。

デフォルトでは、**プライオリティ**という名前のタグが提供されています。このタグを使用するか、独自のタグを作成することができます。すでに他の 1 つ以上のタグを作成していない限り、**プライオリティ**タグは削除できません。

完了ビューの使用

完了ビューは、ジョブの場所に関わらず、Fiery サーバー内の印刷済みのすべてのジョブを一覧表示します。

たとえば、**印刷後待機**に送信されるジョブは、待機リストと完了ビューに表示されます。待機キューからジョブが削除されると、完了ビューからも削除されます。その逆も同様です。

印刷中にキャンセルされたジョブまたはエラーが発生したジョブは、完了ビューには表示されません。

このビューはデフォルトで追加されますが、完了ビューを選択して、ツールバーの上にある**非表示**ボタンをクリックすると、非表示にできます。完了ビューが非表示にされた後で、**サーバー** > **完了ビューを表示**を選択すると、再度有効化することができます。

現在のビューをエクスポート

Command WorkStation の任意のビューで、現在のジョブリストをテキストファイルとしてエクスポートできます。このテキストファイルには、通常のキュー（印刷済み、待機など）からそのビューに追加されたコンテンツなどの画面に表示されるすべての情報や、フィルターによって作成したカスタムビューが含まれます。

列の追加、列の削除、ジョブのフィルタリングを行うことで、ビューを作成します。

1 「**ファイル** > 」「 > **現在のビューをエクスポート** > を選択します。

2 テキストファイルの形式を選択します。

別のキューにジョブを移動する

待機およびアーカイブ済みキューにあるジョブを処理中キューに移動（ドラッグ）できます。

- 待機またはアーカイブ済みキューから任意のジョブを選択します。メニューから**アクション**をクリックし、以下のいずれかのアクションを選択します。

  メモ：接続しているプレスで使用可能なジョブアクションが表示されます。

  - **待機** - ジョブを待機キューに送信します。
  - **処理後待機** - ジョブを処理しますが、印刷はしません。
  - **アーカイブ** - ジョブをアーカイブし、アーカイブ済みキューに送信します。

  キュー内のジョブを選択し、別のキューにドラッグすることもできます。

ジョブの一時停止と再開

Fiery サーバーでこの機能がサポートされている場合、現在印刷中のジョブを一時停止し、他のジョブを印刷してから、後で一時停止したジョブの印刷を再開できます。ジョブを再開すると、Fiery サーバーは一時停止した部数またはセットの続きから印刷を再開します。

メモ：一時停止機能は、部数が 1 部のジョブでは使用できません。

1 次のいずれかの操作を行います。

- ジョブセンターで印刷中のジョブを右クリックし、**一時停止**を選択します。
- 印刷中ウィンドウで**一時停止**アイコンをクリックします。

Fiery サーバーは現在の部数またはセットの印刷を完了すると、ジョブを一時停止します。Command WorkStation はそのジョブを待機キューに移動します。

2 ジョブセンターで一時停止中のジョブを右クリックし、**再開**を選択して印刷を再開します。

また、**すべて印刷**を選択すると、途中まで印刷済みであっても、ジョブを最初から印刷できます。

ジョブを別の Fiery サーバーに送信する

コピー先コマンドと**移動先**コマンドを使って、ジョブを接続された別の Fiery サーバーに送信できます。

ジョブを同じモデルとバージョンの Fiery サーバーに送信した場合は、ラスターデータが送信されます(使用可能な場合)。ジョブを異なる Fiery サーバーモデルに送信した場合、ソースファイルのみが送信され、ラスターデータは送信されません。そのため、印刷前に送信先の Fiery サーバー上でジョブを処理する必要があります。Fiery サーバーの動作はそれぞれ異なる場合があるので、ジョブを送信する場合は、ジョブのプロパティをすべて確認し、必要に応じて再指定してください。

1 次のいずれかの操作を行います。

- ジョブセンターで待機ジョブを選択し、**サーバー**リストに表示されている別の Fiery サーバーにドラッグ &ドロップします。
- ジョブセンターで待機ジョブを選択し、**アクション** > **コピー**をクリックするか、ジョブを右クリックして**コピー**を選択します。
- ジョブセンターで待機ジョブを選択し、**アクション** > **移動**をクリックするか、ジョブを右クリックして**移動**を選択します（FS350/350 Pro 以降の場合）。

2 Fiery サーバーを選択してください。

ジョブが選択したサーバーに送信されます。

ジョブをアーカイブする

ジョブをアーカイブすると、後で使用できるようにジョブの設定も併せて保存されます。これにより、ジョブを再度インポートして設定しなくても、すぐに再印刷できます。ラスター画像を保存して、再処理せずにジョブを再印刷できます。アーカイブジョブは、使用しているコンピューターからアクセスできる任意のフォルダー（ネットワークフォルダーなど）に保存できます。また、他のファイルと一緒にバックアップすることができます。

アーカイブマネージャーを使用してジョブをアーカイブする

アーカイブマネージャーは、アーカイブ済みジョブを Fiery サーバーから選択したフォルダーに移動し、Fiery サーバーがアップグレードまたはリロードされてもジョブが保持されるようにします。

- Fiery サーバーのすべてのジョブに対応するシンプルで安全なアーカイブソリューション
- Fiery サーバーの外部にあるジョブをアーカイブ
- アーカイブジョブを複数の Fiery サーバー間で簡単に共有
- 複数の Command WorkStation ユーザーとアーカイブを共有
- Fiery サーバーがオフラインでもアーカイブ済みジョブをすばやく検索
- 単一ビューですべてのアーカイブ済みジョブを一覧表示

アーカイブマネージャーでジョブをアーカイブしたら、アーカイブ済みキューは Fiery サーバー名のリストに表示されなくなります。代わりに、アーカイブ済みジョブはすべて、この**アーカイブマネージャー**ウィンドウでアクセスできるようになります。

アーカイブマネージャーでの初回セットアップ

1 Command WorkStation の左上角にある**アーカイブマネージャー**をクリックします。

アーカイブマネージャーが使用できない場合は、**編集** > **環境設定**で**アーカイブマネージャーを使用**チェックボックスが選択されていることを確認します。

2 **開始**をクリックします。

3 **参照**をクリックして、アーカイブマネージャーがアーカイブ済みジョブを保存する場所を選択し、**フォルダー選択**をクリックします。

4 その場所のわかりやすい名前を**表示名**フィールドに入力します。

5 **OK** をクリックします。

6 **移行**をクリックします。

7 **アーカイブジョブの移行**ウィンドウで、ソースの場所が有効であることを確認します。

詳細は、移行中にアクセスできないフォルダー（107 ページ）を参照してください。

ウィンドウの上半分に表示される場所は、ソースの場所と、アーカイブ済みジョブが現在保存されているフォルダーです。ウィンドウの下半分で選択した場所が、アーカイブマネージャーでのジョブの移動先になります。ジョブを新しい場所に移動することで、Fiery サーバーをリロードまたはアップグレードした場合でも、アーカイブマネージャーはそのジョブをバックアップできます。

8 **移行**をクリックします。

操作がスキップまたはキャンセルされたため Fiery サーバーに移行するジョブが残っている場合、Command WorkStation ではアーカイブキューが引き続き表示されます。移行処理を再開するには、アーカイブ済みキューの青い移行ボタンをクリックします。

アーカイブマネージャーを使用してジョブをアーカイブする

ジョブの移行は一度だけです。ジョブをアーカイブフォルダーに移動したら、そのジョブと同じ場所または別の場所に後続のジョブをアーカイブできます。

1 次のいずれかを行います。

- 待機キューまたは印刷済みキューでジョブを選択し、アーカイブマネージャーにドラッグします。
- **ジョブセンター**でジョブを選択し、**アクション** > **アーカイブ**をクリックします。
- **ジョブセンター**でジョブを右クリックし、**アーカイブ**をクリックします。

2 アーカイブ先を選択します。

サムネイルとプレビューを保存することもできます（存在する場合）。

メモ：そうすると、アーカイブ済みファイルのサイズは大きくなります。

3 別の場所を指定するには、**場所を編集**をクリックし、**場所の管理**ウィンドウで**追加**をクリックします。ジョブのアーカイブ先フォルダーを選択して**フォルダー選択**をクリックします。

アーカイブ済みジョブの概要

アーカイブ済みジョブには、 Fiery サーバーで受信したソースファイルのほか、ジョブに設定されたジョブのプロパティ（ジョブチケット）も含まれています。

ジョブチケットは、カラープロファイル、サブストレートカタログのエントリ、キャリブレーション設定などのサーバーベースリソースを参照する場合があります。アーカイブ済みファイルは、ジョブチケットが参照していても、このサーバーリソースを保存しません。使用できないリソースをジョブチケットで参照している場合、ジョブにはそのリソースのデフォルト設定が使用されます。

アーカイブには、ジョブを元のサーバーに復元するときにのみ適用されるサーバー固有の情報と設定が含まれます。別のサーバーにアーカイブジョブを復元またはインポートすることができます。サーバーのモデルが異なる場合、サーバーは両方のサーバーに共通するジョブチケット設定を保持し、それ以外の設定はサーバーのデフォルト設定で置き換えられます。

ジョブをアーカイブする際は、処理済みジョブのサムネイルやプレビューを保存できます。その場合、ジョブのラスターイメージも保存されるので、ジョブを後で処理する必要がなくなります。サムネイルやプレビューを保存すると、アーカイブ済みファイルのサイズが大きくなります。

移行中にアクセスできないフォルダー

場所が使用できない場合、アーカイブマネージャーを使用してジョブを移行することはできません。

- 使用しているコンピューターまたはネットワークで、そのフォルダーが使用可能であることを確認します。フォルダーが名前変更、移動、または削除されたために場所が使用できない場合があります。
- 読み取りまたは書き込みのアクセスができることを確認します。アーカイブマネージャーでは、使用しているコンピューターのオペレーティングシステムを利用して、認証を処理します。Windows エクスプローラーまたは macOS Finder でフォルダーを開いてみます。
- 他のコンピューター上の場所が C:\users\admin\desktop などのよく知られたパスとして一覧表示されることがありますが、それは別のユーザーのコンピューターのパスである可能性があります。このジョブにアクセスするには、他のコンピューターの Command WorkStation を使用します。

アーカイブ先を管理する

1 Command WorkStation の左上角で、**ジョブ**ウィンドウの**アーカイブマネージャー**の上にある設定アイコン ⚙をクリックします。

2 実行するアクションのアイコンをクリックします。

追加	既存のアーカイブ済みジョブのフォルダーを**アーカイブマネージャー**に追加したり、今後アーカイブジョブを保存する場合は、**追加**をクリックします。
削除	場所を除去します。
編集	場所ではなくフォルダーの表示名のみ変更できます。フォルダーを移動した場合、そのフォルダーを新しいフォルダーとして再度追加します。
デフォルトとして設定	その場所を、ジョブがアーカイブされるデフォルトの場所に設定します。

アーカイブを共有する

アーカイブマネージャーのフォルダーはネットワーク、クラウドレプリケーションサービス、使用しているローカルコンピューターのいずれに存在していてもかまいません。その他のあらゆるファイルやフォルダーに使用する方法と同じように、アーカイブフォルダーをバックアップします。

ネットワークを介してアーカイブを共有する場合は、すべてのユーザーがアクセスできるネットワークフォルダーを使用します。まず、使用しているコンピューターでこのフォルダーを開いて、フォルダーが使用可能であることを確認します。Command WorkStation を使用するコンピューターごとに、このネットワークフォルダーをアーカイブマネージャーの場所として追加します。ネットワーク管理者にアーカイブマネージャーのネットワークフォルダーをバックアップしてもらいます。

Fiery サーバーはアーカイブ済みジョブを共有できます。たとえば、Fiery サーバー#1 でアーカイブしたジョブを Fiery サーバー#2 で使用できます。サーバーのモデルとバージョンが同じ場合、アーカイブ済みジョブはジョブのプロパティすべてを保持します。アーカイブ先の Fiery サーバーのモデルやバージョンが異なる場合は、サーバーはすべての存在するラスター画像を破棄するので、印刷前にジョブを再処理する必要があります。アーカイブ先の Fiery サーバーでは、使用できないジョブのプロパティはすべて使用されません。印刷前にジョブのプロパティを確認してください。

アーカイブ済みジョブの検索

タイトル、ユーザー名、用紙サイズなど、列に表示される情報で、すべてのアーカイブ済みジョブを検索できます。

1 Command WorkStation の左上角にある**アーカイブマネージャー**をクリックします。

2 **検索**フィールドに検索条件を入力します。

最初の 50 件のジョブがアーカイブマネージャーに表示されます。さらにジョブを表示するには、>ボタンおよび>>ボタンをクリックします。

ジョブの属性をさらに表示するには、列見出しを右クリックし、列を追加します。

アーカイブ済みジョブを使用する

ジョブをアーカイブした後は、 Fiery サーバー上にあるかのようにアーカイブ済みジョブを使用できます。

1 Command WorkStation の左上角にある**アーカイブマネージャー**をクリックします。

2 **すべての場所**メニューで、**すべての場所**または特定の場所を選択します。
最大 50 件のジョブが表示されます。さらにジョブを表示するには、ジョブ一覧の右上角にある矢印を使用します。

3 ジョブを右クリックし、アーカイブ済みジョブに対して実行するアクションを選択します。

複数の Fiery サーバーが接続されている場合、ジョブ送信先の Fiery サーバーを選択することもできます。ジョブのプロパティすべてを保持するには、ジョブをアーカイブしたときに使用したのと同じ Fiery サーバーを**ソースサーバー**列から選択します。

アーカイブマネージャーの使用不可にする

- 次のいずれかを行います。

a) **編集** > **環境設定** > **アーカイブマネージャー**を選択し、**アーカイブマネージャーを使用**の選択を解除します。

b) 紹介画面で、**けっこうです**をクリックします。

移行後にアーカイブマネージャーを無効にした場合、移行済みのジョブはアーカイブマネージャーで使用された場所またはフォルダーに残ります。このアーカイブ済みジョブを使用するには、**ファイル** > **アーカイブ済みジョブのインポート**を選択し、フォルダーの場所を参照します。

アーカイブマネージャーを使用せずにジョブをアーカイブする

ジョブは、Fiery サーバーのハードディスク内、または外部のリムーバブルメディアやネットワークドライブにアーカイブできます。

アーカイブされたジョブは、**ジョブセンター**の**アーカイブ済み**キューに表示されます。

1 次のいずれかを行います。

- **待機**キューまたは**印刷済み**キューでジョブを選択し、**アーカイブ済み**キューにドラッグします。

メモ：ジョブをコンピューターから**アーカイブ済みキュー**にドラッグすることはできません。Fiery サーバー上にすでにあるジョブに限り、**アーカイブ済み**キューにドラッグできます。

- **ジョブセンター**でジョブを選択し、 **アクション** > **アーカイブ**をクリックします。
- **ジョブセンター**でジョブを右クリックし、**アーカイブ**をクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- ディレクトリリストで**デフォルト設定**を選択します。
- サムネイルとプレビューを保存することもできます（存在する場合）。

  メモ：そうすると、アーカイブ済みファイルのサイズは大きくなります。
- アーカイブ先とオプション選択画面を常に表示するように指定できます。
- 別の場所を指定するには、**追加**をクリックします。ジョブのアーカイブ先フォルダーを選択して**フォルダー選択**をクリックします。

3 OK をクリックして、ジョブをアーカイブします。

4 いつでも**サーバー**メニューから**アーカイブ設定**にアクセスしたり、**サーバー**リスト内のサーバー名の横にある詳細アイコンをクリックしたりできます。
アーカイブ先とオプション選択画面を常に表示チェックボックスが解除されている場合であっても、アーカイブ設定を編集できます。

サーバーの初期化

サーバーの初期化を使用すると、Fiery サーバーからさまざまなジョブ、ログ、およびバリアブルデータ印刷リソースを消去して、空き容量を確保できます。**サーバーの初期化**は、Command WorkStation の**サーバー**メニューから使用できます。

メモ： この操作は取り消すことができません。

ドラッグアンドドロップによるファイル管理

ドラッグアンドドロップ機能でファイルを移動します。

異なる複数の領域にファイルをドラッグアンドドロップできます。この機能を使用すると、ファイルをコンピューターから Command WorkStation に移動できます。これはファイルの管理やジョブのワークフローで簡単に使用できる機能です。

以下では、お使いのコンピューターから Command WorkStation へのドラッグアンドドロップをサポートしています。

- 待機キュー（メインウィンドウにフォーカスがあるとき）
- 処理中キュー（メインウィンドウにフォーカスがあるとき）
- サーバーリスト内の接続されている Fiery サーバーの待機キュー
- ジョブセンター上部の処理中ペイン

以下では、Command WorkStation 内でのドラッグアンドドロップをサポートしています。

- 待機キュー
- 処理中キュー
- アーカイブマネージャー
- アーカイブ済みキュー

- サーバーリスト内のサーバーの間で**送信**先コマンドを使用している場合（**アクション** > **送信**先）

  メモ：2 つの Fiery サーバーにログオンする必要があります。
- ジョブセンター上部の処理中ペイン

インク使用量の推定

Command WorkStation では、ジョブに使用されるインクのコストに加えて、インク消費量やカバレッジ率を見積もることができます。見積りは、関連付けられたラスターデータを持つ処理済みのジョブに対してのみ提供されます。

この機能は、すべての Fiery サーバーでサポートされているわけではありません。

コストやジョブに関連する列を設定する

1. システム管理者としてログインします。
2. **サーバーメニュー** > **インク見積り設定**を選択します。
   ウィンドウには、接続されているプリンターに現在インストールまたは設定されているインクだけではなく、Fiery サーバーでサポートされているすべてのインクが表示されます。
3. 通貨記号を選択します。
4. 名前の横にある編集アイコン（鉛筆）をクリックし、コストを入力します。
   コストの見積りを受けるには、値を入力する必要があります。最新のコストについては、ベンダーまでお問い合わせください。特殊インクの見積りを受け取るには、個別に支払うインクのコストのみを入力します。メンテナンス契約によるものなど、すでに含まれているインクにはゼロを入力できます。
5. OK をクリックします。
6. 関連する列をジョブセンターに追加するには、ジョブ一覧で任意の列見出しを右クリックし、該当する列（推定コスト、推定量、推定範囲）を選択します。
   推定範囲は、入力した書類サイズに基づいて決定されます。

コストを見積もる

1. ジョブ一覧の処理済みジョブを選択します。
   ジョブが処理されていない場合は、ジョブを右クリックし **処理後待機**を選択します。
   正確な見積りを得るには、ジョブの印刷時に使用するジョブプロパティ設定と同じ設定を使用する必要があります。
2. ジョブを右クリックして**インクの見積り**を選択するか、ジョブを選択して**アクション** > **インクの見積り**を選択します。
   ジョブの見積りが行われている間、待機リストのジョブタイトルの横に見積りの進行状況が表示されます。
3. 進行中の見積りをキャンセルするには、ジョブを右クリックして**コスト見積りのキャンセル**を選択するか、進行状況バーの **X** をクリックします。

4 完了した見積りを表示するには、次のいずれかを行います。

- ジョブ一覧の**推定インク**列を表示します。
- ジョブ概要ペインの下部にある**詳細**リンクをクリックします。
- ジョブを右クリックして**インク見積りの詳細**を選択します。
- **アクション** > **インク見積りの詳細**を選択します。
- 完了した印刷済みジョブの場合は、ジョブログに列を追加します。

5 インク見積もりの詳細ウィンドウの情報をコピーするには、**コピー**をクリックします。

6 インク見積もりの詳細ウィンドウの情報を.csv ファイルとして保存するには、**エクスポート**をクリックします。

メモ：より正確な結果を得られるよう、見積りと印刷の前に、メディアキャリブレーションを実施してください。

7 ジョブリスト内のすべてのジョブに対して完了した見積りを表示するには、**ファイル** > **現在のビューをエクスポート**を選択し、コンピューターにファイルを保存します。

見積り後に部数を変更する

コスト見積りが完了した後でジョブの部数を変更すると、推定コストは自動的に更新されます。

見積り後にコストまたはジョブのプロパティを変更する

見積り後にコストを変更した場合は、ジョブの再処理と再見積りが必要です。見積り後に、ジョブの再処理が必要になるような変更をジョブのプロパティ（部数を除く）に加えた場合、現在の見積りは消去されるので、新しい見積りを要求する必要があります。

推定印刷時間を表示する

ジョブを Command WorkStation にインポートした後、ジョブを印刷するために必要な時間の見積りを確認できます。見積りは概算です。

ジョブセンターで**推定印刷時間**列を追加すると、ジョブの印刷にかかる推定時間を確認できます。

1 ジョブ一覧で任意の列見出しを右クリックします。

2 **新規追加** > **その他**をクリックします。

3 **推定印刷時間**を選択します。

見積りは未処理ジョブと処理済みジョブに対して提供されますが、処理済みジョブの見積りがより正確に分析されます。

ジョブの印刷中は、印刷にかかる推定時間（HH:MM:SS（時.分.秒））が Command WorkStation ジョブセンターの印刷進行状況バーの上に表示されます。

Fiery JDF ジョブ

Fiery JDF と JMF について

Fiery JDF では、さまざまな JDF インテント要素や JDF プロセス要素をサポートしています。Command WorkStation を使用して、JDF の設定を表示したり、ジョブ処理中の用紙ミスマッチのようなエラーを解消することができます。

JDF（ジョブ定義形式）は、アプリケーション間におけるデータの受け渡しにより印刷プロダクションプロセスを自動化できるオープンスタンダードの XML ベースファイル形式です。JDF によりデータ交換が簡単になり、デジタルプロダクションが迅速化および効率化されると同時に、ジョブ詳細情報の受け渡しもすばやく行われるようになります。電子 JDF チケットは、ジョブがカスタマーの構想から完成までどのように扱われ、生産されるのかを指定します。

JDF ファイルを、個々のジョブのカスタマー仕様書を電子化したものと考えてください。たとえば、「10 ページの書類を 20#レターサイズの白色紙に白黒で 100 部両面印刷する」仕様のジョブをカスタマーが要求した場合のジョブチケットは、JDF 対応の機器で読み取り可能な標準化 XML 形式、つまり JDF チケットで表されます。

JMF（ジョブメッセージングフォーマット）は、JDF ワークフローで使用される通信プロトコルです。JMF メッセージには、イベント（開始、停止、エラー）、状況（使用可能、オフラインなど）、結果（数、消耗など）についての情報が含まれています。Fiery JDF は、JMF を使用して、JDF 送信アプリケーションと Fiery サーバー間における JDF インテントや JDF プロセスのジョブチケットの統合した双方向通信を可能にします。

JMF をサポートすることにより、Fiery サーバーは JDF ジョブの状況とプロダクションデータ（配信または印刷時刻やジョブの印刷に使用された用紙など）を JDF 送信アプリケーションにフィードバックとして送信することができます。

Fiery JDF の設定

JDF ジョブを Fiery サーバーに送信するには、Configure で Fiery JDF を有効にしておく必要があります（**ジョブ送信** > **JDF 設定**）。Fiery サーバーを設定するときに、JDF パラメータを指定できます。

- **仮想プリンターからのジョブ設定を使用**：必要に応じて仮想プリンターを選択します。
- **ジョブアクション**：**待機**、**処理後待機**、**準備完了へ送信**、**印刷キューへ送信**のいずれかを選択します。
- **JDF ジョブを上記の設定で上書きする**：JDF ジョブチケットで指定された設定を上書きします。
- **ジョブ終了**：印刷後、**自動終了**または**手動終了**を指定して JDF ジョブを終了し、送信元に返します。
- **終了に必要な項目**：終了に必要な情報を指定します。
- **共通グローバルパス**：共通リソースに対する SMB 経由のファイル検索パスを追加、編集、または除去します。

Configure で JDF の設定を指定する方法の詳細については、『Configure のヘルプ』を参照してください。

JDF 送信アプリケーションを使用可能に設定する

Fiery JDF には、JDF 送信アプリケーションをチェックして認証する有効化メカニズムが含まれています。Fiery JDF で特定の JDF 送信アプリケーションを使用可能にするには、Fiery サーバーで設定するか、または JDF 送信アプリケーションから送られた JMF（ジョブメッセージフォーマット）メッセージによって設定します。

JDF 送信アプリケーションが使用可能に設定されていない場合は、以下の表示が出て、アプリケーションからのジョブがテストおよびサポートされていないことをユーザーに警告します。

- 警告状況メッセージが Command WorkStation ジョブリスト内のジョブに表示されます。
- **JDF 詳細**ウィンドウに警告メッセージが表示されます。
- どのようにアプリケーションを認証するかの情報の JMF コメントが、JDF 送信アプリケーションに戻されます。

Fiery JDF ワークフロー

Fiery サーバーは、ジョブが処理されると、JMF（JDF のジョブメッセージフォーマット）を使用して、状況や監査情報を JDF ジョブ送信アプリケーションに返します。

JDF ジョブを Fiery サーバーに送信すると、ジョブにエラーや競合がないかがチェックされます。エラーや競合がない場合、オペレーターは Command WorkStation の**アクション**メニューから追加の印刷アクションを選択できます。または直接ジョブを印刷することもできます。

エラーが生じた場合、ジョブの**ジョブ状況**列にエラーが表示されます。

ジョブエラーウィンドウで、JDF チケットの競合を解消するか無視するかを選択できます。競合を無視した場合、ジョブは JDF 情報なしで印刷されることがあります。

Fiery サーバーを**自動終了**に設定していた場合、JDF ジョブの印刷後に、ジョブの終了を知らせるメッセージが送信アプリケーションに自動的に返されます。**手動終了**の場合、オペレーターはジョブの印刷終了後、Command WorkStation ウィンドウからジョブを閉じる必要があります。

JDF ジョブを送信する

Hot Folder フィルターを介して、または従来の JDF 送信アプリケーションで Fiery サーバーの JMF URL を使用して、JDF チケットを送信できます。

1 JDF 送信アプリケーションから Fiery サーバーにジョブを送信します。
ジョブは JMF（ジョブメッセージフォーマット）を介して送信されます。送信アプリケーションは、Fiery サーバーの JMF URL にジョブを送信します。

2 Fiery サーバーの JMF URL を以下の形式で入力します。

http://<host>:<port>（たとえば、http://192.168.1.159:8010）

Command WorkStation で JDF カラム見出しを表示する

JDF ジョブが Fiery サーバーに受信され、Command WorkStation の待機リストまたは印刷済みキューに表示されると、カラム見出しの JDF セットを選択して、JDF ジョブに関する有益な情報を表示できます。

- JDF ジョブ用の列見出しを表示するには、列見出しバーを右クリックして、**JDF セット**を選択します。

デフォルトの JDF 見出しセットが追加されます。列見出しバーを右クリックし、**新規追加** > **JDF** をクリックして追加の JDF カテゴリを表示します。

Fiery JDF ジョブと仮想プリンター

仮想プリンターは、Fiery サーバー上で定義でき、JDF チケット内で NamedFeature として参照できます。

Fiery JDF の設定で、ジョブの送信用に仮想プリンターを選択することができます。Fiery サーバー（Configure の JDF セクション）でそのように設定した場合、このジョブは仮想プリンターでのジョブ設定を使用します。JDF チケットの任意の設定は、仮想プリンターの「ロックされていない」設定を上書きします。

仮想プリンターについての詳細は、仮想プリンター（238 ページ）を参照してください。

ジョブの JDF 設定を指定する

待機キューまたは印刷済みキューから JDF ジョブを選択するときに、**JDF 設定**ウィンドウで JDF ジョブのオプションを設定できます。

- **JDF 設定**ウィンドウを開くには、右クリックして **JDF 設定**を選択するか、**アクション** > **JDF 設定**をクリックします。

JDF 設定ウィンドウでは、以下のタブが表示されます。

- **用紙**：サブストレートカタログエントリの項目の隣に JDF ジョブの用紙属性が表示されます。JDF ジョブの用紙をこのタブのサブストレートカタログエントリに手動でマッピングすることができます。JDF 送信アプリケーションを使用可能に設定する（114 ページ）を参照してください。
- **ジョブ情報**：JDF チケットの情報が表示されます。追加の MIS 詳細を入力したり、コメントを追加したりすることができます。
- **ランリスト**：JDF ジョブのコンテンツ生成に使用したカスタマー支給のファイルが表示されます。ウィンドウのファイルを追加、編集、並べ替えることができます。
- **ジョブの終了**：オペレーターが手動でジョブを終了することができます。

以下のアクションはすべてのタブで使用できます。

- **ジョブの終了**：Configure で設定したパラメーターに従って、ジョブを閉じます。
- **用紙チケットの表示**：JDF 送信アプリケーションがオリジナルのジョブチケットの可視コピーを含んでいる場合、このオプションを使用できます。
- **OK**：この設定を保存し、ウィンドウを閉じます。
- **キャンセル**：設定の変更を保存せずにウィンドウを閉じます。

ジョブ情報タブ

ジョブ情報タブは、送信されるジョブの JDF 情報を表示します。

ジョブ名、**ジョブ ID**、**用紙**フィールドは自動的に入力されます。

以下の領域は自動的に入力されますが、読み取り専用で編集はできません。

- **ジョブヘッダー**
- **スケジュール**
- **カスタマー情報**

MIS 詳細

MIS 詳細領域で、メニューから以下の各カテゴリの設定を選択できます。

- **課金可**：課金するジョブを指定します。
- **作業タイプ**：ジョブを変更すべきか、また変更の方法を指定します。
- **作業タイプ詳細**：変更の理由を指定します。**作業タイプ詳細**の値の中には、**作業タイプ**が特定の値の場合にのみ有効となるものがあります。たとえば、**作業タイプ**が**原本**の場合、**作業タイプ詳細**は無視されます。
- **動作モード**：動作モードのタイプを指定します。

コメント

コメント領域には、読み取り専用の JDF コメントが入力されていますが、**追加**ボタンをクリックし、ブランクフィールドにコメントを入力することにより、コメントを追加できます。

コメントは、**ジョブのプロパティ**ウィンドウの**ジョブ情報**タブの**ジョブ注釈メモ**領域に表示されます。

ランリストタブ

ランリストタブには、JDF ジョブ入力用のコンテンツページ（アートワーク）作成に使用する PDL ファイルの場所が表示されます。ファイルパスは、ジョブの印刷に受信した順番に表示されます。各パスは、1 つのジョブに対して 1 つのファイルタイプをサポートします。さまざまな種類のプロトコルをサポートしています。

- サポートされているプロトコル：HTTP、FTP、SMB、MIME、ローカルファイル
- サポートされているファイルタイプ：PDF、PostScript、PPML、VDP、ZIP

単一の実行リストジョブのページ数が不明で、最後の数ページを印刷したい場合は、負の数を使用してページ番号を表すことができます。Fiery JDF では、0 は最初のページ、-1 は最後のページ、-2 は最後から 2 番目のページを表します。

メモ：同一のジョブで複数のファイルタイプをサポートすることはできません。最初の項目が PDF ファイルに関連付けられている場合、そのジョブで使用するファイルはすべて PDF にしてください。

パスの追加、パス名の編集、パスの削除を行うことができます。

メモ：ランリストのジョブに必要な認証済みパスを除去することはできません。少なくとも 1 件の有効な項目がジョブに必要です。

JDF ジョブにファイル名が付いていても、Configure で定義したパスでファイルが見つからない場合、アラートアイコンが表示されます。この場合は、**編集**を選択して、正しいパスを挿入します。

ジョブの終了タブ

Configure で**手動終了**をオンにした場合、オペレーターはキャンセルされたジョブについてもジョブを終了して送信側のアプリケーションがジョブのプロダクション情報を受信できるようにする必要があります。

他のユーザーはジョブを終了することで、ジョブの実際の完了状況を記録し送信元に返すことができます。Print MIS ソリューションユーザーは、実行中のプロダクション状況を受信し、Fiery サーバーでのジョブ終了時に原価計算の監査詳細情報を受信します。

必要な情報がすべて提供されていれば、Fiery JDF ワークフローの実行途中でいつでもジョブを手動で終了することができます。

Fiery JDF 設定では、ジョブの終了方法（自動または手動）と、ジョブを終了するのに必要な情報（ある場合）を指定できます。

ジョブの終了タブには、以下のフィールドが表示されます。これらのフィールドは自動的に設定されます。

- **サブストレートカタログ**：JDF チケットで指定された用紙のリストです。使用する用紙が異なる場合は、このエントリを変更できます。
- **従業員 ID**：ユーザーが Command WorkStation へのログインに使用したログイン情報から取得します。
- **用紙製品 ID**：サブストレートカタログの**製品 ID** を指します。
- **印刷予定シート**：JDF チケットから取得します。
- **実際のシート数**：Fiery サーバーのジョブログから取得します。

用紙製品 ID、**印刷予定シート**以外のフィールドは、必要に応じて上書きできます。

サブストレートカタログに JDF ジョブの用紙を追加する

JDF チケットが送信された Fiery サーバーでは、サーバーは JDF ジョブで指定された用紙を Fiery サーバーのサブストレートカタログ内の対応するエントリに自動的にマッピングしようとします。

自動用紙マッピングが失敗した場合、JDF チケットの JDF ジョブ用紙が表示され、手動でこのジョブのサブストレートカタログの用紙エントリを選択できます。

1. JDF ジョブで使用する用紙を追加する場合は、JDF チケットから選択し、**ジョブのプロパティ**ウィンドウの**用紙**タブのサブストレートカタログに追加します。
2. **サブストレートカタログへマッピング**メニューから**サブストレートカタログへ追加/マッピング**を選択します。

サブストレートカタログに新しい用紙を追加する方法の詳細については、サブストレートカタログエントリを作成する（251 ページ）を参照してください。

JDF ジョブの用紙の競合を解決する

JDF チケットがサブストレートカタログへ自動的にマッピングできない用紙を使用している場合、Command WorkStation にはジョブのエラーが表示されます。問題を解決するには、JDF ジョブ用の用紙を既存の用紙エントリにマッピングするか新しいエントリとして追加して、JDF ジョブ用の用紙をサブストレートカタログに追加します。

1 選択した JDF ジョブを右クリックし、**JDF 設定**を選択するか、**アクション>** > **JDF 設定**をクリックします。

2 **JDF チケットの競合を解消する**を選択します。

3 **JDF 設定**ウィンドウの**用紙**タブで、**サブストレートカタログへマッピング**メニューから対応する用紙エントリを選択するか、**サブストレートカタログへ追加/マッピング**を選択し、**OK** をクリックします。

JDF ジョブ用に指定した用紙のパラメーターは、選択したサブストレートカタログ用紙エントリのパラメーターの隣に表示されます。これで、ジョブの印刷準備が完了しました。

カラーを管理する

カラー印刷オプション

カラー印刷オプションは、印刷ジョブに適用されるカラー管理の制御を行います。

Command WorkStation の**デバイスセンター** > **カラー設定** > **カラー管理**からアクセスするカラー印刷オプションは、Fiery server のデフォルトのカラー印刷設定を示します。デフォルトのカラー印刷設定は、ジョブに対してほかのカラー印刷設定が指定されていない場合に適用されます。ユーザーは、設定がロックされていなければ、ジョブのプロパティでジョブの設定を変更することでデフォルトの設定を上書きできます。

デフォルトジョブ設定の詳細は、すべてのジョブのプロパティにデフォルトを設定する（55 ページ）を参照してください。

キャリブレーション内容は印刷オプションではなく、出力プロファイルによって決定されます。表示されているキャリブレーション設定は、選択した出力プロファイルに関連付けられているキャリブレーション設定です。

カラー印刷オプションを使用した印刷の詳細については、取扱説明書の『カラー印刷』を参照してください。

Command WorkStation にはカラーワークフローの管理をサポートする各種リソースがあります。これらのカラーツールを活用するためのトレーニングビデオや資料のリンクが提供されています。これらについては、次を参照してください。

- 学習ソリューション（Learning@Fiery）
- カラー設定のベストプラクティスに関するフローチャートおよび動画

デフォルトのカラー印刷オプションを表示または編集する

ほとんどのカラー印刷オプションのデフォルト設定を表示または編集できます。
すべてのカラー印刷オプションは、1 つのウィンドウに表示されます。一番上に一般設定が配置され、その下に**カラー入力**と**カラー設定**が表示されます。**カラー設定**は、上級ユーザーのために提供されています。

1 次のいずれかの方法で、**デバイスセンター**を開きます。

- **サーバー**リストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ 3 つのドット）をクリックします。
- **サーバー**リストでサーバー名をダブルクリックします。
- **サーバー** > **デバイスセンター**をクリックします。
- サーバー名を右クリックし、**デバイスセンター**を選択します。

2 **カラー設定**で、**カラー管理**をクリックし、**デフォルト設定**をクリックします。

3 **デフォルト設定**ウィンドウの**カラー** タブで、オプションを個別に設定し、オプションをロックするか、ロック解除されたままにするかを指定します。
すべてロックまたは**すべてアンロック**を選択することもできます。

4 **OK** をクリックします。

Command WorkStation にはカラーワークフローの管理をサポートする各種のリソースがあります。これらのカラーツールを活用するためのトレーニングビデオや資料のリンクが提供されています。これらについては、次を参照してください。

- 学習ソリューション（Learning@Fiery）
- カラー設定のベストプラクティスに関するフローチャートおよび動画

カラーモード設定

カラーモード設定は、出力の色空間（CMYK など）を指定します。**カラーモード**設定を変更すると、カラー管理オプションはサーバーのデフォルト設定にリセットされます。

選択した**カラーモード**設定に応じて、ジョブ全体がグレースケール、CMYK または CMYK+で印刷されます。

メモ：CMYK の出力では、少なくとも 4 つのプロセスカラーのプレス出力を参照します。プレスまたはプリンターが RGB 出力をサポートし、CMYK 出力をサポートしていない場合、『Fiery Command WorkStation のヘルプ』の CMYK へのすべての参照は適用されません。RGB 出力だけをサポートするプレスまたはプリンターの詳細については、製品ごとの取扱説明書を参照してください。

カラーモードで可能な設定は次のとおりです。

- **グレースケール** - グレースケールまたは白黒の書類で選択します。
- **CMYK** - カラー書類で選択します。
- **CMYK+** - CMYK にプラスして 5 色目のインク/トナーを使用し、すべてのインク/トナーをプロセスカラーとして使用してカラー出力を行います。サポートされている場合は、Fiery サーバーに 1〜3 個の追加インク/トナーを使用できます。

  メモ：CMYK+は、すべての Fiery サーバーで使用できるわけではありません。

出力プロファイル

出力プロファイルプリントオプションでは、ジョブの処理に使用する出力プロファイルを指定します。印刷ジョブ内のカラーデータは、プレスの色空間に変換されます。この色空間は、出力プロファイルに記述されています。

さらに、出力プロファイルに関連付けられたキャリブレーションが、印刷前にジョブに適用されます。

Fieryserver には、デフォルトの出力プロファイルがあります。各出力プロファイルは、特定の用紙の種類のために作成されたものです。Fiery server に任意の出力プロファイルをインポートすることもできます。

ジョブ定義設定を使用

デフォルトの出力プロファイル詳細については、デフォルトのカラー出力プロファイルを設定する（121 ページ）と使用する出力プロファイルを Fiery server で決定する方法（121 ページ）を参照してください。

デバイスリンクプロファイル

指定した出力プロファイルとソースプロファイルに、CMYK から CMYK へまたは RGB から CMYK へのデバイスリンクプロファイルを使用できる場合、**選択されたデバイスリンクプロファイル**が**出力プロファイル**リストの下に表示されます。デバイスリンクプロファイルが選択されている場合は、特定のデバイスリンクプロファイル名が**ソースプロファイル**リストの下に表示されます。他のソース設定は、デバイスリンクプロファイルのワークフローとは無関係のため、使用不可になっています。

この場合、デバイスリンクプロファイルが使用されるため、選択した出力プロファイルはカラー管理に使用されません。

デバイスリンクプロファイルに関する詳細については、デバイスリンクプロファイル（122 ページ）を参照してください。

デフォルトのカラー出力プロファイルを設定する

ジョブごとに出力プロファイルを手動で選択しない場合は、出力プロファイルをデフォルトとして指定することができます。特定のジョブのデフォルト設定を上書きすることもできます。

使用する出力プロファイルは、**ジョブ定義設定を使用**に従って指定する必要があります。

サブストレートカタログを使用しないジョブの場合またはサブストレートカタログで**サーバーの初期設定**が指定されている場合：

- デバイスセンターで、**リソース** > **プロファイル**をクリックします。**出力プロファイル**で、使用する出力プロファイルを選択し、使用可能なすべての用紙種類にその出力プロファイルを関連付けます。

  メモ：出力プロファイルと用紙の関連付けは、Fiery サーバーのワークフローがサポートする場合にのみ可能です。

ジョブのプロパティ > **カラー** > **出力プロファイル**を選択して、特定のジョブのデフォルト設定を上書きすることができます。**ジョブ定義設定を使用**を選択せずに、一覧からプロファイルを選択します。Command WorkStation で**サーバー**メニューから**デフォルト設定**を選択して、特定の出力プロファイルをデフォルトとして設定することもできます。

メモ：デフォルト設定ウィンドウの**カラー**タブに表示されるデフォルトの出力プロファイルは、Fiery server で設定されたものです。そこに表示される注釈メモ（**注意：「ジョブ定義設定を使用」はプロファイルの設定で常にデフォルトで選択されています。**）は、**ジョブのプロパティ**の**出力プロファイル**メニューを指しています。

使用する出力プロファイルを Fiery server で決定する方法

Fiery server は、ジョブに使用する出力プロファイルを決定するときに、さまざまな事項を考慮します。

これらの要因は、Fiery サーバー上のサブストレートカタログの実装によって異なります。これにより、ユーザーがジョブの用紙を選択する方法が決まります。

サブストレートカタログは、次の 3 つの方法のいずれかで実装されています。

- サブストレートカタログを用紙選択に使用する必要がある
- サブストレートカタログを用紙選択に使用しなくてもよい
- サブストレートカタログを用紙選択に使用できない

メモ：サブストレートカタログの実装は、Fiery サーバーでサポートされている方法によって異なります。

Fiery server は、次のテストを実行して、使用する出力プロファイルを決定します。

1 **ジョブのプロパティ**で**出力プロファイル**は出力プロファイルの自動選択に設定されているか

2 サブストレートカタログが使用されているか

3 どの出力プロファイルがジョブの設定に最も近いか

ジョブのプロパティで出力プロファイルは出力プロファイルの自動選択に設定されているか

自動プロファイル選択の場合は、**ジョブのプロパティ**ウィンドウの**カラー**タブで**出力プロファイル**プリントオプションを**ジョブ定義設定を使用**に設定する必要があります。用紙以外の設定も考慮されているため、このオプションは、**ジョブ定義設定を使用**として表示されます。たとえば、**カラーモード**が CMYK +に設定されている場合、プロファイルを決定するときに用紙だけではなく、**カラーモード**考慮する場合もあります。

特定の出力プロファイルが選択された場合は、それが使用されます。自動選択では十分でない場合、または他のプロファイルを試す場合は、特定のプロファイルを選択します。

サブストレートカタログが使用されているか

出力プロファイルの関連付けが**サーバの初期設定**に設定されている場合、3 番目のテストが使用されます。

どの出力プロファイルがジョブの設定に最も近いか

次の手順で使用可能な出力プロファイルとジョブの設定との関連付けを確認します。デバイスセンターで、**リソース** > **プロファイル**をクリックし、**出力プロファイル**を展開します。

プリントオプションは、接続されているサーバーに依存します。たとえば、**用紙の種類**プリントオプションを使用するときと使用できないときもあります。

プロファイルのオプションは通常、同等の多数のジョブ設定とは 1 対 1 で対応しません。

たとえば、コート紙に関するオプションが**ジョブのプロパティ**に複数あっても、コート紙タイプに関連付けられている出力プロファイル設定が 1 つしかない可能性もあります。この場合、コート紙に関連付けられている出力プロファイルが、すべてのコート紙に使用されます。

用紙の種類でデフォルトで使用される出力プロファイルを変更する場合は、選択した出力プロファイルをダブルクリックし、そのプロファイルと互換性のある用紙の種類を確認します。単一の出力プロファイルを、複数の使用可能な用紙設定に指定できます。

デバイスリンクプロファイル

デバイスリンクプロファイルを印刷ジョブで選択するには、そのプロファイルが Fiery サーバーに存在することと、特定のソースプロファイルおよび出力プロファイルに関連付けられていることが必要です。

デバイスリンクプロファイルに関連付けられているソースプロファイルおよび出力プロファイルの設定を選択すると、Fiery サーバーでは通常のカラー管理が無視され、ジョブのカラーデータへのデバイスリンク変換が適用されます。ソースプロファイルおよび出力プロファイルは使用されません。

Fiery サーバー上にないプロファイルは、設定として表示されません。ソースプロファイルの設定や出力プロファイルの設定と関連付けられていないデバイスリンクプロファイルは、ジョブに対して選択できません。そのため、デバイスリンクプロファイルと関連付けられているソースプロファイルや出力プロファイルは、たとえカラー変換の計算には使用されなくても、Fiery サーバー上に存在している必要があります。

次の表に示されている**カラー入力**設定のいずれかが有効になっている場合、または指定されている場合、デバイスリンクプロファイルは無効になります。

デバイスリンクプロファイル	カラー入力設定
RGB-CMYK デバイスリンク	RGB 埋め込みプロファイルを使用
	RGB レンダリングインテント
	RGB グレーをブラックのみで印刷
CMYK-CMYK デバイスリンク	CMYK 埋め込みプロファイルを使用
	CMYK レンダリングインテント
	CMYK グレーをブラックのみで印刷
	黒点の補正

RGB ソース、CMYK ソース、グレースケールソース

RGB ソース、**CMYK ソース**および**グレースケールソース**プリントオプションを使用すると、書類の RGB データ、CMYK データ、およびグレースケールデータの色空間を定義して、Fiery サーバーで適切な色交換を行えます。

Fiery サーバーには、よく使用される色空間が提供されています。その他の色空間は、カスタムプロファイルとして Fiery サーバーにインポートできます。カスタムのグレースケールプロファイルはインポートできません。

RGB ソース

RGB ソースのプロファイルを指定した場合、Fiery サーバーは、その他のカラー管理システムで指定されている可能性があるソース色空間定義またはプロファイルを上書きします。たとえば、書類に RGB プロファイルが埋め込まれていても、**RGB ソース**設定で上書きされます。

RGB ソースプロファイルを指定すると、Fiery サーバーからの出力はプラットフォーム間で一貫性のあるものになります。**RGB ソース**には次のオプションがあります。

- **EFIRGB**：Fiery 指定のソース色空間を定義します。RGB データの詳細情報がない場合に最適です。

  メモ：EFIRGB プロファイルは、Fiery システムソフトウェア FS600/600 Pro 以前を搭載した Fiery サーバーで使用できます。

- **sRGB（PC）**：Microsoft 社および Hewlett-Packard 社推奨の色空間であり、一般的なホームおよびオフィスアプリケーション向けに定義されています。
- **Apple Standard**：従来の Mac 対応モニター用の色空間を定義します。
- **Adobe RGB（1998）**：Adobe 社が定義した色空間であり、一部のプリプレスワークフローで Adobe Photoshop 用のデフォルト作業用色空間として使用されます。
- **eciRGB v2**：ECI（ヨーロッパカラーイニシアティブ）推奨の色空間であり、広告代理店、出版社、複製業、印刷所で RGB 作業用色空間およびカラーデータ交換形式として使用されます。
- **Fiery RGB v5**：Office アプリケーションの使用時に適した Fiery 定義の色空間です。

指定されている別のソース色空間を **RGB ソース**によって上書きしない場合は、**RGB 埋め込みプロファイルを使用**オプションを選択します。

RGB 埋め込みプロファイルを使用オプションが有効になっている場合、Fiery サーバーで RGB プロファイルがある書類のオブジェクトが尊重され、プロファイルがないオブジェクトはジョブのプロパティで指定された RGB ソースプロファイルを使用してカラー管理されます。

CMYK ソース

CMYK ソースオプションには、Fiery サーバー上に存在する任意の CMYK ソースプロファイルを設定できます。

ICC プロファイルを使用して色分解された印刷イメージ内のカラーを適切に管理するには、同じプロファイルをイメージの印刷時に指定する必要があります。

CMYK ソースプロファイル設定に指定するプロファイルは、CMYK データが色分解されたときの CMYK プロファイルまたは印刷標準によって変わります。このオプションは、CMYK データのみに適用されます。

- カスタム色分解（たとえば、ICC プロファイル指定の色分解）により色分解されている画像には、**CMYK ソース**を設定した Fiery サーバーで、プリプレスワークフローの RGB-CMYK 変換で使用されているプロファイルを選択します。
- 印刷標準用に色分解されたイメージには、印刷標準を **CMYK ソース**設定として選択してください。

ジョブに埋め込み CMYK プロファイルが含まれている場合は、**CMYK 埋め込みプロファイルを使用**オプションを選択します。埋め込みプロファイルは CMYK データに適用されます。

CMYK ソースオプションには、Fiery サーバー上に存在する任意の CMYK ソースプロファイルを設定できます。

ジョブの CMYK データを出力カラー色空間に変換しない場合は、次の設定のいずれかを選択できます。

- **変換を省略**：これらの設定では、ジョブのオリジナルの CMYK データが変換なしにプレスに送信されますが、キャリブレーションは適用されます。
- **ColorWise オフ**：この設定では、キャリブレーションの適用も CMYK データへの変換も行われることなく、ジョブのオリジナル CMYK データがプレスに送信されます。ただし、CMYK データはインク/トナー総量の制限の影響を受けます。

  ColorWise オフ設定は特定のジョブで使用できますが、Fiery サーバーでのデフォルト設定にはできません。この設定は特定のジョブでのみ選択してください。

  メモ：ColorWise オフ設定で印刷する場合は、アプリケーションで選択するオプションによって CMYK データが変更されないようにしてください。**ColorWise オフ**設定で印刷する場合は、アプリケーションでカラー管理を使用しないように設定する必要があります。

グレースケールソース

Fiery サーバーでは、デバイスグレーのジョブと ICC ベースグレースケールのジョブをそれぞれの色変換によって個別に処理できます。

グレースケールソースプロファイル設定は、ソースプロファイルから出力プロファイルへのカラー変換に使用するため、出荷時にインストールされたグレースケールプロファイルを提供します。任意のグレースケール ICC プロファイルをインポートすることはできません。

書類のグレースケールオブジェクトに関連付けられた埋め込みプロファイルがジョブに含まれている場合は、**グレー埋め込みプロファイルを使用**オプションを選択します。

グレースケールソースオプションには、Fiery サーバー上に存在する出荷時にインストール済みの任意のグレースケールソースプロファイルを設定できます。

ジョブ内のグレースケールデータを出力色空間に変換しない場合は、**変換を省略**設定を選択すると、ジョブのオリジナルグレースケールデータを変換せずにプレスに送信できますが、キャリブレーションは適用されます。

RGB、CMYK、グレー埋め込みプロファイルを使用する

Fiery server で、プリント設定で指定されているソースプロファイルではなく、印刷ジョブに埋め込まれているソースプロファイル（RGB、CMYK またはグレースケール）を使用するかどうかを指定できます。

RGB

RGB 埋め込みプロファイルを使用オプションを選択した場合、Fiery サーバーは RGB プロファイルがあるオブジェクトは埋め込み RGB プロファイルを使用し、RGB プロファイルがない RGB オブジェクトには RGB ソースプロファイルを使用します。このオプションの選択を解除すると、Fiery サーバーは、**RGB ソース**オプションで指定されたプロファイルを使用します。

CMYK

CMYK 埋め込みプロファイルを使用オプションを選択した場合、Fiery サーバーは CMYK プロファイルがあるオブジェクトは埋め込み CMYK プロファイルを使用し、CMYK プロファイルがない CMYK オブジェクトには CMYK ソースプロファイルを使用します。このオプションの選択を解除すると、Fiery サーバーは、**CMYK ソース**オプションで指定されたプロファイルを使用します。

グレー

グレー埋め込みプロファイルを使用オプションを選択した場合、Fiery サーバーはグレープロファイルがあるオブジェクトは埋め込みグレープロファイルを使用し、グレープロファイルがないグレーオブジェクトにはソースグレープロファイルを使用します。

黒点の補正

黒点の補正オプションを使用して、CMYK ソースカラーのシャドウ部分の出力濃度を調整できます。

黒点の補正は、ソースプロファイルの最も暗い部分が出力プロファイルの最も暗い部分にマッピングされるように、ソースカラーをスケーリングすることによって機能します。CMYK ソース色空間がプレスの色域より広い場合にシャドウの細部を強調するには、**黒点の補正**を使用します。プルーフのアプリケーションにおいて、CMYK ソース色空間がプレスの色域より狭い場合にはこのオプションを使用しないでください。

メモ：RGB ソースカラーの場合は、相対カラーメトリックに黒点の補正が常に適用されます。黒点の補正は、絶対カラーメトリックには適用されません。連続調では純色とシャドウ詳細が出力デバイスのカラー表現能力に合わせて調整されているので、黒点の補正は不要です。

CMYK レンダリングインテント

CMYK レンダリングインテントオプションでは、CMYK 入力データを出力色空間の使用可能な色域に変換する方法を指定します。印刷するカラー画像の種類に応じて、この変換を最適化することができます。

Fiery サーバーは、第 5 のレンダリングインテントである純原色もサポートしています。

メモ：色調の再現性の問題が生じた場合は、**連続調**設定を使用してください。

レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
連続調 - 色域外のカラーを印刷する場合は、通常、ビジネスグラフィックレンダリングよりも彩度の低い出力となります。この方法では、画像の色調関係が保持され、ソースのグレースケール色調範囲が、出力デバイスで使用可能な色調範囲に拡大/縮小されます。	写真画像（ストック写真からのスキャン画像やデジタルカメラの画像を含む）	画像、コントラスト、知覚
ビジネスグラフィック - 鮮やかな彩度の高いカラーを作成しますが、出力カラーとモニター表示カラーを正しくマッチさせるものではありません。肌の色合いなどの色域内の色は適切にレンダリングされます。この方法は、連続調レンダリングインテントと類似して、グレースケールコンテンツのコントラストを大きくするために使用できます。	プレゼンテーション用のアートワークやグラフ。この方法は、プレゼンテーションで使用するグラフィックや写真等が混在しているページに使用されます。	彩度、グラフィック
相対カラーメトリック - ソース白色点とターゲット白色点の間の色変換を定義します。たとえば、モニター上で青みがかった色に見える白色（グレー）は、紙地の白色に置き換えられて出力されます。この方法では、空白の部分と白いオブジェクト間に目に見える境界が発生しません。**相対カラーメトリック**は、グレースケールのデフォルトのレンダリングインテントで、グレーの外観を維持するのに最適です。	カラーのマッチングが重要であるが、書類の白色を紙地の白色として出力する場合の高度な方法です。この方法は、シミュレーションの目的で CMYK データに影響を及ぼすために PostScript カラー管理でも使用されることがあります。	相対カラーメトリック

レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
絶対カラーメトリック - ソース白色点とターゲット白色点の間の色変換は定義されません。たとえば、青みがかった色に見える白色（グレー）は、紙地の白色に置き換えられません。この方法では、ハイライトやシャドウの細部で色域は一部切れて表示されることがあります。	正確なカラーが要求され、境界がはっきりしても問題ない場合に使用します。この方法は、シミュレーションの目的で CMYK データに影響を及ぼすために PostScript カラー管理でも使用されることがあります。 **CMYK レンダリングインテント**を**絶対カラーメトリック**に設定すると、用紙の白色の領域が印刷されないことではなく、CMYK 値を使用して用紙の白色がシミュレートされます。	絶対カラーメトリック
純原色：インク/トナーを混ぜ合わせない。カラー機能の異なる画像システムの間で特定の色の見え方を一致させるためにカラー管理で行われるインク/トナーの混合を行わないようにします。	Fiery サーバーがこの設定をサポートしている場合、「純原色」では、単一インク/トナー入力のみが純出力インク/トナーを使用してレンダリングされます。2 つの入力インク/トナーの組み合わせは、通常 2 つのカラーのみで印刷されますが、指定のソースプロファイルと出力プロファイルにより異なります。	純原色

グレースケールレンダリングインテント

グレースケールレンダリングインテントオプションで、グレースケール入力データを出力色空間で使用可能な色域に変換する方法を指定できます。印刷するグレーオブジェクトの種類に応じて、この変換を最適化することができます。

グレースケールのテキスト、グラフィック、および画像の見え方を制御するには、適切なレンダリングインテントを選択します。Fiery server では、現在業界標準の ICC プロファイルにある 4 つのレンダリングインテントから選択することができます。

メモ：色調の再現性の問題が生じた場合は、**連続調**設定を使用してください。

レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
連続調 - 色域圧縮を実行する際に、画像のさまざまなカラー間の関係を保持します。	特に小さな色域プレス空間に変換する時の、高色域連続調画像。通常、グレースケールの画像には必要ありません。	知覚
プレゼンテーション - 色域圧縮を実行するときに、色の彩度が向上します。	プレゼンテーション用のベクトルアートワークとグラフィックに最適です。通常、グレースケールのソースレンダリングには使用されません。	彩度

レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
相対カラーメトリック ：色域外圧縮を実行するときにのみ、色域内カラーを保持し、色域外カラーを再マッピングします。ソースの白色点を対象の白色点にマッピングします。（用紙シミュレーションなし）	正確なベクトルアートとロゴのカラーマッチングを実現します。グレースケールのソースレンダリングに最適です。	相対カラーメトリック
絶対カラーメトリック：色域外圧縮を実行するときにのみ、色域内カラーを保持し、色域外カラーを再マッピングします。ソースの白色点を対象白色点にマッピングされません（用紙シミュレーション）。	校正ジョブに最適です。通常、グレースケールのソースレンダリングには使用されません。	絶対カラーメトリック

RGB レンダリングインテント

RGB レンダリングインテントオプションは、RGB 入力データを出力の色空間で利用可能な色域に変換する方法を指定します。印刷するカラー画像の種類に応じて、この変換を最適化することができます。

アートワークの画像や Adobe Photoshop からの RGB 写真画像などの見せ方を制御するには、各画像に適したレンダリングインテントを選択する必要があります。Fiery server では、現在業界標準の ICC プロファイルにある 4 つのレンダリングインテントから選択することができます。

メモ：色調の再現性の問題が生じた場合は、**連続調**設定を使用してください。

レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
連続調 - 色域外のカラーを印刷する場合は、通常、ビジネスグラフィックレンダリングよりも彩度の低い出力となります。画像の正しい色よりも色調関係の保持を優先させます。	写真画像（写真やデジタルカメラからのスキャン画像を含む）に使用します。	イメージ、コントラスト、知覚
ビジネスグラフィック - 鮮やかな彩度の高いカラーを作成しますが、出力カラーとモニター表示カラーを正しくマッチさせるものではありません。肌の色合いなどの色域内の色は適切にレンダリングされます。この方法は、連続調レンダリングインテントと類似しています。	プレゼンテーション用のアートワークやグラフに最適です。この方法は、プレゼンテーションで使用するグラフィックや写真等が混在しているページに使用されます。	彩度、グラフィック

レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
相対カラーメトリック - ソース白色点とターゲット白色点の間の色変換を定義します。たとえば、モニター上で青みがかった色に見える白色（灰色）は、紙地の白色に置き換えられて出力されます。この方法では、空白の部分と白いオブジェクト間に目に見える境界が発生しません。	カラーのマッチングが重要であるときに、書類の白色を紙地の白色として出力したい場合があります。この方法は、シミュレーションの目的で CMYK データまたは RGB データに影響を及ぼすために PostScript カラー管理でも使用されることがあります。	相対カラーメトリック
絶対カラーメトリック - ソース白色点とターゲット白色点の間の色変換は定義されません。たとえば、青みがかった色に見える白色（灰色）は、紙地の白色に置き換えられません。	正確なカラーが要求され、境界がはっきりしても問題ない場合に使用します。この方法は、シミュレーションの目的で CMYK データまたは RGB データに影響を及ぼすために PostScript カラー管理でも使用されることがあります。	絶対カラーメトリック

RGB/CMYK グレーをブラックのみで印刷

RGB グレーをブラックのみで印刷オプションをオンに設定すると、R、G、B の値の等しい RGB カラーはすべて、CMYK ブラックではなく、K のみのブラックで印刷されます。同様に、**CMYK グレーをブラックのみで印刷**をオンに設定すると、C、M、Y が 0 で、K が任意の値の CMYK カラーは、CMYK ブラックではなく、K のみのブラックで印刷されます。

RGB グレーをブラックのみで印刷または **CMYK グレーをブラックのみで印刷** は、**テキスト/グラフィック**か**テキスト/グラフィック/画像**のどちらかについてオンに設定できます。「グラフィック」とはベクトルグラフィックを指します。「画像」とはビットマップ画像を指します。

メモ：テキスト/グラフィックまたは**テキスト/グラフィック/画像**オプションを使用し、グレースケールソースプロファイルについて**グレーをブラックのみで印刷する**をオンに設定することもできます。

次の制限が適用されます。

- **RGB グレーをブラックのみで印刷**オプションと **CMYK グレーをブラックのみで印刷**オプションは、事前に色分解されたジョブには影響を及ぼしません。
- **CMYK レンダリングインテント**が**純原色**に設定されている場合、**CMYK グレーをブラックのみで印刷**は出力に影響を及ぼしません。
- **RGB/Lab を CMYK ソースに分解**を選択する場合、**RGB グレーをブラックのみで印刷**は**オフ**にする必要があります。同様に、**RGB グレーをブラックのみで印刷**で**テキスト/グラフィック**または**テキスト/グラフィック/画像**オプションを選択する場合は、**RGB/Lab を CMYK ソースに分解**チェックボックスをオフにする必要があります。
- **ブラックテキスト/グラフィック**を**純ブラック-オン**または**リッチブラック-オン**に設定する場合、100%ブラックのテキスト/グラフィックには、**RGB グレーをブラックのみで印刷**および **CMYK グレーをブラックのみで印刷**の設定よりブラックテキスト/グラフィックでの設定が優先されます。
- スポットカラーとしてグレーが指定されている場合、そのグレーには **RGB グレーをブラックのみで印刷**および **CMYK グレーをブラックのみで印刷**は適用されません。

RGB/Lab を CMYK ソースに分解

RGB/Lab を CMYK ソースに分解オプションは、RGB カラー（および L*a*b*などのデバイスに依存しないカラースペース）を CMYK ソースに管理します。

- **RGB/Lab を CMYK ソースに分解**を選択すると、Fiery サーバーはドキュメント内の元の RGB カラーを**ジョブのプロパティ**で選択されているソース CMYK プロファイルに変換し、その後、**出力プロファイル**の印刷オプションでの定義に従って、プレスの出力プロファイルに変換します。RGB カラーを CMYK ソースと出力色空間に変換する色再現は、RGB コンテンツをその CMYK ソースプロファイルに変換するのと類似しています。

  たとえば、Fiery サーバーで RGB カラーを CMYK ソースに変換して色再現を行うのは、Adobe Photoshop で RGB イメージを CMYK プロファイルに変換するのと類似しています。**RGB/Lab を CMYK ソースに分解**のもう一つの便利なテクニックは、別のプレス用の高品質の ICC プロファイルを取り使用して、高品質 ICC プロファイルを Fiery サーバーのソースの CMYK プロファイルとして定義し、他のプレスで RGB カラーの色の出方をシミュレーションすることです。

  この機能は、すべての色空間が出力色空間に変換される前に CMYK ソースに変換される PDF/X ワークフローでも使用されます。これらのワークフローでは、文書内の CMYK コンテンツとの色の一致を実現するために、デバイスに依存する色（RGB またはグレースケール）とデバイスに依存しない色（ICC または L*a*b*）が必要になります。PDF/X-4 の登場により、PDF/X 文書内で透明効果が利用可能となり、透過効果のあるデザインに含まれる CMYK のオーバープリントにも対応できるようになりました。透明効果をレンダリングするには、希望する外観を実現するために複雑な処理ポリシーが必要になるため、**RGB/Lab を CMYK ソースに分解**プリントオプションを選択することが、透明効果をレンダリングするための最良の方法です。

- **CMYK ソースと RGB/Lab を分離**チェックボックスをオフにすると、Fiery サーバーはすべての RGB カラーをその出力プロファイルで管理します。このワークフローは、出力デバイスの全色域で RGB カラーをレンダリングするので、プリンターで達成可能な最も鮮やかな色を必要とする場合に最適です。

スポットカラーマッチング

スポットカラーマッチングオプションを使用すると、ジョブ内のスポットカラーを最良の CMYK 値に自動的にマッチングします。

- **スポットカラーマッチング**を有効にすると、Fiery サーバーは、内蔵の表を使用して、複写機で出力可能なスポットカラーに最も近い CMYK マッチを生成します。（Fiery サーバーに出力プロファイルを追加した場合は、その出力プロファイル用の新しい変換テーブルが自動的に作成されます。）

  Fiery Spot-On を使用すると、Fiery サーバーは Command WorkStation スポットカラーで決定された CMYK 値を使用します。

- **スポットカラーグループを使用**メニューを使用すると、Fiery サーバーがファイルの処理中に最初にスポットカラー定義を検索するスポットカラーグループを選択できます。**Spot Pro** で新しいスポットカラーグループを作成した場合、新しいグループが**スポットグループを使用**メニューに追加されます。スポットカラーが選択したリストにない場合、Fiery サーバーは一致するスポットカラー名を他のすべてのスポットカラーグループで探します。スポットカラー名が存在しなければ、そのスポットカラーは書類内で代替カラーを使用して表示されます。

- **スポットカラーマッチング**のチェックボックスにチェックが入っていない場合、Fiery サーバーはスポットカラーを CMYK データとして処理し、書類の代替色空間を使用します。デフォルトでは、ほとんどのアプリケーションで、Pantone などのスポットカラーメーカーが定義した CMYK に相当する値が使われます。これらの CMYK 値は、スポットカラーライブラリを提供しているアプリケーションで使用されている CMYK 値と同じものです。

スポットカラーを含むジョブは、オフセット印刷のシミュレーションを行う場合を除き、**スポットカラーマッチング**をオンに設定して印刷してください。この場合は、**スポットカラーマッチング**をオフに設定し、適切な**CMYK ソース**設定を選択します。

内蔵の色分解表で定義されていないスポットカラーを含む PDF ジョブや PostScript ジョブの場合、**スポットカラーマッチング**をオンにすると、代替色空間が使用されます。Fiery サーバーでは、内蔵の色分解表をもとにオリジナルのスポットカラーに最も近い CMYK 値が生成されます。

メモ：スポットカラーマッチングは、コンポジット印刷でのみ使用し、分版の印刷には使用しません。

スポットカラーオーバープリント

スポットカラーオーバープリントオプションは、2 つ以上のカラーを重ねて印刷する際に、スポットカラーがどのように処理されるかを定義します。

通常、2 つの異なる色のオブジェクトが重なる場合は、ノックアウト効果が作成されています。これらは互いの上に印刷されません。あるインク層を、別のトナー層またはインク層の上に意図的に印刷することをオーバープリントといいます。オーバープリント設定は、2 つ以上のカラーを重ねて印刷する際に、スポットカラーがどのように処理されるかを定義します。

オーバープリント設定値を高くすると、出力結果が濃くなります。たとえば、オーバープリント値が 100%の場合は、カラーが相互に完全に重なり合うことを意味します。オーバープリント設定値を低くすると、出力結果が明るくなります。これはカラーの不透明度が高くなり、他のカラーの一部を隠すためです。

スポットカラーのオーバープリント設定では、背景色または他のスポットカラーの上にスポットカラーを重ねるさまざまな方法を指定します。スポットカラーのオーバープリントに指定された設定は、オーバープリント動作を定義します。

以下の方法を使用できます。

- **標準**：標準設定では、 2 つのスポットカラーまたはプロセスカラーを使用したスポットカラーのオーバープリントの結果として得られる色を計算する、最も一般的な方法である CMYK 追加機能が使用されます。最終的なチャンネル値は、チャンネルごとの背景色とスポットカラーの値の加算の結果です。
- **鮮明**：鮮明設定では、L*a*b*または XYZ 色空間のオーバープリント計算を使用し、出力デバイスの実際のカラープロファイルに基づいて数値カラー値を使用します。より正確で、標準設定で見られる典型的なクランプエラーを回避します。
- **ナチュラル**：ナチュラル設定では、書類の作成時にスポットカラーチャンネルをプロセスカラーに結合できます。この方法では、すべてのチャンネルが RGB に変換され、R、G、B の各コンポーネントが RGB 値に乗算されます。

ブラックテキスト/グラフィック

ブラックテキスト/グラフィックオプションでの設定は、ブラックのテキストおよびベクトルグラフィックに適用されます。このオプションを**純ブラック-オン**に設定すると、アプリケーションによって生成されるブラック（たとえば、RGB=0, 0, 0 または CMYK=0%, 0%, 0%, 100%）はブラックのみを使用して印刷されます。

ブラックテキスト/グラフィックを**純ブラック-オン**に設定している場合は、ブラックのインク/トナーのみを使用するため、ブラックのテキストおよびラインアートで印刷ずれが生じることはありません。また、この設定では好ましくないブラスティング効果も回避できます。これは、特定の用紙へのインク/トナーの量が多すぎるために印刷オブジェクトの境界線をはみ出してしまう問題です。

ジョブによっては、**ブラックテキスト/グラフィック**を**普通**に設定することがベストプラクティスとされています。たとえば、ブラックを使用したグラデーション塗りつぶしがジョブに含まれている場合は、**普通**の設定によって最適な結果が得られます。

ブラックオーバープリント（純ブラック）を**テキスト**または**テキスト/グラフィック**に設定している場合は、**ブラックテキスト/グラフィック**を**純ブラック-オン**または**リッチブラックを純ブラックに変換**に設定する必要があります。

メモ：ブラックテキスト/グラフィックオプションは、コンポジット印刷でのみ使用します。**ブラックテキスト/グラフィック**オプションは、分版の出力でのみ使用します。

次の表に、異なる色空間で定義されたブラックデータによる**ブラックテキスト/グラフィック**オプションの動作を示します。

カラー	ブラックテキスト/グラフィック：普通	ブラックテキスト/グラフィック：純ブラック-オンまたはリッチブラック-オン
RGB=0,0,0（その他すべての RGB 値は**ブラックテキスト/グラフィック**設定の影響を受けません）	出力プロファイル内の RGB=0,0,0 の定義に従って印刷されます。出力プロファイルでリッチブラックが指定されている場合はリッチブラック（複数のインク/トナーを使用したブラック）になり、出力プロファイルで RGB=0,0,0 に対してブラックのみが指定されている場合はブラックのみになります。出力はキャリブレーションの影響を受けます。	**純ブラック-オン**の場合はブラックのみで、**リッチブラック-オン**の場合はブラックおよびシアンを使用して、ブラック 100%、シアン 50%で印刷されます。

カラー	ブラックテキスト/グラフィック：普通	ブラックテキスト/グラフィック：純ブラック-オンまたはリッチブラック-オン
CMYK=0%, 0%, 0%, 100%（その他すべての CMYK 値は**ブラックテキスト/グラフィック**設定の影響を受けません）	**CMYK ソース**と **CMYK レンダリングインテント**の設定に応じて、ブラックのみまたは、すべてのインク/トナーを使用したリッチブラックとして印刷されます。 **CMYK レンダリングインテント**を**純原色**に設定している場合は、CMYK=0%,0%,0%,100%で定義されたブラックがブラックのインク/トナーのみで印刷され、ブラックの量は **CMYK ソース**プロファイルとキャリブレーションにより制限されます。 **CMYK ソース**を**変換を省略**に設定している場合、CMYK=0%,0%,0%,100%で定義されたブラックがブラックのインク/トナーのみで印刷され、ブラックの量は **CMYK ソース**プロファイルとキャリブレーションにより制限されます。 **CMYK レンダリングインテント**が**相対カラーメトリック**に設定されている場合、CMYK=0%,0%,0%,100%は、出力プロファイルに従ってすべてのインク/トナーを使用したリッチブラックとして印刷されます。出力はキャリブレーションの影響を受けます。 **メモ：CMYK ソース**を **ColorWise オフ**に設定すると、CMYK ソースプロファイルおよびキャリブレーションは適用されなくなります。この場合、ブラックはキャリブレーションによる制限を受けません。	**CMYK ソース**と **CMYK レンダリングインテント**の設定にかかわらず、**純ブラック-オン**の場合はブラックのみで、**リッチブラック-オン**の場合は、ブラックおよびシアンを使用して、ブラック 100%、シアン 50%で印刷されます。
スポットカラー（**ブラックテキスト/グラフィック**設定の影響を受けません）	標準のスポットカラー処理	標準のスポットカラー処理

メモ：

PostScript アプリケーションのなかには、印刷ジョブを Fiery サーバーに送る前に、RGB=0, 0, 0 で定義されたブラックを 4 色の CMYK ブラックに変換するものがあります。これらのブラックは、**ブラックテキスト/グラフィック**オプションの影響を受けません。

オーバープリント（純ブラック）

オーバープリント（純ブラック）オプションでは、RGB=0, 0, 0 または CMYK=0%, 0%, 0%, 100%で定義されたブラックのテキストのみまたはブラックテキストとベクトルグラフィックを、カラーの背景上にオーバープリント（重ね出力）するかどうかを指定します。このオプションをオフにすると、ブラックのテキストまたはブラックテキストとグラフィックのカラーの背景はノックアウト（くり抜き）されて出力されます。ノックアウトの場合は、カラーの版ずれによってオブジェクトの周りに空白や白い境界線が表示されることがあります。

メモ：オーバープリント（純ブラック）は、**ブラックテキスト/グラフィック**が**純ブラック-オン**に設定されている場合のみ選択できます。

オーバープリント（純ブラック）オプションには、次の設定があります。

- **テキスト** - ブラックのテキストはカラーの背景上に重ねて出力されます。これにより、ブラックテキストと背景の間の隙間や版ずれの問題を回避できます。
- **テキスト/グラフィック** - ブラックのテキストとグラフィックはカラーの背景上に重ねて出力されます。これにより、ブラックテキストと背景の間の隙間や版ずれの問題を回避できます。
- **ノックアウト** - ブラックのテキストとグラフィックのカラーの背景部分はノックアウト（くり抜き）されて出力されます。
- **オフ** - ブラックのテキストとグラフィックは書類の設定に応じます。

メモ：PostScript アプリケーションによっては、印刷前に独自のオーバープリント変換が実行されることがあります。

この設定の使用方法の例として、ブラックのテキストを淡いブルーの背景に表示するページを取り上げます。ブルーの背景は CMYK=40%, 30%, 0%, 0%です。ブラックのテキストは CMYK=0%, 0%, 0%, 100%です。

- **オーバープリント（純ブラック）**を**テキスト**または**テキスト/グラフィック**に設定すると、ページの最終的なテキストまたはグラフィックの部分がオーバープリントされます（または背景色と組み合わされます）。
- **ブラックオーバープリント（純ブラック）**を**ノックアウト**に設定すると、ブラックのテキストやグラフィックの境界線は、一方の側（テキストまたはグラフィックの外側）にシアンおよびマゼンタ、もう一方の側（テキストまたはグラフィックの内側）にブラックが使用されます。このため、プレスの限界により、版ずれが起きてしまうことがあります。
- **ブラックオーバープリント(純ブラック用)**を**オフ**に設定すると、ページの最後のテキストまたはグラフィック部分は、書類の設定に応じます。

メモ：CMYK が 0%, 0%, 0%, 100%でない場合、CMYK 各要素の再現は **CMYK ソース**の設定とキャリブレーションの影響を受けます。

プロファイル

Command WorkStation の Profile Manager では、Fiery サーバー上の ICC プロファイルを管理できます。Profile Manager の Color Editor では、既存の CMYK プロファイルからカスタムプロファイルを作成したり、AutoGray 機能を使用して出力プロファイルのグレーバランスを調整したりできます。

Fiery サーバーでは、カラー管理で次の種類のプロファイルを使用します。

- RGB ソースプロファイルは、印刷ジョブの RGB（および L*a*b）カラーのソース色空間を定義します。通常、RGB プロファイルを使用しているデバイスは、モニター、スキャナー、デジタルカメラなどです。Fiery サーバーでは、RGB ソースプロファイルを使用して印刷ジョブの RGB 色をプリンターの CMYK 色空間に正確に変換できます。
- CMYK ソースプロファイルは、印刷ジョブの CMYK カラーのソース色空間を定義します。通常、CMYK プロファイルを使用しているデバイスは、印刷機、デジタルプリンターなどです。Fiery サーバーでは、CMYK ソースプロファイルを使用して印刷ジョブの CMYK 色をプリンターの CMYK 色空間に正確に変換できます。

- グレースケールソースプロファイルは、印刷ジョブのグレースケール色のソース色空間を定義します。通常、グレースケールプロファイルを使用しているデバイスは、印刷機およびデジタルプリンターです。Fiery サーバーでは、グレースケールソースプロファイルを使用して印刷ジョブのグレースケールカラーをプリンターのグレースケール色空間に正確に変換できます。
- 出力プロファイルは、特定の種類の用紙に印刷する場合のプリンターの色特性を記述します。出力プロファイルには、プリンターの期待されるカラー出力濃度を記述するキャリブレーションが関連付けられます。Fiery サーバーは、出力プロファイルとその関連するキャリブレーションを、印刷ジョブのすべてのカラーデータに適用します。
- デバイスリンクプロファイルは、特定のソース色空間から出力色空間への変換を記述します。デバイスリンクプロファイルが変換元デバイスから変換先デバイスへの完全な変換を定義するため、Fiery サーバーは変換の計算を行いません。

  Fiery サーバーは 2 種類のデバイスリンクプロファイルをサポートします。RGB ソースから CMYK 出力先と CMYK ソースから CMYK 出力先への変換です。

  デバイスリンクプロファイルは、ソースプロファイルの設定や**出力プロファイル**の設定と関連づけられている必要があります。そうでない場合、ジョブに対してデバイスリンクプロファイルを選択できません。

プロファイルプロパティを表示する

Command WorkStation の Profile Manager には、Fiery サーバー上のプロファイルに関する情報（デバイスや用紙タイプなど）が表示されます。

プロファイル名の左側にあるチェックマークは、このプロファイルが工場出荷時のデフォルトプロファイルであることを示しています。たとえば、**RGB ソースプロファイル**の sRGB（PC）プロファイルの横にあるチェックマークは、**sRGB（PC）**が **RGB ソース**オプションのデフォルト設定であることを意味しています。デフォルトプロファイルは、**カラー管理**ウィンドウで変更できます。

プロファイル名の左側にあるロックアイコンは、このプロファイルは工場出荷時にインストールされたもので、編集または削除できないことを示しています。

1 デバイスセンターの**リソース**で**プロファイル**をクリックします。

2 **Profile Manager** で、プロファイルをクリックして選択します。

Profile Manager には、選択したプロファイルのプロパティがウィンドウの右側に表示されます。

プロファイルの色の範囲を比較する

使用するコンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合、Fiery Profile Inspector を使用して 2 つのプロファイルの色の範囲を比較できます。Profile Inspector には、色の範囲が 3 次元モデルで表示され、2 つの色の範囲で重なりのある色とそうでない色を確認できます。たとえば、プロファイルによっては他のものより青の色相が広い場合があります。

1 デバイスセンターの**リソース** > **プロファイル**をクリックし、プロファイルを選択します。

2 **Ctrl** キーを押しながら、もう 1 つのプロファイルを選択します（両方のプロファイルが選択状態になります）。

3 いずれかのプロファイルを右クリックして**プロファイルを比較**を選択します。

Profile Inspector が別のウィンドウで開きます。Profile Inspector のヘルプアイコンをクリックすると、詳細な情報が表示されます。

プロファイルをインポートまたはエクスポートする

Command WorkStation の Profile Manager を使用すると、プロファイルを Fiery サーバーにインポートして、Fiery サーバー上のジョブの印刷に使用することができます。誤ってカスタムプロファイルを削除しないように、エクスポート機能を使用してプロファイルをバックアップしておいてください。

プロファイルを使用コンピューターにエクスポートして、Adobe Photoshop など ICC 対応のアプリケーションで使用することもできます。

プロファイルをインポートする

ソースプロファイル（RGB または CMYK）、出力プロファイル、またはデバイスリンクプロファイルを Fiery サーバーにインポートすることができます。グレースケールのプロファイルは、インポートできません。

メモ：Windows の場合は、プロファイルのファイル名に拡張子.icc または.icm が付いていないと、インポート用に選択できません。macOS の場合は、プロファイルのファイルの種類が「profile」である必要があります。

1 デバイスセンターで、**リソース** > **プロファイル**をクリックし、次に**インポート**をクリックします。

2 **場所**リストでフォルダーを選択します。

3 インポートするプロファイルの場所を参照します。

4 プロファイルを選択し、**開く**をクリックします。

5 プロファイル設定ウィンドウが表示されたら、このプロファイル用の設定を選択し、**OK** をクリックします。
インポートしたプロファイルが、Fiery サーバーにすでにあるプロファイルの置き換えではなく、新規のプロファイルである場合、プロファイル設定を行います。

プロファイルをエクスポートする

プロファイルを Fiery サーバーからエクスポートして、バックアップ手段としたり、Adobe Photoshop などの ICC 対応アプリケーションで使用したりすることができます。

1 デバイスセンターで、**リソース** > **プロファイル**をクリックします。

2 プロファイルを選択し、**エクスポート**をクリックします。

3 コンピューター上の保存先を指定し、**フォルダ選択**をクリックします。

プロファイルを作成または削除する

Command WorkStation の Profile Manager では、新しい出力プロファイルやデバイスリンクプロファイルを作成できます。

新しいプロファイルを作成するには、コンピューターに Fiery Color Profiler Suite をインストールする必要があります。

出力プロファイルを作成する

使用しているコンピューターに Fiery Color Profiler Suite をインストールすると、Fiery Printer Profiler を使用して出力プロファイルを作成できます。

メモ：既存の出力プロファイルを Color Editor で編集して別名で保存することによって、出力プロファイルを作成することもできます。

Fiery Printer Profiler は、Command WorkStation の Profile Manager から起動できます。

1 デバイスセンターで、**リソース** > **プロファイル**をクリックします。

2 **新規**をクリックし、**出力プロファイル**を選択します。

Fiery Printer Profiler が別のウィンドウで開きます。詳細は、『Fiery Color Profiler Suite のヘルプ』を参照してください。

メモ：新しいキャリブレーション設定を作成した後、Command WorkStation の Calibrator からも Fiery Printer Profiler を起動できます。

デバイスリンクプロファイルの作成

使用しているコンピューターに Fiery Color Profiler Suite をインストールすると、Fiery Optimizer を使用してデバイスリンクプロファイルを作成できます。
Fiery Optimizer は、Command WorkStation の Profile Manager から起動できます。

1 デバイスセンターで、**プロファイル** > **リソース**をクリックします。

2 **新規**をクリックし、**デバイスリンク**を選択します。

Fiery Optimizer が別のウィンドウで開きます。詳細は、『Fiery Color Profiler Suite のヘルプ』を参照してください。

プロファイルを削除する

不要になったプロファイルを削除できます。プロファイルを削除すると、Fiery サーバー上のディスク領域を解放できます。ロックアイコンの付いたプロファイルを削除することはできません。

1 デバイスセンターで、**リソース** > **プロファイル**をクリックします。

2 プロファイルを選択し、**設定**をクリックします。

3 **削除**をクリックし、確認のために**はい**をクリックします。

プロファイル設定を編集する

プロファイル設定は、Fiery サーバーのプロファイル使用方法を決定する属性です。たとえば、説明や用紙の種類をプロファイルに割り当てることができます。プロファイル設定が、プロファイルの内容に影響を与えることはありません。

1 デバイスセンターで、**リソース** > **プロファイル**をクリックします。

2 プロファイルを選択し、**設定**をクリックします。

3 **プロファイル設定**ウィンドウで、必要なオプションを設定し、**OK** をクリックします。選択できるオプションは、プロファイルの種類と Fiery サーバーのモデルによって変わります。

すべてのプロファイルに共通の設定：

- **プロファイルの説明**: プロファイルを識別する説明です。説明文は、プロファイルのロックが解除されている場合のみ変更できます。

出力プロファイルにのみ適用可能な設定：

- **用紙の種類**: 出力プロファイルが関連付けられている 1 つまたは複数の用紙設定です。ジョブの用紙設定で出力プロファイルが定義される場合は、**用紙の種類**設定を使用します。

  用紙の種類が Fiery サーバーで使用できない場合は、サブストレートカタログを使用して用紙定義プロファイルを設定します。

- **キャリブレーション**：出力プロファイルに関連付けるキャリブレーションです。

デバイスリンクプロファイルにのみ適用可能な設定：

- **CMYK ソースプロファイル**または **RGB ソースプロファイル**：デバイスリンクプロファイルに関連付けられているソースプロファイル設定です。ソースプロファイル設定と出力プロファイル設定を使用し、ジョブのデバイスリンクプロファイルを選択します。CMYK から CMYK へのデバイスリンクプロファイルには、**CMYK ソースプロファイル**設定があります。RGB から CMYK へのデバイスリンクプロファイルには、**RGB ソースプロファイル**設定があります。

  メモ：CMYK ソースプロファイルを編集しても、CMYK ソースプロファイルに関連付けられているデバイスリンクプロファイルを使用する場合は、変更が適用されません。

- **出力プロファイル**：デバイスリンクプロファイルに関連付けられている出力プロファイル設定です。

プロファイル内容を編集する

Command WorkStation では、CMYK プロファイルの編集用に Color Editor が提供されています。

Color Editor では、CMYK プロファイル（CMYK ソースプロファイルまたは出力プロファイル）を編集できます。プロファイルの濃度曲線を微調整するには、Color Editor を使用します。

コンピューターに Fiery Color Profiler Suite オプションがインストールされている場合は、 Command WorkStation からアクセスして Fiery Profile Editor でプロファイルを編集できます。出力プロファイルの色域を定義するカラーデータを編集できます。

Color Editor でプロファイルを編集する

Color Editor では、CMYK 濃度曲線やターゲット濃度などの機能を調整できます。

Color Editor で編集できるのは、Fiery サーバーを使用する印刷だけです。それ以外のケースでプロファイルを使用する場合、プロファイルに影響はありません。

1 デバイスセンターで、**リソース** > **プロファイル**をクリックします。

2 プロファイルを選択し、**編集**をクリックします。

3 **Color Editor** を選択します。

メモ：Fiery Color Profiler Suite がお使いのコンピューターにインストールされている場合は、次の手順に進みます。Color Editor が自動的に開きます。

4 Color Editor で、濃度曲線を調整します。微調整するには、一度に 1 つまたは 2 つのカラーのみを操作します。

Color Editor のグラフの曲線は、各カラーチャンネル（C、M、Y、K）の入力%と出力%を表しています。これらの%は、CMYK ハーフトーンドットのサイズを表しています。

- C、M、Y、K 曲線の表示/非表示を切り替えるには、各カラーの眼のアイコンをクリックします。
- 曲線を手前に表示するには、眼アイコンの横にあるカラーバーをクリックします。
- 表示されている曲線の明るさを調整するには、プラスとマイナスのボタンを使用します。
- 曲線を調整するには、曲線上の点をドラッグするか、点をクリックして**入力**及び**出力**フィールドに新しい値を入力します。ポイントをクリックし、矢印キーを使用してポイントを移動することもできます。

  メモ：明るさを調整してから、曲線を調整してください。

5 追加オプションを設定できます。

- お使いの Fiery サーバーによってキャリブレーションターゲットが出力プロファイル内に保存されている場合は、各カラー（C、M、Y、K）のキャリブレーションターゲットの最高濃度（D-Max 値）を変更することができます。D-Max 値が表示されていない場合、お使いの Fiery サーバーではキャリブレーションターゲットが出力プロファイルとは別に保存されることを示しています。この場合は、D-Max 値をキャリブレーターで表示して調整することができます。

  メモ：最高濃度値（D-Max 値）を変更することはできますが、D-Max 値は表示のみにしておくことをお勧めします。キャリブレーションターゲットは、キャリブレーションの理想的な値を表し、出力プロファイルはその値を含んでいます。キャリブレーションターゲットの値は、不必要に変更しないでください。
- テストページの印刷

6 **保存**をクリックし、新しいプロファイル用の名前を入力します。

メモ：新しいプロファイル用の名前を入力しない場合は、編集済みのプロファイルがオリジナルを上書きしてしまいます。ロックアイコンの付いたプロファイルを編集して保存する場合は、それをコピーとして保存することしかできません。ロックアイコンの付いたプロファイルを上書きすることはできません。

Fiery Profile Editor でプロファイルを編集する

お使いのコンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合、Fiery Profile Editor を使用して出力プロファイルを編集することができます。Profile Editor を使用すると、レンダリングインテント、CMYK 濃度曲線などの全体的なカラー機能を調整できるだけでなく、特定の色相、カラー、またはプロファイル全域の中の特定のデータ点を調整することもできます。

1 デバイスセンターで、**リソース** > **プロファイル**をクリックします。

2 出力プロファイルを選択して、**編集**をクリックし、**Fiery Profile Editor** を選択します。

Fiery Profile Editor を使用したプロファイルの編集の詳細については、Profile Editor 画面上のヘルプアイコンをクリックしてください。

テストページを印刷する

Color Editor でプロファイルを編集した後、編集前後の画像を示すテストページを印刷できます。
テストページは、独自のサンプル画像、または Fiery サーバーで提供される比較ページのどちらかです。

比較ページを印刷する

Fiery サーバーが提供する比較ページを印刷することができます。比較ページには、プロファイル編集を行った場合と行わなかった場合で、印刷される画像やカラーパッチの違いが表示されます。

1 デバイスセンターで、**リソース** > **プロファイル**をクリックします。

2 プロファイルを選択し、**編集**をクリックします。Fiery Color Profiler Suite がコンピューターにインストールされている場合は、**Color Editor** を選択します。

3 Color Editor で、**印刷テスト**をクリックします。

4 **比較ページ**を選択し、**用紙サイズ**と**給紙トレイ**について必要な設定を選択して、**印刷**をクリックします。

サンプル画像を印刷する

サンプル画像を作成してテストページを印刷することができます。サンプル画像ページは、待機キューにあるユーザー定義の CALIB.PS ファイルです。

1 グラフィックアプリケーションで、サンプル画像として使用するファイルを作成します。

2 サンプル画像を「CALIB.PS」の名前で、PostScript または EPS ファイル形式で保存します。

3 Command WorkStation で、ファイルを Fiery サーバーの待機キューにインポートします。

4 ジョブセンターで、CALIB.PS ジョブをダブルクリックし、ページの印刷に使用するジョブのプロパティを設定します。

5 デバイスセンターで、**リソース** > **プロファイル**をクリックします。

6 プロファイルを選択し、**編集**をクリックします。Fiery Color Profiler Suite がコンピューターにインストールされている場合は、**Color Editor** を選択します。

7 Color Editor で、**印刷テスト**をクリックします。

8 **サンプル画像ページ**を選択し、**印刷**をクリックします。

Calibrator 3

Fiery 搭載プレスおよびプリンターには異なるタイプがあります。レーザーまたはインクジェット、モノクロ、CMYK または拡張色域、特殊インクの有無などです。Calibrator は、各テクノロジーのさまざまなキャリブレーションニーズに対応できるように設計されています。

Command WorkStation および Fiery Color Profiler Suite は、システムに最適なバージョンの Calibrator を自動的に起動します。Calibrator は、接続している Fiery サーバーに合わせて自動的に設定されます。すべてのプレスにすべての機能が必要なわけではありません。たとえば、ほとんどのレーザープリンターでは、個々のインクのトナー量を制限する必要はありませんが、インクの場合は様々なサブストレートによるインク吸収率の変動がトナーの場合よりはるかに大きくなるため、インクプレスではこの設定が必要となります。

ほとんどの Fiery 搭載モノクロプレスおよび CMYK プレスは濃度測定値を使用してキャリブレートされます。CMYK+は通常、L*a*b*測定値を使用してキャリブレートされます。

Calibrator を使用すると、Fiery サーバーで新しいキャリブレーション設定を作成するか、既存のキャリブレーション設定をアップデートできます。

Command WorkStation の Calibrator と同様に、Fiery Color Profiler Suite の Calibrator では、新しいキャリブレーション設定を作成したり、既存の設定の再キャリブレートを行うことができます。ただし Command WorkStation で使用できないさまざまな測定器のサポートが必要です。

Calibrator の 2 つの主な機能は次のとおりです。

- **再キャリブレート** - キャリブレーションを新しい測定値でアップデートします。多くのプレスの出力は時間によって変化します。Fiery サーバーでこのような変動を補正するには、補正テーブルを新しい測定値でアップデートする必要があります。
- **キャリブレーションの作成** - 新しいキャリブレーションを作成します。Fiery Color Profiler Suite がインストールおよびライセンスされている場合は、新しいプロファイルを作成します。このタスクが必要になるのは、特定の印刷条件（インクセット、ハーフトーン、サブストレートの組み合わせなど）の場合に既存のキャリブレーションで容認できる出力が得られない場合です。たとえば、グラデーションやインクの付着が悪いといった場合です。カラー管理で正確なカラーを実現するため、多くの場合、新しいキャリブレーションでは新しいプロファイルが必要です。

ウィンドウの左下にある 2 つのアイコンから、2 つの管理機能にアクセスできます。これらの設定は、個々の Fiery サーバーに固有のもので、それぞれのサーバーに保存されます。これらはすべてのユーザーに影響するため、次の機能は Command WorkStation から Fiery システム管理者としてログインした場合にのみ使用できます。

- **Calibrator 設定** - 各プレスの環境設定に使用します。ここでは、一部のプレスモデルで使用可能なキャリブレーション前およびキャリブレーション後の設定を指定できます。また、すべてのモデルでは、システム管理者が指定した時間内に適用可能なキャリブレーションが再キャリブレートされていない場合に、警告を表示したり、さらにはジョブの印刷を防止したりすることもできます。
- **キャリブレーションマネージャー**は、Fiery Server で使用可能なキャリブレーションを表示するために使用されます。最近アップデートされた測定値やプロパティが表示されます。ユーザーが追加したキャリブレーションは削除でき、その名前も変更できます。

接続されている Fiery サーバーの Calibrator は、次のワークフローで使用できます。Calibrator 3 では、従来の CMYK 製品とキャリブレーションセットを使用して、濃度ベースのキャリブレーションワークフローを自動

的に選択します。Calibrator 3 は、展開されたインクセットで面付けされるときにはいつも、L*a*b* ベースのキャリブレーションワークフローに従います。

- 濃度ベースのキャリブレーションワークフロー（143 ページ）
- L*a*b*ベースのキャリブレーションワークフロー（157 ページ）
- トナー Delta E ベースのキャリブレーションワークフロー（174 ページ）
- インクジェット Delta E ベースのキャリブレーションワークフロー（188 ページ）
- モノクロ印刷用キャリブレーションのワークフロー（204 ページ）

分光測色計を使用してパッチを測定する

分光測色計を使用して、手動でカラーパッチを測定します。

分光測色計は、以下の手順で使用します。

- 分光測色計をキャリブレーションします。
- 分光測色計を使用して、キャリブレーションページを測定します。
- 測定値を表示および保存します。

Fiery Calibrator は通常、次のような Fiery ブランドの測定器を標準サポートしています。

- EFI ES-2000
- Fiery ES-3000

その他のタイプの測定器の中には、Fiery サーバーに接続したプリンターでサポートされているものもあります。

分光測色計のキャリブレーション

分光測色計のキャリブレーションを行ってキャリブレーションページの測定に備える

ドックの白色タイルと測定器のアパーチュアが両方とも汚れていないことを確認してください。白色タイルにカバーがかけられている場合は、必ずカバーを開けてください。

白色点キャリブレーションを使用し、分光測色計の時間の経過に伴う測定の変動を調整します。分光測色計をドックに設置し、サンプルアパーチュアがキャリブレーションドックの白色タイルに完全に接触するようにしてください。キャリブレーションドックに正しく配置しないと、分光測色計は正確な測定を行うことができません。

正確なキャリブレーションを行うには、分光測色計のシリアル番号とドックのシリアル番号が一致している必要があります。

1 キャリブレーションページを印刷後、分光測色計をキャリブレーションドックに配置します。

2 **続行**をクリックするか、分光測色計のボタンを押します。

分光測色計のキャリブレーションが成功したら、キャリブレーションページの測定に進みます。

キャリブレーションページの測定

分光測色計を使用し、パッチの各ストリップを順番にスキャンすることによって、カラーパッチを測定します。

ストリップのスキャンが正しく行われると、ディスプレイインジケーターが緑に変わり、画面の矢印が次のストリップに移動します。ストリップのスキャンが正常に完了しない場合、ディスプレイインジケーターは赤色で表示され、再試行を指示するメッセージが表示されます。

1 正確な測定結果を得るには、キャリブレーションページの下に白い紙を数枚敷くか、使用可能な場合は、板を当てます。

2 ストリップが水平で、スキャン方向が左から右になるように、キャリブレーションページの方向を調整します（スキャン方向は、画面またはキャリブレーションページのストリップの端に矢印で示されています）。

3 分光測色計をスキャン方向に対して垂直に持ち、サンプルアパーチュアの先端を、指定したストリップの開始地点にある白いスペースに配置します。

4 分光測色計のボタンを押したままにして、信号（画面上のメッセージまたはビープ音）を待ちます。

5 信号を確認したら、ゆっくりとした一定の速さで分光測色計をストリップの上でスライドさせます。

6 1 つのストリップをスキャンするには、約 5 秒かかります。

7 ストリップ内の全パッチをスキャンし、ストリップの端の白い部分まで来たら、ボタンから指を離します。

8 画面に表示した順番で、すべてのストリップに同じ手順を繰り返します。
モノクロプリンターの場合、ストリップは 1 つです。

9 全ストリップのスキャンが完了したら、**続行**をクリックして、測定結果を確認します。

濃度ベースのキャリブレーションワークフロー

Fiery サーバーのキャリブレーションをおこなう際には、次のタスクを実行します。

- キャリブレーションページの印刷。特定のレイアウトで様々なカラー（または白黒プリンター用グレーシェード）のパッチを含みます。このページを使用して、プリンターの現在の出力を測定します。

  プリンターからの出力は、時間の経過と使用状況により変化します。現在のプリントデバイスのデータを得るには、必ず新しく印刷したキャリブレーションページを測定してください。
- 分光測色計を使用して、キャリブレーションページのパッチのカラー値を測定します。
- 測定を適用する

  測定データは特定のキャリブレーション設定と共に保存されます。特定のキャリブレーション設定を適用してジョブを印刷すると、この測定データを使用して、望ましいカラー（キャリブレーションターゲット）で出力するのに必要なキャリブレーションを算出します。

タスクの選択

Calibrator を起動して、Fiery サーバーの新しいキャリブレーション設定を作成するか、既存のキャリブレーション設定を更新します。

1 Calibrator を起動します。

2 Fiery server から Calibrator を開始している場合は、**タスクの選択**画面で **Fiery サーバー選択**をクリックし、一覧から Fiery サーバーを選択します。Fiery サーバーがリストにない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。

3 次のいずれかのタスクを選択します。

- **再キャリブレート**：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションをアップデートします。
- **キャリブレーションの作成**：Fiery サーバー上での新しいカラー印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。

4 **次へ**をクリックします。

メモ：選択したタスクを完了するために必要な手順の数は、接続されているプリンターによって異なります。使用しているプリンターのモデルによっては、一部の設定やオプションが使用できない場合もあります。

サーバーのキャリブレーションの作成

キャリブレーションを作成するには、名前などの詳細情報を必要に応じて入力します。

必要な情報は、キャリブレーションを行っている Fiery サーバーやプリンターによって異なります。たとえば、カラーモードフィールドや G7 グレーバランスのチェックボックスが表示されない場合があります。

1 任意のキャリブレーション名を入力します。

メモ：キャリブレーション名は、各サーバーで一意である必要があります。入力する名前は、サーバー上のキャリブレーション設定やプロファイルでまだ使用されていないものにする必要があります。

2 プロダクション出力に必要なカラーモードを次から選択します。

- CMYK
- CMYK + N

メモ：ここで、N はプリンターでライセンスされている追加カラーモードです。

3 （オプション）**G7 キャリブレーションのオプション**を選択します。

4 （オプション）次のいずれかのキャリブレーションターゲットを選択します。

- **G7 グレーバランスキャリブレーション**を選択。

  G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（パッチページ）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。

- **G7+グレーバランスキャリブレーション**を選択。

  G7+グレーバランスキャリブレーションを選択した後、オプションで**高密度スムージング**チェックボックスを選択することもできます。

  密度値が 2.2 以上になると、高密度スムージング機能はバンディングを最小限に抑え、キャリブレーションを向上させるのに役立ちます。密度値が 2.2 以下でこの機能を使用すると、予期しない出力結果が生じる可能性があります。

メモ：G7 およびG 7+のグレーバランスキャリブレーションを使用するには、Fiery Color Profiler Suite をインストールしてライセンスを取得する必要があります。ライセンス認証がされていない場合、オプションはグレーアウト（無効）表示されます。

5 （オプション）**コメント**フィールドに、メディア名、メディア（用紙）の種類、特別な設定、指示などキャリブレーションの詳細を入力します。

メモ：キャリブレーション設定を作成する際、再キャリブレートに必要なメディア（用紙）の種類、使用プリンター、およびすべての特別な指示をジョブ注釈メモフィールドに記録することが推奨されます。

6 （オプション）**次へ**のボタンで下矢印を選択し、**ファイルから測定値をロード**を選択して、印刷と測定のワークフローを省略できます。このオプションは、プリンターの測定値をすでに持っている上級ユーザー向けのものです。必ず実際のプリンターで印刷して測定することが推奨されます。

7 **次へ**をクリックします。

G7 キャリブレーションワークフロー

G7 キャリブレーションは、Fiery サーバーのキャリブレーションとプロファイル測定パッチの印刷の間に実行されます。

G7 キャリブレーションは、Fiery サーバーのキャリブレーションに加えて適用されます。G7 キャリブレーション処理が開始されると、ユーザーは、使用する P2P ターゲットのパッチレイアウトを選択し、それを測定して結果を確認してから、必要に応じて設定の調整を行います。

G7 仕様では、異なるプリンターで一般的でニュートラルな見た目の出力を作成するのに使用できる、標準的なグレースケール曲線が定義されています。G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（P2P ターゲット）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。Fiery Color Profiler Suite G7 キャリブレーションに使用されるさまざまな P2P ターゲットの印刷と測定をサポートします。インライン測定器などの対応する測定器で測定することができます。この場合、ユーザーが操作することなく処理を自動化できます。

1 **パッチレイアウト**ウィンドウで、使用する **G7 パッチセット**を次から選択します。

- P2P51（新しいターゲット、オリジナルの改訂版）
- P2P25Xa（オリジナルのターゲット）

メモ：ターゲットで実際に使用される値は類似していますが、新しいバージョンは G7 仕様のより正確なバージョンです。

2 **印刷**をクリックしてパッチページを測定します。

3 **G7 グレーバランスの測定結果**を確認します。

これは G7 キャリブレーションの実行であるため、結果が不合格になることが予想されます。G7 キャリブレーションに必要な NPDC 曲線の計算に使用されるのは、このターゲットの測定結果です。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。この表では緑色で表示する場合、加重平均を 1.5 未満にする必要があります。緑色で表示するには加重最大値を 3 未満にする必要があります。

4 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。

デフォルトのまま使用するか、変更します。

5 **OK** をクリックして、NPDC 曲線を適用して P2P パッチページをもう一度印刷します。

6 パッチページを測定し、G7 の結果を表示します。

7 G7 結果が合格の（すべての結果がグリーンで表示される）場合は、**次へ**をクリックします。結果が失敗である（一部の結果が赤でハイライト表示）場合は、**反復**をクリックして処理を繰り返します。反復を繰り返しても、より良い結果にはなりません。最大で 4 回の反復を実行できます。

G7+キャリブレーションワークフロー

G7+キャリブレーションは、Fiery サーバーのキャリブレーションとプロファイル測定パッチの印刷の間に実行されます。

G7+キャリブレーションは、Fiery サーバーのキャリブレーションに加えて適用されます。G7+キャリブレーション処理を開始すると、P2P75+ターゲットのパッチレイアウトを選択し、それを測定して結果を確認してから、必要に応じて設定の調整を行います。

G7+仕様では、異なるプリンターでも共通してニュートラルな見た目の出力を実現して使用できる標準的なグレースケール曲線が定義されています。G7+キャリブレーションは、P2P75+ターゲットの測定データを使用して、プリンターのカラー出力を G7 仕様に調整します。Fiery Color Profiler Suite は G7 キャリブレーションに使用される P2P75+ターゲットの印刷と測定をサポートします。インライン測定器などの対応する測定器で測定することができます。この場合、ユーザーが操作することなく処理を自動化できます。

1 **パッチレイアウト**ウィンドウで、**G7+パッチセット**リストから **P2P75+**を選択します。

2 **印刷**をクリックしてパッチページを測定します。

3 **G7+グレーバランスの測定結果**を確認します。

これは G7+キャリブレーションの実行であるため、結果が不合格になることが予想されます。このターゲットの測定結果が G7+キャリブレーションに必要な NPDC 曲線の計算に使用されます。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。この表では緑色で表示する場合、加重平均を 1.5 未満にする必要があります。緑色で表示するには加重最大値を 3 未満にする必要があります。

4 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。

デフォルトのまま使用するか、変更します。

5 **OK** をクリックして、NPDC 曲線を適用した P2P75+パッチページをもう一度印刷します。

6 パッチページを測定し、G7+の結果を表示します。

7 G7+の結果が合格である（すべての結果が緑で表示）場合は、**次へ**をクリックします。結果が失敗である（一部の結果が赤でハイライト表示）場合は、**反復**をクリックして処理を繰り返します。反復を繰り返しても、より良い結果にはなりません。最大で 4 回の反復を実行できます。

キャリブレーションページを印刷する

キャリブレーションページを印刷する場合は、まずキャリブレーション設定（カラープリンター）、給紙方法、測定方法を指定します。

メモ：分光測色計をキャリブレートしてキャリブレーションページの測定準備をおこないます。

- 特定のジョブに対してキャリブレーションを開始すると、ジョブの印刷に使用されたキャリブレーション設定のみが表示されます。複数のキャリブレーション設定は、通常、用紙種類の混合ジョブで使用されます。

  選択したキャリブレーション設定に関連付けられている最新のキャリブレーション測定の推奨用紙および日時が表示されます。日付と時刻が表示されない場合は、Fiery サーバーがキャリブレートされていないことを示します（このキャリブレーション設定の場合）。

- 給紙トレイには、キャリブレーション設定に合った適切な用紙が含まれていることを確認してください。**給紙方法**設定で警告メッセージが表示された場合は、給紙方法がキャリブレーション設定に適合していない可能性があります。他のキャリブレーション設定を選択するか、他の給紙方法を選択してください。

  お使いの用紙と完全に一致するキャリブレーション設定がない場合は、似た用紙で利用可能な設定を試すことができます。満足できる結果が得られない場合は、用紙に合わせて新しいキャリブレーションとプロファイルを作成する必要があります。

1 次のオプションを設定します。

- カラープリンターの場合、**キャリブレート**リストでキャリブレーション設定を選択します。
- **給紙方法**リストから、使用する給紙トレイを選択します。
- **測定方法**リストで方法を選択します。

  Calibrator は、Fiery ES-3000 や X-Rite i1Pro3 を含めて複数の種類の分光測色計をサポートしています。

  選択した機器を使用したキャリブレーションで測定オプションを使用できる場合、測定器の近くに**設定**ボタンが表示されます。

  その他のタイプの測定器の中には、Fiery サーバーに接続したプリンターでサポートされているものもあります。

2 **続行**をクリックしてキャリブレーションページを印刷し、測定手順に進みます。

キャリブレーション設定のカラー出力プロファイルを作成する

カラー出力プロファイルを作成できるようにするには、Fiery Color Profiler Suite が Calibrator と同じコンピューターにインストールされ、ライセンス付与されている必要があります。カスタムキャリブレーション設定を作成する場合は、測定器を測定方法として指定する必要があります。ColorCal は、コピー機のスキャナーを使用して測定を行います。そのため、スキャナーの制限により、キャリブレーションやプロファイルを作成する方法として ColorCal は使用できません。

カスタムキャリブレーション設定を作成するには、システム管理者権限が必要です。

新しいキャリブレーション設定を作成した後、出力プロファイルと関連付けます。新しいキャリブレーション設定が既存の出力プロファイルと共に使用されると、用紙の種類によっては満足のいく結果を得られない場合があります。印刷結果に不満が残る場合は、使用する用紙に基づいたカスタム出力プロファイルを作成してください。

- 既存の出力プロファイルを選択する場合は、使用する用紙に最も近い用紙用の出力プロファイルを選択してください。キャリブレーション設定と同じ名前を持つ、このプロファイルのコピーが作成されます。プロファイルの既存のキャリブレーションターゲット（目標）は、キャリブレーション測定値を使用して計算された新しいターゲットに変わります。新しいキャリブレーション設定は、このプロファイルに関連付けられます。
- 新しいカスタム出力プロファイルを作成すると、プロファイリング用測定ページが印刷されます。Fiery Color Profiler Suite の Printer Profiler を使用してページを測定します。できあがったプロファイルは Fiery サーバーにインポートされ、新しいキャリブレーション設定と関連付けられます。

1 Fiery サーバー上のプロファイル一覧から出力プロファイルを選択します。

Calibrator が出力プロファイルを複製し、その名前を変更します。

2 **テストページ**をクリックします。

テストページを印刷すると、キャリブレーション設定を、現在選択されている出力プロファイルのコピーに関連付けるか、新しい出力プロファイルを作成するかを判断するうえで役に立ちます。

Fiery Color Profiler Suite のライセンスがない場合は、数種類の出力プロファイルでテスト印刷を行い、最良の結果が得られるプロファイルを判断できます。最良の結果を得るには、ライセンス付与された Fiery Color Profiler Suite アプリケーションを使用して、作成したばかりのキャリブレーション用に最適化された出力プロファイルを作成します。

テストページは、現在選択されている出力プロファイルを使用して印刷されます。

3 コンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合は、**新規プロファイル作成**をクリックし、新しいカスタム出力プロファイルを作成できます。

測定結果の表示

キャリブレーションページの測定または測定値のインポートが完了したら、測定結果をいつでも適用することができます。測定データを適用（保存）すると、既存のデータは上書きされます。カラーデータの場合は、測定データをグラフに表示して、適用する前にデータを確認することができます。

測定結果は、C、M、Y、K の濃度曲線のセットとして表示されます。同じグラフに、比較のためにキャリブレーションターゲットデータが太線の濃度曲線のセットとして表示され、最大濃度値が数値的に比較されます。

1 **キャリブレーションマネージャー**で、キャリブレーションを選択し、**測定値の表示**をクリックします。

2 曲線の表示/非表示を切り替えるには、次のうちの該当するラベルの隣にある👁アイコンをクリックします。

- **測定値** - 測定濃度曲線を表示または非表示にします。
- **ターゲット** - ターゲット濃度曲線を表示または非表示にします。
- **シアン**、**マゼンタ**、**イエロー**、または**ブラック** - 特定のインク/トナーの測定濃度曲線とターゲット濃度曲線を表示または非表示にします。

メモ：Fiery server がインストールされライセンスされている場合は、Calibrator で G7 キャリブレーションを作成することもできます。G7 キャリブレーションでは、G7 グレーバランスに到達するためにトランスファー曲線が Fiery サーバーのキャリブレーションターゲットに適用されます。キャリブレーションマネージャーは、一時的な G7 のトランスファー曲線ではなく、基本となる標準的な Fiery サーバーのキャリブレーションターゲットを表示します。同様に、標準的な Fiery サーバーのターゲットにとってキャリブレーションされた状態に到達するのに使用されるトランスファー曲線は、キャリブレーションマネージャーでは表示されません。これらののトランスファー曲線は、再キャリブレーションのたびに再計算されるので、一時的です。

3 オプション：**測定値を保存**をクリックして、既存のキャリブレーション設定の測定データを保存します。

4 オプション：最新の測定結果が満足のいくものではない場合、**デフォルト測定値にリセット**をクリックしてキャリブレーションデータをリセットします。このアクションを実行すると、キャリブレーター測定値の最後のセットが削除されます。このボタンは、再キャリブレーションを実行した場合にのみ表示されます。

テストページを印刷する

カラープリンターの場合は、最新のキャリブレーション測定値のテストページを印刷できます。またオプションで、キャリブレーション設定の作成時に使用したデフォルト測定値を含む 2 枚目のページも印刷できます。

キャリブレーターテストページ

テストページを使用すると、現在のキャリブレーションとデフォルトのキャリブレーションで生成された出力を検証できます。デフォルトのキャリブレーションは、キャリブレーション設定の作成時に取得された測定データを使用して印刷されます。

テストページに含まれる一部の画像が満足のいく状態に表示されない場合は、キャリブレーション設定に関連付けられている出力プロファイルが用紙設定および印刷設定に適合していない可能性があります。

測定データをエクスポートする

カラープリンターの場合は、特定のキャリブレーション設定の測定データを.cm0 ファイルにエクスポートできます。

1 測定データをエクスポートするには、次のいずれかを行います。

- Calibrator で、キャリブレーションマネージャーを開きます。
- Command WorkStation では、**サーバー** > **デバイスセンター**をクリックします。**一般**で、**ツール**、**キャリブレーター**をクリックしてキャリブレーションマネージャーを開きます。

2 キャリブレーション設定を選択し、**測定値を表示**をクリックします。

また、新しいキャリブレーション設定のキャリブレーションページを正常に測定した後で**測定値の表示**を開くこともできます。

3 **測定値をエクスポート**をクリックします。

4 ファイルを保存する場所を指定して、必要に応じてファイル名を変更して**保存**をクリックします。

過去のすべてのキャリブレーションが利用可能です。ファイル名またはタイムスタンプに基づいて、インポートするキャリブレーション測定ファイルを選択してください。再度必要になる場合に備えて、キャリブレーション測定ファイル名をメモしておいてください。

測定データのリセット

特定のキャリブレーション設定の測定データを、デフォルトデータ（工場出荷時のデフォルトデータ、またはカスタムキャリブレーション設定の場合は初回測定データ）にリセットできます。このオプションは、現在の測定データがすでにデフォルトデータに設定されている場合は、使用できません。

カラープリンターの測定データをリセットする

カラープリンターの場合は、キャリブレーション設定が 1 つ以上存在する可能性があります。

1 Command WorkStation で、 **サーバー、** > **デバイスセンター**を順にクリックします。

2 一般 **で、 ツール**、続いて **キャリブレーター**をクリックします。

3 キャリブレーターで、キャリブレーションマネージャーを開きます。

4 キャリブレーション設定を選択し、 **測定値の表示**をクリックします。

5 デフォルト測定値にリセット **をクリック**します。

6 はいをクリック **して、**操作の確認をします。

Calibrator 設定

Calibrator 設定ウィンドウの設定は、キャリブレーション手順のさまざまな面に影響します。キャリブレーション状況（有効期限）、キャリブレーション時間制限、ジョブの一時停止を設定できます。

メモ：環境設定を変更するには、システム管理者権限が必要です。

Command WorkStation では次のいずれかの方法で Fiery Calibrator を開くことができます。

- ジョブセンターで、ツールバーの**キャリブレート**アイコンをクリックします。
- **サーバー** > **キャリブレート**をクリックします。
- **サーバー** > **デバイスセンター**をクリックします。**一般**で、**ツール**、**Calibrator** をクリックします。

Fiery Calibrator ウィンドウで、左下角にある Calibrator 設定（歯車）アイコンをクリックします。

ダークモードを使用するには、Command WorkStation の環境設定（25 ページ）で設定します。

キャリブレーション状況（有効期限）

キャリブレーションの時間制限を設定すると、期限切れのキャリブレーションの状況メッセージが Command WorkStation に表示され、ジョブが一時停止する場合があります。

Command WorkStation には、ジョブセンターのジョブについて、キャリブレーションが 30 分以内に期限切れになる場合は黄色の警告アイコン/メッセージ、キャリブレーションがすでに期限切れの場合は赤色のエラーアイコン/メッセージが表示されます。

ジョブのキャリブレーションが期限切れの場合、印刷しようとすると Fiery サーバーはジョブを一時停止します。ジョブは印刷されず、一時停止の状態で印刷キューに残ります。

キャリブレーション状況は、ジョブが印刷に送信される前に確認されます。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限切れになった場合は、ジョブは一時停止しません。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限切れにならないように、印刷時間の長いジョブを実行する前にキャリブレートすることを推奨します。

一時停止されたジョブをダブルクリックすると、次のいずれかの操作を行うことができます。

- Fiery サーバーをキャリブレートして、ジョブのキャリブレーション設定を行います。キャリブレーションの測定値をアップデートした後、一時停止状態のジョブを選択し、印刷します。
- 期限切れのキャリブレーション測定データを使用して、ジョブの印刷を続行します。該当ジョブにとってカラー出力の一貫性が重要でない場合は、このオプションを選択してください。

キャリブレーション制限によって影響を受けるジョブの種類

Fiery サーバーは、次のジョブに対してキャリブレーションが期限内であるかどうかを検出できます：

- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE を使用してアプリケーションから送信されたジョブ。
- インポートされた PDF または TIFF のジョブ。
- 処理済みのジョブ（処理済みの VPS および VIPP ジョブを含む）

Fiery サーバーでは、次の種類のジョブについてはキャリブレーションが期限内であるか検出できず、ジョブを一時停止にすることはできません。

- PCL および PJL のジョブ。
- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE を使用せずにアプリケーションから送信されたジョブ。未処理の VPS および VIPP ジョブが含まれます。
- 直接接続で送信されたジョブ。直接接続で送信されたジョブは一時停止にできません。

また、Fiery サーバーは Force Print コマンドを使用して印刷したジョブのキャリブレーションを確認しません。Force Print コマンドは、ジョブのミスマッチ（ジョブに必要な用紙や仕上げが使用できないこと）により一時停止されたジョブに使用されます。この種類のジョブは強制的に印刷するように設定されているため、キャリブレーションは確認できません。

キャリブレーションの時間制限およびジョブの一時停止の設定

キャリブレーション時間制限を設定したり、キャリブレーションが期限切れの場合に Fiery Command WorkStation がジョブを一時停止するかどうかを設定できます。

1 **Calibrator 設定**ウィンドウで、次のいずれかを行います。

有効期限を設定する場合は、次のいずれかを設定できます。

- 有効期限状況を表示するには、**ジョブセンターで状況を表示**を選択します。
- ジョブの一時停止を有効化するには、**キャリブレーションが期限切れの場合、ジョブの印刷を一時停止**を選択します。

  一時停止されたジョブの場合は、次のいずれかの操作を行うことができます。

  - Fiery サーバーをキャリブレートして、ジョブのキャリブレーション設定を行います。キャリブレーションの測定値をアップデートした後、一時停止状態のジョブを選択し、印刷します。
  - 出力の一貫性がジョブにとって重要でない場合は、古い測定データを使用してジョブの印刷を続行します。

2 オプションで、**G7 キャリブレーションの作成**チェックボックスを選択して、プロファイリング測定パッチをキャリブレートして印刷します。

G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（パッチページ）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。

3 設定をオリジナルデフォルトに戻すには、**出荷時のデフォルト**をクリックします。

4 **保存**をクリックして、設定を保存します。

出力プロファイルのキャリブレーション設定

Fiery サーバーがカラー印刷をサポートしている場合は、1 つまたは複数のキャリブレーション設定にアクセスできます。通常、キャリブレーション設定および出力プロファイルは特定の用紙および印刷条件に適したものになっています。キャリブレーション設定は、複数の出力プロファイルに関連付けることができます。

特定の出力プロファイルに関連付けられたキャリブレーションセットを確認するには、Command WorkStation のプロファイル設定を確認します。

キャリブレーション設定の測定データを表示する

特定のキャリブレーション設定でキャリブレーションを行うと、測定データが保存されます。測定データは、キャリブレーションターゲットデータと共にグラフに表示することができます。それによって、測定したプリンター出力とキャリブレーションターゲットの一致の程度を確認できます。

1 Command WorkStation では、**サーバー** > **デバイスセンター**をクリックします。

2 **一般**で、**ツール**、**Calibrator** をクリックします。

3 Calibrator で、キャリブレーションマネージャーを開きます。

4 キャリブレーション設定をクリックして選択します。

5 **測定値の表示**をクリックします。

キャリブレーションターゲットを編集する

特定のキャリブレーション設定に関連付けられているキャリブレーションターゲットの最大濃度（D-Max 値）は、キャリブレーション設定の作成時に編集できます。インク/トナー（C、M、Y、K）ごとに新しい値を入力するか、ファイルからキャリブレーションターゲットをインポートできます。

メモ：テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順で必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

次の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化する場合があります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。
- Calibrator のバージョンによっては、ファイルから測定値をインポートするオプションが **Calibrator** ウィンドウまたは測定器リストに表示されます。
- キャリブレーション設定が作成されると、**ジョブのプロパティ**ウィンドウが開き、測定サンプルの印刷方法を指定できます。

編集されたターゲットデータは、現在の測定データを適用する際に、このキャリブレーション設定に現在関連付けられているターゲットデータを上書きします。

この Fiery サーバーで使用する既存のプロファイルとキャリブレーションターゲットが別の Fiery サーバーにある場合は、ファイルからターゲットデータをインポートします。ただし、最良の結果を得るには、この Fiery サーバーおよびそのプリンター専用に作成したプロファイルとキャリブレーションデータを使用します。

最大濃度値は編集できますが、編集の際は注意が必要です。キャリブレーションターゲットはキャリブレーションの理想的な値を表しており、不必要に変更しないでください。

1 新しいキャリブレーション設定のキャリブレーションページを正常に測定できたら、**測定値の表示**をクリックします。

2 次のいずれかの操作を行います。

- ターゲットに D-Max 値の新しい値を入力します。
- **ターゲットインポート**をクリックし、ファイルの場所を参照してファイルを選択し、**開く**をクリックします。

  単調な測定値を含んだファイルのみ、インポートされたターゲットとして許容されます。

3 キャリブレーション設定の作成を続行します。

再キャリブレート

Fiery サーバーのキャリブレーションデータを取得した後は、いつでも再キャリブレートを実行できます。既存のキャリブレーションは、このキャリブレーションの作成時に Fiery サーバー用に生成されたカラーベンチマークに一致するようアップデートされます。

1 Calibrator を起動します。

2 Fiery Color Profiler Suite から Calibrator を開始している場合は、**タスクの選択**画面で **Fiery サーバー選択**をクリックし、一覧から Fiery サーバーを選択します。Fiery サーバーがリストにない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。

3 次のいずれかのタスクを選択します。

- **再キャリブレート** - 選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションをアップデートします。
- **キャリブレーションの作成** - Fiery サーバー上での新しいカラー印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。 -

4 **次へ**をクリックします。

サーバーのキャリブレーションのアップデート

再キャリブレートを行うには、以前に保存したキャリブレーションデータを使用して開始します。

1 一覧から既存のキャリブレーションセットを選択します。

選択したキャリブレーションに基づいて、カラーモードが表示されます。カラーモードが表示されていない場合、キャリブレーションを行ったプリンターではサポートされていません。

表示されるコメントはキャリブレーションが作成されたときに追加されたものです。

2 次へ **をクリック**します。

測定用のキャリブレーションページを印刷する

再キャリブレーション用にキャリブレーションページを印刷する場合は、測定方法、パッチセット、給紙方法を指定します。

メモ：分光測色計をキャリブレートして、キャリブレーションページの測定準備を行います。

1 パッチ **レイアウト**ウィンドウで、以下のオプションを設定します。

- **測定方法**リストから測定器を選択します。
- **パッチセット**リストからパッチセットを選択します。
- **給紙方法**リストから目的の給紙方法を選択します。

メモ：給紙方法には、キャリブレーション設定に適した用紙が選択されていることを確認してください。**給紙方法**の設定で警告が表示された場合は、給紙方法がキャリブレーション設定に適合していない可能性があります。別のキャリブレーション設定を選択するか、別の給紙方法を選択することができます。

2 次へを **クリックし、**測定に進みます。

画面の指示に従って、キャリブレーションページを測定します。

キャリブレーション結果を表示する

新しいキャリブレーションでは、各再キャリブレーションで達成しようとしている基本色の状態である「ターゲット」が生成されます。

ターゲットとは、定義した印刷条件（用紙、解像度、ハーフトーンなど）に正しくキャリブレーションされている場合にプリンターで期待されるカラー出力です。プリンターを正しくカラー管理するために、サーバーではこのキャリブレーションされた状態で作成された色空間を説明する出力プロファイルが必要です。キャリブレーションに満足していない場合は、前の手順を確認します。

再キャリブレートする場合は、指定されたキャリブレーション設定の元のターゲットをプリンターがまだ実行しているかを、再キャリブレーションの結果で確認するようにします。

メモ：ファイルから測定値をロードし使用する場合は、表示されるオプションが少なくなります。

1 **印刷テスト**をクリックします。テストページを印刷すると、現在のキャリブレーション設定を使用するか、新しい設定を作成するかを判断するうえで役に立ちます。

2 オプション：比較対象となるデフォルト測定値を使用したテスト印刷を行う場合は、**テスト印刷** ボタンの横にある下向き矢印を選択し、**デフォルトのキャリブレーションを使用**を選択します。

3 次のいずれかを行います。

- **適用/閉じる**をクリックして、キャリブレーション設定を保存します。
- **キャンセル**をクリックして、再キャリブレーションをキャンセルします。このアクションを実行すると、キャリブレーション設定は更新されません。

テストページを印刷する

カラープリンターの場合は、最新のキャリブレーション測定値のテストページを印刷できます。またオプションで、キャリブレーション設定の作成時に使用したデフォルト測定値を含む 2 枚目のページも印刷できます。

キャリブレーションマネージャー

キャリブレーションマネージャーでは、キャリブレーション設定の表示および削除を行うことができます。個々のキャリブレーションでコメントの追加または削除ができます。

通常、キャリブレーション設定および出力プロファイルは特定の用紙および印刷条件に適したものになっています。キャリブレーション設定は、複数の出力プロファイルに関連付けることができます。

ウィンドウの左下隅にあるをクリックして、キャリブレーターからキャリブレーションマネージャーを開きます。選択されたサーバーのすべてのキャリブレーションがウィンドウに表示されます。次のカテゴリが表示されます。

- **キャリブレーション**：名前別に一覧表示されたサーバーの完了したキャリブレーション
- **最終キャリブレーション**：最後にキャリブレーションを行った日時
- **カラーモード**：キャリブレーションセットがサポートする出力プロファイルの色空間

一覧で選択したキャリブレーションで、いくつかの操作を実行できます。キャリブレーションによっては、使用できない操作もあります。ある操作が使用できない場合は、グレー表示になります。次のような操作があります。

- **編集**では、カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集するウィンドウを開きます。
- **測定値の表示**では、強調表示されたキャリブレーションの詳細を表示するウィンドウを開きます。

  このウィンドウに表示される情報は、測定空間で決まります。
- **削除**では、選択したキャリブレーションセットを削除します。

  このキャリブレーションの影響を受けるプロファイルも、オペレーターが確認した後に削除されます。普通紙などの工場出荷時のキャリブレーションセットは削除できません。

キャリブレーション設定を編集する

カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集できます。工場出荷時に提供されたキャリブレーション設定は編集できません。

カスタムキャリブレーション設定を編集するには、システム管理者権限が必要です。

キャリブレーション設定と一緒に保存された測定データは無効になるため、ジョブのプロパティ（印刷設定）は編集できません。キャリブレーション設定のジョブプロパティを編集するには、既存の設定に基づいて新しいキャリブレーション設定を作成します。

1 **キャリブレーションマネージャー**で、一覧からキャリブレーション設定を選択し、**編集**をクリックします。

2 以下の設定を指定します。

- **名前** - 用紙名、坪量、用紙の種類のほかに特定の印刷条件（ハーフトーン、グロス設定など）もわかるような名前を入力します。名前は 70 文字まで入力できます。
- **コメント** -（オプション）追加の説明情報を入力します。この情報は、Fiery サーバーで使用可能なキャリブレーション設定のリストに表示されます。

測定結果の表示

キャリブレーションページの測定または測定値のインポートが完了したら、測定結果をいつでも適用することができます。測定データを適用（保存）すると、既存のデータは上書きされます。カラーデータの場合は、測定データをグラフに表示して、適用する前にデータを確認することができます。

測定結果は、C、M、Y、K の濃度曲線のセットとして表示されます。同じグラフに、比較のためにキャリブレーションターゲットデータが太線の濃度曲線のセットとして表示され、最大濃度値が数値的に比較されます。

1 **キャリブレーションマネージャー**で、キャリブレーションを選択し、**測定値の表示**をクリックします。

2 曲線の表示/非表示を切り替えるには、次のうちの該当するラベルの隣にある アイコンをクリックします。

- **測定値** - 測定濃度曲線を表示または非表示にします。
- **ターゲット** - ターゲット濃度曲線を表示または非表示にします。
- **シアン**、**マゼンタ**、**イエロー**、または**ブラック** - 特定のインク/トナーの測定濃度曲線とターゲット濃度曲線を表示または非表示にします。

メモ：Fiery server がインストールされライセンスされている場合は、Calibrator で G7 キャリブレーションを作成することもできます。G7 キャリブレーションでは、G7 グレーバランスに到達するためにトランスファー曲線が Fiery サーバーのキャリブレーションターゲットに適用されます。キャリブレーションマネージャーは、一時的な G7 のトランスファー曲線ではなく、基本となる標準的な Fiery サーバーのキャリブレーションターゲットを表示します。同様に、標準的な Fiery サーバーのターゲットにとってキャリブレーションされた状態に到達するのに使用されるトランスファー曲線は、キャリブレーションマネージャーでは表示されません。これらののトランスファー曲線は、再キャリブレーションのたびに再計算されるので、一時的です。

3 オプション：**測定値を保存**をクリックして、既存のキャリブレーション設定の測定データを保存します。

4 オプション：最新の測定結果が満足のいくものではない場合、**デフォルト測定値にリセット**をクリックしてキャリブレーションデータをリセットします。このアクションを実行すると、キャリブレーター測定値の最後のセットが削除されます。このボタンは、再キャリブレーションを実行した場合にのみ表示されます。

L*a*b*ベースのキャリブレーションワークフロー

Fiery サーバーのキャリブレーションをおこなう際には、次のタスクを実行します。

- キャリブレーションページの印刷。特定のレイアウトの様々なカラーのパッチを含みます。このページを使用して、プレスの現在の出力を測定します。

  プレスからの出力は、時間の経過と使用状況により変化します。現在のプリントデバイスのデータを得るには、必ず新しく印刷したキャリブレーションページを測定してください。
- サポートされている測定器を使用して、キャリブレーションページのパッチのカラー値を測定します。
- 測定を適用する

  測定データは特定のキャリブレーション設定と共に保存されます。特定のキャリブレーション設定を適用してジョブを印刷すると、この測定データを使用して、望ましいカラー（キャリブレーションターゲット）で出力するのに必要なキャリブレーションを算出します。

Fiery サーバーを選択する

Calibrator を起動して、Fiery サーバー用の新しいキャリブレーション設定を作成するか、既存の設定をアップデートします。

1 Calibrator を起動します。

2 Fiery server から Calibrator を開始している場合は、**タスクの選択**画面で **Fiery サーバー選択**をクリックし、リストから Fiery サーバーを選択します。Fiery サーバーがリストにない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。

3 次のいずれかのタスクを選択します。

- **再キャリブレート**：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションをアップデートします。
- **キャリブレーションの作成**：Fiery サーバー上での新しいカラー印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。

4 **次へ**をクリックします。

メモ：選択したタスクを完了するために必要な手順の数は、接続されているプリンターによって異なります。使用しているプリンターのモデルによっては、一部の設定やオプションが使用できない場合もあります。

Calibrator 設定

Calibrator 設定ウィンドウの設定は、キャリブレーション手順のさまざまな面に影響します。キャリブレーション状況（有効期限）、キャリブレーション時間制限、ジョブの一時停止を設定できます。

メモ：環境設定を変更するには、システム管理者権限が必要です。

Command WorkStation では次のいずれかの方法で Fiery Calibrator を開くことができます。

- ジョブセンターで、ツールバーの**キャリブレート**アイコンをクリックします。
- **サーバー** > **キャリブレート**をクリックします。
- **サーバー** > **デバイスセンター**をクリックします。**一般**で、**ツール**、**Calibrator** をクリックします。

Fiery Calibrator ウィンドウで、左下角にある Calibrator 設定（歯車）アイコンをクリックします。

キャリブレーション状況（有効期限）

キャリブレーションの時間制限を設定すると、期限切れのキャリブレーションの状況メッセージが Command WorkStation に表示され、ジョブが一時停止する場合があります。

Command WorkStation には、ジョブセンターのジョブについて、キャリブレーションが 30 分以内に期限切れになる場合は黄色の警告アイコン/メッセージ、キャリブレーションがすでに期限切れの場合は赤色のエラーアイコン/メッセージが表示されます。

ジョブのキャリブレーションが期限切れの場合、印刷しようとすると Fiery サーバーはジョブを一時停止します。ジョブは印刷されず、一時停止の状態で印刷キューに残ります。

キャリブレーション状況は、ジョブが印刷に送信される直前に確認されます。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限切れになった場合は、ジョブは一時停止しません。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限切れにならないように、印刷時間の長いジョブを実行する前にキャリブレートすることを推奨します。

一時停止されたジョブをダブルクリックすると、次のいずれかの操作を行うことができます。

- Fiery サーバーをキャリブレートして、ジョブのキャリブレーション設定を行います。キャリブレーションの測定値をアップデートした後、一時停止状態のジョブを選択し、印刷します。
- 期限切れのキャリブレーション測定データを使用して、ジョブの印刷を続行します。該当ジョブにとって出力の一貫性が重要でない場合は、このオプションを選択してください。

キャリブレーション制限によって影響を受けるジョブの種類

Fiery サーバーは、次のジョブに対してキャリブレーションが期限内であるかどうかを検出できます。

- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE を使用してアプリケーションから送信されたジョブ。
- インポートされた PDF または TIFF のジョブ。
- 処理済みのジョブ（処理済みの VPS および VIPP ジョブを含む）

Fiery サーバーでは、次の種類のジョブについてはキャリブレーションが期限内であるか検出できず、ジョブを一時停止にすることはできません。

- PCL および PJL のジョブ。
- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE を使用せずにアプリケーションから送信されたジョブ。未処理の VPS および VIPP ジョブが含まれます。
- 直接接続で送信されたジョブ。直接接続で送信されたジョブは一時停止にできません。

また、Fiery サーバーは Force Print コマンドを使用して印刷したジョブのキャリブレーションを確認しません。Force Print コマンドは、ジョブのミスマッチ（ジョブに必要な用紙や仕上げが使用できないこと）により一時停止されたジョブに使用されます。この種類のジョブは強制的に印刷するように設定されているため、キャリブレーションは確認できません。

キャリブレーションの時間制限およびジョブの一時停止の設定

キャリブレーション時間制限を設定したり、キャリブレーションが期限切れの場合に Fiery Command WorkStation がジョブを一時停止するかどうかを設定できます。

1 **Calibrator 設定**ウィンドウで、次のいずれかを行います。

有効期限を設定する場合は、次のいずれかを設定できます。

- 有効期限状況を表示するには、**ジョブセンターで状況を表示**を選択します。
- ジョブの一時停止を有効化するには、**キャリブレーションが期限切れの場合、ジョブの印刷を一時停止**を選択します。

一時停止されたジョブの場合は、次のいずれかの操作を行うことができます。

- Fiery サーバーをキャリブレートして、ジョブのキャリブレーション設定を行います。キャリブレーションの測定値をアップデートした後、一時停止状態のジョブを選択し、印刷します。
- 出力の一貫性がジョブにとって重要でない場合は、古い測定データを使用してジョブの印刷を続行します。

- ゼロタッチ再キャリブレーションを有効化するには、**インラインセンサーを使用して自動的にジョブをキャリブレート**を選択します。

2 設定をオリジナルデフォルトに戻すには、**出荷時のデフォルト**をクリックします。

3 **保存**をクリックして、設定を保存します。

サーバーのキャリブレーションの作成

キャリブレーションを作成するには、名前などの詳細情報を必要に応じて入力します。

必要な情報は、キャリブレーションを行っている Fiery サーバーやプリンターによって異なります。たとえば、カラーモードフィールドや G7 グレーバランスのチェックボックスが表示されない場合があります。

1 任意のキャリブレーション名を入力します。

メモ：キャリブレーション名は、各サーバーで一意である必要があります。入力する名前は、サーバー上のキャリブレーション設定やプロファイルでまだ使用されていないものにする必要があります。

2 プロダクション出力に必要なカラーモードを次から選択します。

- CMYK
- CMYK + N

メモ：ここで、N はプリンターでライセンスされている追加カラーモードです。

3 （オプション）**G7 キャリブレーションのオプション**を選択します。

4 （オプション）次のいずれかのキャリブレーションターゲットを選択します。

- **G7 グレーバランスキャリブレーション**を選択。

  G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（パッチページ）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。

- **G7+グレーバランスキャリブレーション**を選択。

  G7+グレーバランスキャリブレーションを選択した後、オプションで**高密度スムージング**チェックボックスを選択することもできます。

  密度値が 2.2 以上になると、高密度スムージング機能はバンディングを最小限に抑え、キャリブレーションを向上させるのに役立ちます。密度値が 2.2 以下でこの機能を使用すると、予期しない出力結果が生じる可能性があります。

メモ：G7 およびG 7+のグレーバランスキャリブレーションを使用するには、Fiery Color Profiler Suite をインストールしてライセンスを取得する必要があります。ライセンス認証がされていない場合、オプションはグレーアウト（無効）表示されます。

5 （オプション）**コメント**フィールドに、メディア名、メディア（用紙）の種類、特別な設定、指示などキャリブレーションの詳細を入力します。

メモ：キャリブレーション設定を作成する際、再キャリブレートに必要なメディア（用紙）の種類、使用プリンター、およびすべての特別な指示をジョブ注釈メモフィールドに記録することが推奨されます。

6 （オプション）**次へ**のボタンで下矢印を選択し、**ファイルから測定値をロード**を選択して、印刷と測定のワークフローを省略できます。このオプションは、プリンターの測定値をすでに持っている上級ユーザー向けのものです。必ず実際のプリンターで印刷して測定することが推奨されます。

7 **次へ**をクリックします。

G7 キャリブレーションワークフロー

G7 キャリブレーションは、Fiery サーバーのキャリブレーションとプロファイル測定パッチの印刷の間に実行されます。

G7 キャリブレーションは、Fiery サーバーのキャリブレーションに加えて適用されます。G7 キャリブレーション処理が開始されると、ユーザーは、使用する P2P ターゲットのパッチレイアウトを選択し、それを測定して結果を確認してから、必要に応じて設定の調整を行います。

G7 仕様では、異なるプリンターで一般的でニュートラルな見た目の出力を作成するのに使用できる、標準的なグレースケール曲線が定義されています。G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（P2P ターゲット）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。Fiery Color Profiler Suite G7 キャリブレーションに使用されるさまざまな P2P ターゲットの印刷と測定をサポートします。任意の対応測定器で測定することができます。

1 **パッチレイアウト**ウィンドウで、使用する **G7 パッチセット**を次から選択します。

- P2P51（新しいターゲット、オリジナルの改訂版）
- P2P25Xa（オリジナルのターゲット）

メモ：ターゲットで実際に使用される値は類似していますが、新しいバージョンは G7 仕様のより正確なバージョンです。

2 **印刷**をクリックしてパッチページを測定します。

3 **G7 グレーバランスの測定結果**を確認します。

これは G7 キャリブレーションの実行であるため、結果が不合格になることが予想されます。G7 キャリブレーションに必要な NPDC 曲線の計算に使用されるのは、このターゲットの測定結果です。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。この表では緑色で表示する場合、加重平均を 1.5 未満にする必要があります。緑色で表示するには加重最大値を 3 未満にする必要があります。

4 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。

デフォルトのまま使用するか、変更します。

5 **OK** をクリックして、NPDC 曲線を適用して P2P パッチページをもう一度印刷します。

6 パッチページを測定し、G7 の結果を表示します。

7 G7 結果が合格の（すべての結果がグリーンで表示される）場合は、**次へ**をクリックします。結果が失敗である（一部の結果が赤でハイライト表示）場合は、**反復**をクリックして処理を繰り返します。反復を繰り返しても、より良い結果にはなりません。最大で 4 回の反復を実行できます。

G7+キャリブレーションワークフロー

G7+キャリブレーションは、Fiery サーバーのキャリブレーションとプロファイル測定パッチの印刷の間に実行されます。

G7+キャリブレーションは、Fiery サーバーのキャリブレーションに加えて適用されます。G7+キャリブレーション処理を開始すると、P2P75+ターゲットのパッチレイアウトを選択し、それを測定して結果を確認してから、必要に応じて設定の調整を行います。

G7+仕様では、異なるプリンターでも共通してニュートラルな見た目の出力を実現して使用できる標準的なグレースケール曲線が定義されています。G7+キャリブレーションは、P2P75+ターゲットの測定データを使用して、プリンターのカラー出力を G7 仕様に調整します。Fiery Color Profiler Suite は G7 キャリブレーションに使用される P2P75+ターゲットの印刷と測定をサポートします。インライン測定器などの対応する測定器で測定することができます。この場合、ユーザーが操作することなく処理を自動化できます。

1 **パッチレイアウト**ウィンドウで、**G7+パッチセット**リストから **P2P75+**を選択します。

2 **印刷**をクリックしてパッチページを測定します。

3 **G7+グレーバランスの測定結果**を確認します。

これは G7+キャリブレーションの実行であるため、結果が不合格になることが予想されます。このターゲットの測定結果が G7+キャリブレーションに必要な NPDC 曲線の計算に使用されます。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。この表では緑色で表示する場合、加重平均を 1.5 未満にする必要があります。緑色で表示するには加重最大値を 3 未満にする必要があります。

4 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。

デフォルトのまま使用するか、変更します。

5 **OK** をクリックして、NPDC 曲線を適用した P2P75+パッチページをもう一度印刷します。

6 パッチページを測定し、G7+の結果を表示します。

7 G7+の結果が合格である（すべての結果が緑で表示）場合は、**次へ**をクリックします。結果が失敗である（一部の結果が赤でハイライト表示）場合は、**反復**をクリックして処理を繰り返します。反復を繰り返しても、より良い結果にはなりません。最大で 4 回の反復を実行できます。

チャンネルごとのインクリミット測定値の取得

キャリブレーションのために取得した測定値により、各チャンネルで推奨されるインクリミットが提供されます。
パッチページでチャンネルあたりのインクリミットを測定します。

1 次のいずれかを選択します。

- **測定チャートを印刷**

  ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

  このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- **ファイルから測定値をインポート**

メモ：テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順で必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

次の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化する場合があります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。
- Calibrator のバージョンによっては、ファイルから測定値をインポートするオプションが Calibrator ウィンドウまたは測定器リストに表示されます。
- キャリブレーション設定が作成されると、**ジョブのプロパティ**ウィンドウが開き、測定サンプルの印刷方法を指定できます。

このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 **次へ**をクリックします。

最初の手順で**測定チャートを印刷**を選択した場合は、FieryMeasure の**パッチレイアウト**ウィンドウが表示されます。**パッチレイアウト**ウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。**印刷**をクリックして続行します。

チャンネルごとのインクリミットの設定

チャンネルごとのインクリミット用に提供されるパッチページを正常に測定した後、結果が表示され、いくらかの調整を行うことができます。

各チャンネルごとに、インクリミットが表示されます。

スライダーを表示するには、各チャンネル名の隣にある矢印をクリックします。インクリミットを変更するには、スライダーを動かします。

次へをクリックしてリニアリゼーションを測定します。

リニアリゼーション測定値の取得

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

1 次のいずれかを選択します。

- **測定チャートを印刷**

  ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

  このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- **ファイルから測定値をインポート**

メモ：テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順で必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

次の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化する場合があります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。
- Calibrator のバージョンによっては、ファイルから測定値をインポートするオプションが Calibrator ウィンドウまたは測定器リストに表示されます。
- キャリブレーション設定が作成されると、**ジョブのプロパティ**ウィンドウが開き、測定サンプルの印刷方法を指定できます。

このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 **次へ**をクリックします。

最初の手順で**測定チャートを印刷**を選択した場合は、FieryMeasure の**パッチレイアウト**ウィンドウが表示されます。**パッチレイアウト**ウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。**印刷**をクリックして続行します。

メモ：再キャリブレートしている場合は、同じ種類の用紙、またはキャリブレーションの作成時に使用された用紙の種類とよく似た種類の用紙が入っている給紙トレイを選択するようにしてください。**カラー**タブと**イメージ**タブの設定はキャリブレーションソフトウェアによって自動的に設定されたため、設定を変更しないでください。

合計インクリミット測定値の取得

合計インクリミット測定値は、プリンターが用紙で対応可能な量以上のインクを使用しないように、または目的のジョブに必要以上のインクを使用しないようにするのに役立ちます。

1 合計インクリミットを指定するには、次のいずれかを選択してください。

- **測定チャートを印刷**

  表示されている**初期のインクリミット**は、プリンターで推奨されているデフォルト値です。新しい値を入力して推奨値を上書きし、チャートを印刷します。印刷しようとしているチャートには、この値より多くのインクを指定するパッチは含まれません。

  ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

  このオプションを選択する場合、オンライン指示に従ってパッチページの印刷および測定を行い、実際の用紙の種類に合わせて最適化された値がシステムにより推奨されるようにします。パッチページを印刷する前に、選択したパッチ測定器の設定を変更し、チャートのカスタム用紙サイズを指定できます。

- **数値を入力**

  表示される値はプリンターで推奨されているデフォルト値で、追加測定は必要ありません。この値は特定の用紙に合わせて最適化されません。設定が高すぎる場合、用紙はインクの多さに対応できない可能性があります。設定が低すぎる場合、特定の用紙でプリンターの色域が制限されています。

- **ファイルから測定値をインポート**

メモ：テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順で必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

次の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化する場合があります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。
- Calibrator のバージョンによっては、ファイルから測定値をインポートするオプションが **Calibrator** ウィンドウまたは測定器リストに表示されます。
- キャリブレーション設定が作成されると、**ジョブのプロパティ**ウィンドウが開き、測定サンプルの印刷方法を指定できます。

このオプションを選択すると、以前に保存された測定データから値が読み込まれます。

このオプションを選択する場合は、カラーベンチマークの測定値の取得に進みます。

2 **次へ**をクリックします。

最初の手順で**測定チャートを印刷**を選択した場合は、FieryMeasure の**パッチレイアウト**ウィンドウが表示されます。**パッチレイアウト**ウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。**印刷**をクリックして続行します。

合計インクリミットの設定

合計インクリミット用に提供されるパッチページを正常に測定した後、結果が表示され、いくらかの調整を行うことができます。

1 次のいずれかを選択します。

- **測定結果を使用**

  表示される値はプリンターで推奨されている値です。この値は最新の測定値から計算されます。

- **数値を入力**

  表示される値はプリンターで推奨されている値で、追加測定は必要ありません。推奨されている値を使用しない場合は、任意の数値を入力することができます。

- **印刷されたビジュアルチャートから値を選択**

  このオプションでは、測定チャートを印刷するときに**ビジュアルチャートを含める**を選択したかどうかのみが表示されます。表示される値は、チャートの特定の列番号に基づいてプリンターで推奨されている値です。推奨されている値を使用しない場合は、任意の列番号を選択することができます。ビジュアルチャートを印刷すると、測定値のみでは検出できない問題が明らかになる場合があります。たとえば、必要以上のインクが出ることが許可されている場合、用紙を浸透する可能性があります。この場合、推奨されている値より低い値を使用します。

2 **次へ**をクリックします。

G7 グレーバランスの測定値を取得する

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

1 次のいずれかを選択します。

- **測定チャートを印刷**

  このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- **ファイルから測定値をインポート**

  メモ：テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順で必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

  次の点に留意してください。

  - 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化する場合があります。
  - 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。
  - Calibrator のバージョンによっては、ファイルから測定値をインポートするオプションが Calibrator ウィンドウまたは測定器リストに表示されます。
  - キャリブレーション設定が作成されると、**ジョブのプロパティ**ウィンドウが開き、測定サンプルの印刷方法を指定できます。

  このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

  このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 **次へ**をクリックします。
最初の手順で**測定チャートを印刷**を選択した場合は、FieryMeasure の**パッチレイアウト**ウィンドウが表示されます。**パッチレイアウト**ウィンドウで計器、G7 ターゲットのいずれか、およびチャートサイズを選択します。**印刷**をクリックして続行します。

G7 グレーバランスの測定結果の概要

G7 グレーバランス測定値の概要を表示します。

1 G7 グレーバランスの測定結果の概要を確認します。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。テーブルでは、加重平均をグリーンで表示するには 1.5 未満にする必要があります。加重最大をグリーンで表示するには 3 未満にする必要があります。

2 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。デフォルトのまま使用するか、変更します。

3 **戻る**をクリックして、初回の測定値を破棄します。

4 **反復**をクリックし、処理を繰り返します。

G7+グレーバランスの測定結果の概要

G7+グレーバランス測定値の概要を表示します。

1 G7 グレーバランスの測定結果の概要を確認します。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。この表では緑色で表示する場合、加重平均を 1.5 未満にする必要があります。緑色で表示するには加重最大値を 3 未満にする必要があります。

2 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。デフォルトのまま使用するか、変更します。

3 **戻る**をクリックして、初回の測定値を破棄します。

4 **反復**をクリックし、処理を繰り返します。

修正オプション

出力補正曲線を確認します。

1 さまざまな補正オプションを設定できます。

- **グレーバランスのフェード**：フェード調整値を上回る G7 NPDC 補正曲線により適用されたグレーバランス補正を低減させます。
- **色調調整のフェード**：フェード調整値を上回る G7 NPDC 補正曲線により適用された色調調整を低減させます。
- **フェード調整値**：指定したパーセントドット値を上回る色調調整やグレーバランスを低減させます。
- **スムージング追加**：ノイズが発生するまたは不規則なキャリブレーションデータでキャリブレーション曲線を滑らかにします。

2 変更を承諾するには **OK**、デフォルト値に戻すには**デフォルト**を選択します。

G7 グレーバランスの測定結果

G7 グレーバランス測定値の結果を表示します。

1 G7 グレーバランスの測定結果を確認します。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。テーブルでは、加重平均をグリーンで表示するには 1.5 未満にする必要があります。加重最大をグリーンで表示するには 3 未満にする必要があります。

2 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。デフォルトのまま使用するか、変更します。

3 **反復**をクリックして、その G7 キャリブレーション曲線のパッチを印刷し、結果が合格であるかを確認します。

4 **戻る**をクリックして、反復測定値を破棄します。

5 その結果を容認できる場合には、**承認**をクリックしてキャリブレーション処理を続行します。

G7+グレーバランスの測定結果

G7+グレーバランスの測定結果を表示します。

1 G7+グレーバランスの測定結果を確認します。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。この表では緑色で表示する場合、加重平均を 1.5 未満にする必要があります。緑色で表示するには加重最大値を 3 未満にする必要があります。

2 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。デフォルトのまま使用するか、変更します。

3 **反復**をクリックして、その G7+キャリブレーション曲線のパッチを印刷し、結果が合格であるかを確認します。

4 **戻る**をクリックして、反復測定値を破棄します。

5 その結果を容認できる場合には、**承認**をクリックしてキャリブレーション処理を続行します。

カラーベンチマーク測定値の取得

これらの最終測定値により、プリンターのターゲットにする色域が確立されます。

メモ：オプションは、Fiery サーバーによって異なります。一部の Fiery サーバーは、プロファイル作成中にカラーベンチマークを自動的に計算します。その他の Fiery サーバーの場合は、パッチを印刷および測定して、カラーベンチマークを設定する必要があります。

1 次のいずれかを選択します。

- **測定チャートを印刷**

  ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

  このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- **ファイルから測定値をインポート**

  メモ：テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順で必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

  次の点に留意してください。

  - 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化する場合があります。
  - 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。
  - Calibrator のバージョンによっては、ファイルから測定値をインポートするオプションが Calibrator ウィンドウまたは測定器リストに表示されます。
  - キャリブレーション設定が作成されると、**ジョブのプロパティ**ウィンドウが開き、測定サンプルの印刷方法を指定できます。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 **次へ**をクリックします。

カラーベンチマークの設定

新しいキャリブレーションでは、各再キャリブレーションで達成しようとしている基本色の状態である「ベンチマーク」が生成されます。

ベンチマークとは、定義したばかりの印刷条件（メディア、解像度、ハーフトーンなど）に正しくキャリブレーションされている場合にプリンターで期待されるカラー出力です。プリンターを正しくカラー管理するために、サーバーではこのキャリブレーションされた状態で作成された色空間を説明する出力プロファイルが必要です。キャリブレーションに満足していない場合は、前の手順を確認します。

再キャリブレーションする場合は、再キャリブレーションの結果で、プリンターが指定されたキャリブレーションセットの元のベンチマークをまだ実行しているかを確認するようにします。

メモ：オプションは、Fiery サーバーによって異なります。一部の Fiery サーバーは、プロファイル作成中にカラーベンチマークを自動的に計算します。その他の Fiery サーバーの場合は、パッチを印刷および測定して、カラーベンチマークを設定する必要があります。

グラフ上の直線の対角線は、理論上のターゲットカラーベンチマークを表し、各 CMYK 測定値はプリンターによって生成される実際のカラーを表します。わずかなずれの発生が予想されます。これは、プロファイルした条件下での実際のキャリブレート反応を表します。Fiery Profile Inspector および Fiery Verify の 2 つの Fiery Color Profiler Suite モジュールを使用すると、より詳細な情報を表示できます。

出力プロファイルの設定

Printer Profiler に進み、出力プロファイルを作成するか、今後のために結果を保存できます。

- プロファイルの作成を選択します。

  a) 出力プロファイル作成を選択します。

  b) 次へをクリックします。

  完了したキャリブレーションとともに使用する出力プロファイルが Fiery Printer Profiler により作成されます。

  あるいは、今後のためにキャリブレーション結果を保存します。

  a) キャリブレーションを保存して出力プロファイルを後で作成を選択します。

  b) 完了をクリックします。

  キャリブレーションは Command WorkStation Profile Manager で表示可能な一時出力プロファイルとともに保存されます。カラーマネジメントが正確になるように、キャリブレーションとともに使用するカスタムプロファイルを作成する必要があります。

再キャリブレート

Fiery サーバーのキャリブレーションデータを取得した後は、いつでも再キャリブレートを実行できます。既存のキャリブレーションは、このキャリブレーションの作成時に Fiery サーバー用に生成されたカラーベンチマークに一致するようアップデートされます。

1 Calibrator を起動します。

2 Fiery Color Profiler Suite から Calibrator を開始している場合は、**タスクの選択**画面で **Fiery サーバー選択**をクリックし、一覧から Fiery サーバーを選択します。Fiery サーバーがリストにない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。

3 次のいずれかのタスクを選択します。

- **再キャリブレート** - 選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションをアップデートします。
- **キャリブレーションの作成** - Fiery サーバー上での新しいカラー印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。 -

4 **次へ**をクリックします。

サーバーのキャリブレーションのアップデート

再キャリブレートを行うには、以前に保存したキャリブレーションデータを使用して開始します。

1 一覧から既存のキャリブレーションセットを選択します。

選択したキャリブレーションに基づいて、カラーモードが表示されます。カラーモードが表示されていない場合、キャリブレーションを行ったプリンターではサポートされていません。

表示されるコメントはキャリブレーションが作成されたときに追加されたものです。

2 **次へ**をクリックします。

リニアリゼーション測定値の取得

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

1 次のいずれかを選択します。

- **測定チャートを印刷**

  ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

  このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- **ファイルから測定値をインポート**

メモ：テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順で必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

次の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化する場合があります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。
- Calibrator のバージョンによっては、ファイルから測定値をインポートするオプションが Calibrator ウィンドウまたは測定器リストに表示されます。
- キャリブレーション設定が作成されると、**ジョブのプロパティ**ウィンドウが開き、測定サンプルの印刷方法を指定できます。

このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 **次へ**をクリックします。

最初の手順で**測定チャートを印刷**を選択した場合は、FieryMeasure の**パッチレイアウト**ウィンドウが表示されます。**パッチレイアウト**ウィンドウで計器、G7 ターゲットのいずれか、およびチャートサイズを選択します。**印刷**をクリックして続行します。

メモ：再キャリブレートしている場合は、同じ種類の用紙、またはキャリブレーションの作成時に使用された用紙の種類とよく似た種類の用紙が入っている給紙トレイを選択するようにしてください。**カラー**タブと**イメージ**タブの設定はキャリブレーションソフトウェアによって自動的に設定されたため、設定を変更しないでください。

キャリブレーションの検証測定値の取得

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

1 次のいずれかを選択します。

- **測定チャートを印刷**

  ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

  このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- **ファイルから測定値をインポート**

  このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

  このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 **次へ**をクリックします。

最初の手順で**測定チャートを印刷**を選択した場合は、FieryMeasure の**パッチレイアウト**ウィンドウが表示されます。**パッチレイアウト**ウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。**印刷**をクリックして続行します。

キャリブレーションの検証

新しいキャリブレーションでは、各再キャリブレーションで達成しようとしている基本色の状態である「ベンチマーク」が生成されます。

ベンチマークとは、定義したばかりの印刷条件（用紙、解像度、ハーフトーンなど）に正しくキャリブレーションされている場合にプリンターで期待されるカラー出力です。プリンターを正しくカラー マネジメントするために、サーバーではこのキャリブレーションされた状態で作成された色空間を説明する出力プロファイルが必要です。キャリブレーションに満足していない場合は、前の手順を確認します。

再キャリブレーションする場合は、再キャリブレーションの結果で、プリンターが指定されたキャリブレーションセットの元のベンチマークをまだ実行しているかを確認するようにします。

1 結果を表示します。

カラーベンチマークとキャリブレーションされた結果を比較することができます。また、各チャンネルアイコンの隣にある眼のアイコンをクリックして、個々のチャンネルを表示することもできます。

2 **適用して閉じる**をクリックし、キャリブレーションセットをプリンターに適用してキャリブレーターを閉じます。

キャリブレーションの適用準備ができている

測定値のセットがある場合、キャリブレーションの適用準備ができています。キャリブレーションの検証を行うか、プリンターへのキャリブレーション設定の適用を行うかを選択できます。

- **検証**をクリックし、オンライン指示に従います。
  プリンターのキャリブレーションを検証すると、キャリブレーションされた状態が、現在のキャリブレーション設定のカラーベンチマークにどれほど近いかを比較できます。

キャリブレーションマネージャー

キャリブレーションマネージャーでは、キャリブレーション設定の表示および削除を行うことができます。個々のキャリブレーションでコメントの追加または削除ができます。

通常、キャリブレーション設定および出力プロファイルは特定の用紙および印刷条件に適したものになっています。キャリブレーション設定は、複数の出力プロファイルに関連付けることができます。

ウィンドウの左下隅にあるをクリックして、キャリブレーターからキャリブレーションマネージャーを開きます。選択されたサーバーのすべてのキャリブレーションがウィンドウに表示されます。次のカテゴリが表示されます。

- **キャリブレーション**：名前別に一覧表示されたサーバーの完了したキャリブレーション
- **最終キャリブレーション**：最後にキャリブレーションを行った日時
- **カラーモード**：キャリブレーションセットがサポートする出力プロファイルの色空間

一覧で選択したキャリブレーションで、いくつかの操作を実行できます。キャリブレーションによっては、使用できない操作もあります。ある操作が使用できない場合は、グレー表示になります。次のような操作があります。

- **編集**では、カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集するウィンドウを開きます。
- **測定値の表示**では、強調表示されたキャリブレーションの詳細を表示するウィンドウを開きます。

  このウィンドウに表示される情報は、測定空間で決まります。
- **削除**では、選択したキャリブレーションセットを削除します。

  このキャリブレーションの影響を受けるプロファイルも、オペレーターが確認した後に削除されます。普通紙などの工場出荷時のキャリブレーションセットは削除できません。

キャリブレーション設定を編集する

カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集できます。工場出荷時に提供されたキャリブレーション設定は編集できません。

カスタムキャリブレーション設定を編集するには、システム管理者権限が必要です。

キャリブレーション設定と一緒に保存された測定データは無効になるため、ジョブのプロパティ（印刷設定）は編集できません。キャリブレーション設定のジョブプロパティを編集するには、既存の設定に基づいて新しいキャリブレーション設定を作成します。

1 **キャリブレーションマネージャー**で、一覧からキャリブレーション設定を選択し、**編集**をクリックします。

2 以下の設定を指定します。

- **名前** - 用紙名、坪量、用紙の種類のほかに特定の印刷条件（ハーフトーン、グロス設定など）もわかるような名前を入力します。名前は 70 文字まで入力できます。
- **コメント** -（オプション）追加の説明情報を入力します。この情報は、Fiery サーバーで使用可能なキャリブレーション設定のリストに表示されます。

測定値の表示

L*a*b*測定空間でのキャリブレーションの詳細を表示します。

特定のキャリブレーション設定の測定データをデフォルトデータ（工場出荷時のデフォルトデータ、またはカスタムキャリブレーション設定の場合は初回の測定データ）にリセットすることができます。このオプションは、現在の測定データがすでにデフォルトデータになっている場合には使用できません。

1 **キャリブレーションマネージャー**で、キャリブレーションを選択し、**測定値の表示**をクリックします。
キャリブレーションの詳細が表示されます。

2 キャリブレーションデータをリセットするには、**デフォルト測定値にリセット**をクリックします。
このアクションを実行すると、キャリブレーター測定値の最後のセットが削除されます。

トナー Delta E ベースのキャリブレーションワークフロー

Fiery サーバーのキャリブレーションをおこなう際には、次のタスクを実行します。

- キャリブレーションページの印刷。特定のレイアウトの様々なカラーのパッチを含みます。このページを使用して、プレスの現在の出力を測定します。

  プレスからの出力は、時間の経過と使用状況により変化します。現在のプリントデバイスのデータを得るには、必ず新しく印刷したキャリブレーションページを測定してください。
- サポートされている測定器を使用して、キャリブレーションページのパッチのカラー値を測定します。
- 測定を適用する

  測定データは特定のキャリブレーション設定と共に保存されます。特定のキャリブレーション設定を適用してジョブを印刷すると、この測定データを使用して、望ましいカラー（キャリブレーションターゲット）で出力するのに必要なキャリブレーションを算出します。

Fiery サーバーを選択する

Calibrator を起動して、Fiery サーバー用の新しいキャリブレーション設定を作成するか、既存の設定をアップデートします。

1. Calibrator を起動します。
2. Fiery server から Calibrator を開始している場合は、**タスクの選択**画面で **Fiery サーバー選択**をクリックし、リストから Fiery サーバーを選択します。Fiery サーバーがリストにない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索による方法でサーバーを追加します。
3. 次のいずれかのタスクを選択します。
   - **再キャリブレート**：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションをアップデートします。
   - **キャリブレーションの作成**：Fiery サーバー上での新しいカラー印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。
4. **次へ**をクリックします。

   メモ：選択したタスクを完了するために必要な手順の数は、接続されているプリンターによって異なります。使用しているプリンターのモデルによっては、一部の設定やオプションが使用できない場合もあります。

Calibrator 設定

Calibrator 設定ウィンドウの設定は、キャリブレーション手順のさまざまな面に影響します。キャリブレーション状況（有効期限）、キャリブレーション時間制限、ジョブの一時停止を設定できます。

メモ：環境設定を変更するには、システム管理者権限が必要です。

Command WorkStation では次のいずれかの方法で Fiery Calibrator を開くことができます。

- ジョブセンターで、ツールバーの**キャリブレート**アイコンをクリックします。
- **サーバー** > **キャリブレート**をクリックします。
- **サーバー** > **デバイスセンター**をクリックします。**一般**で、**ツール**、**Calibrator** をクリックします。

Fiery Calibrator ウィンドウで、左下角にある Calibrator 設定（歯車）アイコンをクリックします。

ダークモードを使用するには、Command WorkStation の環境設定（25 ページ）で設定します。

キャリブレーション状況（有効期限）

キャリブレーションの時間制限を設定すると、期限切れのキャリブレーションの状況メッセージが Command WorkStation に表示され、ジョブが一時停止する場合があります。

Command WorkStation には、ジョブセンターのジョブについて、キャリブレーションが 30 分以内に期限切れになる場合は黄色の警告アイコン/メッセージ、キャリブレーションがすでに期限切れの場合は赤色のエラーアイコン/メッセージが表示されます。

ジョブのキャリブレーションが期限切れの場合、印刷しようとすると Fiery サーバーはジョブを一時停止します。ジョブは印刷されず、一時停止の状態で印刷キューに残ります。

キャリブレーション状況は、ジョブが印刷に送信される直前に確認されます。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限切れになった場合は、ジョブは一時停止しません。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限切れにならないように、印刷時間の長いジョブを実行する前にキャリブレートすることを推奨します。

一時停止されたジョブをダブルクリックすると、次のいずれかの操作を行うことができます。

- Fiery サーバーをキャリブレートして、ジョブのキャリブレーション設定を行います。キャリブレーションの測定値をアップデートした後、一時停止状態のジョブを選択し、印刷します。
- 「期限切れ」のキャリブレーション測定データを使用して、ジョブの印刷を続行します。該当ジョブにとってカラー出力の一貫性が重要でない場合は、このオプションを選択してください。

キャリブレーション制限によって影響を受けるジョブの種類

Fiery サーバーは、次のジョブに対してキャリブレーションが期限内であるかどうかを検出できます。

- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE を使用してアプリケーションから送信されたジョブ.
- インポートされた PDF または TIFF のジョブ。
- 処理済みのジョブ（処理済みの VPS および VIPP ジョブを含む）

Fiery サーバーでは、次の種類のジョブについてはキャリブレーションが期限内であるか検出できず、ジョブを一時停止にすることはできません。

- PCL および PJL のジョブ。
- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE を使用せずにアプリケーションから送信されたジョブ。未処理の VPS および VIPP ジョブが含まれます。
- 直接接続で送信されたジョブ。直接接続で送信されたジョブは一時停止にできません。

また、Fiery サーバーは Force Print コマンドを使用して印刷したジョブのキャリブレーションを確認しません。Force Print コマンドは、ジョブのミスマッチ（ジョブに必要な用紙や仕上げが使用できないこと）

により一時停止されたジョブに使用されます。この種類のジョブは強制的に印刷するように設定されているため、キャリブレーションは確認できません。

キャリブレーションの時間制限およびジョブの一時停止の設定

キャリブレーション時間制限を設定したり、キャリブレーションが期限切れの場合に Fiery Command WorkStation がジョブを一時停止するかどうかを設定できます。

1 **Calibrator 設定**ウィンドウで、次のいずれかを行います。

有効期限を設定する場合は、次のいずれかを設定できます。

- 有効期限状況を表示するには、**ジョブセンターで状況を表示**を選択します。
- ジョブの一時停止を有効化するには、**キャリブレーションが期限切れの場合、ジョブの印刷を一時停止**を選択します。

  一時停止されたジョブの場合は、次のいずれかの操作を行うことができます。

  - Fiery サーバーをキャリブレートして、ジョブのキャリブレーション設定を行います。キャリブレーションの測定値をアップデートした後、一時停止状態のジョブを選択し、印刷します。
  - 出力の一貫性がジョブにとって重要でない場合は、古い測定データを使用してジョブの印刷を続行します。

- ゼロタッチ再キャリブレーションを有効化するには、**インラインセンサーを使用して自動的にジョブをキャリブレート**を選択します。

2 オプションで、**G7 キャリブレーションの作成**チェックボックスを選択して、プロファイリング測定パッチをキャリブレートして印刷します。

G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（パッチページ）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。

3 設定をオリジナルデフォルトに戻すには、**出荷時のデフォルト**をクリックします。

4 **保存**をクリックして、設定を保存します。

サーバーのキャリブレーションの作成

キャリブレーションを作成するには、名前などの詳細情報を必要に応じて入力します。

必要な情報は、キャリブレーションを行っている Fiery サーバーやプリンターによって異なります。

1 任意のキャリブレーション名を入力します。

メモ：キャリブレーション名は、各サーバーで一意である必要があります。入力する名前は、サーバー上のキャリブレーション設定やプロファイルでまだ使用されていないものにする必要があります。

2 **カラーモード**を選択します。

3 （オプション）**設定**をクリックして、**ジョブのプロパティ（読み取り専用）の既存キャリブレーションを使用**の設定を変更します。

ジョブのプロパティウィンドウで、キャリブレーションのプロパティを更新できます。

4 （オプション）**G7 キャリブレーションのオプション**を選択します。

5 （オプション）次のいずれかのキャリブレーションターゲットを選択します。

- **G7 グレーバランスキャリブレーション**を選択。

  G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（パッチページ）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。

- **G7+グレーバランスキャリブレーション**を選択。

  G7+グレーバランスキャリブレーションを選択した後、オプションで**高密度スムージング**チェックボックスを選択することもできます。

  密度値が 2.2 以上になると、高密度スムージング機能はバンディングを最小限に抑え、キャリブレーションを向上させるのに役立ちます。密度値が 2.2 以下でこの機能を使用すると、予期しない出力結果が生じる可能性があります。

メモ：G7 およびG 7+のグレーバランスキャリブレーションを使用するには、Fiery Color Profiler Suite をインストールしてライセンスを取得する必要があります。ライセンス認証がされていない場合、オプションはグレーアウト（無効）表示されます。

6 （オプション）**CMYK モードで特殊カラーのトップコートを使用**を選択します。

7 （オプション）**CMYK モードで特殊カラーのアンダーコートを使用**を選択します。

2 つの特殊カラーを搭載したプリンターで CMYK のみをキャリブレートするには、**CMYK モードで特殊カラーのトップコートを使用**と **CMYK モードで特殊カラーのアンダーコートを使用**の両方を選択します。

8 **次へ**をクリックします。

G7 キャリブレーションワークフロー

G7 キャリブレーションは、Fiery サーバーのキャリブレーションとプロファイル測定パッチの印刷の間に実行されます。

G7 キャリブレーションは、Fiery サーバーのキャリブレーションに加えて適用されます。G7 キャリブレーション処理が開始されると、ユーザーは、使用する P2P ターゲットのパッチレイアウトを選択し、それを測定して結果を確認してから、必要に応じて設定の調整を行います。

G7 仕様では、異なるプリンターで一般的でニュートラルな見た目の出力を作成するのに使用できる、標準的なグレースケール曲線が定義されています。G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（P2P ターゲット）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。Fiery Color Profiler Suite G7 キャリブレーションに使用されるさまざまな P2P ターゲットの印刷と測定をサポートします。インライン測定器などの対応する測定器で測定することができます。この場合、ユーザーが操作することなく処理を自動化できます。

1 **パッチレイアウト**ウィンドウで、使用する **G7 パッチセット**を次から選択します。

- P2P51（新しいターゲット、オリジナルの改訂版）
- P2P25Xa（オリジナルのターゲット）

メモ：ターゲットで実際に使用される値は類似していますが、新しいバージョンは G7 仕様のより正確なバージョンです。

2 **印刷**をクリックしてパッチページを測定します。

3 **G7 グレーバランスの測定結果**を確認します。

これは G7 キャリブレーションの実行であるため、結果が不合格になることが予想されます。G7 キャリブレーションに必要な NPDC 曲線の計算に使用されるのは、このターゲットの測定結果です。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。この表では緑色で表示する場合、加重平均を 1.5 未満にする必要があります。緑色で表示するには加重最大値を 3 未満にする必要があります。

4 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。

デフォルトのまま使用するか、変更します。

5 **OK** をクリックして、NPDC 曲線を適用して P2P パッチページをもう一度印刷します。

6 パッチページを測定し、G7 の結果を表示します。

7 G7 結果が合格の（すべての結果がグリーンで表示される）場合は、**次へ**をクリックします。結果が失敗である（一部の結果が赤でハイライト表示）場合は、**反復**をクリックして処理を繰り返します。反復を繰り返しても、より良い結果にはなりません。最大で 4 回の反復を実行できます。

G7+キャリブレーションワークフロー

G7+キャリブレーションは、Fiery サーバーのキャリブレーションとプロファイル測定パッチの印刷の間に実行されます。

G7+キャリブレーションは、Fiery サーバーのキャリブレーションに加えて適用されます。G7+キャリブレーション処理を開始すると、P2P75+ターゲットのパッチレイアウトを選択し、それを測定して結果を確認してから、必要に応じて設定の調整を行います。

G7+仕様では、異なるプリンターでも共通してニュートラルな見た目の出力を実現して使用できる標準的なグレースケール曲線が定義されています。G7+キャリブレーションは、P2P75+ターゲットの測定データを使用して、プリンターのカラー出力を G7 仕様に調整します。Fiery Color Profiler Suite は G7 キャリブレーションに使用される P2P75+ターゲットの印刷と測定をサポートします。インライン測定器などの対応する測定器で測定することができます。この場合、ユーザーが操作することなく処理を自動化できます。

1 **パッチレイアウト**ウィンドウで、**G7+パッチセット**リストから **P2P75+**を選択します。

2 **印刷**をクリックしてパッチページを測定します。

3 **G7+グレーバランスの測定結果**を確認します。

これは G7+キャリブレーションの実行であるため、結果が不合格になることが予想されます。このターゲットの測定結果が G7+キャリブレーションに必要な NPDC 曲線の計算に使用されます。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。この表では緑色で表示する場合、加重平均を 1.5 未満にする必要があります。緑色で表示するには加重最大値を 3 未満にする必要があります。

4 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。

デフォルトのまま使用するか、変更します。

5 **OK** をクリックして、NPDC 曲線を適用した P2P75+パッチページをもう一度印刷します。

6 パッチページを測定し、G7+の結果を表示します。

7 G7+の結果が合格である（すべての結果が緑で表示）場合は、**次へ**をクリックします。結果が失敗である（一部の結果が赤でハイライト表示）場合は、**反復**をクリックして処理を繰り返します。反復を繰り返しても、より良い結果にはなりません。反復を繰り返しても、より良い結果にはなりません。最大で 4 回の反復を実行できます。

キャリブレーション設定のカラー出力プロファイルを作成する

カラー出力プロファイルを作成できるようにするには、Fiery Color Profiler Suite が Calibrator と同じコンピューターにインストールされ、ライセンスされている必要があります。カスタムキャリブレーション設定を作成する場合は、測定器を測定方法として指定する必要があります。ColorCal は、コピー機のスキャナーを使用して測定を行います。そのため、スキャナーの制限により、キャリブレーションやプロファイルを作成する方法として ColorCal は使用できません。

カスタムキャリブレーション設定を作成するには、システム管理者権限が必要です。

新しいキャリブレーション設定を作成した後、出力プロファイルと関連付けます。新しいキャリブレーション設定が既存の出力プロファイルと共に使用されると、用紙の種類によっては満足のいく結果を得られない場合があります。印刷結果に不満が残る場合は、使用する用紙に基づいたカスタム出力プロファイルを作成してください。

- 新しいカスタム 出力プロファイルを作成場合、既存の出力プロファイルを使用してテストページを印刷する必要はありません。プロ ファイリングページが印刷されます。Fiery Color Profiler Suite の Printer Profiler を使用してページを測定します。できあがったプロファイルは Fiery サーバーにインポートされ、新しいキャリブレーション設定と関連付けられます。
- 既存の出力プロファイルを選択する場合は、使用する用紙に最も近い用紙用の出力プロファイルを選択してください。キャリブレーション設定と同じ名前を持つ、このプロファイルのコピーが作成されます。プロファイルの既存のキャリブレーションターゲット（目標）は、キャリブレーション測定値を使用して計算された新しいターゲットに変わります。新しいキャリブレーション設定は、このプロファイルに関連付けられます。

1 Fiery サーバー上のプロファイルリストから出力プロファイルを選択します。

Calibrator が出力プロファイルを複製し、その名前を変更します。

2 **テストページ**をクリックします。

テストページを印刷すると、キャリブレーション設定を、現在選択されている出力プロファイルのコピーに関連付けるか、新しい出力プロファイルを作成するかを判断するうえで役に立ちます。

Fiery Color Profiler Suite にライセンスのあるコピーがない場合は、数種類の 出力プロファイルでテスト印刷を行い、最適な結果が得られるプロファイルを判断できます。最良の結果を得るには、ライセンス付与された Fiery Color Profiler Suite アプリケーションを使用して、作成したばかりのキャリブレーション用に最適化された出力プロファイルを作成します

テストページは、現在選択されている出力プロファイルを使用して印刷されます。

3 コンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合は、**新規プロファイル作成**をクリックし、新しいカスタム出力プロファイルを作成できます。

キャリブレーション設定

キャリブレーションページを印刷する場合は、必要に応じて、使用するインク、その他の詳細を指定して、キャリブレーション設定を指定します。

メモ：G7/G7+キャリブレーションが適用されると、キャリブレーション測定値が有効であることを示すメッセージが表示されます。

1 **ジョブのプロパティ**ウィンドウの**カラー**タブで、プロダクション出力に必要なカラーモードを次から選択します。

- CMYK
- CMYK + N

メモ：ここで、N は、サポートされている場合、プリンターでライセンスされている追加カラーモードを示します。

2 **ジョブのプロパティ**ウィンドウの **カラー**タブで出力プロファイルを指定します。

カラータブで変更できる唯一の追加設定は、出力プロファイルです。

使用可能なリストから、用紙のプロパティに最も近い出力プロファイルを選択します。Calibrator はカラー管理に出力プロファイルを使用しませんが、Calibrator と Fiery Color Profiler Suite は出力プロファイルの独自情報を使用して内部設定を最適化します。

3 メディアカタログが必要なプリンターで、**メディアカタログ**のメディアと**ジョブのプロパティ**ウィンドウの**メディア**タブの**サイズ ID** からメディアサイズを定義します。

メディアカタログがオプションであるか使用できないプリンターでは、**ジョブのプロパティ**で選択する用紙プロパティ（重量、タイプ、コーティング、 サイズなど）が用紙ソース（トレイ）情報に含まれていることを確認してください。作成するキャリブレーションは正確な印刷条件に合っている必要があるため、「任意」や「自動」などの設定は使用しないでください。一般的な設定は、最適な結果を保証するものではありません。

4 （オプション）ジョブの印刷にデフォルト設定を使用しない場合は、他のジョブプロパティを指定します。

5 **ページの印刷**をクリックしてキャリブレーションページを印刷し、測定に進みます。

測定用のキャリブレーションページを印刷する

キャリブレーションページを印刷する場合は、測定器とチャートサイズを指定します。

分光測色計をキャリブレートしてキャリブレーションページの測定準備をおこないます。

メモ：

たとえば Fiery ES-3000 など、少なくとも 1 つの手動分光測色計が常に提供されています。分光測色計が最も正確です。

一部のインライン計器は、最良の結果を得るために、用紙に対してインクをキャリブレートする必要があるスキャナーに基づいています。これはしばしば「トレーニング」と呼ばれます。メニューに 2 台の測定器がリストされている場合は、インライン計器と分光測色計付きインライン計器を示します。どちらの機器でも、用紙とインクに最適化されたテーブルを再利用することで、その後、より正確な色を作り出すことができます。

1 **パッチレイアウト**ウィンドウで、次のオプションを設定します。

- 測定器を**計器**リストで選択します。
- **チャートサイズ**リストでパッチページサイズを選択します。

  カスタムをクリックして、カスタムパッチページサイズを指定します。

2 **印刷**をクリックしてパッチページを印刷し、測定に進みます。

画面の指示に従って、キャリブレーションページを測定します。

既存の出力プロファイルの使用

マッチする出力プロファイルが Fiery サーバーで検出された場合は、既存の出力プロファイルを使用できます。

- 次のいずれかを行います。
  - **続行**をクリックして、カスタム出力プロファイルを作成します。
  - **完了**をクリックして、既存の出力プロファイルを使用します。

G7 グレーバランスの測定値を取得する

測定するパッチページを印刷できます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

1 **G7 キャリブレーションのオプション**を選択し、次のオプションのいずれかを選択します。

- **G7 グレーバランスのキャリブレーション**
- **G7+グレーバランスのキャリブレーション**

  G7+グレーバランスキャリブレーションを選択した後、オプションで**高密度スムージング**チェックボックスを選択することもできます。

  密度値が 2.2 以上になると、高密度スムージング機能はバンディングを最小限に抑え、キャリブレーションを向上させるのに役立ちます。密度値が 2.2 以下でこの機能を使用すると、予期しない出力結果が生じる可能性があります。

2 **インク制限の合計の設定**ウィンドウで、**次へ**をクリックします。

FieryMeasure の**パッチレイアウト**ウィンドウが表示されます。

3 **印刷**をクリックして続行します。

4 **次へ**をクリックします。

G7 グレーバランスの測定結果の概要

G7 グレーバランス測定値の概要を表示します。

1 G7 グレーバランスの測定結果の概要を確認します。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。テーブルでは、加重平均をグリーンで表示するには 1.5 未満にする必要があります。加重最大をグリーンで表示するには 3 未満にする必要があります。

2 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。デフォルトのまま使用するか、変更します。

3 **戻る**をクリックして、初回の測定値を破棄します。

4 **反復**をクリックし、処理を繰り返します。

G7+グレーバランスの測定結果の概要

G7+グレーバランス測定値の概要を表示します。

1 G7 グレーバランスの測定結果の概要を確認します。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。この表では緑色で表示する場合、加重平均を 1.5 未満にする必要があります。緑色で表示するには加重最大値を 3 未満にする必要があります。

2 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。デフォルトのまま使用するか、変更します。

3 **戻る**をクリックして、初回の測定値を破棄します。

4 **反復**をクリックし、処理を繰り返します。

修正オプション

出力補正曲線を確認します。

1 さまざまな補正オプションを設定できます。

- **グレーバランスのフェード**: フェード調整値を上回る G7 NPDC 補正曲線により適用されたグレーバランス補正を低減させます。
- **色調調整のフェード**: フェード調整値を上回る G7 NPDC 補正曲線により適用された色調調整を低減させます。
- **フェード調整値**：指定したパーセントドット値を上回る色調調整やグレーバランスを低減させます。
- **スムージング追加**：ノイズが発生するまたは不規則なキャリブレーションデータでキャリブレーション曲線を滑らかにします。

2 変更を承諾するには **OK**、デフォルト値に戻すには**デフォルト**を選択します。

G7 グレーバランスの測定結果

G7 グレーバランス測定値の結果を表示します。

1 G7 グレーバランスの測定結果を確認します。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。テーブルでは、加重平均をグリーンで表示するには 1.5 未満にする必要があります。加重最大をグリーンで表示するには 3 未満にする必要があります。

2 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。デフォルトのまま使用するか、変更します。

3 **反復**をクリックして、その G7 キャリブレーション曲線のパッチを印刷し、結果が合格であるかを確認します。

4 **戻る**をクリックして、反復測定値を破棄します。

5 その結果を容認できる場合には、**承認**をクリックしてキャリブレーション処理を続行します。

G7+グレーバランスの測定結果

G7+グレーバランスの測定結果を表示します。

1 G7+グレーバランスの測定結果を確認します。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。この表では緑色で表示する場合、加重平均を 1.5 未満にする必要があります。緑色で表示するには加重最大値を 3 未満にする必要があります。

2 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。デフォルトのまま使用するか、変更します。

3 **反復**をクリックして、その G7+キャリブレーション曲線のパッチを印刷し、結果が合格であるかを確認します。

4 **戻る**をクリックして、反復測定値を破棄します。

5 その結果を容認できる場合には、**承認**をクリックしてキャリブレーション処理を続行します。

出力プロファイルの設定

出力プロファイルを設定する前に、Calibrator は自動的にキャリブレーション測定値を検証します。

キャリブレーション測定値が有効ではない場合、**戻る**をクリックして再測定します。

キャリブレーション測定が成功した、または有効な場合は、Fiery Printer Profiler に進み、出力プロファイルを作成するか、今後のために結果を保存します。

- プロファイルの作成を選択します。

  a) **Fiery Color Profiler Suite** を使用して**出力プロファイル作成**を選択します。

  b) **次へ**をクリックします。

  Fiery Printer Profiler により、完了したばかりのキャリブレーションとともに使用する出力プロファイルが作成されます。

  あるいは、今後のためにキャリブレーション結果を保存します。

  a) **キャリブレーションを保存して出力プロファイルを後で作成**を選択します。

  測定値を保存アイコンをクリックして、測定値を目的の場所に保存できます。ファイルは Fiery Verify または Fiery Profile Inspector で表示できます。

  b) **完了**をクリックします。

  Command WorkStation Profile Manager では、キャリブレーションの表示に一時的な出力プロファイルが適用されます。カラーマネジメントが正確になるように、キャリブレーションとともに使用するカスタムプロファイルを作成する必要があります。

再キャリブレート

Fiery サーバーのキャリブレーションデータを取得した後は、いつでも再キャリブレートを実行できます。既存のキャリブレーションは、このキャリブレーションの作成時に Fiery サーバー用に生成されたカラーベンチマークに一致するようアップデートされます。

メモ：再キャリブレーションは、ライトインクやインクが重複しないプレスでのみ使用できます。

1. Calibrator を起動します。
2. Fiery server から Calibrator を開始している場合は、**タスクの選択**画面で **Fiery サーバー選択**をクリックし、一覧から Fiery サーバーを選択します。Fiery サーバーがリストにない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。
3. 次のいずれかのタスクを選択します。
   - **再キャリブレート** - 選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションをアップデートします。
   - **キャリブレーションの作成** - Fiery サーバー上での新しいカラー印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。
4. **次へ**をクリックします。

   メモ：選択したタスクを完了するために必要な手順の数は、接続されているプレスによって異なります。使用しているプレスのモデルによっては、一部の設定やオプションが使用できない場合もあります。

サーバーのキャリブレーションのアップデート

再キャリブレートを行うには、以前に保存したキャリブレーションデータを使用して開始します。

1 一覧から既存のキャリブレーションセットを選択します。

選択したキャリブレーションに基づいて、カラーモードが表示されます。カラーモードが表示されていない場合、キャリブレーションを行ったプレスではサポートされていません。

表示されるコメントはキャリブレーションが作成されたときに追加されたものです。

2 オプション：**次へ**のボタンで下矢印を選択し、**ファイルから測定値をロード**を選択して、印刷と測定のワークフローを省略できます。このオプションは、プレスの測定値をすでに持っている上級ユーザー向けのものです。必ず実際のプレスで印刷して測定することをお勧めします。

3 **次へ**をクリックします。

リニアリゼーション測定値の取得

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プレスの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

メモ：この手順は、ライトインクおよびインクの複製がないプレスに適用されます。

1 次のいずれかを選択します。

- **測定チャートを印刷**

  ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

  このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- **ファイルから測定値をインポート**

  メモ：テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順で必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

  以下の点に留意してください。

  - 測定ファイルが保存されたため、プレスの応答が変化する場合があります。
  - 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。
  - Calibrator のバージョンによっては、ファイルから測定値をインポートするオプションが Calibrator ウィンドウまたは測定器リストに表示されます。
  - キャリブレーション設定が作成されると、**ジョブのプロパティ**ウィンドウが開き、測定サンプルの印刷方法を指定できます。

  このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

  このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 **次へ**をクリックします。

最初の手順で**測定チャートを印刷**を選択した場合は、FieryMeasure の**パッチレイアウト**ウィンドウが表示されます。**パッチレイアウト**ウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。**印刷**をクリックして続行します。

メモ：再キャリブレートしている場合は、キャリブレーションの作成時に使用されたサブストレートの種類とよく似た種類のサブストレートを選択するようにしてください。**カラー**タブと**イメージ**タブの設定はキャリブレーションソフトウェアによって自動的に設定されたため、設定を変更しないでください。

キャリブレーションの検証測定値の取得

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

1 次のいずれかを選択します。

- **測定チャートを印刷**

  ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

  このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- **ファイルから測定値をインポート**

  メモ：テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順で必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

  次の点に留意してください。

  - 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化する場合があります。
  - 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。
  - Calibrator のバージョンによっては、ファイルから測定値をインポートするオプションが Calibrator ウィンドウまたは測定器リストに表示されます。
  - キャリブレーション設定が作成されると、**ジョブのプロパティ**ウィンドウが開き、測定サンプルの印刷方法を指定できます。

  このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

  このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 **次へ**をクリックします。

最初の手順で**測定チャートを印刷**を選択した場合は、FieryMeasure の**パッチレイアウト**ウィンドウが表示されます。**パッチレイアウト**ウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。**印刷**をクリックして続行します。

キャリブレーションマネージャー

キャリブレーションマネージャーでは、キャリブレーション設定の表示および削除を行うことができます。個々のキャリブレーションでコメントの追加または削除ができます。

通常、キャリブレーション設定および出力プロファイルは特定の用紙および印刷条件に適したものになっています。キャリブレーション設定は、複数の出力プロファイルに関連付けることができます。

ウィンドウの左下隅にあるをクリックして、Calibrator からキャリブレーションマネージャーを開きます。選択されたサーバーのすべてのキャリブレーションがウィンドウに表示されます。次のカテゴリが表示されます。

- **キャリブレーション**：名前別に一覧表示されたサーバーの完了したキャリブレーション
- **最終キャリブレーション**：最後にキャリブレーションを行った日時
- **カラーモード**：キャリブレーションセットがサポートする出力プロファイルの色空間

一覧で選択したキャリブレーションで、いくつかの操作を実行できます。キャリブレーションによっては、使用できない操作もあります。ある操作が使用できない場合は、グレー表示になります。次のような操作があります。

- **編集**では、カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集するウィンドウを開きます。
- **測定値の表示**では、強調表示されたキャリブレーションの詳細を表示するウィンドウを開きます。

  このウィンドウに表示される情報は、測定空間で決まります。
- **削除**では、選択したキャリブレーションセットを削除します。

  このキャリブレーションの影響を受けるプロファイルも、オペレーターが確認した後に削除されます。普通紙などの工場出荷時のキャリブレーションセットは削除できません。

キャリブレーション設定を編集する

カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集できます。工場出荷時に提供されたキャリブレーション設定は編集できません。

カスタムキャリブレーション設定を編集するには、システム管理者権限が必要です。

キャリブレーション設定と一緒に保存された測定データは無効になるため、ジョブのプロパティ（印刷設定）は編集できません。キャリブレーション設定のジョブプロパティを編集するには、既存の設定に基づいて新しいキャリブレーション設定を作成します。

1. **キャリブレーションマネージャー**で、一覧からキャリブレーション設定を選択し、**編集**をクリックします。
2. 次の設定を指定します。
   - **名前** - 用紙名、坪量、用紙の種類のほかに特定の印刷条件（ハーフトーン、グロス設定など）もわかるような名前を入力します。名前は 70 文字まで入力できます。
   - **コメント** -（オプション）追加の説明情報を入力します。この情報は、Fiery サーバーで使用可能なキャリブレーション設定のリストに表示されます。

測定値の表示

DeltaE 測定空間でのキャリブレーションの詳細を表示します。

特定の キャリブレーション設定の 測定データ を デフォルトデータ（工場出荷時のデフォルトデータ 、またはカスタム キャリブレーション設定の場合は初回の測定データ）にリセットすることができます。このオプションは、現在の測定データがすでに デフォルトデータになっている場合には使用できません。

1 **キャリブレーションマネージャー**で、キャリブレーションを選択し、**測定値の表示**をクリックします。
キャリブレーションの詳細が表示されます。

2 キャリブレーションデータをリセットするには、**デフォルト測定値にリセット**をクリックします。
このアクションを実行すると、Calibrator 測定値の最後のセットが削除されます。

インクジェット Delta E ベースのキャリブレーションワークフロー

Fiery サーバーのキャリブレーションをおこなう際には、次のタスクを実行します。

- キャリブレーションページの印刷。特定のレイアウトの様々なカラーのパッチを含みます。このページを使用して、プレスの現在の出力を測定します。

  プレスからの出力は、時間の経過と使用状況により変化します。現在のプリントデバイスのデータを得るには、必ず新しく印刷したキャリブレーションページを測定してください。
- サポートされている測定器を使用して、キャリブレーションページのパッチのカラー値を測定します。
- 測定を適用する

  測定データは特定のキャリブレーション設定と共に保存されます。特定のキャリブレーション設定を適用してジョブを印刷すると、この測定データを使用して、望ましいカラー（キャリブレーションターゲット）で出力するのに必要なキャリブレーションを算出します。

タスクの選択

Calibrator を起動して、Fiery サーバーの新しいキャリブレーション設定を作成するか、既存のキャリブレーション設定を更新します。

1 Calibrator を起動します。

2 Fiery server から Calibrator を開始している場合は、**タスクの選択**画面で **Fiery サーバー選択**をクリックし、一覧から Fiery サーバーを選択します。Fiery サーバーがリストにない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索による方法でサーバーを追加します。

3 次のいずれかのタスクを選択します。

- **再キャリブレート**：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションをアップデートします。
- **キャリブレーションの作成**：Fiery サーバー上での新しいカラー印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。

4 **次へ**をクリックします。

メモ：選択したタスクを完了するために必要な手順の数は、接続されているプリンターによって異なります。使用しているプリンターのモデルによっては、一部の設定やオプションが使用できない場合もあります。

Calibrator 設定

Calibrator 設定ウィンドウの設定は、キャリブレーション手順のさまざまな面に影響します。キャリブレーション状況（有効期限）、キャリブレーション時間制限、ジョブの一時停止を設定できます。

メモ：環境設定を変更するには、システム管理者権限が必要です。

Command WorkStation では次のいずれかの方法で Fiery Calibrator を開くことができます。

- ジョブセンターで、ツールバーの**キャリブレート**アイコンをクリックします。
- **サーバー** > **キャリブレート**をクリックします。
- **サーバー** > **デバイスセンター**をクリックします。**一般**で、**ツール**、**Calibrator** をクリックします。

Fiery Calibrator ウィンドウで、左下角にある Calibrator 設定（歯車）アイコンをクリックします。

ダークモードを使用するには、Command WorkStation の環境設定（25 ページ）で設定します。

キャリブレーション状況（有効期限）

キャリブレーションの時間制限を設定すると、期限切れのキャリブレーションの状況メッセージが Command WorkStation に表示され、ジョブが一時停止する場合があります。

Command WorkStation には、ジョブセンターのジョブについて、キャリブレーションが 30 分以内に期限切れになる場合は黄色の警告アイコン/メッセージ、キャリブレーションがすでに期限切れの場合は赤色のエラーアイコン/メッセージが表示されます。

ジョブのキャリブレーションが期限切れの場合、印刷しようとすると Fiery サーバーはジョブを一時停止します。ジョブは印刷されず、一時停止の状態で印刷キューに残ります。

キャリブレーション状況は、ジョブが印刷に送信される直前に確認されます。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限切れになった場合は、ジョブは一時停止しません。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限切れにならないように、印刷時間の長いジョブを実行する前にキャリブレートすることを推奨します。

一時停止されたジョブをダブルクリックすると、次のいずれかの操作を行うことができます。

- Fiery サーバーをキャリブレートして、ジョブのキャリブレーション設定を行います。キャリブレーションの測定値をアップデートした後、一時停止状態のジョブを選択し、印刷します。
- 期限切れのキャリブレーション測定データを使用して、ジョブの印刷を続行します。該当ジョブにとって出力の一貫性が重要でない場合は、このオプションを選択してください。

キャリブレーション制限によって影響を受けるジョブの種類

Fiery サーバーは、次のジョブに対してキャリブレーションが期限内であるかどうかを検出できます。

- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE を使用してアプリケーションから送信されたジョブ。
- インポートされた PDF または TIFF のジョブ。
- 処理済みのジョブ（処理済みの VPS および VIPP ジョブを含む）

Fiery サーバーでは、次の種類のジョブについてはキャリブレーションが期限内であるか検出できず、ジョブを一時停止にすることはできません。

- PCL および PJL のジョブ。
- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE を使用せずにアプリケーションから送信されたジョブ。未処理の VPS および VIPP ジョブが含まれます。
- 直接接続で送信されたジョブ。直接接続で送信されたジョブは一時停止にできません。

また、Fiery サーバーは Force Print コマンドを使用して印刷したジョブのキャリブレーションを確認しません。Force Print コマンドは、ジョブのミスマッチ（ジョブに必要な用紙や仕上げが使用できないこと）により一時停止されたジョブに使用されます。この種類のジョブは強制的に印刷するように設定されているため、キャリブレーションは確認できません。

キャリブレーションの時間制限およびジョブの一時停止の設定

キャリブレーション時間制限を設定したり、キャリブレーションが期限切れの場合に Fiery Command WorkStation がジョブを一時停止するかどうかを 設定できます。

1. **Calibrator 設定**ウィンドウで、次のいずれかを行います：

   有効期限を設定する場合は、次のいずれかを設定できます。

   - 有効期限状況を表示するには、**ジョブセンターで状況を表示**を選択します。
   - ジョブの一時停止を有効化するには、**キャリブレーションが期限切れの場合、ジョブの印刷を一時停止**を選択します。

     一時停止されたジョブの場合は、次のいずれかの操作を行うことができます。

     - Fiery サーバーをキャリブレートして、ジョブのキャリブレーション設定を行います。キャリブレーションの測定値をアップデートした後、一時停止状態のジョブを選択し、印刷します。
     - 出力の一貫性がジョブにとって重要でない場合は、古い測定データを使用してジョブの印刷を続行します。

   - ゼロタッチ再キャリブレーションを有効化するには、**インラインセンサーを使用して自動的にジョブをキャリブレート**を選択します。

2. 必要に応じて、**G7 キャリブレーションの作成** チェック ボックスを選択して、測定パッチのキャリブレーションおよび印刷プロファイリング行います。

   G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（パッチページ）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。

3. 設定をオリジナルデフォルトに戻すには、**出荷時のデフォルト**をクリックします。

4 **保存**をクリックして、設定を保存します。

サーバーのキャリブレーションの作成

キャリブレーションを作成するには、名前などの詳細情報を必要に応じて入力します。

必要な情報は、キャリブレーションを行っている Fiery サーバーやプリンターによって異なります。

1 任意のキャリブレーション名を入力します。

メモ：キャリブレーション名は、各サーバーで一意である必要があります。入力する名前は、サーバー上のキャリブレーション設定やプロファイルでまだ使用されていないものにする必要があります。

2 **カラーモード**を選択します。

3 （オプション）**設定**をクリックして、**ジョブのプロパティ（読み取り専用）の既存キャリブレーションを使用**の設定を変更します。

ジョブのプロパティウィンドウで、キャリブレーションのプロパティを更新できます。

4 （オプション）**G7 キャリブレーションのオプション**を選択します。

5 （オプション）次のいずれかのキャリブレーションターゲットを選択します。

- **G7 グレーバランスキャリブレーション**を選択。

  G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（パッチページ）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。

- **G7+グレーバランスキャリブレーション**を選択。

  G7+グレーバランスキャリブレーションを選択した後、オプションで**高密度スムージング**チェックボックスを選択することもできます。

  密度値が 2.2 以上になると、高密度スムージング機能はバンディングを最小限に抑え、キャリブレーションを向上させるのに役立ちます。密度値が 2.2 以下でこの機能を使用すると、予期しない出力結果が生じる可能性があります。

メモ：G7 およびG 7+のグレーバランスキャリブレーションを使用するには、Fiery Color Profiler Suite をインストールしてライセンスを取得する必要があります。ライセンス認証がされていない場合、オプションはグレーアウト（無効）表示されます。

6 （オプション）**CMYK モードで特殊カラーのトップコートを使用**を選択します。

7 （オプション）**CMYK モードで特殊カラーのアンダーコートを使用**を選択します。

2 つの特殊カラーを搭載したプリンターで CMYK のみをキャリブレートするには、**CMYK モードで特殊カラーのトップコートを使用**と **CMYK モードで特殊カラーのアンダーコートを使用**の両方を選択します。

8 **次へ**をクリックします。

G7 キャリブレーションワークフロー

G7 キャリブレーションは、Fiery サーバーのキャリブレーションとプロファイル測定パッチの印刷の間に実行されます。

G7 キャリブレーションは、Fiery サーバーのキャリブレーションに加えて適用されます。G7 キャリブレーション処理が開始されると、ユーザーは、使用する P2P ターゲットのパッチレイアウトを選択し、それを測定して結果を確認してから、必要に応じて設定の調整を行います。

G7 仕様では、異なるプリンターで一般的でニュートラルな見た目の出力を作成するのに使用できる、標準的なグレースケール曲線が定義されています。G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（P2P ターゲット）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。Fiery Color Profiler Suite G7 キャリブレーションに使用されるさまざまな P2P ターゲットの印刷と測定をサポートします。インライン測定器などの対応する測定器で測定することができます。この場合、ユーザーが操作することなく処理を自動化できます。

1 **パッチレイアウト**ウィンドウで、使用する **G7 パッチセット**を次から選択します。

- P2P51（新しいターゲット、オリジナルの改訂版）
- P2P25Xa（オリジナルのターゲット）

メモ：ターゲットで実際に使用される値は類似していますが、新しいバージョンは G7 仕様のより正確なバージョンです。

2 **印刷**をクリックしてパッチページを測定します。

3 **G7 グレーバランスの測定結果**を確認します。

これは G7 キャリブレーションの実行であるため、結果が不合格になることが予想されます。G7 キャリブレーションに必要な NPDC 曲線の計算に使用されるのは、このターゲットの測定結果です。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。この表では緑色で表示する場合、加重平均を 1.5 未満にする必要があります。緑色で表示するには加重最大値を 3 未満にする必要があります。

4 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。

デフォルトのまま使用するか、変更します。

5 **OK** をクリックして、NPDC 曲線を適用して P2P パッチページをもう一度印刷します。

6 パッチページを測定し、G7 の結果を表示します。

7 G7 結果が合格の（すべての結果がグリーンで表示される）場合は、**次へ**をクリックします。結果が失敗である（一部の結果が赤でハイライト表示）場合は、**反復**をクリックして処理を繰り返します。反復を繰り返しても、より良い結果にはなりません。最大で 4 回の反復を実行できます。

G7+キャリブレーションワークフロー

G7+キャリブレーションは、Fiery サーバーのキャリブレーションとプロファイル測定パッチの印刷の間に実行されます。

G7+キャリブレーションは、Fiery サーバーのキャリブレーションに加えて適用されます。G7+キャリブレーション処理を開始すると、P2P75+ターゲットのパッチレイアウトを選択し、それを測定して結果を確認してから、必要に応じて設定の調整を行います。

G7+仕様では、異なるプリンターでも共通してニュートラルな見た目の出力を実現して使用できる標準的なグレースケール曲線が定義されています。G7+キャリブレーションは、P2P75+ターゲットの測定データを使用して、プリンターのカラー出力を G7 仕様に調整します。Fiery Color Profiler Suite は G7 キャリブレーションに使用される P2P75+ターゲットの印刷と測定をサポートします。インライン測定器などの対応する測定器で測定することができます。この場合、ユーザーが操作することなく処理を自動化できます。

1 **パッチレイアウト**ウィンドウで、**G7+パッチセット**リストから **P2P75+**を選択します。

2 **印刷**をクリックしてパッチページを測定します。

3 **G7+グレーバランスの測定結果**を確認します。

これは G7+キャリブレーションの実行であるため、結果が不合格になることが予想されます。このターゲットの測定結果が G7+キャリブレーションに必要な NPDC 曲線の計算に使用されます。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。この表では緑色で表示する場合、加重平均を 1.5 未満にする必要があります。緑色で表示するには加重最大値を 3 未満にする必要があります。

4 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。

デフォルトのまま使用するか、変更します。

5 **OK** をクリックして、NPDC 曲線を適用した P2P75+パッチページをもう一度印刷します。

6 パッチページを測定し、G7+の結果を表示します。

7 G7+の結果が合格である（すべての結果が緑で表示）場合は、**次へ**をクリックします。結果が失敗である（一部の結果が赤でハイライト表示）場合は、**反復**をクリックして処理を繰り返します。反復を繰り返しても、より良い結果にはなりません。反復を繰り返しても、より良い結果にはなりません。最大で 4 回の反復を実行できます。

キャリブレーション設定のカラー出力プロファイルを作成する

カラー出力プロファイルを作成できるようにするには、Fiery Color Profiler Suite が Calibrator と同じコンピューターにインストールされ、ライセンス付与されている必要があります。カスタムキャリブレーション設定を作成する場合は、測定器を測定方法として指定する必要があります。ColorCal は、コピー機のスキャナーを使用して測定を行います。そのため、スキャナーの制限により、キャリブレーションやプロファイルを作成する方法として ColorCal は使用できません。

カスタムキャリブレーション設定を作成するには、システム管理者権限が必要です。

新しいキャリブレーション設定を作成した後、出力プロファイルと関連付けます。新しいキャリブレーション設定が既存の出力プロファイルと共に使用されると、用紙の種類によっては満足のいく結果を得られない場合

があります。印刷結果に不満が残る場合は、使用する用紙に基づいたカスタム出力プロファイルを作成してください。

- 新しいカスタム出力プロファイルを作成する場合、既存の出力プロファイルを使用してテストページを印刷する必要はありません。プロファイリングページが印刷されます。Fiery Color Profiler Suite の Printer Profiler を使用してページを測定します。できあがったプロファイルは Fiery サーバーにインポートされ、新しいキャリブレーション設定と関連付けられます。
- 既存の出力プロファイルを選択する場合は、使用する用紙に最も近い用紙用の出力プロファイルを選択してください。キャリブレーション設定と同じ名前を持つ、このプロファイルのコピーが作成されます。プロファイルの既存のキャリブレーションターゲット（目標）は、キャリブレーション測定値を使用して計算された新しいターゲットに変わります。新しいキャリブレーション設定は、このプロファイルに関連付けられます。

1 Fiery サーバー上のプロファイル一覧から出力プロファイルを選択します。

Calibrator が出力プロファイルを複製し、その名前を変更します。

2 **テストページ**をクリックします。

テストページを印刷すると、キャリブレーション設定を、現在選択されている出力プロファイルのコピーに関連付けるか、新しい出力プロファイルを作成するかを判断するうえで役に立ちます。

Fiery Color Profiler Suite のライセンスがない場合は、数種類の出力プロファイルでテスト印刷を行い、最良の結果が得られるプロファイルを判断できます。最良の結果を得るには、ライセンス付与された Fiery Color Profiler Suite アプリケーションを使用して、作成したばかりのキャリブレーション用に最適化された出力プロファイルを作成します。

テストページは、現在選択されている出力プロファイルを使用して印刷されます。

3 コンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合は、**新規プロファイル作成**をクリックし、新しいカスタム出力プロファイルを作成できます。

キャリブレーション設定

キャリブレーションページを印刷する場合は、必要に応じて、使用するインク、プリセット、その他の詳細を指定して、キャリブレーション設定を指定します。

メモ： G7/G7+キャリブレーションが適用されると、キャリブレーション測定値が有効であることを示すメッセージが表示されます。

1 **ジョブのプロパティ**ウィンドウの**カラー**タブで、プロダクション出力に必要なカラーモードを次から選択します。

- CMYK
- CMYK + N

メモ：ここで、N は、サポートされている場合、プリンターでライセンスされている追加カラーモードを示します。

2 **ジョブのプロパティ**ウィンドウの**カラー**タブで出力プロファイルを指定します。

カラータブで変更する唯一の追加設定は、出力プロファイルです。

使用可能な一覧から、サブストレートのプロパティに最も近い出力プロファイルを選択します。Calibrator はカラー管理に出力プロファイルを使用しませんが、Calibrator と Fiery Color Profiler Suite は出力プロファイルの独自情報を使用して内部設定を最適化します。

3 サブストレートカタログを必要とするプレスで、**サブストレートカタログ**のサブストレートと、**ジョブのプロパティ**ウィンドウの**サブストレート**タブの**サイズ ID** からサブストレートサイズを定義することが重要です。

サブストレートカタログがオプションであるか使用できないプレスでは、**ジョブのプロパティ**で選択しているサブストレートプロパティ（重量、タイプ、コーティング、 サイズなど）がサブストレートソース（トレイ）に含まれていることを確認してください。作成するキャリブレーションは正確な印刷条件に合っている必要があるため「任意」や「自動」などの設定は使用しないでください。一般的な設定は、最適な結果を保証するものではありません。

4 （オプション）ジョブの印刷にデフォルト設定を使用しない場合は、他のジョブプロパティを指定します。

5 手動でのインク制限を必要とするプレスでは、**予備インク値を適用**チェックボックスを選択し、**設定**をクリックしてインク制限を定義し、**OK** をクリックします。

リンクをクリックしてすべてのインク制限をリンクし、1 つのインク値のみ変更できます。サブストレートのインクの 100%のみに問題が発生している場合は、このオプションを使用してください。それ以外の場合はこの手順は省略します。オプションを使用して再印刷します。

リセットをクリックするとデフォルト値に戻ります

メモ：Fiery サーバーがライトインクをサポートしている場合、通常のインク制限に応じて、ライトのインク制限が自動的に計算されます。

6 **ページの印刷**をクリックしてキャリブレーションページを印刷し、測定に進みます。

測定用のキャリブレーションページを印刷する

キャリブレーションページを印刷する場合は、測定器とチャートサイズを指定します。

分光測色計をキャリブレートしてキャリブレーションページの測定準備をおこないます。

メモ：

たとえば Fiery ES-3000 など、少なくとも 1 つの手動分光測色計が常に提供されています。分光測色計が最も正確です。

一部のインライン計器は、最良の結果を得るために、用紙に対してインクをキャリブレートする必要があるスキャナーに基づいています。これはしばしば「トレーニング」と呼ばれます。メニューに 2 台の測定器がリストされている場合は、インライン計器と分光測色計付きインライン計器を示します。どちらの機器でも、用紙とインクに最適化されたテーブルを再利用することで、その後、より正確な色を作り出すことができます。

1 **パッチレイアウト**ウィンドウで、次のオプションを設定します。

- 測定器を**計器**リストで選択します。
- **チャートサイズ**リストでパッチページサイズを選択します。

  カスタムをクリックして、カスタムパッチページサイズを指定します。

2 **印刷**をクリックしてパッチページを印刷し、測定に進みます。

画面の指示に従って、キャリブレーションページを測定します。

既存の出力プロファイルの使用

マッチする出力プロファイルが Fiery サーバーで検出された場合は、既存の出力プロファイルを使用できます。

- 次のいずれかを行います。
  - **続行**をクリックして、カスタム出力プロファイルを作成します。
  - **完了**をクリックして、既存の出力プロファイルを使用します。

インクコントロールの設定

パッチを測定した後、プレスをリニアリゼーションする際に適用されるインク使用量とインク消費量を表示できます。

手動インク制限が必要なプレスではインクコントロール設定機能を使用できます。

また、各カラーチャンネルのタブをクリックして、個々のチャンネルを表示することもできます。

1 オプション： 表示される設定のインク使用値を指定します。

リセットをクリックして元のインク値に戻します。

2 **次へ**をクリックしてキャリブレーション処理を続行します。

プリセットを使用したユーザーが選択できるインク配分

Calibrator は、プリンターに同じインク/トナーの 2 つのコンテナーがある場合のインクのダブルヒットをサポートします。この技術は、シングルヒットが生成されるよりもはるかに濃い彩度を可能にします。

プレスによっては、インク配分機能を使用できます。

Calibrator プリセットでは、要求された量のインクを 2 つのコンテナー間でどのように分散するかを管理できます。

Calibrator では、使用可能なプリセットのいずれかを使用して、キャリブレーションプロセスの開始時に複製されたインクのインク分割方法を定義できます。**複製インクのインク配分方法を選択する**で表示されるプリセットのリストは次のとおりです。

- **2 番目のインクは 30%から開始** - 2 番目のインクは、要求された量が 30%になるまで使用されません。
- **2 番目のインクは 38%から開始** - 2 番目のインクは、要求された量が 38%になるまで使用されません。
- **2 番目のインクは 46%から開始（デフォルト）** - 2 番目のインクは、要求された量が 46%になるまで使用されません。
- **2 番目のインクは 55%から開始** - 2 番目のインクは、要求された量が 55%になるまで使用されません。
- **2 番目のインクは 2%から開始** - 2 番目のインクは、要求された量が 2%になるまで使用されません。

- **均等インク配分** - 両方のインクは 0%から始まり、均等に配分されます。
- **均等インク配分、-10%のドットゲイン** - 両方のインクは 0%から始まり、均等に配分されます。ミッドトーンではインクが約 10%減少します。
- **均等インク配分、-10%のドットゲイン** - 両方のインクは 0%から始まり、均等に配分されます。ミッドトーンではインクが約 20%減少します。

リニアリゼーションの合計インク制限を設定する

合計インクリミット用に提供されるパッチページを正常に測定した後、結果が表示され、いくらかの調整を行うことができます。

手動インク制限が必要なプレスではインク制限の合計機能を使用できます。

1 次のいずれかを選択します。

- 合計インク制限の値を選択します。

  表示される値はプレスで推奨されている値で、追加測定は必要ありません。推奨されている値を使用しない場合は、任意の数値を入力することができます。

- 印刷されたビジュアルチャートから値を選択します。

  表示される値は、チャートの特定の列番号に基づいてプレスで推奨されている値です。推奨されている値を使用しない場合は、任意の列番号を選択することができます。ビジュアルチャートを印刷すると、測定値のみでは検出できない問題が明らかになる場合があります。たとえば、必要以上のインクが出ることが許可されている場合、サブストレートを浸透する可能性があります。この場合、推奨されている値より低い値を使用します。

2 オプション：ビジュアルチャートを印刷します。

FieryMeasure の**パッチレイアウト**ウィンドウが表示されます。**印刷**をクリックして続行します。

3 **次へ**をクリックします。

ここで、合計インク制限を設定する方法についてのビデオをご覧ください。

G7 グレーバランスの測定値を取得する

測定するパッチページを印刷できます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

1 **G7 キャリブレーションのオプション**を選択し、次のオプションのいずれかを選択します。

- **G7 グレーバランスのキャリブレーション**
- **G7+グレーバランスのキャリブレーション**

  G7+グレーバランスキャリブレーションを選択した後、オプションで**高密度スムージング**チェックボックスを選択することもできます。

  密度値が 2.2 以上になると、高密度スムージング機能はバンディングを最小限に抑え、キャリブレーションを向上させるのに役立ちます。密度値が 2.2 以下でこの機能を使用すると、予期しない出力結果が生じる可能性があります。

2 **インク制限の合計の設定**ウィンドウで、**次へ**をクリックします。

FieryMeasure の**パッチレイアウト**ウィンドウが表示されます。

3 **印刷**をクリックして続行します。

4 **次へ**をクリックします。

G7 グレーバランスの測定結果の概要

G7 グレーバランス測定値の概要を表示します。

1 G7 グレーバランスの測定結果の概要を確認します。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。テーブルでは、加重平均をグリーンで表示するには 1.5 未満にする必要があります。加重最大をグリーンで表示するには 3 未満にする必要があります。

2 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。デフォルトのまま使用するか、変更します。

3 **戻る**をクリックして、初回の測定値を破棄します。

4 **反復**をクリックし、処理を繰り返します。

G7+グレーバランスの測定結果の概要

G7+グレーバランス測定値の概要を表示します。

1 G7+グレーバランスの測定結果の概要を確認します。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。この表では緑色で表示する場合、加重平均を 1.5 未満にする必要があります。緑色で表示するには加重最大値を 3 未満にする必要があります。

2 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。デフォルトのまま使用するか、変更します。

3 **戻る**をクリックして、初回の測定値を破棄します。

4 **反復**をクリックし、処理を繰り返します。

修正オプション

出力補正曲線を確認します。

1 さまざまな補正オプションを設定できます。

- **グレーバランスのフェード**: フェード調整値を上回る G7 NPDC 補正曲線により適用されたグレーバランス補正を低減させます。
- **色調調整のフェード**: フェード調整値を上回る G7 NPDC 補正曲線により適用された色調調整を低減させます。

- **フェード調整値**：指定したパーセントドット値を上回る色調調整やグレーバランスを低減させます。
- **スムージング追加**：ノイズが発生するまたは不規則なキャリブレーションデータでキャリブレーション曲線を滑らかにします。

2 変更を承諾するには **OK**、デフォルト値に戻すには**デフォルト**を選択します。

G7 グレーバランスの測定結果

G7 グレーバランス測定値の結果を表示します。

1 G7 グレーバランスの測定結果を確認します。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。テーブルでは、加重平均をグリーンで表示するには 1.5 未満にする必要があります。加重最大をグリーンで表示するには 3 未満にする必要があります。

2 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。デフォルトのまま使用するか、変更します。

3 **反復**をクリックして、その G7 キャリブレーション曲線のパッチを印刷し、結果が合格であるかを確認します。

4 **戻る**をクリックして、反復測定値を破棄します。

5 その結果を容認できる場合には、**承認**をクリックしてキャリブレーション処理を続行します。

G7+グレーバランスの測定結果

G7+グレーバランスの測定結果を表示します。

1 G7+グレーバランスの測定結果を確認します。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、a*b*としてプロットされます。この表では緑色で表示する場合、加重平均を 1.5 未満にする必要があります。緑色で表示するには加重最大値を 3 未満にする必要があります。

2 **補正オプション**をクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。デフォルトのまま使用するか、変更します。

3 **反復**をクリックして、その G7+キャリブレーション曲線のパッチを印刷し、結果が合格であるかを確認します。

4 **戻る**をクリックして、反復測定値を破棄します。

5 その結果を容認できる場合には、**承認**をクリックしてキャリブレーション処理を続行します。

出力プロファイルの設定

Fiery Printer Profiler に進み、出力プロファイルを作成するか、今後のために結果を保存できます。

- プロファイルの作成を選択します。

  a) Fiery Color Profiler Suite を使用して**出力プロファイル作成**を選択します。

  b) **次へ**をクリックします。

  Fiery Printer Profiler により、完了したばかりのキャリブレーションとともに使用する出力プロファイルが作成されます。

  あるいは、今後のためにキャリブレーション結果を保存します。

  a) **キャリブレーションを保存して出力プロファイルを後で作成**を選択します。

  測定値を保存アイコンをクリックして、測定値を目的の場所に保存できます。ファイルは Fiery Verify または Fiery Profile Inspector で表示できます。

  b) **完了**をクリックします。

  Command WorkStation Profile Manager では、キャリブレーションの表示に一時的な出力プロファイルが適用されます。カラーマネジメントが正確になるように、キャリブレーションとともに使用するカスタムプロファイルを作成する必要があります。

再キャリブレート

Fiery サーバーのキャリブレーションデータを取得した後は、いつでも再キャリブレートを実行できます。既存のキャリブレーションは、このキャリブレーションの作成時に Fiery サーバー用に生成されたカラーベンチマークに一致するようアップデートされます。

メモ：再キャリブレーションは、ライトインクやインクが重複しないプレスでのみ使用できます。

1. Calibrator を起動します。
2. Fiery server から Calibrator を開始している場合は、**タスクの選択**画面で **Fiery サーバー選択**をクリックし、一覧から Fiery サーバーを選択します。Fiery サーバーがリストにない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。
3. 次のいずれかのタスクを選択します。
   - **再キャリブレート** - 選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションをアップデートします。 -
   - **キャリブレーションの作成** - Fiery サーバー上での新しいカラー印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。
4. **次へ**をクリックします。

   メモ：選択したタスクを完了するために必要な手順の数は、接続されているプレスによって異なります。使用しているプレスのモデルによっては、一部の設定やオプションが使用できない場合もあります。

サーバーのキャリブレーションのアップデート

再キャリブレートを行うには、以前に保存したキャリブレーションデータを使用して開始します。

1 一覧から既存のキャリブレーションセットを選択します。

選択したキャリブレーションに基づいて、カラーモードが表示されます。カラーモードが表示されていない場合、キャリブレーションを行ったプレスではサポートされていません。

表示されるコメントはキャリブレーションが作成されたときに追加されたものです。

2 オプション：**次へ**のボタンで下矢印を選択し、**ファイルから測定値をロード**を選択して、印刷と測定のワークフローを省略できます。このオプションは、プレスの測定値をすでに持っている上級ユーザー向けのものです。必ず実際のプレスで印刷して測定することをお勧めします。

3 **次へ**をクリックします。

リニアリゼーション測定値の取得

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プレスの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

メモ：この手順は、ライトインクおよびインクの複製がないプレスに適用されます。

1 次のいずれかを選択します。

- **測定チャートを印刷**

  ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

  このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- **ファイルから測定値をインポート**

  メモ：テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順で必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

  以下の点に留意してください。

  - 測定ファイルが保存されたため、プレスの応答が変化する場合があります。
  - 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。
  - Calibrator のバージョンによっては、ファイルから測定値をインポートするオプションが Calibrator ウィンドウまたは測定器リストに表示されます。
  - キャリブレーション設定が作成されると、**ジョブのプロパティ**ウィンドウが開き、測定サンプルの印刷方法を指定できます。

  このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

  このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 **次へ**をクリックします。

最初の手順で**測定チャートを印刷**を選択した場合は、FieryMeasure の**パッチレイアウト**ウィンドウが表示されます。**パッチレイアウト**ウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。**印刷**をクリックして続行します。

メモ：再キャリブレートしている場合は、キャリブレーションの作成時に使用されたサブストレートの種類とよく似た種類のサブストレートを選択するようにしてください。**カラー**タブと**イメージ**タブの設定はキャリブレーションソフトウェアによって自動的に設定されたため、設定を変更しないでください。

キャリブレーションの検証測定値の取得

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

1 次のいずれかを選択します。

- **測定チャートを印刷**

  ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

  このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- **ファイルから測定値をインポート**

  メモ：テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順で必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

  次の点に留意してください。

  - 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化する場合があります。
  - 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。
  - Calibrator のバージョンによっては、ファイルから測定値をインポートするオプションが Calibrator ウィンドウまたは測定器リストに表示されます。
  - キャリブレーション設定が作成されると、**ジョブのプロパティ**ウィンドウが開き、測定サンプルの印刷方法を指定できます。

  このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

  このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 **次へ**をクリックします。

最初の手順で**測定チャートを印刷**を選択した場合は、FieryMeasure の**パッチレイアウト**ウィンドウが表示されます。**パッチレイアウト**ウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。**印刷**をクリックして続行します。

キャリブレーションマネージャー

キャリブレーションマネージャーでは、キャリブレーション設定の表示および削除を行うことができます。個々のキャリブレーションでコメントの追加または削除ができます。

通常、キャリブレーション設定および出力プロファイルは特定の用紙および印刷条件に適したものになっています。キャリブレーション設定は、複数の出力プロファイルに関連付けることができます。

ウィンドウの左下隅にあるをクリックして、キャリブレーターからキャリブレーションマネージャーを開きます。選択されたサーバーのすべてのキャリブレーションがウィンドウに表示されます。次のカテゴリが表示されます。

- **キャリブレーション**：名前別に一覧表示されたサーバーの完了したキャリブレーション
- **最終キャリブレーション**：最後にキャリブレーションを行った日時
- **カラーモード**：キャリブレーションセットがサポートする出力プロファイルの色空間

一覧で選択したキャリブレーションで、いくつかの操作を実行できます。キャリブレーションによっては、使用できない操作もあります。ある操作が使用できない場合は、グレー表示になります。次のような操作があります。

- **編集**では、カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集するウィンドウを開きます。
- **測定値の表示**では、強調表示されたキャリブレーションの詳細を表示するウィンドウを開きます。

  このウィンドウに表示される情報は、測定空間で決まります。
- **削除**では、選択したキャリブレーションセットを削除します。

  このキャリブレーションの影響を受けるプロファイルも、オペレーターが確認した後に削除されます。普通紙などの工場出荷時のキャリブレーションセットは削除できません。

キャリブレーション設定を編集する

カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集できます。工場出荷時に提供されたキャリブレーション設定は編集できません。

カスタムキャリブレーション設定を編集するには、システム管理者権限が必要です。

キャリブレーション設定と一緒に保存された測定データは無効になるため、ジョブのプロパティ（印刷設定）は編集できません。キャリブレーション設定のジョブプロパティを編集するには、既存の設定に基づいて新しいキャリブレーション設定を作成します。

1 **キャリブレーションマネージャー**で、一覧からキャリブレーション設定を選択し、**編集**をクリックします。

2 以下の設定を指定します。

- **名前** - 用紙名、坪量、用紙の種類のほかに特定の印刷条件（ハーフトーン、グロス設定など）もわかるような名前を入力します。名前は 70 文字まで入力できます。
- **コメント** -（オプション）追加の説明情報を入力します。この情報は、Fiery サーバーで使用可能なキャリブレーション設定のリストに表示されます。

測定値の表示

DeltaE 測定空間でのキャリブレーションの詳細を表示します。

特定の キャリブレーション設定の 測定データ を デフォルトデータ（工場出荷時のデフォルトデータ 、またはカスタム キャリブレーション設定の場合は初回の測定データ）にリセットすることができます。このオプションは、現在の測定データがすでに デフォルトデータになっている場合には使用できません。

1 **キャリブレーションマネージャー**で、キャリブレーションを選択し、**測定値の表示**をクリックします。
キャリブレーションの詳細が表示されます。

2 キャリブレーションデータをリセットするには、**デフォルト測定値にリセット**をクリックします。
このアクションを実行すると、キャリブレーター測定値の最後のセットが削除されます。

モノクロ印刷用キャリブレーションのワークフロー

Fiery サーバーのキャリブレーションをおこなう際には、次のタスクを実行します。

- 様々なグレーシェードのパッチが特定のレイアウトで配置されたキャリブレーションページを印刷します。このページを使用して、プリンターの現在の出力を測定します。

  プリンターからの出力は、時間の経過と使用状況により変化します。現在のプリントデバイスのデータを得るには、必ず新しく印刷したキャリブレーションページを測定してください。
- 分光測色計を使用して、キャリブレーションページのパッチのグレー値を測定します。
- 測定を適用します。

  測定データは特定のキャリブレーション設定と共に保存されます。特定のキャリブレーション設定を適用してジョブを印刷すると、この測定データを使用して、望ましいカラー（キャリブレーションターゲット）で出力するのに必要なキャリブレーションを算出します。

測定器を使用してサーバーのキャリブレーションをアップデートする

Fiery サーバーのキャリブレーションデータを取得した後は、いつでも再キャリブレートを実行できます。既存のキャリブレーションは、このキャリブレーションの作成時に Fiery サーバー用に生成されたモノクロ印刷のベンチマークに一致するようアップデートされます。

1 Calibrator を起動します。

2 **測定方法**リストから測定器を選択します。

3 **給紙方法**リストから、使用する給紙トレイを選択します。

メモ：給紙方法には、キャリブレーション設定に適した用紙が選択されていることを確認してください。**給紙方法**の設定で警告が表示された場合は、給紙方法がキャリブレーション設定に適合していない可能性があります。他のキャリブレーション設定を選択するか、他の給紙方法を選択してください。

4 **次へ**をクリックして、測定に進みます。

画面の指示に従って、キャリブレーションページを測定します。

Calibrator 設定

Calibrator 設定ウィンドウの設定は、キャリブレーション手順のさまざまな面に影響します。キャリブレーション状況（有効期限）、キャリブレーション時間制限、ジョブの一時停止を設定できます。

メモ：環境設定を変更するには、システム管理者権限が必要です。

Command WorkStation では次のいずれかの方法で Fiery Calibrator を開くことができます。

- ジョブセンターで、ツールバーの**キャリブレート**アイコンをクリックします。
- **サーバー** > **キャリブレート**をクリックします。
- **サーバー** > **デバイスセンター**をクリックします。**一般**で、**ツール**、**Calibrator** をクリックします。

Fiery Calibrator ウィンドウで、左下角にある Calibrator 設定（歯車）アイコンをクリックします。

ダークモードを使用するには、Command WorkStation の環境設定（25 ページ）で設定します。

キャリブレーション状況（有効期限）

キャリブレーションの時間制限を設定すると、期限切れのキャリブレーションの状況メッセージが Command WorkStation に表示され、ジョブが一時停止する場合があります。

Command WorkStation には、ジョブセンターのジョブについて、キャリブレーションが 30 分以内に期限切れになる場合は黄色の警告アイコン/メッセージ、キャリブレーションがすでに期限切れの場合は赤色のエラーアイコン/メッセージが表示されます。

ジョブのキャリブレーションが期限切れの場合、印刷しようとすると Fiery サーバーはジョブを一時停止します。ジョブは印刷されず、一時停止の状態で印刷キューに残ります。

キャリブレーション状況は、ジョブが印刷に送信される前に確認されます。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限切れになった場合は、ジョブは一時停止しません。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限切れにならないように、印刷時間の長いジョブを実行する前にキャリブレートすることを推奨します。

一時停止されたジョブをダブルクリックすると、次のいずれかの操作を行うことができます。

- Fiery サーバーをキャリブレートして、ジョブのキャリブレーション設定を行います。キャリブレーションの測定値をアップデートした後、一時停止状態のジョブを選択し、印刷します。
- 期限切れのキャリブレーション測定データを使用して、ジョブの印刷を続行します。該当ジョブにとってカラー出力の一貫性が重要でない場合は、このオプションを選択してください。

キャリブレーション制限によって影響を受けるジョブの種類

Fiery サーバーは、次のジョブに対してキャリブレーションが期限内であるかどうかを検出できます：

- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE を使用してアプリケーションから送信されたジョブ。
- インポートされた PDF または TIFF のジョブ。
- 処理済みのジョブ（処理済みの VPS および VIPP ジョブを含む）

Fiery サーバーでは、次の種類のジョブについてはキャリブレーションが期限内であるか検出できず、ジョブを一時停止にすることはできません。

- PCL および PJL のジョブ。
- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE を使用せずにアプリケーションから送信されたジョブ。未処理の VPS および VIPP ジョブが含まれます。
- 直接接続で送信されたジョブ。直接接続で送信されたジョブは一時停止にできません。

また、Fiery サーバーは Force Print コマンドを使用して印刷したジョブのキャリブレーションを確認しません。Force Print コマンドは、ジョブのミスマッチ（ジョブに必要な用紙や仕上げが使用できないこと）により一時停止されたジョブに使用されます。この種類のジョブは強制的に印刷するように設定されているため、キャリブレーションは確認できません。

キャリブレーションの時間制限およびジョブの一時停止の設定

キャリブレーション時間制限を設定したり、キャリブレーションが期限切れの場合に Fiery Command WorkStation がジョブを一時停止するかどうかを設定できます。

1 **Calibrator 設定**ウィンドウで、次のいずれかを行います。

有効期限を設定する場合は、次のいずれかを設定できます。

- 有効期限状況を表示するには、**ジョブセンターで状況を表示**を選択します。
- ジョブの一時停止を有効化するには、**キャリブレーションが期限切れの場合、ジョブの印刷を一時停止**を選択します。

一時停止されたジョブの場合は、次のいずれかの操作を行うことができます。

- Fiery サーバーをキャリブレートして、ジョブのキャリブレーション設定を行います。キャリブレーションの測定値をアップデートした後、一時停止状態のジョブを選択し、印刷します。
- 出力の一貫性がジョブにとって重要でない場合は、古い測定データを使用してジョブの印刷を続行します。

2 設定をオリジナルデフォルトに戻すには、**出荷時のデフォルト**をクリックします。

3 **保存**をクリックして、設定を保存します。

サーバーのキャリブレーションのアップデート

再キャリブレートを行うには、以前に保存したキャリブレーションデータを使用して開始します。

1 一覧から既存のキャリブレーションセットを選択します。

表示されるコメントはキャリブレーションが作成されたときに追加されたものです。

2 **次へ**をクリックします。

キャリブレーションの概要の確認

キャリブレーションページの測定が完了したら、測定結果を適用できます。測定データを適用すると、既存のデータは上書きされます。

- 次のいずれかの操作を行います。
  - **適用/閉じる**をクリックして、キャリブレーション設定を保存します。
  - **キャンセル**をクリックして、キャリブレーションをキャンセルします。このアクションを実行すると、キャリブレーション設定は更新されません。

Spot Pro のスポットカラー

Spot Pro は、スポットカラーの作成、管理、および編集を行うための包括的なプログラムです。Spot Pro を使用して、Fiery サーバーでスポットカラーの定義を編集したり、カスタムスポットカラーの定義を作成したりすることができます。スポットカラーは、Spot Pro 機能の一部です。Fiery サーバーで Spot Pro が使用可能で、有効になっている場合は、スポットカラーおよびそれと等価の代替色空間のリストを調整および管理することができます。

Fiery サーバーは、すべての主要なスポットカラーメーカーのスポットカラーを自動的に管理する内部スポットカラーライブラリを備えています。不明なスポットカラーが含まれるジョブを Fiery サーバーに読み込む場合は、ジョブを正しく印刷する前に定義する必要があります。

Spot Pro は、PANTONE、HKS、TOYO、DIC などから名前付きのスポットカラーの Fiery サーバーライブラリを事前に読み込みます。スポットカラーライブラリには、オリジナルのスポットカラー値とそれに対応するデバイス独自の定義（L*a*b 値）が含まれています。Spot Pro は、Fiery サーバー上の各出力プロファイル用にそれぞれのスポットカラーに最も近い出力デバイス色空間を算出します。新しいプロファイルが生成または更新されるたびに、Spot Pro は同等の出力デバイス色空間を自動的に再計算し、L*a*b*値を変換します。

代替カラーのリストを作成できます。代替カラーは、書類内において RGB/CMYK 値で使用されている場合、Spot Pro のカラー定義に従って書類で定義されているカラーとは異なる CMYK 値のカラーに置き換えられます。このように代替カラーを使用することで、正確なカラー出力が可能になり、個々の RGB および CMYK カラーが上書きされます。

Spot Pro トレーニング資料にアクセスするには、Spot Pro ツールバーの **Fiery ラーニング**をクリックします。

Spot Pro を起動する

Command WorkStation のデバイスセンターから Spot Pro を起動できます。

新規または既存のカスタムスポットカラーグループにスポットカラーを追加できます。新しいスポットカラーをシステムスポットカラーグループに追加することはできません。

- 次のいずれかの方法で Spot Pro を起動します。
  - ジョブセンターで、ツールバーで **Spot Pro** をクリックします。
  - **サーバー** > **Spot Pro** をクリックします。

- **サーバー**ウィンドウでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ 3 つのドット）をクリックし、次に **Spot Pro** をクリックします。
- デバイスセンターで、**リソース** > **Spot Pro** をクリックしてから、**Spot Pro を起動**をクリックします。

メモ：Command WorkStation で 1 つまたは複数の Fiery サーバーに接続されている場合は、Spot Pro の 1 つのインスタンスのみを開くことができます。これにより、Command WorkStation のジョブセンターまたはデバイスセンターのジョブを引き続き使用できます。

Spot Pro ワークスペース

メインウィンドウには、スポットカラーグループのリストと、各スポットカラーグループ内の名前付きスポットカラーのリストが表示されます。名前付きスポットカラーを選択すると、Spot Pro で選択したスポットカラーのプレビューが表示されます。

Spot Pro メインウィンドウには次の領域が含まれます。

- **Spot Pro** グループウィンドウ

  スポットカラーグループの順序は、Fiery サーバーのスポットカラーの検索順序を定義します。

  Spot Pro スポットカラーグループは、名前、タイプまたはロック状況による自動的な並べ替えはできません。

  Spot Pro は、最新のスポットカラーグループを最初に表示します。

  デフォルトでは、 Fiery サーバーは一覧の先頭からカラーを検索し、最初に一致した名前付きスポットカラー定義をジョブに適用します。ジョブのプロパティで別のグループを選択して、この検索設定をジョブごとに上書きすることも可能です。

  各スポットカラーグループを手動で上下に移動させて、カラー検索順序を変更できます。

- **Spot Pro** カラーウィンドウ

  列幅を調整できます。

  Spot Pro は、最新のカラーを最初に表示します。

  各スポットカラーを手動で上下に移動させて、カラー検索順序を変更できます。スポットカラーグループ内のスポットカラーは、名前、ΔE、カラー精度、分解値と、ロックまたはロック解除の状況で並べ替えることができます。

- **Spot Pro** カラープレビューウィンドウ

  選択したスポットカラーについて、スポットカラー、色域警告、ΔE、および分解値のプレビューがカラープレビューウィンドウに表示されます。カラープレビューウィンドウでは、スポットカラーを編集および複製することもできます。

  1 つまたは複数のスポットカラーを右クリックし、**複製** を選択して複製することができます。

- **Spot Pro** カラーエディターウィンドウ

  選択したスポットカラーは、選択されている出力プロファイルとバリエーションに基づいて L*a*b*値、LCH 値、デバイス分解を変更して、編集することができます。または、スポットカラーのバリエーションを印刷し、バリエーションを選択することもできます。

Spot Pro グループタイプ

Spot Pro には、スポットカラーグループ、代替カラーグループ、特殊カラーグループなど、複数のカラーグループタイプがあります。スポットカラーグループには、システムカラーとカスタムカラーの 2 種類があります。

スポットカラーグループ - システムカラー

システムスポットカラーグループとその中のカラーはロックされています。システムスポットカラーグループの編集はできますが、削除したり名前を変更したりすることはできません。スポットカラーの名前を変更するには、カラーを複製してカスタムスポットカラーグループに保存します。

スポットカラーグループ - カスタムカラー

1 つ以上のカスタムスポットカラーグループを作成できます。

カスタムスポットからーグループ内のすべてのスポットカラーに対し、編集、コピー、切り取り、削除、名前の変更を行うことができます。同じカスタムスポットカラーグループ内のカラーには、一意の名前が必要です。異なるカスタムスポットカラーグループのカラーに同じ名前がついている場合があります。

代替カラーグループ

カスタム代替カラーに代替カラーグループを作成できます。

特殊カラーグループ

プリンターでサポートされている特殊カラーによっては、1 つ以上の特殊カラーグループがデフォルトで使用できます。

Spot Pro には、エイリアス機能を使用して、異なるまたは複数のスポットカラーを 1 つのスポットカラーにリンクまたは関連付けする別の方法があります。

Spot Pro カラータイプ

Spot Pro はユーザー定義の出力プロファイルを使用し、色分解値とカラースウォッチを表示します。

Spot Pro は、カラーを作成または複製するときに、すべての分解値を自動的に生成します。別の出力プロファイルを選択して、それぞれの分解値を表示したり、1 つ以上の出力プロファイルの分解値を変更したりすることができます。また、1 つの出力プロファイルの色分解を複数またはすべての出力プロファイルに適用することもできます。

1 つの出力プロファイルの分解値を他の出力プロファイルに適用する

次の点に留意してください。

- 分解値を他の出力プロファイルに適用すると、カラーメトリックスポットカラーが正しく再現されないことがあります。
- 分解値が異なる色空間、用紙または素材に適用されると、結果が不正確または望ましくないものになることがあります。

1 Spot Pro で、次のいずれかを行います。

- グループを右クリックし、**適用**を選択します。
- カラーを右クリックまたは Shift キーを押しながら複数のカラーをクリックして、**適用**を選択します。
- 出力プロファイルフィールドの隣にある**適用**アイコンをクリックします。

2 分解値を適用する出力プロファイルを選択します。

3 **保存**をクリックします。

Spot Pro のカスタマイズ

Spot Pro の環境設定

Spot Pro の環境設定を行うことができます。

1 **Spot Pro 環境設定**ウィンドウを開くには、**環境設定**ツールバーアイコンをクリックします。

2 ΔE 許容値を指定します。

3 ΔE 形式を指定します。

- **dE 2000** - CIE が 2000 年に推奨した CIELAB の一種です。この方法では、KL = KC = KH = 1.0 を使用します。
- **dE CIE76** - 1976 年に CIE（国際照明委員会）が規定した、色差を距離で表すための式です。
- **dE CMC** - 色度と色相に対する明度の相違率（ISO 標準 ISO 105-J03 に基づいて計算）です。明度と色度の加重は、知覚データとともに使用する場合、1.0 です。
- **dE 94** - CIE TC1-29 が色差式として推奨する CIELAB の一種です。グラフィックアートアプリケーションの場合、この方法では K1 = 0.045 と K2 = 0.015 を使用します。

4 次のいずれかを選択して、**推奨測定モード**を指定します。

- **M0 - UV を含む**
- **M1 - D50 UV を含む**
- **M2 - UV カット**

5 **Fiery Edge スポットカラー処理**を有効にするには、チェックボックスをオンにします。

Fiery Edge スポットカラー処理はデフォルトで有効であり、特に色域外のカラーで、スポットカラーの精度を向上させるために、スポットカラーレシピをより制御できます。**Fiery Edge スポットカラー処理**を無効にすると、システムのすべてのスポットカラーレシピが再計算されます。これは、Fiery サーバーのすべてのスポットカラーレシピのΔE 値に影響します。拡張色域プロファイル（CMYK 以外の色）がある Fiery サーバーの場合、スポットカラーレシピを再計算すると、出力値は 4 色（ブラックを含む）に制限されます。

Fiery Edge スポットカラー処理を使用すると、次のことができます。

- **Fiery Edge** 設定で許容される最大ΔE 偏差を指定する。
  - 許容されるΔE 偏差を増やすと、スポットカラーレシピがよりきれいになり、より視覚的に魅力的になることがあります。
- **汚染除去**を指定して、非常に低い値のスポットカラーレシピからカラーを削除する。
  - スポットカラーレシピの少量のプロセスカラーにより、しみのある見た目になることがあります。スポットカラーレシピから低い値のカラーを削除すると、スポットカラーがきれいに見える場合があります。
- **95%以上のトーン値で塗りつぶし**を指定して、スポットカラーレシピのカラーが 95%以上の場合には 100%を使用する。
  - 100%未満の値のカラーを使用したスポットカラーレシピでは、細かくて白いしみのパターンが出ることがあります。カラー値を 100%に増やすと、この問題は解消されます。
- **出力プロファイルからブラック最大値の設定を上書き**を指定して、グレーをより均一にし、スポットカラーレシピで使用される CMY インクやトナーの量を削減する。

メモ：Fiery システムソフトウェア FS600/600 Pro 以降の場合、**Fiery Edge スポットカラー処理**を無効にすると、既存の Fiery Edge スポットカラーレシピが置き換えられます。Fiery Edge スポットカラーレシピや編集内容を保存するには、**Fiery Edge スポットカラー処理**を無効にする前に、Fiery Edge スポットカラーグループを.icc ファイル形式でバックアップしてください。**Fiery Edge スポットカラー処理**テクノロジーと**標準 Fiery スポットカラー処理**をいつでも切り替えることができます。

メモ：Fiery システムソフトウェア FS500/500 Pro の場合、**Fiery Edge スポットカラー処理**を有効にすると、既存の標準スポットカラーレシピが置き換えられます。標準のスポットカラーレシピや編集内容を保存するには、**Fiery Edge スポットカラー処理**を有効にする前に、標準スポットカラーグループを.icc ファイル形式でバックアップしてください。**標準 Fiery スポットカラー処理**テクノロジーと **Fiery Edge スポットカラー処理**をいつでも切り替えることができます。

6 入力設定を指定します。

- **汚染除去**
- **95%超のトーン値で塗りつぶし**
- **出力プロファイルからブラック最大値の設定を上書き**

7 デフォルトの環境設定を使用するには、**工場出荷時のデフォルト**をクリックします。

ダークモードを使用するには、Command WorkStation の環境設定（25 ページ）で設定します。

サポートされている測定デバイス

Spot Pro は、以下の測定デバイスをサポートしています。

- ES-3000/i1Pro3/i1Pro3 Plus
- ES-2000/i1Pro2
- ES-1000/i1Pro
- MYIRO-1

- FD-5BT
- TECHKON SpectroDens

Spot Pro 列を管理する

システムスポットカラーまたはカスタムスポットカラーグループの列見出しをカスタマイズすることができます。列見出しを並べ替え、追加、または削除して、グループ内のスポットカラーに関連する情報を表示できます。

列の表示を変更する

列を追加または削除できます。

1 Spot Pro カラーペインで列を右クリックします。

2 メニューから列を選択して、 Spot Pro カラーペインで追加または削除します。

メモ：ΔE 列を追加すると、ΔE の値が Spot Pro の**環境設定**ウィンドウで設定されている許容範囲を超えた場合に警告アイコンが表示されます。

メモ：パッチおよび名前列を削除したり、移動することはできません。

列の幅を調整する

Spot Pro 列の幅を変更できます。

- そのためには、列の境界を左または右にドラッグします。

列の順序を変更する

Spot Pro 列の順序を変更することができます。

- 列を右クリックしてドラッグし、 Spot Pro カラーペインの列の位置を変更します。

スポットカラーまたはカラーグループの優先順序を変更する

カラーグループおよびカスタムスポットカラーグループ内のスポットカラーの順序を手動で変更して、カラー検索順序を変更できます。

デフォルトでは、 Fiery サーバーは一覧の先頭からスポットカラーを検索し、最初に一致した名前付きスポットカラー定義をジョブに適用します。ジョブのプロパティで別のグループを選択して、この検索設定をジョブごとに上書きすることも可能です。

- Spot Pro では、スポットカラーグループまたはスポットカラーを右クリックし、**上へ移動**または**下へ移動**を選択して、一度に 1 ステップずつ移動します。スポットカラーまたはスポットカラーグループをリストの一番上または一番下に移動するには、**最上部に移動**または**最下部に移動**を選択します。

スポットカラーライブラリの有効化または無効化

Spot Pro で、スポットカラーグループの表示と非表示を切り替えることができます。

メモ：Fiery システムソフトウェア FS600/600 Pro 以降を搭載する Fiery サーバーでのみ、スポットカラーライブラリを有効または無効にできます。

1 Spot Pro グループウィンドウの上部にある、**スポットカラーグループの有効化/無効化アイコン**（⚙）をクリックします。

2 **スポットカラーグループの有効化/無効化**ウィンドウで、有効にするスポットカラーグループのチェックボックスを選択し、無効にするスポットカラーグループのチェックボックスをクリアします。

メモ：無効にしたスポットカラーグループは、Command WorkStation ですべて非表示になることから、すべての Fiery アプリケーションでスポットカラー処理に使用できません。

3 OK をクリックして保存します。

Spot Pro ツールバーアイコン

Spot Pro のツールバーには、一連の標準的なアイコンが表示されます。

新規	新しいスポットカラーグループ、スポットカラー、代替カラーグループ、代替カラーを作成します。Spot Pro を選択すると、選択したグループに新しいスポットカラーと代替カラーが追加されます。
削除	選択したカラーグループまたは名前付きスポットカラーをカラーグループから削除します。
印刷/印刷準備完了/印刷キューへ送信	Fiery サーバーに応じて、選択したスポットカラーまたは選択したスポットカラーグループに対し、印刷、印刷準備の完了、印刷キューへの送信を開始します。
最適化	選択した用紙または素材および出力プロファイルに対して、選択したグループの選択したカラーまたはすべてのカラーを最適化します。
開く	ユーザーが指定した場所からスポットカラーまたはスポットカラーグループを開きます。また、Adobe アプリケーションとの間でカスタムまたはユーザーが作成したライブラリを開くこともできます。
別名保存	スポットカラーまたはスポットカラーグループを Fiery サーバーからユーザーが指定した別の場所に保存します。また、カスタムライブラリまたはユーザーが作成したライブラリを Adobe アプリケーションに/から保存することもできます。
環境設定	Spot Pro の**環境設定**ウィンドウを開きます。

エイリアス	複数のスポットカラーをエイリアスにマッピングし、異なる名前を持つ場合でも同じカラー値を使用できるようにします。
チェック	スポットカラーグループのスポットカラーのヘルスチェックを実行して、印刷の正確さをチェックします。

スポットカラーを検索する

スポットカラーを検索し、スポットカラーが存在するさまざまなライブラリを表示するということも簡単に行えます。

検索カラーフィールドを使用して、検索基準に基づいて名前付きスポットカラーまたはスポットカラーのリストを検索することができます。スポットカラーの結果は、スポットカラー名の横に小さなスウォッチのあるグループ名の下に表示されます。

スポットカラーを検索する

カスタムスポットカラーや内部スポットカラーライブラリのスポットカラーを検索できます。

1 Spot Pro ツールバーアイコンの隣にある**検索**フィールドに検索条件を入力します。

名前付きスポットカラーを部分検索できます。たとえば、**レッド**を検索する場合、Spot Pro は名前に「レッド」が含まれる全てのスポットカラーを検索しします。

2 Enter キーを押すか、虫メガネのアイコン（検索アイコン）をクリックして、指定した検索条件に該当するスポットカラーを検索します。入力したテキストでは大文字と小文字が区別されません。

検索語が 3 文字未満の場合、検索結果は現在選択されているグループに制限されます。**すべてのスポットカラーライブラリを検索**リンクをクリックして、すべてのグループを検索することができます。検索語が 3 文字以上の場合、すべてのスポットカラーグループ全体で検索が行われます。ページに表示される結果は、一回 500 件までに制限されます。

3 検索結果でスポットカラーを選択します。検索語は、**検索カラー**フィールドに表示されます。

検索カラーフィールドを再度クリックすると、検索結果が再度表示されます。検索の絞り込みまたは一覧から別の結果を選択できます。

4 検索後、クリアボタンをクリックして検索フィールドと検索結果をクリアすると、現在の検索条件をクリアできます。検索結果は、ツールバーのツールをクリック、スポットカラーの編集、Spot Pro ウィンドウを閉じるなど、別の主要なアクションを実行すると自動的に消去されます。これにより、別の条件で検索することができます。

新しいスポットカラーを作成する

スポットカラーの L*a*b*値または CMYK 値を定義するには、数値を入力するか、カラースウォッチのパターンから目視で一致するものを選択するか、測定デバイスを使用して対象物のカラーを測定します。

スポットカラーマッチング印刷オプションを選択すると、スポットカラーは自動的にそのスポットカラーに対応する最良の CMYK 値または L*a*b 値に変換され、CMYK のインク/トナーを使用してスポットカラーをシミュレートできるようになります。ただし、特定の印刷状況によっては、最良の結果を得るためにデフォルトの CMYK 値または L*a*b 値を調整する必要が出てくる場合があります。Spot Pro を使用して、スポットカラーの定義を変更できます。

1 Spot Pro では、スポットカラーグループを選択するか、新しいスポットカラーの新しいスポットカラーグループを作成します。

- 新しいスポットカラーグループを作成するには、**新規** > **グループ**をクリックします。
- 新しいスポットカラーを作成するには、**新規** > **スポットカラー**をクリックします。

2 **スポットカラー名**フィールドにスポットカラーの名前を入力します。

3 次のいずれかの操作を行います。

- L*a*b*値を直接入力するには、L*、a*、または b*フィールドをクリックし、新しい値を入力します。フィールド間を移動するには Tab キーを使用します。
- L、C、または H の各フィールドをクリックして新しい値を入力し、選択したスポットカラーの明度、色相または Chroma を編集します。フィールド間を移動するには Tab キーを使用します。
- **測定**をクリックして L*a*b*値を測定し、画面の指示に従います。
- CMYK のパーセンテージの値を直接入力するには、C、M、Y、K の各フィールドをクリックし、新しい値を入力します。フィールド間を移動するには Tab キーを使用します。

  分解値は、指定された用紙またはサブストレートの選択された出力プロファイルに基づいて計算されます。これは、スポッティングなどの異物や視覚的な不自然さをなくす場合や、ブラックまたはシアンのドットにより不鮮明になる場合に特に便利です。CMYK+プロファイルでは、それぞれのインクの色分解を入力できます。たとえば、CMYKOV 出力プロファイルが選択されている場合、CMYK、オレンジ、バイオレットの色分解値を入力できます。

4 テストページを印刷するには、**バリエーション**の隣にある矢印をクリックして**印刷**を選択します。

  バリエーションのパッチレイアウトを選択して、用紙またはサブストレートソースを選択することも可能です。

  モニター上でスポットカラーを正確に合わせるのは非常に困難です。必ずテスト印刷ページを印刷してカラーを確認してください。

5 次のいずれかの操作を行います。

- **キャンセル**をクリックして新しいスポットカラーの作成を中止し、Spot Pro カラーエディターウィンドウを閉じて Spot Pro カラープレビューウィンドウに戻る。
- **保存**をクリックして、Spot Pro カラーエディターウィンドウを閉じずにスポットカラーを保存する。
- **完了**をクリックして新しいスポットカラーの作成を終了し、Spot Pro カラーエディターウィンドウを閉じる。

スポットカラーを編集する

スポットカラーの L*a*b*値または CMYK 値を定義するには、数値を入力するか、カラースウォッチのパターンから目視で一致するものを選択するか、測定デバイスを使用して対象物のカラーを測定します。

スポットカラーマッチング印刷オプションを選択すると、スポットカラーは自動的にそのスポットカラーに対応する最良の CMYK 値または L*a*b 値に変換され、CMYK のインク/トナーを使用してスポットカラーをシミュレートできるようになります。ただし、特定の印刷状況によっては、最良の結果を得るためにデフォルトの CMYK 値または L*a*b 値を調整する必要が出てくる場合があります。Spot Pro を使用して、スポットカラーの定義を変更できます。

システムスポットカラーとカスタムスポットカラーの両方を編集できます。システムスポットカラーの名前を変更したり、システムスポットカラーを削除したりすることはできません。

1 **Spot Pro** で、編集するスポットカラーを選択し、編集アイコン（）をクリックします。

カスタムスポットカラーまたはカスタムスポットカラーグループの名前を変更することができます。

2 次のいずれかの操作を行います。

- L*a*b*値を直接編集するには、L*、a*または b*フィールドをクリックし、新しい値を入力します。フィールド間を移動するには **Tab** キーを使用します。
- L、C、または H の各フィールドをクリックして新しい値を入力し、選択したスポットカラーの明度、色相または Chroma を編集します。フィールド間を移動するには **Tab** キーを使用します。
- **測定**をクリックして L*a*b*値を測定し、画面の指示に従います。
- CMYK のパーセンテージの値を直接編集するには、C、M、Y、K の各フィールドをクリックして新しい値を入力します。フィールド間を移動するには **Tab** キーを使用します。

  分解値は、指定された用紙またはサブストレートの選択された出力プロファイルに基づいて計算されます。これは、スポッティングなどの異物や視覚的な不自然さをなくす場合や、ブラックまたはシアンのドットにより不鮮明になる場合に特に便利です。CMYK+プロファイルでは、それぞれのインクの色分解を編集できます。たとえば、CMYKOV 出力プロファイルが選択されている場合、CMYK、オレンジ、バイオレットの色分解値を編集できます。
- スポットカラーを視覚的に編集するには、**バリエーション** タブでスポットカラーバリエーションを作成して印刷します。詳細については、スポットカラーのバリエーション（217 ページ）を参照してください。

3 テストページを印刷するには、1 つのスポットカラーが選択されている状態で、**バリエーション**タブで**印刷**をクリックする。

用紙またはサブストレートソースとバリエーション数を選択できます。

モニター上でスポットカラーを正確に合わせるのは非常に困難です。必ずテスト印刷ページを印刷してカラーを確認してください。

4 次のいずれかを行います。

- **完了**をクリックして編集を終了し、**Spot Pro** カラーエディターウィンドウを閉じる。
- **キャンセル**をクリックして編集を中止し、**Spot Pro** カラーエディターウィンドウを閉じて **Spot Pro** カラープレビューウィンドウに戻る。

- **保存**をクリックして編集内容を保存し、**Spot Pro** カラーエディターウィンドウを閉じずに別のスポットカラーに切り替える。
- **カラー定義**タブで、リセットアイコン（）をクリックして変更を元に戻します。

スポットカラーのバリエーション

選択したスポットカラーと、色相がオリジナルのスポットカラーと若干異なる多数の隣接カラーを印刷できます。スポットカラーの希望の外観によりマッチするスポットカラーバリエーションを選択して、ジョブのオリジナルスポットカラーを置き換えることができます。

スポットカラーバリエーションを使用すると、視覚的なマッチングを向上させ、現在のキャリブレーションからのずれや出力プロファイルの制限を補正することができます。

スポットカラーバリエーションを作成すると、Spot Pro はオリジナルのスポットカラーの 8 角形を表示します。そのカラー矢印をクリックし、 オリジナルのスポットカラーを、シアン、グリーン、イエロー、オレンジ、レッド、マゼンタ、バイオレット、ブルーで調整できます。白黒の矢印をクリックして、オリジナルのスポットカラーの明度を調整できます。

スポットカラーのバリエーションを作成する

スポットカラーの外観を変更し、さまざまなバリエーションのスポットカラーの再現を印刷して比較し、使用するスポットカラーのバリエーションを選択できます。

バリエーションを印刷するときは、少なくともレターサイズまたは A4 サイズの用紙を選択します。

デフォルトでは、スポットカラーバリエーションは**印刷**キューに直接送信され、ジョブはインポート時に自動的に印刷されます。

1 Spot Pro でグループが選択された状態で、カスタムスポットカラーをクリックして選択し、**編集**アイコンをクリックして Spot Pro カラーエディターを開きます。

2 **バリエーション**をクリックします。

カラーを 8 色相方向で変更するためのアクティブなコントロールは、カラー矢印です。カラーバリエーションの矢印（レッド、グリーン、ブルー、シアン、マゼンタ、イエロー、オレンジ、バイオレット、ブラック、ホワイト）は、中央パッチから色相および明度がシフトする方向を示します。矢印をクリックすると、矢印の方向に対象カラーが調整されます。

メモ：カラー定義タブでリセットアイコン（）をクリックすると、オリジナルのスポットカラーとそのバリエーションに戻ります。

3 クリックごとに印刷バリエーションパッチのバリエーションの度合いを制御するには、調整スライドバーを**弱**（より小さなバリエーション）または**強**（より大きなバリエーション）の方向にスライドさせます。デフォルト設定ではスライドバーは中央に位置します。

4 テストページを印刷するには、次のいずれかを行います。

- 1 つのスポットカラーが選択されている状態で、**バリエーション**タブで**印刷**をクリックする。
- 複数のスポットカラーのバリエーションを印刷するには、Ctrl キーまたは cmd キーを押しながらクリックして複数のスポットカラーを選択し、メニューバーの**印刷**をクリックして**バリエーション**を選択する。
- スポットカラーグループのバリエーションを印刷するには、グループの横にある詳細アイコン（縦に並んだ 3 つのドット）をクリックし、**準備完了へ送信** > **バリエーション**を選択する。

モニター上でスポットカラーを正確に合わせるのは非常に困難です。必ずテスト印刷ページを印刷してカラーを確認してください。

5 用紙またはサブストレートソースを選択します。

6 バリエーションの数（25 または 49）を選択します。

7 測定デバイスを使用してバリエーションスウォッチを測定する場合は、**バリエーションパッチを測定する**を選択します。

パッチを測定することで、視覚的編集プロセスを量的分析で補完したり、測定値を使用して最小のΔE 値になるバリエーションパッチを選択したりできます。

8 複数のスポットカラーを選択している場合は、**弱**または**強**のスライダーを調整して、隣接パッチのバリエーションの度合いを制御します。詳細は、手順 3 を参照してください。

9 **OK** をクリックします。

10 **バリエーションパッチを測定する**を選択した場合は、画面の指示に従って、必要に応じて測定デバイスをキャリブレートし、パッチを測定します。

11 カラーが最もよく再現されているスポットカラーパッチを識別して、次のいずれかを行います。

- **カラー定義**タブで、対応するパッチのカラー値を入力する。
- バリエーションページのスポットカラーパッチのパッチ ID を**バリエーション**タブの**印刷済みバリエーション ID** ボックスに入力し、そのパッチのデバイス値を自動的に入力する。

メモ：パッチ ID は、バリエーションページが Spot Pro と同じセッションで印刷されている限り有効です。Spot Pro を終了すると、Spot Pro はバリエーションのパッチ ID 番号を破棄します。

スポットカラーまたはカラーグループを削除する

スポットカラーやカラーグループ（およびそのグループ内のスポットカラー）は、スポットからーまたはカラーグループがロックされていない限り削除できます。

1 次のいずれかの方法で、**デバイスセンター**を開きます。

- **サーバー**リストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ 3 つのドット）をクリックします。
- **サーバー**リストでサーバー名をダブルクリックします。
- **サーバー** > **デバイスセンター**をクリックします。
- サーバー名を右クリックし、**デバイスセンター**を選択します。

2 **リソース**で **Spot Pro** をクリックし、**Spot Pro を起動**をクリックします。

3 スポットカラーまたはカラーグループを右クリックし、**削除**を選択します。

4 確認画面で**はい**をクリックします。

スポットカラーまたはスポットカラーグループの複製またはエクスポート

スポットカラーグループを複製すると、選択した出力プロファイルの元の L*a*b*値と変換された値のみが複製されます。他の出力プロファイルについては、Spot Pro は元の L*a*b*値を使用して複製されたグループを再計算します。システムスポットカラーをカスタムスポットカラーグループに複製すると、L*a*b*値は予測される L*a*b*値に対応します。 Spot Pro は、選択した出力プロファイルとスポットカラーの元の L*a*b*値を使用して、これらの値を予測します。

スポットカラーまたはスポットカラーグループに加えられた変更は、次のシナリオでは複製されません。

- スポットカラーまたはスポットカラーグループを変更した後に、別の出力プロファイルが選択されます。
- スポットカラーまたはスポットカラーを含むグループが複製されます。

個々のスポットカラーを使用する場合、スポットカラーグループを使用する場合と同じ再計算動作が実行されます。この動作は、スポットカラーとスポットカラーグループのエクスポートにも適用されます。

ジョブのスポットカラーを編集する

Command WorkStation 待機リストからジョブのスポットカラーを編集できます。

Fiery サーバーは 、スポットカラーを含むジョブを検出します。

1 待機リストからスプール済ジョブを選択し、次のいずれかを行います。

- ジョブを右クリックし、**スポットカラーを編集**を選択します。
- **アクション** > **スポットカラーを編集**の順にクリックします
- ジョブ概要ウィンドウの**概要**タブにある**編集**アイコン（）をクリックします。

メモ：スポットカラー編集オプションは、スポットカラーを含む PDF ジョブでのみ使用できます。

ジョブ概要ウィンドウの**概要**タブには、**スポットカラー**ジョブの、使用可能なスポットカラーの数が一覧表示されます。使用可能なスポットカラーの一覧には、すべての使用可能なスポットカラーについて、サポートされているすべての ΔE 形式の ΔE 値が表示されます。使用可能なスポットカラーは、**Spot Pro 環境設定**ウィンドウで、ΔE 値が許容値設定を超えると、警告アイコンを表示します。

スポットカラーを編集ウィンドウでは、ジョブの使用可能なスポットカラーが一覧表示され、正しいスポットカラーライブラリ、スポットカラーグループまたは名前付き ICC プロファイルに関連付けられています。

2 **スポットカラー編集**ウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。

- 欠落しているスポットカラーを、Fiery サーバーに追加するか、Fiery サーバー上の既存のスポットカラーにエイリアスして解決します。

  欠落しているスポットカラーを追加するには、L*a*b*、LCH またはデバイスの CMYK 値を定義し、それを新規または既存のスポットカラーグループに追加します。

  メモ：CMYK+設定をサポートしているプリンターの場合は、CMYK と追加のインク/トナーを定義することができます。

- ジョブ内のすべてのスポットカラーを新規または既存のカスタムグループに追加します。欠落しているスポットカラーは、定義またはエイリアスによって一度に 1 つずつ追加できます。
- 重複するスポットカラーを解決します。

  同じスポットカラーグループ内の 2 つのスポットカラーに同じ名前を使用できません。ジョブ内のスポットカラーの 1 つが既存のスポットカラーと同じ名前を持つ場合、既存のスポットカラーを新しいスポットカラーで置換しないように選択できます。

- エイリアスにリンクされたスポットカラーを管理します。 Spot Pro には、Fiery サーバーにマッピングされているすべてのエイリアスが表示されます。Fiery サーバーのエイリアス編集は、更新が必要です。更新には時間がかかる場合があります。
- 特殊カラーをサポートしているプリンターの場合は、スポットカラーに特殊カラーを追加します。

  メモ：特殊カラーは、ジョブベースのスポットカラーエディターを使用してオンまたはオフにすることはできません。ジョブのプロパティで特殊カラーのオン/オフを切り替えることができます。

- ジョブのすべてのスポットカラーを印刷して、スウォッチブックを印刷します。 Spot Pro 印刷時に欠落しているスポットカラーを空のパッチとして示します。

3 **保存**をクリックすると変更を保存し、**保存して完了**をクリックすると変更を保存してジョブに適用します。**閉じる**をクリックすると、保存せずに終了します。

Spot Pro スポットカラーのエイリアス

Spot Pro は、Fiery server 上のスポットカラーのエイリアス作成をサポートしています。エイリアスは、任意のオリジナルスポットカラーから、スポットカラーグループの Fiery サーバーにインストールされているターゲットスポットカラーへのシンボリックリンクを作成します。Fiery サーバーは、ターゲットスポットカラーへのエイリアスリンクを使用してオリジナルのスポットカラーを印刷するときに、ターゲットスポットカラー値を使用します。複数のオリジナルスポットカラーをターゲットスポットカラーにエイリアスすることができます。

Spot Pro のエイリアス機能を使用すると、次の操作を行うことができます。

- 任意のオリジナルスポットカラーから、スポットカラーグループの Fiery サーバーにインストールされているターゲットスポットカラーへのエイリアスリンクを作成します。
- ターゲットスポットカラーを編集して、そのターゲットスポットカラーへのすべてのオリジナルスポットカラーエイリアスリンクを更新します。
- オリジナルのスポットカラーを Fiery サーバーから削除せずに、エイリアスリンクまたはターゲットスポットカラーを削除します。
- 元のスポットカラーにリンクされているターゲットスポットカラーと、ターゲットスポットカラーにリンクされているオリジナルスポットカラーの名前と数を表示します。

メモ：Fiery Graphic Arts Pro Package は、Fiery システムソフトウェア 400 Pro 以降を搭載した Fiery server にインストールする必要があります。

エイリアススポットカラー

オリジナルスポットカラーから、Fiery サーバーのターゲットスポットカラーへのエイリアスリンクを作成できます。

ターゲットスポットカラーへのエイリアスリンクを作成する際は、次の点に注意してください。

- エイリアスを作成したいスポットカラーは、一意の名前にする必要があります。
- ターゲットスポットカラーが Fiery サーバーにインストールされている必要があります。
- エイリアスリンクのあるオリジナルのスポットカラーは、ターゲットスポットカラーを変更するか、ターゲットスポットカラーのカラー値を編集すると更新されます。
- 同じ名前の 2 つのオリジナルスポットカラーを、異なる 2 つのターゲットスポットカラーに対してエイリアスすることはできません。ターゲットスポットカラーへのエイリアスリンクを作成すると、同じ名前の元のスポットカラーがターゲットスポットカラーにリンクされます。エイリアスリンクを削除すると、同じ名前のオリジナルスポットカラーのエイリアスリンクもすべて削除されます。
- 選択した出力プロファイルを変更した場合、エイリアス情報の更新には時間がかかります。更新操作が完了すると、更新されたエイリアス情報を確認できるようになります。
- エイリアスリンクは、スポットカラーのエクスポートまたはインポートには含まれません。

オリジナルのスポットカラーへのエイリアスリンクの作成

エイリアスによって、名前が異なる 2 つのスポットカラーの間のシンボリックリンクが作成され、オリジナルスポットカラーはターゲットスポットカラーの値を使用します。

1 Spot Pro で、ツールバーの**エイリアス**アイコン（）をクリックします。

2 **オリジナル**カラーフィールドにオリジナルカラーの名前を入力し、**オリジナルカラー追加**ボタンをクリックして追加します。

一度に 1 色以上のオリジナルカラーを追加できます。エイリアスを作成するために、元のカラーが Fiery サーバーに存在する必要はありません。

Fiery サーバーに存在する元のカラーは、**現在**タグと明るいグリーンの背景カラーで表示されます。Fiery サーバーに存在する元のカラーは、**現在**タグと明るいレッドの背景カラーで表示されます。

3 **エイリアス先**検索フィールドにスポットカラーの名前を入力し、**エイリアスカラーの検索**アイコン（）をクリックして検索を実行します。

4 結果リストで、ターゲットスポットカラーを選択します。

オリジナルスポットカラーを含むプリントジョブは、リンクづけられたターゲットスポットカラーの色分解値を使用して印刷されます。

メモ：L*a*b、色分解、バリエーションに関連付けられている情報とフィールドは、オリジナルスポットカラーでは無効になっています。

5 エイリアスカラーを選択した後、**エイリアス追加**をクリックします。

元のカラーのテーブルには、リンクされたターゲットのスポットカラーが表示されます。

6 **適用して閉じる**をクリックして、Fiery サーバーに情報を保存します。

エイリアスを使用してスポットカラーを表示する

Spot Pro では、オリジナルのスポットカラーにターゲットスポットカラーへのエイリアスリンクがあるかどうかや、ターゲットスポットカラーがオリジナルのスポットカラーにリンクされているかどうかを表示できます。

オリジナルスポットカラーを選択すると、オリジナルスポットカラーにリンクされているターゲットスポットカラーがある場合は**エイリアス**列に Spot Pro が表示され、ターゲットスポットカラーのプレビューが表示されます。スポットカラーにエイリアスがない場合、Spot Pro は**エイリアス**列に**なし**と表示します。

ターゲットスポットカラーを選択すると、**エイリアス**列に Spot Pro が表示され、ターゲットスポットカラーにリンクされているオリジナルスポットカラーの数を表します。情報ボタン（ⓘ）をクリックするかカーソルを合わせると、リンクされているオリジナルのスポットカラーの一覧が表示されます。

エイリアスリンクを編集する

エイリアスリンクを編集して、オリジナルのスポットカラーを追加または削除したり、エイリアスターゲットのスポットカラーを変更したりできます。

1 Spot Pro で、ツールバーの**エイリアス**アイコン（）をクリックします。

2 エイリアスリンクを編集するには、リンクされたターゲットスポットカラーの横にある**エイリアスの編集**（）をクリックし、次のいずれかの操作を行います。

- オリジナルカラーフィールドをオリジナルスポットカラーリストに追加するには、**オリジナルカラー**フィールドにスポットカラー名を入力し、**オリジナルカラーを追加**ボタンをクリックします。
- **オリジナルカラー**リストからオリジナルスポットカラーを削除するには、オリジナルスポットカラー名の横にある消去ボタンをクリックします。
- ターゲットスポットカラーを変更するには、**エイリアス先**検索フィールドにスポットカラー名を入力し、**エイリアスカラーの検索**（）をクリックします。検索結果から新しいターゲットスポットカラーを選択します。

3 **適用して閉じる**をクリックして、Fiery サーバーに情報を保存します。

エイリアスリンクを削除する

エイリアスリンクを削除して、オリジナルのスポットカラー印刷をオリジナルの L*a*b*値から復元することができます。

1 Spot Pro で、ツールバーの**エイリアス**アイコン（）をクリックします。

2 エイリアスリンクを削除するには、リンクされたターゲットスポットカラーの横にある **エイリアスの削除**（）をクリックし、**OK** をクリックして選択を確定します。

3 **適用して閉じる**をクリックして、Fiery サーバーに情報を保存します。

メモ：Spot Pro は、元の L*a*b*値を使用してオリジナルのスポットカラーを再計算します。

特殊なカラーとエイリアススポットカラー

Spot Pro では、特殊カラーを使用するターゲットスポットカラーのエイリアスを作成できます。

たとえば、CMYK に加えてホワイトの特殊カラーを使用するターゲットスポットカラーのエイリアスを作成できます。

特殊カラーとスポットカラーのミックス

Spot Pro は、特殊カラーの追加、編集、ミックスによるスポットカラーの処理をサポートしています。特殊カラーは、一部の Fiery サーバーではサポートされていません。プリンターまたは複写機の機能に応じて、1 つまたは複数の特殊カラーを追加または編集できます。

スポットカラーと混合した特殊カラーは、サポートされているどのファイル形式（Adobe Swatch Exchange (.ase)、.cxf、.icc または.icm）でも保存できません。

上級ユーザーは、スポットカラーを編集または作成し、特殊カラーを追加して、シンボルやモノグラムを印刷するためのシルバー、ゴールド、ネオンピンクなどを使用して、独自の効果を生成することができます。

Spot Pro では、次のいずれかの基準を満たす Fiery サーバーで、特殊カラーを使用した編集をサポートしています。

- Spot Pro で使用できるようにするには、プリンターまたはプレスに特殊カラーをインストールする必要があります。
- Spot Pro で使用できるようにするには、特殊カラーにライセンスが必要ですが、特殊カラーをプリンターまたはプレスにインストールする必要はありません。

Spot Pro を起動すると、特殊カラー機能はデフォルトで無効になります。特殊カラー機能を有効にするには、Fiery サーバーで特殊カラーインク/トナーをロードして構成し、 Spot Pro で特定のカラーグループに対して特殊カラー機能をオンにする必要があります。

メモ：Fiery Graphic Arts Pro Package は、Fiery システムソフトウェア FS400 以降を搭載した Fiery サーバーにインストールする必要があります

特殊カラーとスポットカラーをミックスする

特殊カラーコンポーネントを使用してスポットカラーを編集できます。たとえば、特殊インク/トナーの量を指定することによって、CMYK + シルバー成分のスポットカラーを編集または定義できます。

1 Spot Pro で、スポットカラーを選択し、**編集**アイコン（ ）をクリックします。

2 **カラー定義**タブを選択します。

3 スポットカラー色分解（%）値を編集します。

プレビューパッチでは、パッチにいくつかの特殊カラーが含まれていることを視覚的に示す感嘆符（）アイコンが表示されます。

特殊カラー値を編集すると、プレビューパッチに新しいカラーが表示されます。

メモ：特殊カラーが 1 つ以上のスポットカラーに追加され、グループでオンになっている場合、スポットカラーグループ名の横にグリーンのチェックマーク（）が表示されます。特殊カラーが 1 つ以上のスポットカラーに追加され、グループでオフになっている場合、スポットカラーグループ名の横にイエローの感嘆符（）が表示されます。

4 **リセットア**イコン（）をクリックして変更を元に戻します。

特殊カラーを使用したスポットカラーの目視検査

特殊カラーを含むスポットカラーの目視検査を行うことができます。

特殊カラーを使用してスポットカラーを表示するには、次の 2 つの方法があります。

- 指定された出力プロファイルを使用してジョブを印刷し、特殊カラーを使用したスポットカラーの印刷外観を実際に確認できます。
- 指定された出力プロファイルを使用して、特殊カラーを使用したスポットカラーを含むスウォッチページを印刷し、スウォッチの印刷外観を目視検査できます。スウォッチページの印刷の詳細は、1 つまたは複数のスポットカラーのスウォッチブックを印刷する（231 ページ）を参照してください。

メモ：特殊カラーを使用したスポットカラーを表示するには、Command WorkStation の**ジョブのプロパティ**ウィンドウで特殊カラーオプションをオンにする必要があります。

特殊カラーミックスおよび出力プロファイル

特殊カラーを使用した編集は、すべてのスポットカラーグループ（カスタムと工場出荷時）で提供されています。特殊カラーを使用した編集は、代替カラーグループではサポートされていません。

出力プロファイルごとに特殊カラー値を使用する場合は、次の点に注意してください。

- 特殊カラーの値は、特定の出力プロファイルで維持されます。たとえば、シルバーを使用してスポットカラーを編集し、出力プロファイルを変更した場合、そのプロファイルのシルバーは保持されません。特殊カラー情報は出力プロファイル固有のものです。出力プロファイルを変更すると、特殊カラー情報が変更されます。
- Fiery サーバーは各出力プロファイルごとに特殊カラー情報を保持し、対応する出力プロファイルが選択されている場合に特殊カラー情報を取得します。

- そのスポットカラーに定義されている特殊カラーコンポーネントを含むスポットカラースウォッチを印刷できます。また、特殊カラーコンポーネントの有無にかかわらず、スポットカラーのスポットカラーバリエーションを印刷することもできます。
- 1 つ以上のライセンスされた特殊カラーをサポートする Fiery サーバーでは、特殊カラーがライセンスされてインストールされている場合に、書類内で 1 つまたは複数の特殊カラーを使用することができます。たとえば、プリンターでは、ゴールド、シルバー、クリアまたはホワイトを特殊カラーとしてサポートしている場合があります。ライセンスされた特殊カラーを使用するジョブは、特殊カラーをインストールしなくても処理できますが、特殊カラーがインストールされていないとジョブを印刷できません。スポットカラーエディターを使用して特殊カラーを編集すると、特殊カラーが有効になっているすべての出力プロファイルにも変更が含まれます。

  Fiery サーバーが CMYK に加えて複数の特殊カラーをサポートしている場合、一部の特殊カラーは最初または最後の特殊カラーステーションにのみインストールされ、CMYK の前または後に印刷するように制限され、他の特殊カラーは任意のカラーステーションにインストールされる場合があります。CMYK 以降にカラーステーションにインストールされている特殊カラーは、CMYK に印刷できます。

  たとえば、特殊カラーのホワイトは CMYK の下に最初に印刷され、特殊カラーのクリアは透明コーティングとして CMYK の上または後に印刷される場合があります。

制限

- 特殊カラーを含むスポットカラーバリエーションを印刷する場合、特殊カラーは印刷されません。
- 特殊カラーを含むスポットカラーを最適化する場合、測定器の制約の関係で特殊カラーは印刷されません。

スポットカラーのチェック

Spot Pro は、特定の用紙または素材および出力プロファイルに対して 1 つの選択されたスポットカラーグループをチェックできます。このチェックにより、プリンターが選択されたスポットカラーグループのカラーをどれだけ再現するかを示すレポートが生成されます。必要に応じてキャリブレーションおよびスポットカラーの最適化を実行することで、カラーの違い (ΔE) を低減し、より最適なカラーメトリックマッチングを実現できます。

Spot Pro は以下をサポートしています。

- FieryMeasure のすべての測定器
- 既存のスウォッチブック機能、つまりパッチサイズとページサイズ

開始する前に、測定器をコンピューターに接続します。

1 **Spot Pro** で、スポットカラーグループを選択します。

2 選択したスポットカラーグループを印刷するには、次のいずれかを行います。

- ツールバーの**チェック**をクリックします。
- 選択したスポットカラーグループを右クリックし、**チェック**を選択します。

3 スポットカラーチェックを印刷するための給紙方法を選択し、**OK** をクリックします。

4 リストから測定計器を選択し、**印刷**をクリックします。

メモ：サポート対象のインライン測定器のみが表示されます。

Spot Pro は、選択したスポットカラーグループを印刷し、選択した測定デバイスを使用して測定処理を開始します。

5 画面の指示に従ってチャートを測定します。

6 **次へ**をクリックします。

Spot Pro は、プリンターが現在のキャリブレーションおよび選択された出力プロファイルを使用して、選択されたスポットカラーグループのカラーをどれだけ再現するかを示すレポートを生成します。レポートには、各カラーの測定ΔE 値と、印刷されたカラーの正確さを示すヘルススコアが表示されます。スコアは 1 が最も低いスコアを表し、10 が最も高いスコアを表します。

- レポートを今後の使用のために保存して、経時的なカラーの精度を比較できます。
- ヘルススコアが低い時は、プリンターを再キャリブレートしたり、プリンターを再キャリブレートして新しい出力プロファイルを作成したりすることで改善できます。

Fiery スポットカラーレポートウィンドウで**スケジュール作成**をクリックしてスポットカラー検証スケジュールを開始し、Fiery ColorGuard Web アプリケーションでスケジュールを作成することができます。Fiery ColorGuard web アプリケーションでのスケジュール作成の詳細については、『Fiery IQ のヘルプ』を参照してください。

スポットカラーを最適化する

Spot Pro は、特定の用紙またはサブストレートおよび出力プロファイルに対して、1 つ以上の選択されたスポットカラーを最適化します。最適化することで、カラーの違い (ΔE) を低減し、より最適なカラーメトリックマッチングを実現することができます。カスタムスポットカラーと、内部スポットカラーライブラリのスポットカラーを最適化できます。

Spot Pro は以下をサポートしています。

- FieryMeasure のすべての測定器
- 既存のスウォッチブック機能、つまりパッチサイズとページサイズ

開始する前に、測定器をコンピューターに接続します。

1 Spot Pro で、1 つ以上のスポットカラーを選択します。

2 **最適化**をクリックします。

3 **最適化設定**ウィンドウで、**選択カラーのみ**を最適化するか**すべてのスポットカラー**を最適化するかを選択します。

すべてのスポットカラーを選択する場合は、次のいずれかのオプションに最適化を適用します。

- **このグループのすべてのスポットカラー**
- **全グループのすべてのスポットカラー**

4 リストから測定計器を選択します。

メモ：サポート対象のインライン測定器のみが表示されます。

5 **次へ**をクリックして、**ジョブのプロパティ**ウィンドウを開きます。

6 用紙またはサブストレートソースを設定します。

メモ：カラー設定を変更しないでください。

7 **印刷**をクリックして、最適化するスポットカラーのチャートを印刷します。

8 画面の指示に従ってチャートを測定します。

9 **次へ**をクリックします。

Spot Pro は、実際の平均ΔE と最大ΔE を表示します。

10 Spot Pro は、最適化のために、L*a*b*スポットカラー値、デバイス値、および色差を示すレポートを生成できます。レポートを生成するには、最適化後、レポート列の**表示**をクリックします。

11 **反復**をクリックして、それ以上最適化できなくなるまで最適化手順を繰り返します。

反復結果が最適化テーブルに表示されます。目的の最適化を選択し、**適用**をクリックして最適化を使用します。

特定の反復を選択し、最適化テーブルから削除することができます。

12 レポートを HTML として保存するには、**レポートを保存**をクリックします。

13 **完了**をクリックして、スポットカラー最適化ファイルを作成します。スポットカラー最適化ファイルは、そのスポットカラーテーブルを使用しているすべてのワークフローに適用されます。

自動スポットカラー最適化

Spot Pro は、認証されたインライン分光測色計色測定デバイスを使用して、1 つ以上の選択されたスポットカラーを自動的に測定および最適化できます。自動的に最適化することで、カラーの違い (ΔE) を低減し、より最適なカラーメトリックマッチングを実現できます。カスタムスポットカラーと、内部スポットカラーライブラリのスポットカラーを最適化できます。

Spot Pro では、認証されたインライン分光測色計色測定デバイスが必要です。

1 Spot Pro で、1 つ以上のスポットカラーまたはスポットカラーグループを選択します。

2 **最適化**をクリックし、**自動**を選択します。

3 **自動設定**ウィンドウで、**選択カラーのみ**を最適化するか**すべてのスポットカラー**を最適化するかを選択します。

a) すべてのスポットカラーを選択する場合は、次のいずれかのオプションに最適化を適用します。

- **このグループのすべてのスポットカラー**
- **選択スポットカラーのみ**
- **全グループのすべてのスポットカラー**

4 反復する回数を 1～5 の間で指定します。

5 給紙方法を選択し、**OK** をクリックします。

Spot Pro は、反復するごとに印刷と測定を行い、**Fiery スポットカラーレポート**を生成します。レポートは、各スポットカラーの ΔE 測定値を示し、平均 ΔE 値と最大 ΔE 値を含む統計情報を提供します。

6 Fiery スポットカラーレポートは、PDF ファイルまたは HTML ファイルとして保存できます。レポートを保存するには、次の操作を行います。

a) **Fiery スポットカラーレポート**ウィンドウで、**レポートを保存**を選択する。

b) レポートを保存する場所を選択する。

c) レポートファイル名を変更するか、デフォルトファイル名をそのまま使用する。

d) ファイルタイプとして **PDF ファイル**または **HTML ファイル**を選択し、**保存**をクリックする。

変更されたスポットカラーの追跡

Spot Pro カラーペインの**状況**列には、スポットカラーに適用された変更の種類を示すアイコンが表示されるため、変更されたスポットカラーを簡単に追跡できます。

メモ：変更されたスポットカラーの追跡は、Fiery システムソフトウェア FS800/800 Pro 以降を搭載した Fiery サーバーでサポートされています。

変更されていないスポットカラーの**状況**列は空白になります。

メモ：状況列には、スポットカラーに適用された最新の変更のアイコンのみが表示されます。たとえば、スポットカラーにバリエーションを適用した後で最適化された場合は、**最適化**アイコンのみが表示されます。

次の表に、**状況**列のアイコンについて説明します。

アイコン		説明
バリエーション適用済み		バリエーションがスポットカラーに適用されたことを示します。
シングルパッチ		スポットカラーの定義が、事前定義されたカラーライブラリからではなく、測定サンプルの分光測色計による読み取り値から直接取得されたことを示します。
手動で編集済み		手動で編集されたスポットカラーであることを示します。
最適化済み		最適化されたスポットカラーであることを示します。
エイリアス作成済み		エイリアスが設定されたスポットカラーであることを示します。

色域警告

色域は、プリンターが再現できる全範囲のカラーを示します。ジョブの処理中、色域以外のスポットカラーは、利用可能な色域にある最も近いカラーにマップされます。色差はΔE 値で表示されます。ユーザー指定の許容範囲内でスポットカラーを再現できない場合は、Spot Pro が警告を表示します。

Spot Pro は、この許容範囲内にあるスポットカラーを「色域内」として認めることで、さまざまなΔE 式（ΔE2000、ΔE76）での許容値の指定に対応しています。

Spot Pro は、ユーザーが指定したΔE 形式で、各スポットカラーのカラー等級ΔE を表示します。

ΔE 列には、スポットカラーを正確に再現できるかどうかが示されます。グリーンは色域の範囲内にあることを意味します。イエローは色域の範囲外であることを意味します。スポットカラーのΔE が、そのカラーの定義された許容制限範囲を超えていても、プリンターの色域の範囲内である可能性があることに注意してください。

スポットカラーが色域の範囲外にある場合は、ΔE 値を減らすことができます。次を参考にしてください:

- 別の用紙またはサブストレートに切り替えます。これにより、最良の結果が得られる組み合わせをすばやく見つけることができます。
- スポットカラーを最適化します。

階調曲線編集によるスポットカラー

スポットカラーグラデーションエディター機能を使用すると、スポットカラーのグラデーションをさまざまなパーセント（%）で編集できます。スポットカラー再現曲線を定義して、正確なカラーグラデーションが得られるようになります。

スポットカラーグラデーションでは、すべてのスポットカラーがサポートされます。

デフォルトでは、スポットカラーは 100%と 0%のカラー値で定義されています。フルトーンカラーは 100%で表されます。用紙のカラーは 0%で表されます。デフォルトでは、下地ホワイトの未測定値は 0%と同じです。

印刷ジョブにスポットカラーのグラデーションが含まれていて、そのグラデーションの印刷が明るすぎたり暗すぎたりする場合は、階調曲線を調整して強度を変更できます。

メモ：Fiery Graphic Arts Pro Package は、Fiery システムソフトウェア FS400 以降を搭載した Fiery サーバーにインストールする必要があります。

カラーグラデーションエディターを使用する

スポットカラーグラデーションエディターでは、スポットカラーのグラデーションの濃度を変更します。

メモ：スポットカラーに特殊カラーコンポーネントが含まれている場合は、プロセスカラーと特殊カラーコンポーネントの両方がグラデーション曲線の影響を受けます。

1. Spot Pro で、スポットカラーを選択し、**編集**アイコン（）をクリックします。
2. **グラデーション**タブを選択します。
3. **入力**および**出力**テーブルに、1～99 の範囲内でグラデーションを入力します。

   テーブルの値は、カラーティントの割合を表しています。値 0（ゼロ）と 100 は変更できません。

   値は、プライマリプロセスカラーと特殊カラーに適用され、色調曲線に表示されます。

   メモ：0（ゼロ）および 100 を含む最大 15 の値を持つことができます。行を追加または削除するには、**新しい行の追加**または**行の削除**ボタンをクリックします。
4. 曲線に沿って階調ポイントを変更するには、ポイントを上（濃度を上げる）または下（濃度を下げる）にドラッグします。また、座標をテーブルに直接入力することもできます。
5. グラデーションを削除するには、テーブルで行を選択し、Delete キーを押します。
6. 階調曲線をリセットするには、**リセット** アイコン（）をクリックします。

出力プロファイル色域に対するスポットカラーモデルを検査する

コンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合は、Fiery Profile Inspector を使用してスポットカラーのモデルを、選択した出力プロファイル色域を検査できます。

メモ：Spot Pro から Fiery Profile Inspector にアクセスするには、クライアントコンピューター Fiery Color Profiler Suite バージョン 5.9.1 以降をインストールする必要があります。Spot Pro ツールバーで **検査** オプションが無効になっている場合は、Fiery Software Manager から Fiery Color Profiler Suite バージョン 5.9.1 以降のデモバージョンをダウンロードできます。

スポットカラーグループ内のすべてのスポットカラー、個々のスポットカラー、または特定のジョブで使用されているスポットカラーを検査することができます。

Fiery Profile Inspector は、3 次元 L*a*b*色空間の出力プロファイルに関連してスポットカラーを視覚化するのに役立ちます。

詳細は、『Fiery Color Profiler Suite のヘルプ』を参照してください。

出力プロファイル色域に対する Spot Pro 内のスポットカラーを検査する

Fiery Profile Inspector を Spot Pro から開いて、選択した出力プロファイル色域に対してスポットカラーのモデルを検査できます。

- Spot Pro で、次のいずれかを行います。
  - スポットカラーグループを選択し、ツールバーの **検査** をクリックします。
  - スポットカラーグループを右クリックし、**スポットカラーの検査**を選択します。
  - スポットカラーを 1 つまたは複数選択し、 右クリックして、**スポットカラーの検査**を選択します。

出力プロファイル色域に対するジョブ内のスポットカラーを検査する

選択した出力プロファイル色域に対して、ジョブ内のスポットカラーのモデルを検査できます。

1. Command WorkStation 内で、スポットカラーが割り当てられているジョブを右クリックし、**スポットカラーを編集**を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - ツールバーで **検査** をクリックします。
   - **使用可能スポットカラー**ウィンドウでスポットカラーを右クリックし、**スポットカラーの検査**を選択します。

カラースウォッチページとスウォッチブック

スポットカラーとその隣接スポットカラーを含むスウォッチページを印刷することができます。カラーグループ内のすべてのスポットカラーまたは選択されたカラーが含まれるカラーグループのスウォッチブックを印刷することもできます。

スポットカラーマッチング

スポットカラースウォッチまたはスウォッチブックを印刷する場合、カラーを正確に印刷するために、出力プロファイルと用紙または素材ソースの組み合わせが正しいことを確認してください。Spot Pro カラーウィンドウで出力プロファイルを選択し、**印刷**ウィンドウでメディアトレイまたはメディアソースを選択できます。Spot Pro では、残りの設定がカラー精度にほとんど影響しないことから、残りの設定にはデフォルトのジョブプロパティが使用されます。

キャリブレーション

Fiery サーバーのキャリブレーションを行うことにより、一貫した信頼性のあるカラー出力が可能となります。キャリブレーションは、時間の経過や印刷状況の変化によるカラー出力の変動を調整します。

カラースウォッチページまたはスウォッチブックを印刷する

単色スポットカラーのカラースウォッチページ、またはスポットカラーグループのスウォッチブックを印刷できます。

1 つまたは複数のスポットカラーのスウォッチブックを印刷する

スウォッチブックを印刷する場合は、1 つ以上のスポットカラーと 1 つのレイアウトを選択します。

1 Spot Pro で、1 つ以上のスポットカラーを選択します。

Shift キーを押しながら連続するカラーをクリックして選択するか、Ctrl キーまたはコマンドキーを押しながら特定のカラーをクリックして選択または選択解除することができます。

複数のスポットカラーグループからスポットカラーを選択するには、内部スポットカラーグループからカスタムスポットカラーセクションにスポットカラーをドラッグします。

2 **印刷**をクリックするか、右クリックしてメニューから**印刷**を選択し、**スウォッチブック**を選択します。

メモ：Fiery サーバーにより、**印刷**、**キューに印刷**または**印刷へ送信**オプションがあります。

3 パッチサイズを選択します。

Command WorkStation の地域設定に従い、サイズは mm またはインチで表示されます。

4 チャートサイズを選択します。

カスタムチャートサイズの幅と高さは、5.0～39.37 インチに定義できます。

また、チャートサイズは、プリンターまたはプレスで扱える一番大きな用紙までに限られます。

5 用紙またはサブストレートソースを選択します。

6 カラースウォッチブックで測定された ΔE 値を印刷するには、**測定済みΔE2000 値を表示**チェックボックスを選択します。

7 カスタマー名と連絡先情報を指定します。

カスタマー名と**連絡先情報**フィールドでは、各行に最大 35 文字のテキストを含む最大 5 行まで指定できます。

Fiery ロゴと製造元ロゴが印刷されています。

8 **ジョブのプロパティ**をクリックして、追加の印刷設定を指定します。

9 **OK** をクリックして、スポットカラースウォッチブックを印刷します。

チャートサイズが用紙トレイで扱える用紙サイズよりも大きい場合、警告メッセージが表示され、**OK** ボタンは無効になります。

ジョブは、Command WorkStation のジョブセンターで複数ページの PDF ファイルとして表示されます。印刷されたジョブで、スポットカラー名と CMYK カラー値が、各カラーパッチの下に印刷されます。

グループ内のすべてのスポットカラーのスウォッチブックを印刷する

スウォッチブックを印刷するときには、スポットカラーグループとレイアウトを選択します。

1 Spot Pro で、1 つのカラーグループを選択します。

メモ：一度に印刷できるカラーグループは 1 つだけです。

2 **印刷**をクリックするか、右クリックしてメニューから**印刷**を選択し、**スウォッチブック**を選択します。

メモ：Fiery サーバーにより、**印刷**、**キューに印刷**または**印刷へ送信**オプションがあります。

3 パッチサイズを選択します。

Command WorkStation の地域設定に従い、サイズは mm またはインチで表示されます。

4 チャートサイズを選択します。

カスタムチャートサイズの幅と高さは、5.0～39.37 インチに定義できます。

また、チャートサイズは、プリンターまたはプレスで扱える一番大きな用紙までに限られます。

5 用紙またはサブストレートソースを選択します。

6 カラースウォッチブックで測定された ΔE 値を印刷するには、**測定済みΔE2000 値を表示**チェックボックスを選択します。

7 カスタマー名と連絡先情報を指定します。

カスタマー名と**連絡先情報**フィールドでは、各行に最大 35 文字のテキストを含む最大 5 行まで指定できます。

Fiery ロゴと製造元ロゴが印刷されています。

8 **ジョブのプロパティ**をクリックして、追加の印刷設定を指定します。

9 **OK** をクリックして、スポットカラースウォッチブックを印刷します。

チャートサイズが用紙トレイで扱える用紙サイズよりも大きい場合、警告メッセージが表示され、**OK** ボタンは無効になります。

ジョブは、Command WorkStation のジョブセンターで複数ページの PDF ファイルとして表示されます。印刷されたジョブで、スポットカラー名と CMYK カラー値が、各カラーパッチの下に印刷されます。

代替カラー

代替カラー機能を使用して、ジョブ内のカラーを印刷されたジョブの別のカラーにマッピングすることができます。

代替カラーはテキスト、ベクトルグラフィック、ラインアートのみに影響します。代替カラーはラスター画像には適用されません。

カラーが代替カラーとして定義されている場合、RGB カラー用の設定（**RGB ソース**など）や CMYK カラー用の設定（**CMYK ソース**）は無効になります。代替カラーはスポットカラーと同様のプロセスでカラー変換されます。

⚠ 注 意 代替カラー機能と Postflight 機能を同時に使用することはできません。これらの印刷オプションには制限があります。

代替カラーは、CMYK +カラーモードおよび関連付けられている出力プロファイルをサポートしていません。

代替カラー機能を使用するには、次の操作を行う必要があります。

- Command WorkStation で代替カラー値を設定します。
- **代替カラー**印刷オプションをオンにして書類を印刷します。

代替カラーの作成や編集を行う

代替カラーは、代替グループと呼ばれる特殊なタイプのスポットカラーグループ内に存在します。代替カラーでは、オリジナルカラーの CMYK 値とそのカラーの代替カラーの CMYK 値を指定します。

1 次のいずれかの方法で Spot Pro を起動します。

- ジョブセンターで、ツールバーで **Spot Pro** をクリックします。
- **サーバー** > **Spot Pro** をクリックします。
- **サーバー**ウィンドウでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ 3 つのドット）をクリックし、次に **Spot Pro** をクリックします。
- デバイスセンターで、**リソース** > **Spot Pro** をクリックしてから、**Spot Pro を起動**をクリックします。

2 **新規**をクリックし、**代替グループ**を選択します。

代替グループの場合は、グループ名を入力して **OK** をクリックします。

代替グループがすでに存在する場合は、代替グループを選択し、5 に進みます。

3 カラーの一覧で、新しい代替カラーを配置する場所を選択します。

4 **新規**をクリックし、**代替カラー**を選択して代替カラーを作成します。

5 オリジナルのカラー値を指定するカラーモードを選択します。

6 オリジナルカラーの許容値を選択します。

許容範囲はカラーがオリジナルカラーにどの程度近くなければならないかを決定します。許容範囲での「小」または「大」は、次のように定義されています。

カラーモード	小さい許容範囲	大きい許容範囲
CMYK（0-100%）	+/-0.25%	+/-0.5%
RGB（デバイスコード 0-255）	+/-0.25	+/-1
RGB（0-100%）	+/-0.25%	+/-0.5%

メモ：許容範囲の設定は、変換後のカラーには影響を及ぼしません。

7 オリジナルカラーの値を入力します。フィールド間を移動するには **Tab** キーを使用します。

8 変換されたカラーの値を入力します。

9 次のいずれかを行います。

- **完了**をクリックして編集を終了し、Spot Pro カラーエディタペインを終了します。
- **保存**をクリックして編集内容を保存し、Spot Pro カラーエディターウィンドウを閉じずに別のスポットカラーに切り替える。

10 代替カラーを編集するには、Spot Pro カラーエディタペインで、**編集**アイコン（）をクリックします。必要な変更を行い、次のいずれかを行います。

- **完了**をクリックして編集を終了し、Spot Pro カラーエディタペインを終了します。
- **保存**をクリックして編集内容を保存し、Spot Pro カラーエディタペインを終了せずに、別のスポットカラーに切り替えます。

Fiery ColorGuard

Fiery ColorGuard はオペレーターによるカラーの検証、スポットカラーの検証、再キャリブレート、検証結果の自動クラウド報告、および最近の検証履歴の表示ができます。Fiery ColorGuard は各プリンターごとにライセンスが必要です。Fiery ColorGuard はアカウント向けに 30 日間無料トライアルライセンスを提供しています。

Fiery ColorGuard にアクセスするには、Fiery サーバーを Fiery IQ に接続する必要があります。詳細については、Fiery サーバーを Fiery IQ クラウドに接続する（38 ページ）を参照してください。

Fiery サーバーを Fiery IQ クラウドに接続した後は、以下をクリックすることで、Command WorkStation7.0 以降の Fiery ColorGuard 機能にアクセスできます。

- **サーバー** > **ColorGuard** をクリックします。
- サーバーウィンドウでサーバー名の横にある（ ）アイコンをクリックします。
- 通知タブの保留中のスケジュールをクリックします。

Fiery ColorGuard ウィンドウ内：

- **ColorGuard の Web ページに移動する**をクリックして、Fiery ColorGuard クライアントアプリケーションで完了する検証とキャリブレーションのスケジュールを設定できる Fiery ColorGuard Web アプリケーションにアクセスし、検証結果を追跡します。詳細は、『Fiery IQ Help for Industrial and Large Format presses』を参照してください。
- **ライセンス取得済みプリンターをリフレッシュする**をクリックして、ライセンスまたは 30 日間のトライアルライセンスをアクティベートした、新規追加の Fiery サーバーの詳細を表示します。ボタンを 5 分に 1 回クリックすると、Fiery サーバーのリフレッシュされたリストおよびスケジュールを確認できます。

通知タブには、Fiery ColorGuard の保留中のスケジュール通知が含まれています。次のいずれかの操作を実行できます。

- **今すぐ再キャリブレーションする**をクリックしてキャリブレーターを開き、再キャリブレーションを完了します。
- **今すぐ検証**をクリックして FieryMeasure を開き、検証またはベンチマーク検証を完了します。

Fiery ColorGuard の詳細については、『Fiery IQ Help for Industrial and Large Format presses』を参照してください。

サーバーリソースを管理する

Fiery システムソフトウェアのアップデートとパッチ

Command WorkStation には、Fiery システムソフトウェアや Fiery API のアップデートやパッチをインストールする Fiery アップデート機能が含まれています。Fiery アップデート機能を使用すると、Fiery サーバーまたはリモートコンピューターからシステムソフトウェアのアップデートをインストールできます。また、Fiery アップデート機能では、Fiery サーバーをインターネットに接続せずにアップレートやパッチをインストールできます。

Fiery アップデートにアクセスするには、 Command WorkStation を起動します。

Command WorkStation を実行しているコンピューターは、次の条件を満たしている必要があります。

- インターネットに接続されている
- Fiery サーバーと同じネットワークに所属している

Fiery サーバーへのアップデートやパッチのインストールは、1 度に 1 台のコンピューターのみからしか行うことができません。パッチをインストールする場合は、システムアップデートを無効にする必要があります。

Command WorkStation からの Fiery サーバーシステムソフトウェアのアップデート

クライアントコンピューターまたはローカルで Fiery サーバーを使用して、Fiery サーバーのシステムソフトウェアをアップデートできます。

Command WorkStation で Fiery サーバーに接続するには、Fiery サーバーの名または IP アドレスが必要です。

メモ：クライアントコンピューターには、Fiery サーバーのシステムアップデートを実行するための有効なインターネット接続が必要です。

メモ： 最良の結果を得るためには、Fiery サーバーのや Command WorkStation でジョブやアクションが処理中ではないときにアップデートやパッチをインストールしてください。

1 Command WorkStation を起動します。

2 次のいずれかの方法で、**デバイスセンター**を開きます。

- **サーバー**リストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ 3 つのドット）をクリックします。
- **サーバー**リストでサーバー名をダブルクリックします。
- **サーバー** > **デバイスセンター**をクリックします。
- サーバー名を右クリックし、**デバイスセンター**を選択します。

3 デバイスセンターで、**Fiery アップデート** > **アップデート**をクリックします。

4 利用可能なアップデートを表示してインストールするには、**Fiery アップデート**の下の**アップデート**をクリックし、右のウィンドウでインストールするアップデートそれぞれの**アップデート**をクリックします。

5 利用可能なパッチを表示するには、**Fiery アップデート**の下の**パッチ**をクリックします。

6 インストールするパッチを選択してください。

パッチを選択すると、必要なパッチがすべて自動的に選択されます。

7 Fiery API についてのメッセージが表示されたら、**OK** をクリックして Fiery API をインストールします。

Fiery アップデートを使用したパッチのインストールには、Fiery API が必要です。

8 **アップデート**をクリックして、選択したパッチをインストールします。

排他的パッチをインストールするたびに、Fiery サーバーをリブートする必要があります。

メモ：各排他的パッチと一緒に複数の非排他的パッチをインストールすることができます。

9 アップデートとパッチをインストールした後、**OK** をクリックして Fiery サーバーのをリブートします。

メモ：再起動後、管理者は Command WorkStation 内の Fiery サーバーのに再接続する必要があります。

メモ：パッチのインストールが進行中の場合は、Fiery サーバーのに接続した Command WorkStation に通知が表示されます。

10 インストール済みのアップデートやパッチの一覧を表示するには、**Fiery アップデート**の下の**履歴**をクリックします。

サーバーのパフォーマンスとセキュリティを調べる

Fiery ヘルスモニターを使用すると、システム全体の健全性を常に把握し、予防措置リストを表示することで、プロダクション印刷環境に関する要求に応えるための最も効率的な状況で、Fiery サーバーが安全かつ確実に動作するよう維持できます。

サーバーを最適な稼働状態で維持する

1 次のいずれかの方法で、Fiery ヘルスモニターを起動します。

- ジョブセンターの右上隅、ロゴの下にある **Fiery ヘルスモニター**リンクをクリックします。
- **サーバー** > **Fiery ヘルスモニター**を選択する。
- Fiery サーバー名を右クリックし、**Fiery ヘルスモニター**を選択します。

2 いずれかのツールをクリックします。

- **Fiery アップデート**（Fiery サーバーでサポートされている場合）が Fiery システムソフトウェアおよび Fiery API のアップデートとパッチをインストールします。Command WorkStation からの Fiery サーバーシステムソフトウェアのアップデート（236 ページ）
- **C：ドライブのディスクスペースの確認**は、C：ドライブのディスク使用量を監視し、システム管理者に Windows ディスククリーンアップを開始するよう求めます。

- **E：ドライブまたは J：ドライブのディスクスペースの確認**は、ジョブストレージドライブ（FS400/400 Pro 以降は J：ドライブ、FS350/350 Pro 以前は E：ドライブ）を監視し、サーバーの初期化機能を使用してジョブ、ログ、VDP リソースを消去します。サーバーの初期化（110 ページ）
- **Fiery 再起動**はパフォーマンスを最適化するために定期的に Fiery サーバーを再起動するようにシステム管理者に促します。
- **アーカイブマネージャー**は、Fiery サーバーの外部ジョブをアーカイブします。ジョブをアーカイブする（105 ページ）

  メモ：Command WorkStation > **環境設定**でアーカイブマネージャーがオフになっている場合、Fiery ヘルスモニターには表示されません。
- **Fiery バックアップスケジュール**（Fiery サーバーでサポートされている場合）は毎日または週ごとの自動バックアップのスケジュールを設定します。Fiery バックアップスケジュールは、デフォルトブラウザーウィンドウで WebTools を開きます。ブラウザーでセキュリティエラーが表示された場合、そのエラーを無視して続行できます。
- **Windows アップデート**を使用すると、Fiery サーバーが最新の Windows アップデートを使用しているかどうかを確認し、システム管理者に Windows アップデートアプリケーションを起動するように求めます。

  メモ：Windows リモートデスクトップを使用してリモートの Command WorkStation クライアントから、または Fiery サーバーに接続されているキーボード、モニター、およびマウスから、**ディスククリーンアップ**と **Windows アップデート**を選択できます。

より詳細な情報やサポートが必要な場合には、登録ユーザーは Fiery Communities でディスカッションを始められます。

仮想プリンター

仮想プリンターでは、既存のジョブ設定を使用して Fiery サーバーで印刷が行えます。仮想プリンターはネットワーク上に公開されているので、ユーザーは仮想プリンターをコンピューター上のプリンターとして構成できます。

システム管理者は、仮想プリンターを Command WorkStation で管理できます。印刷を複製し、仮想プリンターを待機させて設定を変更できます。システム管理者は、新しい仮想プリンターを作成することもできます。

デバイスセンターでは、選択した仮想プリンターのジョブのプロパティを**ワークフロー** > **仮想プリンター**から表示できます。ツールバーを使用して、仮想プリンターで追加のアクションを実行します。

システム管理者は、ジョブプリセットを仮想プリンターとして公開できます。プリセットのプリント設定（58 ページ）を参照してください。

デフォルトの設定

デフォルト設定機能では、ジョブのデフォルトのプロパティを変更することにより、Fiery サーバーをカスタマイズできます。

仮想プリンターを作成、編集または複製する

システム管理者だけが仮想プリンターを作成、編集、複製できます。また、システム管理者はジョブプリセットを仮想プリンターとして公開することもできます。

1 デバイスセンターで、**ワークフロー**の**仮想プリンター**をクリックします。

2 次のいずれかの操作を行います。

- 仮想プリンターを作成するには、ツールバーの**新規**をクリックします。
  - 基本の仮想プリンターを作成する場合は、**仮想プリンター**を選択 します。
  - IPDS 仮想プリンターを作成する場合は、**IPDS 仮想プリンター**を選択します。
- 仮想プリンターを編集するには、ツールバーの**編集**をクリックします。
- 仮想プリンターを複製するには、ツールバーの**複製**をクリックします。

3 以下を指定します。

- **プリンター名**：仮想プリンターの名前（英数字で指定）。

  メモ：仮想プリンターを作成または複製した場合、名前は変更できませんが、印刷設定は変更できます。
- **説明**: 仮想プリンターをユーザーに説明するためのコメントを追加または変更します（例 : **会社案内用**）。
- **ジョブアクション**：Fiery サーバーアクションのいずれか 1 つ（**待機**や**処理後待機**など）を選択します。
- **ジョブのプロパティ**：**定義**を選択してジョブのプロパティにアクセスし印刷設定を指定するか、プリセットプロパティのリストから選択できます。

メモ：ロックアイコンをクリックすると、該当するジョブ設定をロックできます。

4 必要に応じて、**JobExpert** のチェックボックスを選択し、メニューからカテゴリーを選択します。

5 必要に応じて、**プリフライト**を選択し、設定を編集します。

- **PDF ジョブのプリセット** - プリセットを選択できます。
- **PDF 以外のジョブのプリセット** - デフォルトのプリフライト設定を使用したり、プリフライト設定をカスタマイズしたり、他のプリセットを選択したりすることができます。
- **デフォルトプリセット**：**編集**を選択して設定を変更しない限り、プリントジョブはデフォルト印刷設定を使用することを意味します。

- **編集**：他のプリセットを選択したり、プリフライト設定をカスタマイズしたりできます。

  メモ：カスタマイズしたプリフライト設定をプリセットとして保存することもできます。

- **重大エラー発生時**: 重大エラーが発生したときに Fiery サーバーが実行するアクションを指定します。**ジョブアクションを使用**は、仮想プリンター用に指定されたジョブアクションを意味します。

6 必要に応じて、**JobFlow** チェックボックスを選択 し、**選択**をクリックします。

- **Fiery JobFlow ワークフロー**ウィンドウで、ワークフローを選択し、**選択**をクリックします。

  メモ：新しい Fiery JobFlow ワークフローを作成する場合は、**ワークフロー管理**をクリックします。

7 IPDS 仮想プリンターの場合は、**次へ**をクリックし、**IPDS** ウィンドウで適切な設定を指定します。

- **ジョブ**
- **エラー**
- **仮想給紙トレイ設定**
- **画像シフト**
- **スタッカー設定**

8 **OK** をクリックします。

ロックされたジョブ設定

ジョブ設定をロックすると、他のユーザーはその設定を変更することができません。

次の点に注意してください。

- Mac OS プリンタードライバーを通じてジョブを仮想プリンターに送信：ロックされた設定を変更できますが、ジョブが Fiery サーバーに送られると、ジョブはロックされたジョブ設定に従って印刷されます。ユーザーが行った変更はすべて上書きされます。
- 仮想プリンターを使ってジョブを Command WorkStation にインポート：インポートされたジョブは、Fiery サーバーのロックされた設定を使用し、ジョブに指定されている競合する設定を上書きします。
- ロックされていないジョブ設定：ジョブ設定を変更できます。ジョブはこれらの設定に従って印刷されます。ただし、ジョブ設定が指定されていない場合は、ジョブは仮想プリンター設定を使用します。

ジョブプリセットを仮想プリンターとして公開する

サーバージョブプリセットは仮想プリンターとして公開できます。

1 デバイスセンターで、**ワークフロー**で**ジョブのプリセット**をクリックします。

2 プリセットを選択し、**仮想プリンターとして公開**をクリックします。

3 **新規仮想プリンター**ウィンドウで、設定を指定します。

メモ：ジョブのプロパティを除くすべての設定を指定できます。ジョブのプロパティには、サーバープリセットで指定された設定が使用されます。

仮想プリンターを管理する

Fiery サーバーのシステム管理者は、仮想プリンターの公開、非公開、削除ができます。

1 デバイスセンターで、**ワークフロー**の**仮想プリンター**をクリックします。

2 リストから仮想プリンターを選択し、ツールバーから次のいずれかのボタンをクリックします。

- **公開**をクリックすると、選択した仮想プリンターをネットワーク上に公開できます。

  サーバー > **設定**で SMB 印刷が有効になっている場合、仮想プリンターはネットワーク上で共有されます。Configure で、**ジョブ送信** > **Windows 印刷**を選択します。

- **非公開**をクリックすると、選択した仮想プリンターをネットワークから削除できます。

  以降、この仮想プリンターは共有プリンターとして表示されません。また、これ以降は Command WorkStation でもこの仮想プリンターはジョブをインポートできるプリンターとして表示されません。

- **削除**をクリックすると、選択した仮想プリンターを削除できます。

  複数の仮想プリンターを選択するには、Shift キーを押しながらクリック、Ctrl キーを押しながらクリック（Windows の場合）、または cmd キーを押しながらクリック（macOS の場合）します。すべての仮想プリンターを選択するには、Ctrl ＋ A（Windows）または cmd ＋ A（macOS）を押します。

バリアブルデータ印刷リソース

バリアブルデータ印刷（VDP）ジョブでは、グローバル/再利用可能リソースのバリアブルデータを使用してジョブを構成します。

グローバルリソースとは、バリアブルデータと一緒にバリアブルデータ印刷（VDP）ジョブのために Fiery サーバーにダウンロードする必要がある画像のことです。これらのグローバルリソースは、各プロジェクト内の 1 つのグループとして Fiery サーバーに格納されます。

バリアブルデータ印刷（VDP）リソースを使用した場合、システム管理者は Fiery サーバーのディスク容量を次のように管理できます。

- グローバルリソースの表示と削除
- 将来のバリアブルデータ印刷（VDP）ジョブのためのグローバルリソースの作成と保存
- Fiery サーバーへのグローバルリソースのアーカイブと復元

バリアブルデータ印刷リソースにアクセスするには、Fiery サーバーに接続し、詳細アイコン（縦の 3 つのドット）をクリックし、**デバイスセンター** > **リソース** > **バリアブルデータ印刷リソース**を選択します。

バリアブルデータ印刷リソースをバックアップする

グローバルリソースをバックアップできます。

プロジェクトのグローバルリソースをバックアップする

デバイスセンターのバリアブルデータ印刷リソース機能を使用すると、プロジェクトを別のファイルにバックアップできます。

PDF/VT ジョブではバックアップ/復帰を実行できません。

1 対象となる Fiery サーバーに接続し、**デバイスセンター** > **リソース** > **バリアブルデータ印刷リソース**をクリックします。

2 バリアブルデータ印刷フォルダーをクリックし、利用可能なプロジェクトのリストを表示します。

3 アーカイブするプロジェクトを選択し、**バックアップ**をクリックします。

4 ファイルを保存する場所を指定し、**OK** をクリックします。

バリアブルデータ印刷リソースを復帰させる

アーカイブ済みのグローバルリソースを復帰させることができます。

プロジェクトのアーカイブ済みグローバルリソースを復元する

アーカイブ済みのジョブは、ファイルの元のアーカイブ場所である Fiery サーバーにのみ復元できます。

メモ：グローバルリソースを持たないバリアブルデータ印刷（VDP）言語は、バリアブルデータ印刷リソースに表示されません。グローバルリソースを復元したバリアブルデータ印刷言語のみが、バリアブルデータ印刷リソースに表示されます。

1 **復元**をクリックします。

2 アーカイブ済みファイルを保存した場所を検索してファイルを選択し、**復元**をクリックします。

グローバルリソースを表示および削除する

グローバルリソースや、プロジェクトのジョブ名情報を表示できます。

1 対象となる Fiery サーバーに接続し、**デバイスセンター** > **リソース** > **バリアブルデータ印刷リソース**をクリックします。

2 グローバルリソースを表示するには、プロジェクトをクリックし、表示メニューから**リストビュー**または**サムネイルビュー**をクリックします（Fiery サーバーがサポートしている場合）。

3 送信済みジョブの名前情報とプロジェクトのリソースを表示するには、プロジェクトをクリックし、**リソース**または**ジョブ**をクリックします（Fiery サーバーがサポートしている場合）。

4 グローバルリソースを削除するには、バリアブルデータ印刷（VDP）言語またはプロジェクトをクリックして、**削除**をクリックします。

5 現在の情報を更新するには、**リフレッシュ**をクリックします（Fiery サーバーがサポートしている場合）。

フォント

フォント管理ウィンドウには、Fiery サーバーに常駐するフォントが表示されます。ローカルプリンターにフォントリストを印刷することもできます。

Fiery サーバーのフォントを管理する

フォントの追加、アップデート、削除およびフォント一覧の印刷ができます。

Configure で、次の設定を行います。

ジョブ送信 > **キュー** > **フォントキューの公開**を有効にします。セキュリティ上の理由から、フォントをインストールしている間のみ、**フォントキュー**を有効にします。

PostScript フォントの場合は、 **セキュリティ** > **PostScript セキュリティ**を無効にします。

メモ：サーバー上の日本語フォントやサポートアプリケーションによってダウンロードされたフォントは、すべてロックされています。Fiery サーバーにダウンロードされた日本語のフォントは、アプリケーションをインストールすることでのみ削除できます。

1 次のいずれかの方法で、**デバイスセンター**を開きます。

- **サーバー**リストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ 3 つのドット）をクリックします。
- **サーバー**リストでサーバー名をダブルクリックします。
- **サーバー** > **デバイスセンター**をクリックします。
- サーバー名を右クリックし、**デバイスセンター**を選択します。

2 **リソース** > **フォント**をクリックします。

3 **PS フォント**を選択します。

Fiery サーバーに現在常駐するフォントの一覧が表示されます。

4 フォントを追加または更新するには、**新規追加**をクリックします**追加**をクリックして、ダウンロードするフォントを探し、**OK**、**リフレッシュ**をクリックします。

Adobe PostScript Type 1 フォントを追加できます。

5 フォントを削除するには、フォント一覧のロックされていないフォントを選択し、**削除**をクリックします。ロックされたフォントは削除できません。

6 フォント一覧を印刷するには、**印刷**をクリックします。

7 PostScript フォントを追加した場合は、 **セキュリティ** > **PostScript セキュリティ**を再度有効にします。

フォントのバックアップと復元を実行する

Fiery サーバー上のすべてのフォントをバックアップおよび復元できます。フォントを個別に選択することはできません。

Fiery サーバーでフォントのバックアップおよび復帰を実行するには、システム管理者としてログインする必要があります。

1 次のいずれかの方法で、**デバイスセンター**を開きます。

- **サーバー**リストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ 3 つのドット）をクリックします。
- **サーバー**リストでサーバー名をダブルクリックします。
- **サーバー** > **デバイスセンター**をクリックします。
- サーバー名を右クリックし、**デバイスセンター**を選択します。

2 **リソース** > **フォント**をクリックします。

3 **バックアップ**または**復元**をクリックします。

4 表示される web ブラウザーウィンドウで、セキュリティの指示に従います。

5 **バックアップリソースと設定**で、**今すぐバックアップ**をクリックします。

6 ダイアログボックスが表示されたら、システム管理者としてログインします。

7 バックアップする項目の一覧で、**フォント**を選択します。

8 以下のガイドラインを順守します。
Fiery サーバーも格納されている内蔵ディスクにはフォントをバックアップしないでください。フォントの復帰は、バックアップの作成元になったのと同じ Fiery サーバーに対して行う必要があります。

ユーザーとグループ

Fiery サーバーにアクセスするユーザーを作成し、グループに割り当てることによってユーザーの権限を定義できます。いくつかのグループがデフォルトで用意されています。同じグループ内の全ユーザーが同じ権限を持ちます。

ユーザーとグループに関する詳細情報は、**ユーザーアカウント**で確認できます。

作成したユーザーをグループに割り当てるだけでなく、組織全体のアドレスリストからユーザーを追加することもできます。これを行うには、最初に Fiery サーバーで LDAP サービスを使用可能に設定する必要があります。

グループを表示する

グループ機能により、システム管理者は、権限が定義されたグループにユーザーを追加することができます。

メモ：グループをサポートしていない Fiery サーバーもあります。

ユーザーおよびグループの権限を変更するには、**設定**をクリックします。詳細は、グループ権限を変更する（35 ページ）を参照してください。

ジョブログを使用する

ジョブログには、処理および印刷済みのジョブ、印刷日時、特記事項などの記録が保存されます。

メモ：システム管理者が Fiery サーバーをクリアしたり、新しいソフトウェアをインストールしたりした場合、ジョブログが消去されることがあります。

システム管理者は、Configure で自動のジョブログメンテナンスを設定できます（ジョブログをエクスポートして消去する日時を設定するなど）。

ジョブログの管理方法の詳細については、『Configure のヘルプ』を参照してください。

ジョブログを表示する

1 適切な Fiery サーバーに接続し、次のいずれかの操作を行います。

- サーバー名の横にある詳細アイコン（3 つのドット）をクリックして**デバイスセンター**を選択した後、**ログ** > **ジョブログ**をクリックします。
- **サーバー** > **ログ**をクリックします。

2 タイムスタンプ : **印刷終了**列または**日付/時刻**列のいずれかを選択し、表示するジョブの日付範囲を指定します。

印刷終了列は最初の列に表示され、最後に印刷されたジョブが最上部に表示されます。

2 番目の列には、Fiery サーバーがジョブを受信した**日付/時刻**が表示されます。

3 すべてのジョブを表示するには、**フィルターを消去**をクリックします。

ジョブログ列のカスタマイズ

1 列見出しを右クリックします。

2 **追加**を選択します。

3 使用可能な列の一覧で、追加する列を選択します。

4 列を削除するには、列見出しを右クリックして**削除**を選択します。

5 列の順序を変更するには、列見出しを選択して別の場所にドラッグします。

ジョブログエントリの詳細情報を表示する

ジョブログのエントリの詳細を表示することができます。標準の Windows または macOS コントロールを使用してテキストをコピーし、選択、すべて選択、コピーなどを行うことができます。また、Fiery サーバーまたはローカルプリンターから詳細を印刷することもできます。

- 行を選択してツールバーの**詳細**をクリックするか、行をダブルクリックします。
  ジョブログの列は垂直方向に表示されるため、詳細な情報を一目で確認して印刷することができます。

ジョブログを印刷する

1 適切な Fiery サーバーに接続し、次のいずれかの操作を行います。

- サーバー名の横にある詳細アイコン（3 つのドット）をクリックして**デバイスセンター**を選択した後、**ログ** > **ジョブログ**をクリックします。
- **サーバー** > **ログ**をクリックします。

2 **印刷**をクリックします。

3 **ローカルプリンター**を選択し、プリンターを選択して、**印刷**をクリックします。

ジョブログのコンテンツをエクスポートする

1 適切な Fiery サーバーに接続し、次のいずれかの操作を行います。

- サーバー名の横にある詳細アイコン（3 つのドット）をクリックして**デバイスセンター**を選択した後、**ログ** > **ジョブログ**をクリックします。
- **サーバー** > **ログ**をクリックします。

2 **エクスポート**をクリックします。

3 **現在の表示**を選択してジョブログの現在の日付の範囲の表示をエクスポートするか、または**完了ログ**を選択して指定された日付の範囲の表示に関係なくジョブログ全体をエクスポートします。

ジョブログのコンテンツをエクスポートまたは消去する

1 適切な Fiery サーバーに接続し、次のいずれかの操作を行います。

- サーバー名の横にある詳細アイコン（3 つのドット）をクリックして**デバイスセンター**を選択した後、**ログ** > **ジョブログ**をクリックします。
- **サーバー**ウィンドウでサーバー名をダブルクリックして**デバイスセンター**を開き、**ログ** > **ジョブログ**を選択します。
- **サーバー** > **ログ**をクリックします。

2 次のいずれかの操作を行います。

- **エクスポート/消去**をクリックします。
- **消去**をクリックします。

サブストレートカタログ

サブストレートカタログは、プロダクション印刷会社で使用可能なサブストレートの属性を保存できる、システムベースのサブストレートウェアハウスデータベースです。

サブストレートカタログは、Command WorkStation とともにデフォルトでインストールされています。

サブストレートカタログは Fiery サーバーに格納されています。Fiery サーバーの再起動/初期化を行ってもカタログは影響を受けません。

メモ：サブストレートカタログを設定/管理するには、Command WorkStation にシステム管理者としてログインする必要があります。

サブストレートを選択するには、Command WorkStation でジョブを選択し、**プロパティ** > **メディア**をクリックし、サブストレートカタログからエントリを選択します。サブストレートカタログエントリは、**サブストレートカタログ**リストにアルファベット順で一覧表示されます。

各サブストレートカタログエントリは、特定の出力プロファイルに関連付けられています。新しいサブストレートカタログエントリを作成するときは、サブストレートカタログエントリを既存のプロファイルと関連付けるか、新しいプロファイルを作成する必要があります。

メモ：「メディア」または「用紙」という用語は、「サブストレート（素材）」を指しています。

アクセスレベル

サブストレートカタログを使用すると、システム管理者は次の操作を行うことができます。

- 複数のサブストレート属性の組み合わせを定義し、それぞれの組み合わせに一意の名前を割り当てる
- 各サブストレートへのカラープロファイルの割り当て
- ジョブ印刷時に設定済みサブストレートを選択する
- ユーザーが使用できるサブストレートカタログの列の指定
- サブストレートカタログの集中管理

サブストレートカタログを使用すると、オペレーターは次の操作を行うことができます。

- ジョブ印刷時に設定済みサブストレートを選択する

サブストレートカタログにアクセスする

システム管理者は、プレスで使用できるすべてのサブストレートを記述したサブストレートカタログエントリを作成します。システム管理者は、サブストレートカタログの設定オプションにアクセスして、特定の印刷会社のシナリオに合わせてカスタマイズできます。

1 目的の Fiery サーバーにログインします。

2 次のいずれかの操作を行います。

- **ジョブセンター**ツールバーの**サブストレートカタログ**アイコンをクリックします。**サブストレートカタログ**アイコンが表示されていない場合は、次の操作を行います。
  - **ジョブセンター**ツールバーでツールバーを右クリックしてから、**標準セット**または**カスタマイズ**をクリックして、**サブストレートカタログ**を**選択したツール**リストに追加します。

    メモ：ツールバーのカスタマイズウィンドウで、**標準セット**をクリックして、サブストレートカタログを**選択したツールリスト**に追加することもできます。
  - **サブストレートカタログ**アイコンが**ジョブセンター**のツールバーで非表示になっている場合は、ウィンドウを拡大するか、または詳細アイコン（縦の 3 つのドット）をクリックしてから**サブストレートカタログ**をクリックします。
- **サーバー** > **サブストレートカタログ**をクリックします。
- **サーバー**リスト内の Fiery サーバーを右クリックし、**サブストレートカタログ**を選択します。
- **サーバー**リスト内の Fiery サーバーを右クリックし、**デバイスセンター**を選択します。デバイスセンターの**リソース**で**サブストレートカタログ**を選択します。

サブストレートカタログウィンドウでは、エントリの作成、エントリの編集およびサブストレートカタログの管理を行うことができます。

サブストレートカタログウィンドウ

サブストレートをさまざまな方法で整理して表示します。

サブストレートカタログウィンドウのデフォルトビューには、カタログ内のすべてのメディアの名前が表示されます。名前をクリックすると、選択した名前の以下の属性が表示されます。

メモ：属性名は、使用している Fiery サーバーで何がサポートされているかによって異なる場合があります。

- サブストレートカタログエントリの名前
- 説明
- 厚さ
- タイプ
- サイズ ID
- 寸法
- 用紙サイズ
- 給紙方向（JDF 準拠の設定が選択されている場合）
- 紙目方向
- 製品 ID

リストビュー（チェックボックスを選択すると表示）では、全メディアを表示するか、指定したサイズのすべてのメディアを表示するかを選択できます。表示される各メディアの情報は、選択した列見出しで決まります。

ツールバーのアイコンを使用して、次のタスクを実行できます。

- **新規追加**：新しいエントリを作成します。
- **複製**：既存のエントリを複製します。
- **お気に入り**：頻繁に使用するエントリをお気に入りとしてマークします。
- **編集**：既存のエントリを変更します。

さらに、サブストレートカタログをインポート、エクスポート、もしくは出荷時のデフォルトにリセットすることもできます。

サブストレートカタログの列の表示を変更する

サブストレートカタログウィンドウの列見出しは、PPD 準拠の用紙属性を使用しているか、JDF 準拠の用紙属性を使用しているかによって動的に変化します。

表示内でこれらの列の順序を変更したり、特定の印刷環境に有益な情報が提供されるように列を追加または削除したりすることができます。列の幅を調整するには、列の枠線を左右にドラッグします。

1 **サブストレートカタログ**ウィンドウで、**リスト表示**チェックボックスを選択し、列見出しバーを右クリックします。

2 次のいずれかを行います。

- **追加**をクリックすると、メニューから項目を選択して列に追加できます。
- **削除**をクリックすると、列を削除できます。
- **左へ移動**または**右へ移動**をクリックすると、希望する方向に列を移動できます。

サブストレートカタログ設定を選択する

サブストレートカタログエントリを作成する際、システム管理者はプリンター（PPD）準拠と JDF（Job Definition Format）ベースのどちらかの用紙属性セットを選択できます。

- PPD 用紙属性セットは Fiery サーバー専用です。個々の設定の名前は各デバイスを通じて標準になりますが、可能なオプションのリストは異なります。PPD セットは新規ユーザーおよび中級ユーザーにお勧めです。
- JDF 用紙属性セットは、JDF（Job Definition Format）用の印刷業界標準の仕様になります。この用紙属性セットは Fiery サーバー専用のものではなく、このセットを使用すると MIS ジョブ送信ワークフローからの用紙定義のスムーズなマッピングが可能になります。JDF セットは、JDF ワークフローに精通した上級ユーザーにお勧めです。

  メモ：Fiery サーバーが JDF 印刷をサポートしていること、およびこの機能が有効になっている必要があります。**サーバー** > **Configure** をクリックし、**ジョブ送信**を選択して **JDF 設定**をクリックします。**JDF 設定**ウィンドウで、**JDF を使用可能にする**チェックボックスを選択します。

両方のセットに共通な用紙属性もいくつかありますが、双方で名前が微妙に異なります。JDF セットは PPD セットに比べてより詳細な用紙属性を提供します。

1 サブストレートカタログを開きます。詳細は、サブストレートカタログにアクセスする（248 ページ）を参照してください。

2 **サブストレートカタログ**ウィンドウで、ツールバーの**設定**をクリックします。

3 **使用する仕様**で **PPD 準拠**または **JDF 準拠**を選択します。

サブストレートカタログの新規エントリの属性

新規サブストレートカタログエントリの属性を別のタブでグループごとにまとめることができます。

新規エントリを作成する前に、PPD 設定または JDF 設定のどちらを選択します。詳細については、サブストレートカタログ設定を選択する（250 ページ）を参照してください。

PPD 準拠設定

次のタブがあります。

- **一般**：使用する用紙を指定する設定を選択します。
- **サイズ**：既存のエントリを編集するか、新しいエントリを作成します。事前定義されたサブストレートサイズをサイズカタログから選択します。

  メモ：サイズカタログから新しいサイズを作成できます。詳細については、『Fiery Command WorkStation のヘルプ』を参照してください
- **カラー設定**：カラープロファイルを選択します。

JDF 準拠設定

次のタブがあります。

- **一般**および**その他の属性**：用紙属性をより詳細に説明するためのさまざまな JDF 属性が含まれています。

メモ：サイズとカラー設定タブは、PPD 設定と JDF 設定の両方で共通です。

サブストレートカタログエントリを作成する

システム管理者はサブストレートカタログで新しい用紙および用紙属性を指定できます。

PPD 準拠の設定または JDF 準拠の設定が選択されているかどうかに応じて、システム管理者は次のタブでメディア属性を指定する必要があります。

- PPD 準拠の場合：一般、設定、サイズ、カラー設定
- JDF 準拠の場合：一般、その他属性、サイズ、カラー設定

1 サブストレートカタログを開く詳細は、サブストレートカタログにアクセスする（248 ページ）を参照してください。

2 **サブストレートカタログ**ウィンドウでツールバーの**設定**をクリックし、**PPD 準拠**または **JDF 準拠**設定を選択します。

3 ツールバーで**新規追加**をクリックします。

4 **新規**ウィンドウで属性を指定します。

アスタリスク（*）のマークが付いている各設定に対して、値を入力するか、リストからオプションを選択する必要があります。詳細については、共通メディア属性（259 ページ）を参照してください。

サブストレートカタログエントリのサイズ属性を定義する

システム管理者は、サブストレートカタログエントリの作成時または編集時にサイズ関連の属性を設定または変更できます。

サイズカタログに用意されている複数のデフォルトサイズから選択できます。カスタムサイズの指定が必要な場合は、サブストレートカタログエントリを作成する前に、サイズカタログでカスタムサイズを定義する必要があります。

1 サブストレートカタログを開き、次のいずれかを行います。

- ツールバーで**新規追加**をクリックします。
- 既存のサブストレートカタログエントリを編集するには、エントリを選択し、**編集**をクリックします。

2 **サイズ**タブをクリックします。

3 **＋**をクリックして新しいエントリを追加します。既存のエントリを編集するには、エントリをダブルクリックするか、**編集**をクリックします。エントリを削除する必要がある場合は、**-**をクリックします。

4 **サイズ ID** フィールドで、追加または編集するサイズのエントリが存在することを確認します。

メモ：サイズカタログには複数のデフォルトサイズが用意されています。サブストレートカタログのエントリを作成する前に、サイズカタログでカスタムサイズを設定することをお勧めします。

メモ：サイズ ID は Fiery サーバーで自動的に生成されます。サイズ ID の変更は可能ですが、サイズ ID が必ず一意になるようにする必要があります。重複するサイズ ID を入力した場合は、エラーメッセージが通知されます。

5 **サイズカタログ**リストで、サブストレートカタログエントリのサイズを選択します。

メモ：サイズカタログリストからサブストレートサイズを選択すると、**サイズ ID** フィールドには選択したサブストレートサイズに割り当てられたサイズ ID が反映されます。**サイズ ID** を必要に応じて変更できます。

6 **紙目方向**を選択します。

7 必要に応じて**製品 ID** を追加し、**OK** をクリックします。

サブストレートカタログのメインウィンドウで、**名前**列のサブストレートカタログエントリを選択すると、追加または変更されたサブストレートサイズを表示できます。またサブストレートカタログエントリの**サイズ**タブにも表示されます。

カラープロファイル設定を指定する

システム管理者は、サブストレートカタログエントリをカラー出力プロファイルに関連付けることができます。

Fiery サーバーののデフォルトまたはカスタム出力プロファイルが、割り当て可能なサブストレートカタログ属性として名前別に一覧表示されます。

1 **サブストレートカタログ**ウィンドウで、ツールバーの**設定**をクリックします。

2 サブストレートカタログ設定を **PPD 準拠**または **JDF 準拠**に指定します。

3 次のいずれかを行います。

- **新規追加**をクリックします。
- 既存のカタログエントリを編集するには、エントリを選択し、**編集**ボタンをクリックします。

4 **カラー設定**タブをクリックします。

おもてカラープロファイル：用紙のおもて面にのみ適用されるデフォルトのカラープロファイルです。リスト内の出力プロファイルの一覧から選択します。ジョブに応じて、CMYK または CMYK と他の指定カラーの組み合わせ（Fiery サーバーでサポートされている場合）を選択できます。**ジョブのプロパティ** > **カラー** > **出力プロファイル**で新しいカラープロファイルを指定すると、この属性を上書きできます。この属性は PPD と JDF のどちらの設定でも表示されます。

裏カラープロファイル：用紙の裏面にのみ適用されるデフォルトのカラープロファイルです。リスト内の出力プロファイルの一覧から選択します。ジョブに応じて、CMYK または CMYK と他の指定カラーの組み合わせ（Fiery server でサポートされている場合）を選択できます。**裏カラープロファイル**メニューには、**おもて面と同じ**オプションも含まれます。**ジョブのプロパティ**で新しいカラープロファイルを指定して、この属性を上書きできます。この属性は PPD と JDF のどちらの設定でも表示されます。

5 **OK** をクリックします。

新規または変更されたサブストレートカタログエントリが、**サブストレートカタログ**ウィンドウの**名前**の下に表示されます。

出力プロファイルの詳細については、『カラー印刷』を参照してください。

サブストレートカタログエントリをお気に入りとしてマークまたは削除する

サブストレートカタログウィンドウで、よく使用するサブストレートカタログエントリをお気に入りとしてマークまたは削除できます。

サブストレートカタログエントリをお気に入りとしてマークする

よく使用するサブストレートカタログエントリをお気に入りとしてマークするには、次のいずれかを行います。

- エントリを選択して、ツールバーの**お気に入り**をクリックする。
- サブストレートカタログエントリを右クリックし、リストから**お気に入り**を選択する。
  サブストレートカタログエントリの横に星が表示されます。

サブストレートカタログエントリをお気に入りから削除する

お気に入りとしてマークしたエントリを削除できます。

- 次のいずれかを行います。
  - ツールバーの**お気に入り**をクリックする。
  - エントリを右クリックし、リストから**お気に入り**をクリアする。

ジョブのプロパティウィンドウで使用可能な用紙リストで、サブストレートカタログのお気に入りを表示できます。

サブストレートカタログのお気に入りについての詳細

サブストレートカタログのお気に入りは、次の項目には適用されません。

- サブストレートカタログのエクスポート
- Fiery リソースおよび設定のバックアップ/復元オプション

  メモ：インポート > **既存とマージ**を使用してサブストレートカタログエントリを Fiery サーバーに復元すると、既存のお気に入りが保持されます。

サブストレートカタログエントリを使用しているジョブの検索

高度な検索を実行し、特定のサブストレートカタログエントリを使用しているすべてのジョブを一覧表示できます。

1. Command WorkStation では、サーバーウィンドウで**すべてのジョブ**をクリックします。
   すべてのキューのすべてのジョブが、**すべてのジョブ**ビューに一覧表示されます。
2. 列ヘッダバーを右クリックし、**新規追加** > **用紙** > **サブストレートカタログの名前**を選択します。
   サブストレートカタログの名前が、列ヘッダバーに表示されます。
3. ツールバーで、**その他**フィルターの横にある矢印をクリックします。
4. **検索フィルターのカスタマイズ**リストで、**サブストレートカタログの名前**を選択し、**保存**をクリックします。

5 **サブストレートカタログの名前**フィルターの横にある矢印をクリックし、必要なサブストレートカタログエントリを選択して、**適用**をクリックします。
選択したサブストレートカタログエントリを使用しているすべてのジョブが一覧表示されます。

6 （オプション）**保存**をクリックして検索結果をビューとして保存します。**検索結果をビューとして保存**に名前を入力し、**保存**をクリックします。

ビューがサーバーウィンドウのキューリストの下に表示されます。

サブストレートカタログエントリを変更する

システム管理者は、サブストレートカタログエントリを複製、編集または削除できます。Command WorkStation 6.7 以降では、デフォルトのサーバー設定である場合や、次のいずれかに割り当てられている場合でも、サブストレートカタログエントリを編集または削除できます。

- ジョブ
- プリセット
- 仮想プリンター

特定のサブストレートカタログエントリを使用しているすべてのジョブを表示するには、高度な検索を実行します。詳細については、サブストレートカタログエントリを使用しているジョブの検索（254 ページ）を参照してください。

サブストレートカタログエントリを複製する

既存のカタログエントリを複製し名前を変更することで、新しいエントリを作成できます。

1 **サブストレートカタログ**ウィンドウで複製したいエントリを選択し、ツールバーの**複製**をクリックします。
必要に応じて、エントリを右クリックし、**複製**を選択します。

メモ：一度に 1 つのエントリだけを複製できます。

2 **複製**ウィンドウで、エントリの新しい名前を入力します。

3 **OK** をクリックして変更を保存します。

複製されたサブストレートカタログエントリが **名前** 列に表示されます。このエントリを選択し、必要に応じて他の属性を編集できます。

サブストレートカタログエントリを編集する

サブストレートカタログエントリの属性と値を編集できます。

1 **サブストレートカタログ**ウィンドウで、次のいずれかを行います。

- エントリを選択して、ツールバーの**編集**をクリックする。
- 選択したエントリをダブルクリックする。
- 選択したエントリを右クリックし、**編集**を選択する。

1 つ以上のジョブがサブストレートカタログエントリを使用していることを通知するメッセージが表示されます。

2 サブストレートカタログエントリが次に関連付けられている場合：

- ジョブ、プリセット、仮想プリンター、またはデフォルトのサーバー設定：1 つ以上のジョブがサブストレートカタログエントリを使用していることを通知するメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら、**OK** をクリックします。

3 必要な情報をテキストフィールドに入力するか、または矢印をクリックして属性のリストを表示します。新しい属性設定を選択するか、または新しい属性値を入力します。

メモ：用紙属性に誤った値を入力して別の用紙属性に移動すると、誤った用紙属性は元の設定値に戻ります。

4 **OK** をクリックして変更を保存します。

メモ：すでにキューにあるジョブの場合、ジョブを処理または印刷したり、ジョブのプロパティを開いたりすると、メディア属性列がアップデートされます。

サブストレートカタログエントリを削除する

サブストレートカタログウィンドウで、サブストレートカタログエントリを削除できます。

1 **サブストレートカタログ**ウィンドウで、削除するサブストレートカタログエントリをリストから選択します。

連続している複数のエントリを選択する場合は Shift キーを押しながらクリックし、連続していない複数のエントリを選択する場合は Ctrl キーを押しながらクリックします。

2 次のいずれかの方法で、選択したエントリを削除します：

- ツールバーの**削除**をクリックします。
- 選択したエントリを右クリックし、**削除**を選択する。

3 サブストレートカタログエントリが次に関連付けられている場合：

- ジョブ、プリセット、仮想プリンター、またはデフォルトのサーバー設定：1 つ以上のジョブがサブストレートカタログエントリを使用していることを通知するメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら、**OK** をクリックします。

サブストレートカタログエントリを削除すると、そのエントリはジョブに関連付けられなくなります。ジョブのプロパティウィンドウでは、サブストレートカタログリストに**未定義**と表示されます。

サブストレートカタログエントリをジョブに割り当てる

サブストレートカタログは Command WorkStation の**ジョブのプロパティ**ウィンドウから使用できます。

1 ジョブを選択し、次のいずれかを行います。

- **アクション**メニューから**プロパティ**をクリックします。
- ジョブを右クリックして**プロパティ**を選択します。
- **ジョブセンター**ツールバーの**プロパティ**アイコンをクリックします。
- ジョブをダブルクリックします。

2 **ジョブのプロパティ**ウィンドウで、左側の**用紙**タブをクリックします。

3 **サブストレートカタログ**リストからサブストレートエントリを選択します。

リストの一番上には、サブストレートカタログのお気に入りと、現在トレイにセットされているメディアに関連付けられたサブストレートカタログエントリが表示され、その後に残りのエントリが表示されます。

サブストレートカタログエントリとそのメディア属性の全リストを表示するには、**選択**をクリックして**サブストレートカタログ**ウィンドウを開きます。

サブストレートカタログウィンドウでは、サブストレートのサイズでエントリを絞り込んだり、検索フィールドを使用してエントリを検索したりできます。

サブストレートカタログエントリに割り当てられたサイズ ID が、 **サイズ ID** リストに表示されます。

4 異なるサイズの ID を選択するか、 **サイズ ID** リストからカスタムサイズを指定できます。

メモ：サブストレートカタログおよび**サイズ ID** リスト内のエントリは、アルファベット順に一覧表示されます。

一時的なカスタムサブストレートサイズを割り当てる

サブストレートに一時的なカスタムサイズを割り当てることができます。ジョブにサブストレートカタログエントリを割り当てる際に適用される、定義済みサイズを選択する必要はありません。サブストレートにカスタムサイズを割り当てる場合、サイズカタログでカスタムサイズの新規エントリを作成する必要はありません。一時的なカスタムサイズが役に立つのは、特定のサブストレートサイズの使用が 1 回限りまたは限定されている場合です。

1 ジョブを選択し、次のいずれかを行います。

- **アクション**メニューから**プロパティ**をクリックします。
- ジョブを右クリックして**プロパティ**を選択します。
- **ジョブセンター**ツールバーの**プロパティ**アイコンをクリックします。
- ジョブをダブルクリックします。

2 **サブストレートカタログ**リストから、**未定義**を選択します。

3 **サブストレートサイズ**フィールドで、**カスタム**をクリックし、サブストレートのカスタムサイズを指定します。
このカスタムサイズは**サブストレートサイズ**リストに表示されます。

メモ：カスタムサイズの寸法は一時的なもので、サイズカタログに定義されているサイズの一覧には反映されません。

一時的なカスタムサブストレートサイズをサブストレートカタログエントリに割り当てる

サイズカタログに新しいサイズを追加しなくても、サブストレートに一時的なカスタムサイズを割り当てることができます。ジョブを再処理しなくても、サブストレートカタログエントリで定義されたサイズ ID を上書きすることで、サブストレートに一時的なカスタムサイズを割り当てることができます。サブストレートカタログエントリに定義されているその他の用紙関連属性は、現状のまま保持されます。

メモ：一時的なカスタムサイズを指定するには、ジョブにメディアカタログエントリが割り当てられ、サイズ ID メニューでカスタムオプションが利用可能な状態である必要があります。

メモ：一時的なカスタムサイズ機能は、すべての Fiery サーバーでサポートされているわけではありません。

1 ジョブを選択し、次のいずれかを行います。

- **アクション**メニューから**プロパティ**をクリックします。
- ジョブを右クリックして**プロパティ**を選択します。
- **ジョブセンター**ツールバーの**プロパティ**アイコンをクリックします。
- ジョブをダブルクリックします。

2 **サブストレートカタログ**リストから、サブストレートカタログエントリを選択してジョブに割り当てます。

メモ：ジョブにサブストレートカタログエントリが割り当てられると、**サイズ ID** フィールドが有効になります。

3 **サイズ ID** リストから**カスタム**を選択します。
サブストレートサイズフィールドが有効になります。

4 **サブストレートサイズ**フィールドで、**カスタム**をクリックし、サブストレートのカスタムサイズを指定します。
このカスタムサイズの寸法は**サブストレートサイズ**リストに表示されます。

メモ：カスタムサイズの寸法は一時的なもので、サイズカタログに定義されているサイズの一覧には反映されません。

サブストレートエントリ

サブストレートカタログエントリを作成または編集する際には、さまざまなサブストレート属性を指定できます。カタログエントリのサブストレート属性を設定するには、**サブストレートカタログ**のメインウィンドウまたは**編集**ウィンドウを使用します。

入力が必須の属性は名前の横に星印（*）が表示されます。入力が必須の属性のフィールドは、空のままにできません。

サブストレートカタログでは、次の 2 種類のサブストレート属性セットを提供しています。

- プリンター（PPD）準拠

  各 PPD 設定で表示される選択肢は、接続している Fiery サーバーの PPD によって決まります。

- JDF（Job Definition Format）準拠

  JDF 属性は標準であり、接続している Fiery サーバーに依存しません。

共通用紙属性

システム管理者は、PPD または JDF 属性を持つサブストレートカタログエントリを作成できます。サブストレートカタログエントリの作成に指定された PPD 属性は製品ごとに異なります。そのため、PPD 属性の用語もさまざまです。

新規のサブストレートカタログエントリを登録する場合は、まず PPD 準拠の設定または JDF 準拠の設定を選択する必要があります。詳細については、サブストレートカタログ設定を選択する（250 ページ）を参照してください。

PPD 準拠の設定を選択すると、属性が次のタブに表示されます。

- 一般（260 ページ）
- サイズ（260 ページ）
- カラー設定（260 ページ）

JDF 準拠の設定を選択すると、属性が次のタブに表示されます。

- 一般（261 ページ）
- その他属性（266 ページ）
- サイズ（260 ページ）
- カラー設定（260 ページ）

次の点に注意してください。

- サイズ（260 ページ）とカラー設定（260 ページ）は、PPD 設定と JDF 設定の両方に共通です。
- 属性名は、使用している Fiery サーバーで何がサポートされているかによって異なる場合があります。
- 属性の説明では、「用紙」または「メディア」という用語は「サブストレート」を指します。

一般タブ（PPD 準拠）

名前 メディアを説明するカタログエントリの記述的な名前 : カタログエントリに任意の名前を入力します。このフィールドは、PPD 属性と JDF 属性の両方に共通です。

厚さ メディアの厚さをミクロン（µm）単位で指定します。

タイプ ジョブの種類に応じて使用できるさまざまな種類のメディアが一覧表示されます。

CIE Lab カラー デバイス非依存のメディアの色です。CIE L*a*b*値でカラーを指定します。

説明 使用するメディアの説明情報と追加の詳細。たとえば、「Hammermill Color Copy 10246-7 8 1/2” x 11" 105 g/m2 Photo White Ultra Smooth」というような説明にします。

サイズタブ（PPD と JDF の両方の設定に共通）

サイズ ID サイズカタログから選択されたメディアのサイズを示します。サイズ ID は Fiery server で自動的に生成されます。

サイズカタログ 使用可能な定義済みメディアサイズの一覧です。

寸法 使用するメディアのサイズが表示されます。

紙目方向 波型のサブストレートが給紙される方向を指定します。次のオプションから選択します。

- **なし**：デフォルト。
- **短辺**：波型のサブストレートが給紙される際の短辺側。
- **長辺**：波型のサブストレートが給紙される際の長辺側。

製品 ID 製品番号、アイテムコード、商品コードなど、使用するメディアに関する識別子であり、印刷オペレーターによって手動で、または管理情報システム（MIS）にて定義されます。

カラー設定タブ（PPD と JDF 両方の設定に共通）

おもてカラープロファイル メディアのおもて面にのみ適用されるデフォルトのカラープロファイルです。**ジョブのプロパティ** > **カラー** > **出力プロファイル**で新しいカラープロファイルを指定すると、この属性は上書きされます。

一般タブ（JDF 準拠）

名前

メディアを説明するカタログエントリの記述的な名前：カタログエントリに任意の名前を入力します。このフィールドは、PPD 属性と JDF 属性の両方に共通です。

説明

使用するメディアの説明情報と追加の詳細。

印刷済み

このチェックボックスがオンになっている場合、メディアには印刷済みの内容が含まれていることを示します（印刷済みのレターヘッドがついた便箋など）。このチェックボックスがオフになっている場合は、メディアには印刷済みの要素がないことを示します。

タイプ

使用するメディアのストックタイプを記述します。次のオプションから選択します。

- **用紙**：標準的な繊維質の用紙です。
- **透明シート**：プロジェクターに使用する透明の OHP シートです。

種類詳細

種類詳細属性は、使用するメディアストックタイプの他の詳細を示します。種類詳細（264 ページ）を参照してください。

重量

重量属性は、使用するメディアの重量を平方メートルあたりのグラム単位（g/m^2）またはポンド（lb）を単位として表します。重量（264 ページ）を参照してください。

テクスチャ

使用するメディアの表面テクスチャを示します。テクスチャ（263 ページ）を参照してください。

%（再生紙率）

メディアに含まれる再生紙の比率（パーセント）。

カラー名

メディアのカラーです。半透明のメディアを指定するには、「クリア」カラーオプションを選択してください。

カスタムカラー名

メディアのカスタムカラーです。カラーメニューに目的のカラーが表示されない場合は、このフィールドにカスタムカラーの名前を入力します。

印刷テクノロジー

使用できる印刷テクノロジーを選択します。

- **オフセット**：金属プレートを使用して（オフセット）イメージをゴム媒体またはローラーに転写した後、サブストレートに印刷します。
- **レーザー**：光や「レーザー」を使用してテキストやイメージをサブストレートに転写します。このタイプの印刷では、トナーやドライインクパウダーを使用してサブストレートに印刷します。
- **インクジェット**：プリンターのノズルからインク滴を放出して印刷します。

おもて：

メディアのおもて面に適用できる設定です。おもて（262 ページ）を参照してください。

裏	メディアの裏面に適用できる設定です。裏（262 ページ）を参照してください。**おもて面と同じ**チェックボックスをオフにし、**コーティング**、**光沢値**、**印刷可能面**のオプションから選択することができます。

おもて

おもてウィンドウには、用紙のおもてに適用できる次の属性があります。

次のオプションから選択します。

コート	用紙のおもて面のコーティングの種類です。コート（262 ページ）を参照してください。
光沢値	光を 75 度の角度で当てたときに、用紙おもて面で反射する光の割合です。反射の割合の値が大きいと、光沢値が大きいことを示します。
印刷可能面	イメージを印刷する面を指定します。

裏

裏ウィンドウには、用紙の裏に適用できる次の属性があります。

おもて面と同じ	**おもて**ウィンドウで選択した設定と同じ設定にします。おもて（262 ページ）を参照してください。 **メモ：**Fiery サーバーでは、**おもて面と同じ**がデフォルトになっています。**おもて面と同じ**チェックボックスをオフにし、**コーティング**、**光沢値**、**印刷可能面**属性のオプションの中から選択することもできます。
コート	用紙の裏面に適用される前処理コーティングの種類を指定します。コート（262 ページ）を参照してください。
光沢値	光を 75 度の角度で当てたときに、用紙裏面で反射する光の割合です。反射の割合の値が大きいと、光沢値が大きいことを示します。
印刷可能面	イメージを印刷する面を指定します。

コート

コート属性は、用紙に使用する表面コートのタイプを示します。

次のオプションから選択します。

なし	コーティングを適用しません。
コート紙	表面シーリング剤を使用して、表面光沢、なめらかさ、重みなどの質感を用紙に与えます。
光沢	つやと反射が強いコーティング。

高光沢	鏡面仕上げを行うすべてのコーティングの中で最も光沢があります。このコーティングは非常に反射が強く、シャープな解像度を実現します。
マット	つやがほとんどない非光沢で、「フラット」とも呼ばれます。このコーティングでは、用紙の厚みが少し増すことがあります。
サテン	光沢レベルは光沢コーティングより低く、マットコーティングより高くなります。カラーはくっきりと鮮やかに用紙に印刷されます。
半光沢	光沢レベルは、光沢コーティングとマットコーティングのほぼ中間に位置します。このコーティングはシャープな解像度を実現します。

テクスチャ

テクスチャ属性は、使用する用紙の表面テクスチャを示します。

次のオプションから選択します。

アンティーク	表面は**ベラム**より粗い仕上げになっています。
カレンダー仕上げ	エクストラスムーズまたはつや出し非コート紙です。
コックル	紙の表面にさざ波状のしわを付けた仕上げです。
無光沢	光沢やつやのないコート紙です。
エッグシェル	表面が卵の殻のような模様の付いた仕上げです。
リネンエンボス	表面が粗織り布に似た、エンボス加工の仕上げです。
英語	**マシン仕上げ**よりスムーズで、**スーパーカレンダー仕上げ**より粗い仕上げの表面です。
フェルト	特殊フェルト加工仕上げです。
レイド	垂直線と水平線のパターン（すそ目模様）の仕上げです。
ライトコックル	**コックル**ほどのしわのない、さざ波状のしわをもつ仕上げです。
リネン	表面が粗織り布のテクスチャをもつ仕上げです。
光沢	光沢のある仕上げです。
マシン仕上げ	エクストラスムーズまたはつや出し非コート紙ですが、**イングリッシュ**よりも粗い仕上げです。
マット	光沢やつやのない無光沢仕上げです。
モトル	斑点模様の仕上げです。
パーチメント	羊皮紙に似た外観を持つ仕上げです。
サテン	サテン地に似たスムーズな無光沢仕上げです。

セミベラム	わずかに粗い仕上げですが、**ベラム**より滑らかです。
シルク	絹織物に似たスムーズな無光沢仕上げです。
スムーズ	表面が滑らかな仕上げです。
スティップル	微細な凹凸仕上げです。
スエード	スエード地に似たスムーズな無光沢仕上げです。
スーパーカレンダー仕上げ	最もスムーズで、最もつやのある非コート紙です。
スーパースムーズ	凹凸のない仕上げです。**ウルトラスムーズ**よりも滑らかです。
トラディショナルレイド	レイドよりも込み入ったパターンのすそ目模様の仕上げです。
ウルトラスムーズ	凹凸のない仕上げですが、**スーパースムーズ**ほど滑らかではありません。
カレンダー仕上げなし	粗くつやのない非コート仕上げです。
ベラム	やや粗い無光沢仕上げです。
ベルベット	ベルベット地に似た滑らかな無光沢仕上げです。
ウーブ	柔らかく滑らかな仕上げです。

種類詳細

種類詳細属性は、使用する用紙ストックタイプの詳細な設定を示します。

次のオプションから選択します。

普通紙	このオプションは、用紙ストックが特別な記述を必要としない場合に選択します。システムによっては、このオプションの指定が必須の場合がありますが、多くの場合には普通紙を使用する場合でもこのオプションは指定する必要はありません。
ボール紙	段ボールにも使用される用紙です。
連続紙（横取り）	サイズによって定義された長辺に沿って連続的につながったシートから成る不透明用紙です。
連続紙（縦取り）	サイズによって定義された短辺に沿って連続的につながったシートから成る不透明用紙です。
ラベル	シールのラベル用紙です。

重量

重量属性は、平方メートルあたりのグラム単位（g/m2）またはポンド（lb）を単位として表されます。

北米地域の用紙ストックタイプの基本重量は、ポンド単位（lb）で表されます。単位を g/m2 に変換するには、基本重量に、適切な変換係数を乗算します。

たとえば、50 ポンドの Bond ストックの重さをグラム値で表すには、次の計算を行います。

基本重量 x 変換係数 = 50 x 3.76 = 188g/m2

用紙ストックタイプごとの変換係数については、次の表を参照してください。

用紙ストックタイプ	変換係数
Bond	3.76
Ledger	3.76
Thin（manifold, onion skin）	3.76
Duplicator	3.76
Safety	3.76
Uncoated book	1.48
Coated book	1.48
Text book	1.48
Cover Papers	2.70
Index bristol	1.81
Tagboard	1.63
Blanks	2.28
Printing bristol	2.19
Wedding bristol	2.19
Blotter	3.08
Label	1.48
Newsprint	1.63

その他の属性タブ（JDF 準拠）

明るさ
メディアの光反射率です。値は 0%（低反射率）から 100%（高反射率）の範囲で指定します。

厚さ
メディアの厚さをミクロン（µm）単位で指定します。

グレード
メディア表面の質を示します。1〜5 のレベルで指定します。グレード（266 ページ）を参照してください。

メディアユニット
プレスまたはプリンターに給紙するメディアの物理的フォーマットを示します。メディアユニット（267 ページ）を参照してください。

CIE Lab カラー
デバイス非依存のメディアの色です。CIE L*a*b*値でカラーを指定します。

白色度（CIE）
可視スペクトラム全体で計測される、メディアによる光の反射量を示します。反射量は、CIE の xyz 座標値による値で指定します。（100、100、100）の座標値は、完全な白色を示します。

ティント（CIE）
メディアの中立、非飽和、非着色の度合いを示します。メディアの Tint 値は、CIE の xyz 座標値を使用して指定します。0 の座標値は、レッド-グリーン軸で完全に中立であることを示します。

不透明度
不透明度属性はメディアの透明レベルを示します。不透明度（267 ページ）を参照してください。

不透明度レベル%
メディアの不透明度です。0%は完全に透明、100%は完全に不透明であることを示します。

グレード

「グレード」属性は用紙表面の質を示します。1〜5 のレベルで指定します。

メモ：この属性は、デジタル印刷の場合は通常使用しません。

使用する必要がある場合は、次のガイドラインに従ってください。

グレード	用紙の表面品質
1	光沢コート紙
2	マットコート紙
3	光沢コート紙（ロール）
4	非コート紙（白）
5	非コート紙（ナチュラル）

メディアユニット

メディアユニット属性は、プレスまたはプリンターに給紙するメディアの物理フォーマットを示します。

次のオプションから選択します。

シート	1 枚 1 枚カットされた紙です。
ロール紙	スピンドルに巻き付けられた連続紙です。
連続	折りたたまれた連続紙（ファンフォールド紙）です。

不透明度

不透明度属性は用紙の透明レベルを示すものです。

次のオプションから選択します。

不透明	用紙/メディアが不透明な場合に選択します。このタイプの用紙/メディアでは、両面印刷しても通常は裏面が透けて見えることはありません。
半透明	バックライト表示のようなある照明条件化で透明であるような用紙/メディアを使用する場合に選択します。
透明	すべての照明条件下で裏が見えている用紙/メディアを使用する場合はこのオプションを選択します。

サブストレートカタログを管理する

システム管理者がサブストレートカタログを設定および管理します。

サブストレートカタログを設定すると、エクスポートしたり、別のサブストレートカタログとマージしたり、出荷時のデフォルトにリセットしたりすることができます。

サブストレートカタログをエクスポートする

サブストレートカタログをエクスポートすると、.xml ファイルとして保存され、いつでもサブストレートカタログにインポートできます。

サブストレートカタログを置き換える前、またはシステムソフトウェアを再インストールする前に、現在のカタログをエクスポートして別の場所にバックアップしておくことをお勧めします。データベース内の全エントリをエクスポートするか、サブセットをエクスポートするかを選択できます。

1 **サブストレートカタログ**ウィンドウで、ツールバーの**エクスポート**をクリックし、**すべてをエクスポート**を選択します。

一部の用紙エントリのみをエクスポートしたい場合は、サブストレートカタログで複数のエントリを選択し、**選択項目をエクスポート**を選択します。連続しているエントリを選択する場合は Shift キーを押しながらクリックし、連続していないエントリを選択する場合は Ctrl キーを押しながらクリックします。

2 エクスポートしたファイルを保存するためのコンピューターまたはネットワーク上の保存場所を指定します。

3 エクスポートしたファイルの名前を入力して、**保存**をクリックします。

サブストレートカタログをエクスポートすると、.xml ファイルとして保存されます。

サブストレートカタログを置き換える

システム管理者は、新しいデータベースをインポートして、既存のサブストレートカタログを置き換えることができます。

サブストレートカタログを置き換える前に、現在使用しているカタログをエクスポートしてアーカイブすることをお勧めします。

1 **サブストレートカタログ**ウィンドウのツールバーで**インポート**をクリックし、**既存を置換**を選択します。

2 コンピューターまたはネットワーク上にある置換.xml ファイルを検索し、**開く**をクリックします。

3 警告メッセージが表示されたら**はい**をクリックします。

2 つのサブストレートカタログをマージする

システム管理者は、別のサブストレートカタログからエントリをインポートして、マージされたサブストレートカタログを作成できます。

インポートするカタログ内に既存のサブストレートカタログのエントリと同一の属性を持つエントリがあった場合、その新しいエントリはインポートされません。既存のエントリがそのまま修正されずマージされたサブストレートカタログに残ります。

1 **サブストレートカタログ**ウィンドウのツールバーで**インポート**をクリックし、**既存とマージ**を選択します。

2 インポートするデータベースファイル（.xml ファイル）をコンピューターまたはネットワーク上から検索し、**開く**をクリックします。

これで現在のサブストレートカタログに、選択したエントリがマージされました。

メモ：2 つのカタログをマージした場合、インポートサブストレートカタログ内のカラープロファイル関連付けはすべて、マージ後は無効になります。

上記の手順を繰り返すことで複数のサブストレートカタログを既存のカタログにマージできます。

サブストレートカタログを出荷時のデフォルトにリセットする

システム管理者は、サブストレートカタログを出荷時のデフォルトに復帰させることができます。

サブストレートカタログエントリを出荷時のデフォルトにリセットすると、追加または編集したカタログエントリはすべて失われます。カスタマイズしたエントリを保存する場合は、出荷時のデフォルトにリセットする前に既存のカタログをエクスポートします。

1 **サブストレートカタログ**ウィンドウのツールバーで**出荷時デフォルト設定にリセット**をクリックします。

メモ：出荷時デフォルト設定にリセットアイコンが**サブストレートカタログ**ツールバーのビューで非表示になっている場合、**サブストレートカタログ**ウィンドウを拡大表示するか、詳細アイコン（3 つの縦のドット）をクリックしてから、**出荷時デフォルト設定にリセット**をクリックします。

2 警告メッセージが表示されたら**はい**をクリックします。

サイズカタログ

サイズカタログでは、よく使用するカスタムサイズのリストをユーザーが作成できます。サイズカタログは Fiery サーバーに格納されます。ジョブごとにサブストレートのサイズ寸法を指定する必要があると、どうしてもエラーが発生する可能性がありますが、サイズカタログを作成すると、そのようなおそれは少なくなります。

メモ：サイズカタログを管理するには、Command WorkStation にシステム管理者としてログインする必要があります。

Command WorkStation からサイズカタログへアクセスする

サイズカタログには、 Command WorkStation のデバイスセンターからアクセスできます。

1 次のいずれかの方法で、Command WorkStation から**デバイスセンター**を開きます。

- **サーバー**リストの Fiery サーバーの横にある、その他アイコン（3 つの縦ドット）をクリックし、**デバイスセンター**を選択します。
- **サーバー**リスト内の Fiery サーバーを右クリックし、**デバイスセンター**を選択します。
- **サーバー**リストで Fiery サーバーをダブルクリックします。
- **サーバー** > **デバイスセンター**をクリックします。

2 デバイスセンターの**リソース**で**サイズカタログ**を選択します。

サイズカタログを管理する

サイズカタログを初めて開くと、デフォルトのサイズカタログエントリが一覧表示され、サブストレートの名前と寸法が表示されます。サイズカタログを設定したら、エントリの追加、変更または削除、公開または非公開、インポートまたはエクスポート、出荷時のデフォルトへのリセットを行えます。

サイズカタログエントリを作成/編集する

よく使用するサブストレートのカスタムサイズのサイズカタログエントリを作成または編集できます。

メモ：デフォルトのサイズカタログエントリは編集できません。

1 デバイスセンターの**リソース**で**サイズカタログ**を選択し、次のいずれかの操作を行います。

- **新規追加**アイコンをクリックして、サイズカタログエントリを作成します。
- 既存のエントリを編集するには、エントリを選択し、**編集**アイコンをクリックします。

メモ：エントリを編集するには、エントリをダブルクリックするか、エントリを右クリックして**編集**を選択することもできます。

2 **追加**または**編集**ウィンドウで、エントリの名前や寸法を指定または変更します。

次の点に注意してください。

- サイズカタログエントリごとに一意の名前が必要です。2 つのサイズカタログエントリが同じ名前を共有することはできません。
- 各サイズカタログエントリの名前が一意であれば、同じ寸法のサイズカタログエントリが複数あってもかまいません。
- サイズカタログエントリの寸法のデフォルト測定単位は、Command WorkStation から設定できます。**編集** > **環境設定**をクリックし、地域を選択して地域設定領域で、**測定単位**を選択します。
- サイズカタログエントリの幅は、サブストレートの先端、給紙辺、グリッパーエッジのいずれかを示します。

3 **OK** をクリックします。

新規または変更されたエントリがサイズカタログに一覧表示されます。

メモ： デフォルトのサイズカタログエントリは、プレスまたはプレインターの性能によって異なる場合があります。

サイズカタログエントリを削除する

サイズカタログから 1 つ以上のサイズカタログエントリを削除できます。

メモ：デフォルトのサイズカタログエントリは削除できません。

1 デバイスセンターの**リソース**で**サイズカタログ**を選択し、削除するエントリを 1 つまたは複数選択します。

連続している複数のエントリを選択する場合は Shift キーを押しながらクリックし、連続していない複数のエントリを選択する場合は Ctrl キーを押しながらクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- エントリを右クリックし、**削除**を選択します。
- ツールバーの**削除**アイコンをクリックします。

エントリを削除してもよいかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。

3 **はい**をクリックします。
選択したエントリがサイズカタログから削除されます。

サイズカタログエントリを公開または非公開にする

デフォルトでは、すべてのサイズカタログエントリが公開されます。つまり、これらのエントリが画面に表示され、ユーザーがジョブ用に選択できるようになります。

サイズカタログに記載されているエントリを非公開にすることができます。サイズカタログエントリが非公開になると、そのエントリは、デバイスセンターのサイズカタログエントリのリスト（**リソース**の**サイズカタログ**）で使用できなくなります。さらに、非公開になったサイズカタログエントリは、ユーザーがサブストレートサイズを指定する際に選択することができません。デバイスセンターで、**リソース**で**サイズカタログ**を選択し、**非公開エントリを隠す**チェックボックスを選択して非公開エントリを非表示にすることができます。

エントリを非公開にしても、いつでもそのエントリをまた公開することができます。

メモ：サイズカタログが 1 つのエントリのみで構成されている場合、**公開** アイコンと**非公開**アイコンはグレー表示されます（使用できません）。

1 デバイスセンターの**リソース**で**サイズカタログ**を選択し、公開または非公開にするエントリを 1 つまたは複数選択します。

連続している複数のエントリを選択する場合は Shift キーを押しながらクリックし、連続していない複数のエントリを選択する場合は Ctrl キーを押しながらクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- エントリを非公開にするには、ツールバーの**非公開**アイコンをクリックします。
- エントリを公開するには、ツールバーの**公開**アイコンをクリックします。

メモ：また、サイズカタログエントリを右クリックし、**非公開**または**公開**を選択することもできます。

サイズカタログエントリをインポートする

すでに作成したサイズカタログエントリをインポートして、既存のサイズカタログに追加することができます。

メモ：インクジェットプレスに接続された Fiery サーバーで作成されたサイズカタログエントリをインポートすることは一般的に推奨されません。インポートされた場合、目的の結果が得られない場合があります。

インポート時に、サイズの異なる重複するサイズ名が見つかった場合は、サイズはそのままで「_1」や「_2」などの接尾辞がサイズ名に付加されます。

1 デバイスセンターの**リソースでサイズカタログを選択し**、ツールバーの**インポート**アイコンをクリックします。

2 インポートする.json ファイルをコンピューターまたはネットワーク上から検索し、**開く**をクリックします。
.json ファイルがサイズカタログにインポートされ一覧表示されます。.json ファイルに複数のサイズカタログエントリ含まれている場合は、各サイズカタログエントリが別々に一覧表示されます。

既存のサイズカタログにさらに追加するサイズカタログエントリについて、この手順を繰り返します。

サイズカタログエントリをエクスポートする

エクスポートしたサイズカタログエントリは.json ファイルとして保存され、いつでもサイズカタログに再度インポートできます。

サイズカタログのすべてのエントリまたは一部のエントリのエクスポートを選択することができます。公開サイズカタログエントリも非公開サイズカタログエントリもエクスポートできます。

1 デバイスセンターで、**リソース**の**サイズカタログ**でツールバーの**エクスポート**アイコンをクリックし、**すべてエクスポート**を選択します。

一部のサイズカタログエントリのみエクスポートする場合は、複数のエントリを選択し、**選択項目をエクスポート**を選択することができます。連続しているエントリを選択する場合は Shift キーを押しながらクリックし、連続していないエントリを選択する場合は Ctrl キーを押しながらクリックします。

2 エクスポートしたサイズカタログエントリを保存する場所を、使用しているコンピューターまたはネットワーク上で指定します。

3 エクスポートしたエントリの名前を入力した後、**保存**をクリックします。
エクスポートしたサイズカタログエントリは.json ファイルとして保存されます。

メモ：複数のサイズカタログエントリを選択するか、**すべてエクスポート**オプションを使用しても、1 つの.json ファイルのみが作成されて、エクスポートしたサイズカタログエントリがそのファイルに保存されます。

サイズカタログを出荷時のデフォルトにリセットする

出荷時デフォルト値へのリセットを使用すると、サイズカタログを出荷時のデフォルトエントリと属性に復元させることができます。

サイズカタログを出荷時のデフォルトにリセットすると、追加または編集されたサイズカタログエントリはすべて消去されます（ただし、サイズカタログエントリがジョブに割り当てられている場合を除きます）。カスタマイズしたエントリを保存する場合は、出荷時のデフォルトにリセットする前に既存のサイズカタログをエクスポートしてください。

1 デバイスセンターの**リソース**で**サイズカタログ**を選択し、ツールバーの**出荷デフォルト設定にリセット**をクリックします。

メモ：サイズカタログツールバーで**出荷時デフォルト設定にリセット**が非表示になっている場合、**デバイスセンター**ウィンドウを拡大するか、または詳細アイコン（3 つの縦のドット）をクリックして、各アイコンのオプションを表示します。

2 警告メッセージが表示されたら**はい**をクリックします。

Graphic Arts ツール

Fiery グラフィックアート機能

Fiery サーバーのグラフィックアート機能にはパッケージで提供されるものがあります。お使いの Fiery サーバーがどのパッケージに対応しているかについては、お使いの Fiery サーバーに付属の取扱説明書を参照してください。

次のパッケージを使用できます。

- Fiery Graphic Arts Pro Package（273 ページ）

Fiery Graphic Arts Pro Package

Fiery Graphic Arts Pro Package には、特にグラフィックアートアプリケーションの要件に適合した機能が含まれています。このパッケージが Fiery サーバーにインストールされている場合、Command WorkStation で次の機能を使用できます。

- コントロールバー（273 ページ）
- Fiery ImageViewer（282 ページ）
- プリフライト（280 ページ）（FS400 Pro）
- Preflight Pro（281 ページ）（FS500 Pro 以降）
- Spot Pro のスポットカラー（207 ページ）

Fiery Graphic Arts Pro Package の次の機能は、Command WorkStation の一部ではありません。

- Ugra/Fogra Media Wedge
- Integrated Altona Visual Test

コントロールバー

お使いの Fiery サーバーでコントロールバー機能がサポートされている場合は、ユーザーが定義した場所で、（静的なカラーバーや動的なジョブ情報がある）コントロールバーを各印刷ページに追加できます。

この機能は、ジョブのカラー精度の校正やチェックに役立ちます。コントロールバーは、Fiery Color Profiler Suite などの分析ツールと併用して、カラー品質評価に使用できます。

コントロールバーはジョブごとに有効にでき、またサーバーのデフォルト設定としてすべてのジョブでコントロールバーを印刷する設定も可能です。

コントロールバーは編集することも、新規に作成することもできます。コントロールバーはジョブの一部ではないため、コントロールバー付きで印刷したジョブを、コントロールバーの定義を変更した後に印刷すると、異なる印刷結果を得ることができます。

コントロールバーは、PostScript ジョブと PDF ジョブでサポートされています。

標準のコントロールバー（Fiery と呼ばれる）と任意のカスタムコントロールバー（独自に作成したもの）を任意のページサイズに適用できます。コントロールバー印刷オプションを使用すると、ジョブに使用するコントロールバーを選択できます。また、コントロールバーの定義を編集する場合、指定のページサイズでコントロールバーがどう表示されるかプレビュー表示することができます。

デフォルトでコントロールバーを印刷

Fiery システムソフトウェアですべてのジョブにコントロールバーを印刷するように、サーバーのデフォルトを設定できます。

1 詳細アイコン（3 つのドット）をクリックし、**デフォルト設定...**を選択します。

2 **デフォルト設定**ウィンドウで**ジョブ情報**を選択します。

3 **レポート**までスクロールし、**コントロールバー**のメニューオプションを選択します。
Fiery サーバーには、出荷時のデフォルトのコントロールバーが「Fiery」という名前で用意されています。カスタムコントロールバーを作成することができます。

4 以下から選択します。

- **オフ**：コントロールバーは印刷されません。
- **Fiery**：出荷時のデフォルトのコントロールバーが印刷されます。
- カスタムコントロールバー:すべてのカスタムコントロールバーが一覧表示されます。選択した 1 つが印刷されます。

コントロールバーの設定をロックして、ユーザーによる変更を禁止することができます。

メモ：出荷時のデフォルトは**オフ**です。ジョブのプロパティを出荷時のデフォルトにリセットするには、**デフォルト設定**ウィンドウで**リセット**をクリックします。

コントロールバーを表示および編集する

コントロールバーの定義を表示したり、設定を編集することができます。

コントロールバーは、特定のジョブのプロパティには適用されない情報や設定を含めるように設定できます。ジョブに適用されない情報または設定がコントロールバーに含まれている場合、空白のフィールドや定義されていないフィールドがコントロールバーに含まれている可能性があります。これは、ユーザー独自のワークフローにカスタムコントロールバーを作成することで回避できます。

1 デバイスセンターの**カラー設定**で、**コントロールバー**をクリックします。

2 リストからコントロールバーを選択すると、ウィンドウの右側に定義が表示されます。

3 設定を変更するには、**編集**をクリックし、各オプションの値を定義します。

- **コントロールバーの名前**：コントロールバーの選択に使用する名前です。
- **カラーバー**：カラーバー表示のオン/オフ、標準画像からの選択、カスタム画像（EPS や PDF 形式）のインポート、イメージの配置の指定などを実行できます。

  メモ：PDF 形式のイメージの場合、最初のページのみが使用されます。
- **ジョブ情報**：ジョブ情報の表示のオン/オフ、表示するジョブ設定の選択、テキストの表示や配置の指定などを実行できます。

  メモ：使用できるジョブ設定は、Fiery サーバーのモデルによって異なります。
- **ページ設定**：プレビューページサイズの選択、余白の指定（カラーバーおよびジョブ情報は余白の内側に配置されます）、ミラーイメージ（透明な用紙）の選択などを実行できます。

4 **OK** をクリックして、編集した内容を保存します。

カスタムまたは複製のコントロールバーを作成する

コントロールバーを複製してそれぞれのニーズに合ったカスタムコントロールバーを作成できます。また、コントロールバーを新規に作成することもできます。たとえば、カラーバーのイメージとして別の EPS ファイルを使用したコントロールバーを作成できます。

1 デバイスセンターの**カラー設定**で、**コントロールバー**をクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- コントロールバーを複製するには、コントロールバーを選択して、**複製**をクリックします。
- カスタムコントロールバーを作成するには、**新規作成**をクリックします。

3 各オプションの値を指定します。
詳細については、コントロールバーを表示および編集する（274 ページ）を参照してください

4 **OK** をクリックして、コントロールバーを保存します。

カスタムコントロールバーをエクスポート、インポート、または削除する

Fiery サーバーからコンピューターにカスタムコントロールバーをファイルとしてエクスポートし、ローカルコピーを共有したり、別の Fiery サーバーにインポートしたりすることができます。インポートされたコントロールバーは、すぐに Fiery サーバーで使用できるようになります。

メモ：カスタムコントロールバーは削除できますが、標準のコントロールバーは削除できません。

エクスポートされたコントロールバーにインポート先の Fiery サーバーでサポートされていない機能が含まれている場合（たとえば、Fiery サーバー固有のジョブ設定など）、インポート先では非表示になります。

1 デバイスセンターの**カラー設定**で、**コントロールバー**をクリックします。

2 次のいずれかの操作を行います。

- コントロールバーをエクスポートするには、コントロールバーを選択し、**エクスポート**をクリックし、ファイルの保存先を指定して、**フォルダー選択**をクリックします。
- コントロールバーをインポートするには、**インポート**をクリックし、対象のコントロールバーを検索して選択し、**開く**をクリックします。

3 カスタムコントロールバーを削除するには、対象のコントロールバーを選択し、**削除**をクリックして、確認画面で**はい**をクリックします。

トラッピング

トラッピングとは、多色刷りの印刷時に版の位置ずれによってオブジェクト周囲に白い縁、または「すき間」が発生するのを防ぐ手法です。トラッピング機能を使用して、オブジェクトを拡大または縮小して印刷し、オブジェクトの周囲にすき間が発生するのを防止します。

自動トラッピング印刷オプションを有効に設定すると、トラッピングがジョブに適用されます。

お使いの Fiery サーバーが設定可能な自動トラッピング機能をサポートしている場合は、**自動トラッピング**印刷オプションのトラッピング設定を完全にコントロールできます。Fiery サーバーの出荷時デフォルト設定は、プリントデバイスでの普通紙印刷用に最適化されています。ほとんどの場合、デフォルトのトラッピング設定でも十分な結果が得られますが、使用した用紙での印刷品質に納得できない場合は、条件に合うようトラッピングの値を設定してください。デバイスセンターの**トラッピング**ペインで**出荷時のデフォルト**ボタンをクリックすると、いつでもトラッピング設定を出荷時のデフォルトに復元できます。

メモ：トラッピング設定を操作するには、システム管理者としてログインする必要があります。オペレーターはトラッピング設定を表示できますが、変更することはできません。

トラッピングについての詳細は、取扱説明書の『カラー印刷』を参照してください。

すべてのジョブにデフォルトの自動トラッピングを設定する

デフォルト設定ウィンドウの**自動トラッピング**チェックボックスを選択すると、Fiery サーバーに送信されるすべてのジョブにトラッピングが適用されます。

1 詳細アイコン（3 つのドット）をクリックし、**デフォルト設定...**を選択します。

2 **デフォルト設定**ウィンドウで、**カラー**を選択します。

3 **カラー設定**が見えるまでスクロールし、**自動トラッピング**を選択します。
この設定をロックして、ユーザーがジョブのプロパティで変更できないようにすることができます。

トラッピング幅を指定する

トラッピング幅の値で、オブジェクト間のトラッピングエリアの幅が決定します。幅の値は、給紙方向を基準に指定します。横方向は給紙方向に対して垂直となり、縦方向は給紙方向に対して平行となります。

1 デバイスセンターの**カラー設定**で**トラッピング**をクリックします。

2 **トラッピング幅**で、水平方向および垂直方向のトラッピング幅を指定します。また、トラッピング幅を強制的に同じ値にする場合は、水平方向の値と垂直方向の値の間に表示されるリンクアイコンを選択します。リンクアイコンを選択する際、設定されている数値が異なる場合、そのうちの高い方の値が使用されます。

- **横** - 水平方向のトラップ幅を指定します（0～10 ピクセル）。
- **縦** - 垂直方向のトラップ幅を指定します（0～10 ピクセル）。

ビットマップ画像の表示で、選択した値の結果をすぐに確認することができます。

トラッピングカラーリダクションを指定する

トラッピングカラーリダクション値によって、トラッピングに適用される各カラーの濃度が決定されます。色の異なる 2 つのオブジェクト間にトラッピングを適用すると、2 色のカラーを組み合わせた 3 つ目のカラーが生成されます。トラッピングカラーリダクション機能を使用すると、この 3 つ目のカラーによる線を見えにくくすることができます。

トナーの濃度リダクションの割合を指定します。100%を選択すると、トラッピングエリアにトナー濃度が適用されません。0%を選択すると、オブジェクトの縁と同じトナー濃度が適用されます。

1 デバイスセンターの**カラー設定**で**トラッピング**をクリックします。

2 **トラッピングカラーリダクション**で、以下のカラーチャンネルの値を指定します。

- **シアン** - シアン用のトラッピングリダクション（0～100%）を指定します。
- **マゼンタ** - マゼンタ用のトラッピングリダクション（0～100%）を指定します。
- **イエロー** - イエロー用のトラッピングリダクション（0～100%）を指定します。
- **ブラック** - ブラック用のトラッピングリダクション（0～100%）を指定します。

3 （オプション）トラッピング値を強制的に同じ値にする場合は、トラッピングリダクション値の間に表示されるリンクアイコンを選択します。リンクアイコンを選択する際、異なる数値が設定されている場合、そのうちの最も高い値が使用されます。

各カラーの左にあるアイコンで、選択した値の結果を視覚的に確認することができます。

トラッピングセル形状を指定する

トラッピングセル形状は、コントラストの強い背景に対してトラッピングを適用する際のピクセルの形を選択します。ピクセルより大きい要素の場合は、形状、または形状の一部がオブジェクトのコーナーから見えるようになります。

1 デバイスセンターの**カラー設定**で**トラッピング**をクリックします。

2 **トラッピングセル形状**で、**楕円**、**ダイヤモンド**、または**長方形**を選択します。

オブジェクトのトラッピング方法を指定する

オブジェクトのトラッピング方法でオプションが選択されていない場合は、オブジェクト（テキストとグラフィック）に対するトラッピングのみ適用されます。画像にトラッピングを適用するには、オブジェクトのトラッピング方法の設定を使用します。

1 デバイスセンターの**カラー設定**で**トラッピング**をクリックします。

2 **オブジェクトのトラッピング方法**で、以下のいずれかのトラッピング方法を選択します。

- **オブジェクトを画像にトラップ** - 各オブジェクトおよび画像の境界線にトラッピングが適用されます。
- **画像内でトラップ** - 画像内の各ピクセルにトラッピングが適用されます。このオプションは、**オブジェクトを画像にトラップ**が選択されている場合のみ選択することができます。

プログレッシブ

「プログレッシブ」とは、マルチカラー書類で CMYK 色分解の任意の組み合わせを印刷することを指します。分解の印刷またはプルーフは、ジョブの問題を診断するために使用できます。

デバイスセンターまたはジョブのプロパティでプログレッシブを設定または印刷することはできません。ただし、ImageViewer で分解を表示して印刷すると、同じような操作を実行できます。曲線を特定のインクで統合すると、それをプリセットとして保存できます。詳細については、Fiery ImageViewer（282 ページ）を参照してください。

プログレッシブの順序が、プリンターで実際に適用される順序を表す必要はありません。画像の構成分析には別の順序が便利な場合もあります。

プログレッシブ機能を使用すると、トラッピング効果の確認、2 種類のカラートナー間でのハーフトーン作用のチェック、2 つの版同士での登録の確認、カラー分解パラメーターの表示などができます（たとえば、ブラック版のみ、またはブラック版以外の全色印刷時にグレー置換（GCR）レベルを確認するのに便利です）。

プログレッシブ機能は、プリンターで印刷する場合にジョブで使用される色分解を示します。この機能は、他のプリンターに対するプルーフに使用されることは想定していません。

用紙シミュレーションの白色点編集

用紙シミュレーション機能では、ページの白の領域を印刷せずにおくのではなく、出力の印刷カラーとして白で用紙を塗ることができます。白色点編集を使用することによって、CMYK ソースプロファイルで白色点として定義されている、シミュレーションの用紙の白の色相、明るさ、および彩度を調整することができます。

お使いの Fiery サーバーが白色点編集付きの用紙シミュレーションをサポートしている場合、必要であれば、納得の行く結果を得るために白色点をカスタマイズすることができます。

メモ：代替カラーを C=0、M=0、Y=0、K=0 で定義した場合、代替カラーで定義されている値が用紙シミュレーションに適用されます。

用紙シミュレーションの白色点値を編集する

用紙シミュレーションの白色点編集機能では、既存の CMYK ソースプロファイルをカスタマイズして、白色点を調整することができます。調整したカスタムプロファイルは、特定の出力プロファイルにリンクさせる必

要があります。用紙シミュレーションの白色点編集を反映させるには、ジョブを印刷する際、編集済みのカスタム CMYK ソースプロファイルとそれにリンクされている出力プロファイルを選択する必要があります。

既存の CMYK ソースプロファイルを保存するには、白色点を編集する前にプロファイルを複製しておいてください。プロファイルをエクスポートし、別の名前を付けてインポートすることにより、プロファイルを複製できます。

メモ：CMYK ソースプロファイルの白色点を編集することはできますが、出力プロファイルを編集することはできません。

ES-2000 などの分光測色計を使用できる場合は、カラーの測定値を直接インポートできます。この機能によって、用紙の実際のカラーに基づいたターゲットカラーを指定することができます。分光測色計を使用するには、白色点の編集を開始する前に、分光測色計のインストールと設定を実行してください。

メモ：X-Rite i1Pro 2 を使用する場合は、Fiery から購入したものを使用する必要があります。

1 デバイスセンターで、**リソース** > **プロファイル**をクリックします。

2 カスタマイズする CMYK ソースプロファイルを選択して、**用紙シミュレーション**をクリックします。

3 上記の CMYK ソースプロファイルにリンクする出力プロファイルを選択して、**OK** をクリックします。

メモ：カスタムプロファイルを使用してジョブを印刷する場合は、ここで選択した出力プロファイルを選択する必要があります。

4 モニタープロファイルで、使用しているモニターに適した**モニタープロファイル**が表示されていることを確認します。

モニター上でカラーを正確に表示するには、製造元推奨のモニター設定を行い、適切なモニタープロファイルを指定する必要があります。

5 分光測色計を使用して白色点を測定するには、その分光測色計アイコンをクリックします。

6 分光測色計をキャリブレーションドックに置いて、**キャリブレート**をクリックします。キャリブレーションにより、測定の精度が向上します。

7 分光測色計の計測部が測定するカラーの中央にくるように、分光測色計をカラーの上に置きます。

8 分光測色計のボタンを押して測定します。測定した CMYK 値が CMYK フィールドにインポートされ、対応する Lab 値が表示されます。

9 必要に応じて、色相、明るさ、彩度の値を手動で編集します。

- **色相** - 0.0 から 359.9 まで
- **明るさ** - 0.0 から 100.0 まで（100.0 を含む）
- **彩度** - 0.0 から 100.0 まで（100.0 を含む）

スライダーをドラッグするか、テキストフィールドに数値を入力して値を編集します。スライダーは絶対的な値を示すものではありません。ウィンドウを開いたときのスライダーの位置と値は、用紙の白色部分の定義に対する相対的なものです。ウィンドウの左上にあるプレビューパッチ、または右側に表示される Lab 値で変更を確認してください。

10 テストページを印刷するには、**印刷**をクリックします。

11 テストページで編集結果が適切に印刷されている場合は、**保存**をクリックし、**用紙シミュレーション白色点**ウィンドウを閉じます。

プリフライト

印刷前にプリフライト機能を使用してジョブを確認し、印刷エラーを低減して無駄なコストを削減することができます。プリフライト機能を使用すると、印刷時にエラーが発生しがちな項目を確認し、選択したプリンターで予想通りの印刷結果が得られるようにします。

プリフライトチェックを実行するには、次のいずれかが必要です。

表 1: 外部 Fiery サーバー

Fiery システムソフトウェア	パッケージ
FS350 Pro 以前	Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition
FS400 Pro	Fiery Graphic Arts Pro Package
FS500 Pro 以降	標準 - オプションパッケージは不要

表 2: 埋め込み Fiery サーバー

Fiery システムソフトウェア	パッケージ
FS350 以前	サポートされていません

メモ: Preflight には、カラーまたは白黒のサーバー向け Windows を搭載した Fiery システムソフトウェア FS500 Pro 以降のオプションパッケージは必要ありません。

プリフライトでは、エラーだけではなく、セキュリティ設定、ページサイズ、色空間などジョブに関する情報のレポートも生成されます。

プリフライトのチェックは、Hot Folders、仮想プリンター、Command WorkStation で有効化できます。

メモ： 処理済みのジョブをプリフライト機能でチェックすることはできません。

プリフライトでは次のファイル形式がサポートされています。

Fiery サーバー	サポートされているファイル形式
Windows ベース	PostScript、PDF、EPS、PPML、Creo VPS および PDF/VT
埋め込み	PostScript、PDF、EPS、Creo VPS

TIFF および PCL ファイル形式はプリフライト機能でサポートされていません。

プリフライト機能では、次のカテゴリーのエラーをチェックできます。

- **フォント** - 不明のフォントおよび Courier フォントの置換をチェックします。
- **スポットカラー** - 不明のスポットカラーをチェックします不足しているスポットカラーは、Command WorkStation のスポットカラーで追加できます。
- **イメージ解像度** - 指定値未満のイメージの解像度をチェックします。

- **バリアブルデータ印刷リソース** - 不明のバリアブルデータ印刷リソースをチェックします。チェックするレコード数を指定して、処理時間が長くなるのを防ぐことができます。
- **ヘアライン** - 指定値未満のヘアライン幅をチェックします。
- **オーバープリント** - オーバープリントをチェックします。
- **PostScript** - PostScript エラーをチェックします。

プリフライトの設定で、チェックするエラーのカテゴリとエラーのレポート方法を指定することができます。プリフライトの設定は、プリセットとして保存できます。これにより、特定のジョブのプリフライト設定をすばやく選択できます。

メモ：Fiery Preflight Pro が利用可能な場合は、スプール済みまたは処理済みの PDF または PDF/VT ジョブを Command WorkStation で確認できます。その他のファイルの種類については、プリフライトを使用します。

プリフライトチェックの設定と実行

プリフライトの設定で、チェックするエラーのカテゴリとエラーのレポート方法を指定することができます。プリフライトの設定は、プリセットとして保存できます。これにより、特定のジョブのプリフライト設定をすばやく選択できます。

1 ジョブセンターで、待機ジョブを選択し、**アクション** > **Preflight** を選択します。

2 必要に応じて、**プリセット**リストからプリセット（設定のコレクション）を選択します。

3 チェックするエラーの各カテゴリを選択し、任意の設定を指定します。特定のカテゴリをスキップするには、該当するチェックボックスの選択を解除します。
スキップされたカテゴリは、**未確認**と表示されます。

4 エラーのカテゴリごとに通知レベル（**重大**または**警告**）を選択します。

5 重大エラーが検出され次第、プリフライトの実行を停止する場合は、**1 つ目の重大エラーでプリフライトを中止**を選択します。

6 設定を新規プリフライトとして保存するには、**プリセット**リストから**別名保存**を選択します。

7 この設定でプリフライトチェックを実行するには、**Preflight** をクリックします。
プリフライトが実行され、結果がレポートに表示されます。このレポートを印刷して保存できます。レポートを再表示するには、ジョブセンターでジョブを選択し、**プリフライトレポート表示**を選択します。

Fiery Preflight Pro

Fiery Preflight Pro 機能を使用して、ジョブが選択したプリセットで定義される一連の基準に準拠しているかどうかを確認します。

Preflight Pro は、Fiery システムソフトウェア FS500 Pro 以降が搭載された Windows ベースの Fiery サーバーのみで使用できます。Preflight Pro は Fiery サーバーで Fiery Graphic Arts Pro Package がアクティベートされている場合のみ有効になります。

Fiery Preflight Pro で次の種類のジョブを確認できます。

- PDF
- PDF/VT
- FreeForm Plus（FS600 以降）

Preflight Pro が行う確認は、選択したプリセットで定義される設定に基づいています。プリセットはスプール済みジョブと処理済みジョブに適用できます。ジョブがプリセットで定義されている基準から逸脱した場合、Preflight Pro はジョブのエラーと警告をキャプチャするレポートを生成します。

メモ：Preflight Pro は PDF、PDF/VT および FreeForm Plus のジョブのみに適用されます。PDF 以外のすべてのファイルタイプのプリフライトは、Preflight（280 ページ）を使用して実行されます。

Preflight Pro にアクセスするには、Command WorkStation にシステム管理者またはオペレーターとしてログインする必要があります。Command WorkStation ジョブセンターでスプール済みまたは処理済みのジョブを右クリックし、**Preflight Pro** を選択します。また、Fiery Hot Folders または仮想プリンターから送信されたジョブをプリフライトできます。

Fiery ImageViewer

Fiery ImageViewer では、ジョブを印刷する前に、ジョブのカラーまたはグレーレベル（サポートされている場合）をソフト校正および編集できます。処理済みジョブ（ラスター画像）の方向、コンテンツ、一般カラーの精度をプレビューできます。

カラー出力

Fiery ImageViewer は、プレスに送信される実際の CMYK 値を使用してジョブを表示するため、正確なソフト校正が得られます。キャリブレーションの効果はソフト校正には表示されませんが、色はキャリブレーションの影響を受ける可能性があります。

C、M、Y、K の応答曲線を個別に編集できます。編集結果を保存して他のカラー印刷ジョブに適用できます。また、CHROMiX Curve2、Curve3、Curve4 のいずれかを使用して作成された G7 キャリブレーション曲線を適用することもできます。

各プロセスカラーの色分解データを個別に表示することも、他のプロセスカラーと組み合わせて表示することもできます。ジョブに**ハーフトーンシミュレーション**が設定されている場合は、すべての色分解のコンポジット画像がドットレベルでプレビューされます。Fiery ImageViewer からページを印刷すると、Fiery ImageViewer で選択された色分解のコンポジットカラー情報が出力に含まれます。

ImageViewer の必要条件

Fiery ImageViewer を使用するには、コンピューターが以下の要件および接続タイプを満たす必要があります。

- OpenGL バージョン 3.2 以降に対応する GPU
- グラフィックカードに最低 750 MB のメモリが使用可能
- リモートデスクトップ接続を使用して接続しているクライアントコンピューター
- Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition、Fiery Productivity Package、Fiery Graphic Arts Pro Package、Fiery ColorRight Package のいずれかが必要です。

OpenGL のバージョンは、OpenGL Extensions Viewer などのサードパーティ製ソフトウェアで確認できます。

ImageViewer を起動する

Command WorkStation のジョブから ImageViewer を起動することができます。

1 Command WorkStation ジョブセンターで処理済み/待機中ジョブを選択します。

必要に応じて、**アクション** > **処理後待機**を選択して、ジョブの状況を処理後待機に変更します。

2 次のいずれかの操作を行います。

- **アクション** > **ImageViewer** を選択します。
- 選択したジョブを右クリック（Windows の場合）または Ctrl キーを押しながらクリック（macOS の場合）し、表示されるメニューから **ImageViewer** を選択します。

Fiery ImageViewer ツールバーを使用して共通アクションにすばやくアクセスする

Fiery ImageViewer ツールバーを使用すると、ジョブに適用できる共通アクションにすばやくアクセスできます。ツールバーの表示/非表示を切り替えるには、**T** キーを押します。

一部のツールバーアイコンは、Fiery サーバーでサポートされている場合のみ使用できます。

ボタン	説明
保存 	保存ボタンをクリックすると、ジョブの現在の設定が保存されます。
重複 	複製ボタンをクリックすると、**サムネイル**ウィンドウで選択したページが複製されます。
削除 	削除キーを使用すると、**サムネイル**ウィンドウで選択したページが削除されます。
復帰 	復帰ボタンをクリックすると、ジョブの前の設定が復元されます。
校正印刷 	校正印刷ボタンをクリックすると、Fiery ImageViewer からジョブを 1 部またはジョブの反復校正を直接印刷して、出力を確認できます。校正印刷では、変更が加えられてもその変更は保存されません。また元のジョブは変更されません。
拡大鏡 	画像を少しずつ拡大します。

ボタン	説明
ワイパー 	ワイパーボタンをクリックすると、対角線上に画面が分割されるため、ユーザーは調整が行われる前と後のイメージを確認できます。イメージをパンして、分割を修正前または修正後に移動することができます。 イメージ上の対角線を移動またはスワイプするには、Windows の場合は ctrl+alt、macOS の場合は cmd+opt をクリックしてから、マウスのホイールを使用して対角線を回転させます。
ルーラー 	ルーラーボタンをクリックすると、キャンバスの側面に X 軸と Y 軸に沿って測定ルーラーが表示されます。
測定 	測定ボタンをクリックすると、書類内の 2 つの場所をクリックできる測定ツールがアクティブになります。このツールは、2 点間の距離と角度、X 軸と Y 軸の高さと幅を測定します。
スポットカラーを保持 	スポットカラーを保持を有効にすると、カラーチャンネル曲線の調整による影響を受けません。スポットカラーを保持を無効にすると、カラーチャンネル曲線の調整による影響を受けます。
回転 	回転ボタンを使用すると、イメージプレビュー表示を 90 度単位で回転させることができます。 **メモ：**このアクションによって、最終的な印刷出力の方向が変更されることはありません。回転はジョブ内のすべてのページに影響を与えるグローバル設定です。
ミラー 	ミラーボタンでは、イメージプレビューを水平方向にミラーリングしたり、イメージプレビューのミラー効果を逆にしたりすることができます。 **メモ：**このアクションによって、最終的な印刷出力が変更されることはありません。ミラーは、ジョブ内のすべてのページに影響を与えるグローバル設定です。
縮小/引き伸ばし 	縮小/引き伸ばしボタンをクリックすると、**ジョブのプロパティ**、**サブストレート**タブ **幅倍率**オプションと**長さ倍率**オプションに基づいて、ジョブに適用される縮小または引き延ばしが表示されます。Fiery ImageViewer で縮小/引き伸ばしアイコンを表示するには、オプションを 100%より上/下に設定する必要があります。 このボタンは、この機能をサポートしている高速インクジェットプレスでのみ使用できます。

ボタン	説明
部分補正 	部分補正ツールを使用すると、イメージの任意の場所にある選択ボックスを描画して、指定部分でカラーを編集することができます。 このボタンは、部分補正機能をサポートしている Fiery サーバーでのみ使用できます。
オブジェクトエディター 	オブジェクトエディターは、画像内の特定のオブジェクトを選択してターゲットを絞ったカラー調整を適用できる、強力な AI 支援選択ツールを搭載しています。 オブジェクトエディターは、Fiery ImageViewer 5.0 以降でのみ使用できます。
ソフト校正の有効化 	ソフト校正ボタンをクリックすると、インク制限がオフになる時間が表示され、ジョブの正確なソフト校正が得られます。
ソフト校正の無効化 	ソフト校正ボタンをクリックすると、インク制限がオンになる時間が表示され、ソフト校正が非表示になります。特殊カラーをプレビューする場合、ソフト校正は無効になります。
Fiery ラーニング 	Fiery Learning ボタンは、Fiery Learning Web サイトの最新の Fiery ImageViewer コースにリンクしています。

イメージプレビューウィンドウでルーラーを表示する

Fiery ImageViewer の**イメージプレビュー**ウィンドウの上端と左端に沿ってルーラーを表示することができます。

1 **イメージプレビュー**ウィンドウにルーラーを表示するには、次のいずれかの操作を行います。

- ツールバーの**ルーラー**アイコン（）をクリックします。
- **Ctrl キー、Shift キー、R キー**を同時に押します。
- **表示** > **ルーラー**をクリックします。

2 ルーラーに沿ってカーソルを置いて、書類キャンバス全体に水平または垂直のガイドラインを表示し、ページの内容の配置場所を識別できるようにします。

3 水平ルーラーと垂直ルーラの両方を表示するには、ルーラーの左上隅をクリックアンドドラッグします。これは、画像上の任意のポイントまでの垂直および水平方向の距離を測定するのに便利です。

イメージプレビューウィンドウで距離を測定する

Fiery ImageViewer の**イメージプレビュー**ウィンドウで距離を測定できます。このツールは、2 点間の距離と角度、および X 軸と Y 軸の高さと幅を測定します。

1 測定ツールを使用するには、次のいずれかの操作を行います。

- ツールバーの**測定**アイコン（）をクリックします。
- **Ctrl キーを押しながら M キー**を押します。
- **表示** > **測定値**をクリックします。

2 **イメージプレビュー**ウィンドウで、書類の計測開始ポイントをクリックします。

3 **イメージプレビュー**ウィンドウで、書類の計測終了ポイントをクリックします。

イメージプレビューを調整する

ナビゲーターウィンドウでイメージプレビューの表示を管理できます。イメージプレビューは、画面サイズに合わせて拡大することができます。

ナビゲーターウィンドウの境界ボックスにはイメージプレビューで表示できる画像の一部が含まれています。境界ボックスが見づらい場合は、**編集** > **環境設定**でカラーを変更します。

1 イメージプレビューに表示される画像の一部の位置を変更するには、以下のいずれかを行います。

- **ナビゲーター**ウィンドウで境界ボックスをドラッグする。
- イメージをドラッグする。
- 画像内の特定の位置のプレビューを中央に配置するには、Shift キーを押しながらその位置をクリックする。

2 画像を右に回転させるには、次のいずれかを行います。

- リストから 90°、180°または 270°を選択するか、**回転**（）アイコンをクリックします。
- **表示** > **回転**をクリックし、適切な選択をクリックします。

回転はプレビュー上でのみ使用でき、印刷ジョブには適用できません。

プレビューを元の方向にリセットするには、**表示** > **回転** > **リセット**をクリックします。

3 イメージプレビューを水平にミラーするには、**ミラー**アイコンをクリックします。

ミラーはプレビュー上でのみ使用でき、印刷ジョブには適用できません。

イメージプレビューのミラー効果を反転させるには、もう一度**ミラー**アイコンをクリックします。

4 画面を対角線上に分割して、調整を行う前後の画像を確認するには、**ワイパー**アイコンをクリックします。

対角線より上のラスターエリアには編集後のイメージが表示され、対角線より下のラスターエリアには編集前のイメージが表示されます。画像をパンして、分割を修正前または修正後に移動することができます。画像をドラッグ方向に移動します。

ctrl+alt（Windows の場合）か cmd+option（macOS の場合）とマウスのスクロールホイールを使用して、ワイパーを画面内で移動することができます。

5 イメージプレビューを拡大するには、**表示** > **フルスクリーン**をクリックします。

通常の表示に戻すには、**F** キーを押します。

6 非印画領域を表示するには、**非印画領域** > **表示**をクリックします。非印画領域の色は、**環境設定**で変更できます。

画像のサイズを変更する

画面下部のズームコントロールの他にも、画像のサイズを変更する方法がいくつか用意されています。

1 画像を拡大して、Fiery ImageViewer が画像内の各データピクセルを単一のピクセルとして表示できるようにするには、**表示** > **ピクセル等倍**を選択します。

ピクセルの実際の表示サイズは、モニター解像度の設定によって決まります。

2 ページ全体がイメージプレビューに合わせて表示されるように縮小するには、ズームコントロールの横にある**ウィンドウサイズに合わせる**アイコンをクリックするか、**表示** > **ウィンドウサイズに合わせる**を選択します。

画像内のカラー値を表示する

ImageViewer では、実際にプレスに送信されるカラー値でジョブを表示します。画像内の任意のポイントのカラー値を調べることができます。

- 画像内のピクセルにマウスポインターを置きます。

  各インクの値が**分解**ペインに表示されます。

  適用範囲合計:には、サンプルされたラスターピクセルの色分解値（%）の合計が表示されます。

オブジェクトインスペクターを使用して、ラスターのピクセルの表示に使用されたオブジェクトタイプも表示できます。詳細については、オブジェクトインスペクター（287 ページ）を参照してください。

オブジェクトインスペクター

オブジェクトインスペクターは、ラスター画像のピクセルが描画されたときのオブジェクトタイプを示します。

オブジェクトインスペクターには、サンプリングされたピクセルの分解カラー値（%）が表示されます。オブジェクトタイプには、画像、グラフィック、テキスト、エッジのピクセル（エッジ強調のためにタグ付けされ

たピクセル) などがあります。サンプリングされたピクセルが複数ページオブジェクトの混合から描画された場合、オブジェクトインスペクターはオブジェクトを不明のオブジェクトタイプとして表示します。

- オブジェクトインスペクターを使用するには、**イメージプレビュー**ペインでピクセルの上にカーソルを置きます。

カラー置換

カラー置換機能を使用すると、出力するラスター画像のカラーを置き換えることができます。カラー置換は、ソリッドカラーと均一な色合いに最適です。

カラー置換は、Fiery システムソフトウェア FS350/350 Pro 以降を搭載した Fiery サーバーに接続されている場合に、Fiery ImageViewer 4.0 以降でのみ使用できます。また、この機能はプリントオプションで「コンポジットオーバープリント」を選択して処理されたジョブでのみサポートされます。

カラー置換では、カラー値を入力する、カラーピッカーを使用してピクセルをサンプリングする、既存の Fiery スポットカラーを選択することによって、置換後のカラーを指定できます。カラー置換は、個別のページまたはジョブ内の全ページに適用できます。カラー補正の種類は、**編集**ペインのアイコンで確認できます。

- **ページ**編集では実線が使用されます。
- **ローカル**編集では破線が使用されます。

ページカラー曲線またはページカラー置換をプリセットとして保存できるほか、後で使用できるようにページカラー曲線とページカラー置換の両方を 1 つのプリセットとしてまとめて保存できます。プリセットは、Fiery ImageViewer またはラスター曲線エディターから適用できます。

カラー置換の使用

カラー置換を使用すると、出力するラスター画像のカラーを置き換えることができます。

1 **カラー置換**ペインで、**元のカラーを選択**をクリックし、画像内で置換する元のカラーを選択します。大きい四角は現在表示されている領域を示し、小さい四角は対象のピクセルを示します。

2 **カラー置換**ペインで、次のいずれかの方法で置換カラーを選択します。

- **置換カラーを選択**をクリックし、置換カラーピッカーを使用して画像内の置換カラーを選択します。
- カラー置換の値を入力します。
- **スポットカラーを選択**をクリックし、スポットカラーライブラリからスポットカラーを選択します。

3 **適用**をクリックします。

カラー置換が**編集**ペインに追加されます。

次の点に留意してください。

- **編集**ペインでは、目のアイコンを使用してカラー置換の表示/非表示を切り替えたり、カラー置換の順序を変更したり、カラー置換を削除したりできます。
- **編集**ペイン内のカラー置換を選択することにより、置き換えたカラーを後で変更できます。
- **編集**ペインでエントリを変更すると、変更したエントリは現在のページにのみ有効となるため、Fiery ImageViewer によって**全ページ**チェックボックスの選択が解除されます。

- Fiery サーバーがプリンターまたは高速インクジェットプレスに接続されている場合、おもて面および裏面オーバーレイモードではカラー置換は表示されません。
- カラー置換編集に対し、いずれかのページで**全ページ**チェックボックスの選択を解除すると、現在のページを除くすべてのページで特定の編集が削除されます。
- カラー置換エントリをいずれかのページから削除すると、書類内のすべてのページからカラー置換が削除されます。ただし、**全ページ**チェックボックスが選択されている場合に限ります。**全ページ**チェックボックスをオフにしている場合、編集を削除しても影響するのは現在のページのみです。
- カラー置換は 1 ページにつき最大 32 個まで適用できます。
- 最良の結果を得るには、カラー置換を適用するときに、Fiery ImageViewer でラスターを 100%で表示してください。ラスターを 100%未満で表示する場合、ラスタープレビューのアンチエイリアスが原因で、カラー置換後の画像の端でノイズが発生することがあります。アンチエイリアス処理は印刷結果には影響しません。

部分補正

部分補正機能を使用すると、画像全体ではなく、ページ内の特定の領域にカラー補正を適用できます。この対象を絞ったアプローチにより、補正が最も必要な部分に対して正確な調整が可能になります。部分補正機能は、Fiery ImageViewer 4.2 以降でのみ使用できます。

この機能を使用すると、次のことが可能になります。

- マーキー選択を使用して、補正する画像の領域を選択する。
- カラー置換を使用して、選択した領域のカラーを置換する。
- 選択領域内の個々のカラー曲線を調整し、より精密な補正を行う。
- カラー置換を、単一ページまたは書類内の全ページにわたる同じ領域に適用する。

カラー置換またはカラー曲線調整のどちらで行われた編集も、すべて**編集**ペインに表示されます。アイコンは、編集がカラー置換かカラー曲線調整か、ローカルレベルまたはページレベルでの調整かを示します。目のアイコンを使用して各編集の表示/非表示を切り替え、元の画像と比較できます。

画像に部分補正を適用する

部分補正を使用して、画像の特定の領域内のカラーを補正できます。

1 **部分補正**をクリックします。

2 マーキーを使用して画像内の領域を選択して、ローカルカラー補正を適用します。

破線は、カラー補正の対象として選択された領域を示します。

3 次のいずれかの方法で、選択した領域のカラーを調整します。

- **元のカラーを選択**をクリックしてから、**置換カラーを選択**をクリックするか、置換カラーの値を入力するか、または**スポットカラーを選択**を使用してカラーを置換します。
- **カラー調整**ペインの曲線を使用します。

4 次のいずれかの方法で、カラー補正を適用します。

- カラー曲線を調整した場合は、**部分補正**の横にあるツールバーで**適用**をクリックします。
- カラー置換を行った場合は、**カラー置換**ペインの**適用**をクリックします。

編集ペインには、ローカルレベルまたはページレベルで行われたすべてのカラー編集が表示されます。**編集**ペインでは、次のオプションを使用してローカル編集を管理できます。

- **編集**ペインに一覧表示されている任意の行の目のアイコンをクリックして、ローカルカラー置換と元のカラーを切り替えます。
- 編集列のアイコンで編集タイプを識別します。ペイントブラシアイコンは**カラー置換**ペインで行われたカラー置換を示し、波線アイコンは**カラー調整**ペインで行われたカラー曲線の変更を示します。
- 書類のすべてのページでローカルカラー置換を適用する場合は、その特定のカラー置換に対し**全ページ**チェックボックスを選択します。書類内のすべてのページで指定された領域には、同じカラー置換が表示されます。
- ローカルカラー置換領域を調整するには、**編集**ペインで該当するカラー置換の行をクリックし、対象領域のマーキー選択を調整します。

Fiery ImageViewer オブジェクトエディター

Fiery ImageViewer オブジェクトエディターは、画像内の特定のオブジェクトを選択してターゲットを絞ったカラー調整を適用できる、強力な AI 支援選択ツールを搭載しています。

制限

- オブジェクトエディターは、Fiery ImageViewer 5.0 以降および FS800/FS800 Pro 以降でのみ使用できます。
- 1 ページにつき 1 セットのオブジェクト編集を適用できます。オブジェクト編集セットを削除し、新規に作成できます。
- オブジェクトエディターを同時に開くことができるのは、Fiery ImageViewer の最大 2 つのインスタンスまでです。
- オブジェクトエディターのソフト校正は、今回のリリースではサポートされていません。
- オブジェクトエディターは、Fiery サーバーに接続されているクライアントコンピューターから Fiery Command WorkStation を使用している場合のみサポートされます。この機能は、モニター、キーボード、マウスが接続されている Fiery サーバーで直接 Command WorkStation を使用する場合にはサポートされません。

メモリ使用量の推奨事項

RAM が限られているシステムでメモリ使用量を抑えるには、オブジェクト編集と曲線調整の完了後にオブジェクトエディターを無効にします。オブジェクトエディターをオフにした後も、マスク編集は引き続き利用できます。

オブジェクトエディターを有効にしたままにすると、ジョブに応じて、メモリ使用量が約 1.5～2GB 増加します。これ以上オブジェクト編集が不要になった時点で無効にすると、メモリが解放され、全体的なシステムパフォーマンスを改善できます。

オブジェクトエディターのインストール

オブジェクトエディター機能を使用する前に、インストールを行う必要があります。

1 **オブジェクトエディター**をクリックします。

2 **Fiery ImageViewer オブジェクトエディター**ウィンドウで、インストールをクリックします。

Fiery Software Manager がバックグラウンドで起動し、オブジェクトエディターをインストールします。インストールが完了すると、オブジェクトエディターを使用できるようになります。

メモ：オブジェクトエディターは、Fiery サーバーに接続されているクライアントコンピューターから Fiery Command WorkStation を使用している場合のみサポートされます。この機能は、モニター、キーボード、マウスが接続されている Fiery サーバーで直接 Command WorkStation を使用する場合にはサポートされません。

オブジェクトエディターでオブジェクトを選択する

オブジェクトエディターを使用して 1 つ以上のオブジェクトを選択し、カラー編集を適用できます。オブジェクトエディターを読み込むと、オブジェクト検出モデルを使用してページが選択可能なオブジェクトに分割されます。選択したオブジェクトはマスクと呼ばれ、このマスクのカラーを調整できます。

1 **オブジェクトエディター**をクリックします。

2 次のいずれかの方法で、画像内のオブジェクトを選択します。

Windows	macOS	説明
左クリック	左クリック	オブジェクトを選択します。
Ctrl＋左クリック	Cmd＋左クリック	追加のオブジェクトを選択します。
Alt＋左クリック	Opt＋左クリック	選択範囲からオブジェクトを削除します。
Alt＋I	Opt＋I	現在の選択範囲を反転します。選択中のオブジェクトは選択解除され、非選択のオブジェクトが選択状態になります。
C＋左クリック	C＋左クリック	すべての選択を解除します。

Windows	macOS	説明
Shift＋左クリックまたは**Shift＋右クリック**	**Shift＋左クリック**または**Shift＋右クリック**	**Shift＋左クリック**でマスクにポジティブポイントを追加し、**Shift＋右クリック**でマスクにネガティブポイントを追加します。ポジティブポイントはオブジェクトマスクに含める領域を示し、ネガティブポイントはオブジェクトマスクから除外する領域を示します。 ポジティブポイントとネガティブポイントは、最初のオブジェクト選択が編集する領域と正確に一致しない場合に、オブジェクトの境界を絞り込むのに役立ちます。 シャツを着た人物の画像を例に考えてみましょう。人物をクリックすると、最初は人物全体が 1 つのオブジェクトとして選択される場合があります。肌色にのみカラー補正を適用する場合は、次のように操作します。 • 人の顔や肌の部分を **Shift＋左クリック**して、これらの領域を選択範囲に含めるように指定します。 • シャツを **Shift＋右クリック**して、これらの領域を選択範囲から除外するように指定します。 オブジェクトエディターは、これらのポジティブポイントとネガティブポイントを使用してマスクを調整し、カラー補正を行う領域のみをピンポイントで指定できるようにします。
G＋左クリックまたは**W＋左クリック**	**G＋左クリック**または**W＋左クリック**	グラフィックやフォントコンテンツに特化したオブジェクト検出モデルを使用してオブジェクトを選択します。あるモデルできれいに選択できない場合は、別のモデルを使用してください。オブジェクト上にカーソルを置いたときに警告アイコンが表示される場合は、この操作を試してください。
Alt＋K	**Opt＋K**	オブジェクト編集の適用後に、**マスク編集**ウィンドウを開きます。

オブジェクトを選択すると、背景のピクセルが暗く表示され、選択したオブジェクトがハイライト表示されます。これにより、カラー調整の影響を受ける領域が視覚的に明確に表示されます。

3 **カラー調整**ペインを使用してカラーを編集します。

4 **適用**をクリックして、編集内容を保存します。

ジョブ内に類似したページが含まれている場合は、**適用先**を使用して同じオブジェクトマスクを再利用できます。**適用先**をクリックするとウィンドウが開き、対象のページ番号を指定できます。マスクはコンテンツの一致を検証することなく機械的にそのまま適用されるため、マスクを適用する前にページの内容が同一であることを必ず確認してください。

メモ：ページごとに 1 セットのオブジェクト編集のみを適用できます。新しいオブジェクト編集を適用するには、前のオブジェクト編集セットを削除して新しく作成する必要があります。オブジェクト編集は、ローカル編集やページ編集と併用できます。

マスク編集を使用して選択範囲を調整する

オブジェクトエディターで編集を適用した後、マスク編集を使用して選択範囲を調整できます。

1 オブジェクトエディターでオブジェクトを選択した後、**編集**ペインで**マスク編集**をクリックします。

2 **マスク編集**ウィンドウでは、選択、追加、削除の各ツールを使用してマスクを編集できます。マスクを編集するには、次のツールを 1 つ以上使用します。

- **選択** - 選択ツールを使用して、マスクの広い領域を編集します。
  - **マスク** - 選択したマスク領域を調整します。
  - **マーキー** - 含めたい領域を囲むように、長方形の選択範囲を描画します。
- **追加** - 追加ツールを使用して、マスクに領域を追加します。
  - **ハード** - 輪郭がはっきりしたブラシを使って、鮮明で正確なストロークを描きます。
  - **ソフト** - 柔らかいブラシを使って、自然になじむようなストロークを描きます。
  - **なげなわ** - 領域をフリーハンドで囲み、マスクに直接追加します。
- **削除** - 削除ツールを使用して、マスクから領域を削除します。
  - **ハード** - 輪郭がはっきりしたブラシを使って、きれいに、正確に消去します。
  - **ソフト** - 柔らかいブラシを使って、徐々に、かつ輪郭をぼかしながら消去します。
  - **なげなわ** - なげなわツールで領域をフリーハンドで囲んで、マスクから削除します。

3 **適用**をクリックします。

メモ：マスクの編集中はキーボードショートカットを使用できます。

- **なげなわ**の選択中に **Esc** キーを押すと、描画中の線がクリアされます。
- **なげなわ**の選択中に始点をクリックするか、マウスの左ボタンをダブルクリックすることで選択を確定できます。
- **追加**または**削除**ツールの操作中に、**Shift** キーを押し続けると、一時的にもう一方のツールに切り替えることができます。

おもて面および裏面オーバーレイ

おもて面および裏面オーバーレイ機能では、面付け済みシートのプレビューを行えます。

オーバーレイオプションを**シートワイズ**、**両面印刷機**、**ワークアンドターン**、**ワークアンドタンブル**に設定することで、4 つの面付けスタイル（**ワークスタイル**または**印刷方法**）をプレビューできます。

ほとんどの両面プレス機では、両面がオンの状態で両面印刷ジョブを受信した場合、使用可能な**おもて面および裏面オーバーレイ**オプションは**両面印刷機**のみになります。

両面プレス機の場合、おもて面および裏面オーバーレイ機能では、手動両面印刷の 4 つの選択肢か、ラスター画像の**ジョブのプロパティ**ウィンドウの**両面**プリントオプションで定義された面付けスタイルのどちらかが表示されます。

どのような場合も、制御を**オフ**に設定することで、**おもて面および裏面オーバーレイ**プレビューを無効にすることができます。オーバーレイの制御はプレビューのためにのみ行うもので、ジョブの両面印刷設定は変更しません。

面を比較では、ジョブの任意の 2 つの面を比較できます。

表示モードについては、次の設定を調整できます。

- **連続階調**では、面付けのトゥルーカラーでのプレビューを選択できます。
- **カスタム**では、おもて面および裏面の面付けごとに、プレビューするためのカスタムカラーを選択できます。
- **不透明度(おもて)**では、裏面を確認できるようにおもて面の不透明度を調整することができます。
- **不透明度(裏)**では、裏面の不透明度を調整して、プレビューでの可視性を制御することができます。

画像位置

画像位置の機能を使用すると、グリッパーマージンなどのプレスの機械的要件に対応し、折り、裁断、とじの仕上げワークフローでシートが適切に機能するように、面付け面のラスター画像を印刷素材に正確に配置することができます。

Fiery ImageViewer を使用すると、オフセット数値やビジュアルな位置設定を使用してジョブを素材に正確に配置することができます。Fiery ImageViewer には、素材のエッジのほか、プレスの印刷可能な範囲の境界線も表示されます。

画像位置機能のメリットは以下のとおりです。

- 試行錯誤をしなくても、素材へのラスター画像の配置を確認できます。
- シートの印画領域を確認できるので、必要に応じて、面付けを印画領域の端に移動したり、面付けをクリップがしたりできます。
- 面付けの位置を正確に設定できるので、プレスのグリッパーマージンに対応したり、仕上げ準備のできたシートを製造できます。

ページの境界線は、デフォルトでは黒で強調表示されます。**環境設定**ウィンドウでページの境界線（カラー）を編集できます。

素材の印画領域は緑色で強調表示されます。

画像位置機能を使用するには：

1. **原点** - オフセット計算の基準となる素材上の位置。選択肢は、**素材の中央**、**印刷可能領域の中央**、**カスタム印刷可能領域の中央**、**下端の中央**です。
2. **オフセット**（有効または無効にできます）- X および Y オフセットを設定して、素材上のラスター画像の位置を決定できます。両面印刷プレスの場合は、**おもて面および裏面オーバーレイ**が**オフ**に設定されていない限り、裏面オフセットの制御も可能です。
3. **オフセット単位** - オフセットの調整に使用する単位（ミリメートルまたはインチ）を設定します。
4. **おもてと裏の画像位置を合わせる** - おもて面のオフセットが背面に逆に適用されるように、おもて面と裏面の位置調整をロックします。

画像位置機能を使用する際は、以下の点に留意してください。

- 両面プレス機では、**おもて面および裏面オーバーレイ**が有効になっている場合にのみ、裏面画像の位置を制御できます。
- **おもてと裏の画像位置を合わせる**は、**おもて面および裏面オーバーレイ**が有効な場合にのみ有効です。

インク制限のアニメーション

Fiery ImageViewer は、インク総量（TAC）制限に近づいているピクセルや、Fiery ImageViewer 曲線またはスポットカラー編集を使用してインク制限を超えて調整されているピクセルをジョブ内で確認するのに役に立ちます。

アニメーション機能を有効にするには、Fiery ImageViewer を起動し、処理済みジョブまたは待機ジョブを開いて、Ctrl+Shift+L キーを押します。

ジョブ内の黄色に点滅している領域は、インク総量（TAC）の制限に近づいているピクセルを示しています。

ジョブ内の赤に点滅している領域は、インク総量（TAC）の制限に達したか制限を超えたピクセルを示しています。

インク総量制限は、接続先のサーバーからロードされます。Fiery ImageViewer の**環境設定**で、Fiery ImageViewer でのみイメージを表示するために**インク制限のアニメーション**オプションをオンにすれば、この制限を手動で調整または上書きすることができます。

メモ：インク制限のアニメーションが有効な場合は、正確なソフト校正が表示されません。この場合、Fiery ImageViewer ウィンドウの右上にある目のアイコンに対角線が入ってオレンジになり、ソフト校正が無効になっていることが示されます。Ctrl+Shift+L キーを押してアニメーションを無効にすると、目のアイコンが緑に変わり、ソフト校正が有効になっていることを示します。

メモ：アニメーションインク制限機能は、一部の Fiery サーバーでは使用できません。

色分解の表示と印刷

分解ペインでは、イメージプレビューに表示する色分解や、ImageViewer からジョブを印刷する際に出力に含める色分解を管理できます。ページごとに異なる色分解を設定することもできます。

- 色分解を表示するには、次のいずれかを行います。
  - どの分解を表示および印刷するかを指定するには、**分解**ウィンドウの分解名の横にあるチェックボックスを選択または解除します。

    メモ：Fiery ImageViewer 4.0 以降では、**分解**ウィンドウで選択されているかどうかに関わらず、すべての色分解を印刷します。
  - 現在選択されている分解を反転するには、**表示** > **分解** > **選択範囲を反転**を選択します。

    選択範囲を反転させると、選択されていない色分解が新たに選択されます。たとえば、CMYK 分解が使用可能で**シアン**と**マゼンタ**が選択されている場合、その選択範囲を反転させると**イエロー**と**ブラック**が表示されます。

- すべての色分解をすばやく表示するには、**表示** > **分解** > **すべて選択**を選択します。
- Fiery サーバーがインク/トナーの順序を読み取ります。**色分解**ペインには、プロセスカラーと特殊カラーが表示されます。Fiery ImageViewer では、プレスにインストールされている順序で特殊カラーが表示されます。

  プロセスカラーで印刷する特殊カラーが色分解リストの下部に表示され、プロセスカラーの上に印刷される特殊カラーがリストの一番上に表示されます。

  メモ：特殊カラーをサポートする Fiery サーバーに特殊カラーが表示されます。

ImageViewer の編集

ImageViewer の編集プリントオプションを使用すると、サーバー上にプリセットとして保存されているカラー曲線の編集データを ImageViewer から適用できます。

Command WorkStation の ImageViewer は、Fiery サーバー上にある処理済みのジョブの CMYK 曲線を編集するために使用できます。これらの曲線編集は、ImageViewer の**カラー調整**ウィンドウの**プリセット**エリアでプリセットとして保存できます。プリセットは、**ジョブのプロパティ**ウィンドウの**カラー**タブで、**ImageViewer 編集**印刷オプションを使用してスプール済みジョブに適用できます。

ジョブのプリセットを選択するには、**ImageViewer の編集**オプションを使用します。

出荷時の曲線の編集データは、次の一般的なカラー修正に適用されます。

- 補正なし
- 低ハイライト
- ミッドトーン強調
- シャドウ詳細
- C キャスト（シアン）低減
- M キャスト（マゼンタ）低減
- Y キャスト（イエロー）低減

プリセットリストには、出荷時のカーブ編集とカスタムカーブの編集が表示されます。

曲線を使用して応答を編集する

カラー調整ウィンドウで応答曲線を編集して、ジョブを正確に編集することができます。この機能を使用すると、すべてのカラー曲線とジョブ内の色分解ごとに応答曲線をカスタマイズできます。

メモ：カラー印刷のジョブ用に曲線編集を作成した後は、ジョブを保存してから**色相環**タブに切り替えてください。先に保存しなかった場合は、すべての曲線編集が失われます。

曲線をグラフィック表示で編集する

1 **カラー調整**ペインの**曲線**タブをクリックします。

2 必要に応じて、カラー曲線の表示方法を調整します。

- 特定のカラー曲線を選択するには、 **チャンネル** メニューからカラーを選択します。
- すべてのカラー曲線を同時に選択するには、**チャンネル**メニューから**すべてのチャンネル**を選択します。

メモ：すべてのチャンネルを選択している場合、Page Up と Page Down キーを使用して表示曲線を切り替えます。

3 次のいずれかの操作を行います。

- 曲線上のいずれかの場所をクリックして、曲線にポイントを加える。
- 曲線上のポイントを望ましい応答の値までドラッグして、曲線を編集する。

メモ：Windows では、ポイントを選択し、矢印キーを使用してポイントをいずれかの方向に 1%移動させるか、Shift キーを押しながら矢印キーを押して大幅に移動させることができます。

- 曲線上のポイントを削除するには、ポイント選択し、**削除**を押す。

  ポイントを選択して、削除したいポイント上にドラッグする。
- Windows では、曲線上の一点を選択し、**Shift キーを押しながら Page Up** または **Shift キーを押しながら Page Down** キーを押し、ポイント間を移動します。

カラー曲線データを編集する

1 **カラー調整**ペインで**曲線**タブをクリックし、**曲線編集**をクリックします。

2 表示されるテーブルで、数値を編集します。

テーブルの各行は、グラフ内の編集ポイントに対応しています。

3 次のいずれかを実行します。

- 事前に定義されている行セットを表示するには、**コントロールポイント**リストからセットを選択します。
- 行を追加するには、空の行で入力します。
- 行を削除するには、行のどこかでクリックして、**行の削除**をクリックします。

色相環を使用して色を編集する

カラー調整ペインの色相環を使用して色を編集できます。

メモ：色相環を使用して行う編集は、**曲線**タブに切り替えた後も保持されます。一方、曲線を使用して行う編集は、**色相環**タブに切り替える前にジョブを保存しないと、編集内容が失われます。

1 **カラー調整**ペインの**色相環**タブをクリックします。

2 色の範囲（**ハイライト**、**すべて**、または**シャドウ**）をクリックして、編集する色の範囲を設定します。

メモ：色の範囲の選択は、**明るさ**には適用されません。**明るさ**は、常に色の範囲全体に適用されます。

3 色相と彩度を編集するには、色相環内の新しい場所をクリックします。

イメージプレビューに編集結果が反映されます。

4 **色相**、**彩度**、**ブラック**、または**明るさ**のスライダーをドラッグして編集結果を微調整するか、スライダーの右側に新しい数値を入力します。

カラー編集を 1 ページまたは全ページに適用する

現在のページからカラー編集をコピーし、ジョブの別のページまたは全ページに貼り付けることができます。

1 **カラー調整**ペインで**曲線**タブをクリックし、**適用先**をクリックします。

2 ページ番号を指定し、**OK** をクリックします。

ローカルファイルを使用してカラー編集を適用する

まず使用しているコンピューターのローカルファイルにカラー編集を保存します。そして保存先のファイルから編集をインポートして、Fiery ImageViewer の現在のページに適用することができます。現在のページは、同様のジョブまたは別のジョブのものである場合があります。

メモ：Fiery サーバーの種類によっては、カラー編集をサーバープリセットとして保存し、異なるジョブに適用することができます。

ファイルにカラー編集を保存する

1 **ファイル** > **エクスポート** > **カラー調整**を選択します。

2 ファイル名を入力し、ファイルタイプを選択します。

3 ファイルの保存先を指定し、ファイルを保存します。

ファイルからカラー編集をインポートする

1 **ファイル** > **インポート** > **カラー調整**を選択します。

2 必要なカラー編集ファイルを選択します。

3 **開く**をクリックします。

現在のページにカラー編集が適用されます。

サーバープリセットを使用してカラー編集を適用する

お使いの Fiery サーバーがこの機能をサポートしている場合、カラー編集をサーバープリセットとして保存できます。プリセットを使用して、同様のカラー編集を Fiery ImageViewer の異なるジョブに適用できます。 ウィンドウを Command WorkStation で開き、 Fiery ImageViewer を使用しません。

メモ：使用しているコンピューターのローカルファイルにカラー編集を保存し、ImageViewer の異なるジョブに編集を適用することも可能です。

カラー編集をプリセットとして保存する

1 **カラー調整**ペインで、保存したいカラー編集を作成します。

2 次のいずれかを行います。

- Fiery ImageViewer 4.7 以降の場合、ツールバーの**別名保存**をクリックします。
- Fiery ImageViewer 4.6 以前の場合、**曲線**タブをクリックし、**プリセット** > **別名保存**をクリックします。

3 プリセットの名前を入力して **OK** をクリックします。

プリセットがリストに追加されます。

メモ：カラー置換は、Fiery ImageViewer 4.0 以降で使用でき、グローバルな修正としてプリセットに保存されます。カラー置換はページ単位で使用することはできません。

ImageViewer のプリセットを使用してカラー編集を適用する

1 **カラー調整**ウィンドウで**曲線**タブをクリックし、**プリセット**リストからプリセットを選択します。

2 **ファイル** > **保存**をクリックします。

プリセットが現在のジョブに適用されます。

メモ：画像位置はプリセットに含まれません。

ジョブのプロパティのプリセットを使用してカラー編集を適用する

1 Command WorkStation のジョブセンターで、待機ジョブを選択し、**アクション** > **プロパティ**をクリックします。

2 **カラー**タブをクリックし、**ImageViewer Curves** オプションからプリセットを選択して **OK** をクリックします。

3 同じジョブを選択した状態で、**アクション** > **処理後待機**をクリックします。

プリセットのカラー編集が処理済みのジョブに適用されます。

メモ：ジョブの処理後、カラー編集はジョブに組み込まれ、ImageViewer 上で編集として表示されなくなります。

プリセットの削除

- 次のいずれかの操作を行います。
  - Fiery ImageViewer 4.7 以降の場合、ツールバーのギアアイコンをクリックして**カスタムプリセットの管理**ウィンドウを起動します。
    - クリックして 1 つのカスタムプリセットを選択するか、Ctrl キーを押しながらクリック（Windows の場合）または cmd キーを押しながらクリック（macOS の場合）で複数のカスタムプリセットを選択します。
    - **削除**をクリックします。
  - Fiery ImageViewer 4.6 の場合、**カラー調整**ウィンドウで、**プリセット**リストからプリセットを選択します。
    - 画像に適用されたカスタムプリセットを選択し、**削除**をクリックします。
    - 確認画面で**はい**をクリックします。

プリセットがリストおよび画像から削除されます。

メモ：Fiery ImageViewer で一貫性のない曲線または不適切な曲線が見られるにもかかわらず、そうした曲線を削除できないうえに、ジョブのプロパティメニューで曲線プリセットがすべて表示されない場合、Fiery ImageViewer で ctrl+shift+D（Windows）または cmd+shift+D（macOS）を押すことで解決できます。これにより、問題のある曲線がすべて削除され、Fiery サーバーのジョブのプロパティで曲線プリセットのすべてのリストを表示できるようになります。

プリセットの名前を変更する

- Fiery ImageViewer 4.7 以降の場合、ツールバーのギアアイコンをクリックして**カスタムプリセットの管理**ウィンドウを起動します。
  - クリックして 1 つのカスタムプリセットを選択するか、Ctrl キーを押しながらクリック（Windows の場合）または cmd キーを押しながらクリック（macOS の場合）で複数のカスタムプリセットを選択します。
  - **名前の変更**をクリックします。
  - プリセットの名前を入力して **OK** をクリックします。

Curve2/Curve3/Curve4 ファイルからカラー曲線を適用する

CHROMiX Curve2、Curve3 または Curve4（G7 キャリブレーションソフトウェア）で作成され、テキストファイルとしてエクスポートされた CMYK 応答曲線をインポートすることができます。Fiery ImageViewer で曲線をインポートすると、現在のページに適用され、既存の応答曲線を上書きします。

標準フォーマットまたは Delta フォーマットのファイルを使用できます。

1 **カラー調整**ウィンドウで**曲線**タブをクリックし、**曲線編集**をクリックします。

2 **曲線をインポート**をクリックし、曲線を含むファイルを選択し、**開く**をクリックします。

Fiery ImageViewer でページを管理する

Fiery ImageViewer の書類内および異なる書類間でページを管理できます。

Fiery ImageViewer の**サムネイル**ウィンドウには、ジョブ内の各シート表面のサムネイルビューが表示されます。**サムネイル**ウィンドウを使用して、ジョブのページを管理できます。

書類ページの順序を変更する

サムネイルウィンドウでページのサムネイルをドラッグアンドドロップして、Fiery ImageViewer の書類ページの順序を変更できます。

1 書類内で移動するページを選択するには、次のいずれかの操作を行います。

- ページのサムネイルをクリックして、1 ページを選択します。
- Shift キーを押しながらクリックすると、複数のページを選択できます。
- Ctrl キー（Windows）または cmd キー（macOS）を押しながらクリックして、個々のページを選択します。
- **Ctrl+A**（Windows）または **cmd+A**（macOS）を押して、すべてのページを選択します。

2 ページのサムネイルを**サムネイル**ウィンドウ内の新しい場所にドラッグします。

メモ：Fiery ImageViewer では、バリアブルデータジョブ用に書類間のページの並べ替えはサポートされません。

ページを削除する

サムネイルウィンドウを使用して、Fiery ImageViewer の書類のページを削除できます。

1 書類内で削除するページを選択するには、次のいずれかの操作を行います。

- ページのサムネイルをクリックして、1 ページを選択します。
- Shift キーを押しながらクリックすると、複数のページを選択できます。

- Ctrl キー（Windows）または cmd キー（macOS）を押しながらクリックして、個々のページを選択します。
- **Ctrl+A**（Windows）または **cmd+A**（macOS）を押して、すべてのページを選択します。

2 削除するページを選択するには、次のいずれかの操作を行います。

- 選択したページのサムネイルを右クリックし、**削除**を選択します。
- **削除**キーを押します。
- **編集** > **削除**をクリックします。
- ツールバーの**削除**アイコン（  ）をクリックします。

メモ：バリアブルデータジョブの Fiery ImageViewer では、ページの削除はサポートされていません。

ページを複製する

サムネイルウィンドウを使用して、Fiery ImageViewer の書類のページを複製できます。

1 書類内で複製するページを選択するには、次のいずれかの操作を行います。

- ページのサムネイルをクリックして、1 ページを選択します。
- Shift キーを押しながらクリックすると、複数のページを選択できます。
- Ctrl キー（Windows）または cmd キー（macOS）を押しながらクリックして、個々のページを選択します。
- **Ctrl+A**（Windows）または **cmd+A**（macOS）を押して、すべてのページを選択します。

2 選択したページを複製するには、次のいずれかの操作を行います。

- 選択したページのサムネイルを右クリックし、**複製**を選択します。
- **編集** > **複製**をクリックします。
- ツールバーの**ページの複製**アイコン（  ）をクリックします。

メモ：バリアブルデータジョブの Fiery ImageViewer では、ページの複製はサポートされていません。

書類間でページを移動する

サムネイルウィンドウを使用して、Fiery ImageViewer の書類間でページを移動できます。

1 Fiery ImageViewer で 2 つの書類を開きます。

メモ：Fiery ImageViewer を使用して書類間でページを移動するには、両方の書類が同じ色空間を使用する必要があります。

2 書類内の移動するページを選択するには、次のいずれかの操作を行います。

- ページのサムネイルをクリックして、1 ページを選択します。
- Shift キーを押しながらクリックすると、複数のページを選択できます。
- Ctrl キー（Windows）または cmd キー（macOS）を押しながらクリックして、個々のページを選択します。
- **Ctrl+A**（Windows）または **cmd+A**（macOS）を押して、すべてのページを選択します。

3 選択したページを 1 つの**サムネイル** ウィンドウから別の Fiery ImageViewer **サムネイル**ウィンドウにドラッグします。

メモ：バリアブルデータジョブ用 Fiery ImageViewer では、書類間のページの移動はサポートされていません。

編集したジョブを印刷する

ジョブを編集した後、そのジョブを印刷できます。

分解ペインで選択された色分解のコンポジットカラー情報が印刷ページに含まれます。ページごとに異なる色分解を設定することもできます。

1 ジョブのページごとに、印刷する色分解を**分解**ペインで設定します。

2 **ファイル** > **保存**をクリックします。

ソフト校正を PDF にエクスポートする

ソフト校正を PDF 形式で保存すると、他の時間や場所で表示できるようになります。PDF にエクスポートする場合には、ページ範囲と解像度を選択できます。

メモ：ソフト校正にはキャリブレーションの効果は表示されませんが、色はキャリブレーションの影響を受ける可能性があります。また、ジョブで適用されたカラー置換の変更も表示されません。

ソフト校正は印刷用ではないため、ソフト校正の解像度はジョブの解像度と異なる場合があります。

1 **ファイル** > **エクスポート** > **PDF ソフト校正**の順にクリックします。

2 ページ範囲を指定します。ページ番号やページ範囲を複数指定する場合は、それらをカンマで区切ります。

3 解像度を選択します。

4 **OK** をクリックします。

5 ファイルの名前を入力します。ファイルタイプは常に PDF です。

6 ファイルの保存先を指定し、**保存**をクリックします。

校正を印刷する

ジョブを 1 部またはジョブの反復校正を Fiery ImageViewer から直接印刷して出力を確認できます。校正印刷では、現在の編集を使用して選択したページのコピーが作成され、印刷済みキューに新しいジョブとして直接送信されます。印刷が完了すると、校正印刷ジョブが削除されます。

- 校正を印刷するには、ツールバーの**校正印刷**アイコン（ ）を選択します。

モニタープロファイルと出力プロファイルを比較する

コンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合、Fiery Profile Inspector を使用して、モニタープロファイルの色域とジョブ用の出力プロファイルの色域を比較するモデルを表示できます。

この比較により、より正確なソフト校正を行うことができます。また、Fiery ImageViewer の画像を印刷出力と比較した場合のイメージを把握できます。

Fiery サーバーは Fiery ImageViewer を実行しているモニターの現在のモニタープロファイルを使用します。結果を最適にするには、Fiery Color Profiler Suite を使用してモニターをプロファイルします。

- Fiery ImageViewer で、**表示** > **モニタープロファイルと出力プロファイルを比較**を選択します。

Fiery ImageViewer の環境設定

カラー印刷のジョブでは、単位やモニタープロファイルなど、Fiery ImageViewer の環境設定を指定できます。

画像のサイズ（寸法）と解像度は画面下部に表示されます。

1 **編集** > **環境設定**（Windows の場合）または **ImageViewer** > **環境設定**（macOS の場合）を選択します。

2 **環境設定**ウィンドウで以下の環境設定を設定します。

- **単位**：寸法と解像度を表示するときの単位を設定します。
- **クリア」分解表示設定**：Fiery サーバーが、C、M、Y、K 色分解だけでなく、クリアなワニス色分解もサポートしている場合は、この設定を使用して、クリア色分解の**マスキングカラー**と**不透明度**を Fiery ImageViewer に表示されるとおりに指定します。
- **クロスヘアカラーピッカー**：カラーブロックをクリックして、Navigator ウィンドウの境界ボックスの色を選択します。
- **環境設定をリセット**：Fiery ImageViewer の環境設定をデフォルト値にリセットできます。

- **画像境界線**：カラーブロックをクリックして、イメージプレビューのサブストレートに表示されるページの周囲の境界線のカラーを選択します。
  - **おもて**：カラーブロックをクリックして、イメージプレビューのサブストレートに表示される書類サイズの輪郭線の色を選択します。
  - **印画領域以外**：カラーブロックをクリックして、イメージプレビューのサブストレートに表示される、印画エリアとサブストレートの間の非印画エリアが半透明のカラーで塗りつぶされるように選択します。
  - **プレスの検査ゾーン**：カラーブロックをクリックして、イメージプレビューの素材に表示される、ページのプレス検査ゾーンの輪郭線のカラーを選択します。
- **アニメーションのインク制限**：合計インク制限を表す値（デフォルト値で表示）を手動で調整することができます。これにより、インク制限に近いピクセルをハイライト表示し、Fiery ImageViewer から編集が行われた時にピクセルで制限を超えると警告します。

ダークモードを使用するには、Command WorkStation の環境設定（25 ページ）で設定します。